第26巻第6号●通巻第214号●平成17年6月1日発行（毎月1回1日発行）平成7年2月27日第3種郵便物認可

SUPER HEAD MAGAZINE

DOLL

June 2005
NO.214

70's～80's オランダPUNK/HARDCORE

SEEIN' RED

MARKY RAMONE

THE DILLINGER ESCAPE PLAN

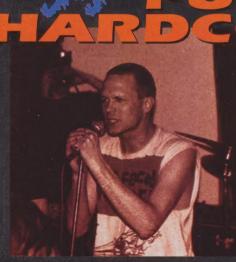
勝手にしやがれ

日本のネオ･モッズ･ヒストリー

BREAKfAST

BATTLE OF NINJAMANZ tour report

MAXIMUM PUNK ANGER

70's~80's DUTCH PUNK/ HARDCORE

MAXIMUM PUNK ANGER

70's DUTCH PUNK ROCK STORY

*TEXT:*ヤマダナオヒロ

嗚呼、麗しのセックス、ドラッグ&ロックンロール!!売春が株式会社として成り立ち、大麻がカフェで堂々と売られている=セックスとドラッグが大手を振って町を歩きまくりという、我々ちょんまげ大国日本からすると、計り知れなく〈そちもワルよのぉ～〉な国、オランダ。そんなお国の不良のロックンロール=パンク・ロックがカッコ良くないワケがナイ!ってコトで、そんなちょっとうらやましい国(エッ?)オランダのパンク・ロック誕生からハードコア・パンク創世までをわかる限り&憶測で記述したい。え～っ!?憶測??いやぁ～何せ母国語がオランダ語なワケで、情報を得ようにも〈本=オランダ語、ネット=オランダ語、地元の友人=片言でなら英語OK〉と言った具合なので、正直苦労しまくりです(笑)!しかし、そこは持つべきものは友ダッチ(←コレが言いたかった)!友ダッチの輪を世界に広げて色々ヘルプしてもらってまとめやしたぜ!!しかし何で〈寂しい大人のオモチャ人形→ダッチ・ワイフ〉、〈割り勘にする→GOダッチ〉って言うんだろうねぇ～って、まぁいっか。イケイケ!ダッチダッチ!!ダッチいうの=だっちゅうの!!

—Punk Rock Invasion!!—

オランダで最初の大きなパンク・ギグといえば、イギリスからSEX PISTOLSとVIBRATORSが、アメリカからHEARTBREAKERSがやってきた77年1月6日、後にアムステルダムのパンクのメッカとなるParadisoで行われたライヴだという。76年から情報だけは入り込んでいたパンク・ロックが、目の前で大爆発を起こしたそのライヴの影響力は当然のこと、それまでオールド・ウェイヴ型スタイルだったロック・バンドやパブ・ロック・バンド、加えてバンドなんてやってなかった連中までが一気にこぞってパンク・ロックの燃え盛る炎に身を投じていったのは言うまでもナッシング!大麻と売春が法で認められ、そんな荒れ果てた街で生き抜くため、自らを守るべくして格闘技が広まっていくような本能直結&ボーン・トゥ・ビー・ワイルドな野生の王国で、不良(ワル)なロックがブレイクするのは時間の問題!すべてはそこから始まった!!

—Dutch Punk Rock Early Days—

英国でもパンクの土壌に60'sガレージやパブ・ロックがあったように、オランダにもネーダー・ビートやパブ・ロックなどの土壌が存在していた。DAMNEDのリリースでもおなじみのフランスのSky Dogレーベルは、70年代プロト・パンク期のヨーロッパを支えた重要レーベルであったことは知られているが、その経営者がフランス人とオランダ人の2人であったことは意外と知られていない。2人が決別し、片割れが地元オランダに帰って設立したDynamiteレーベルは、いわばオランダ版のSky Dogと言えるプロト・パンク期の屋台骨レーベルであった。そのDynamiteから77年にリリースされたオムニバス、『Light Up The Dynamite』に名を連ねていたのが、70年代半ばからSPIDERZ名義でパブ・ロッカーとして活動していたFLYIN' SPIDERZである(そこには単体ではリリースされなかった1stシングル"Down"と"That's Alright Mama"の2曲を収録)。彼らは結局Dynamiteからの単独音源を残すことなく、メジャーのEMIオランダから、シングル"City Boy"で77年にデビューし、以降2枚のアルバムをリリースするオランダ・メジャー・パンクの代表となった。この頃からEMIオランダはパンクに力を入れはじめ、翌年の78年には、海賊盤コンピ『Power Pearls』でおなじみのBLITZZのシングルや、ダッチ・パンク創成期のライヴ・オムニバスの名盤、『Keihard En Swingend!』をリリース(これには後に別レーベルから単独でもリリースをするSUZANNES、SUBWAY、PANICといった第1世代バンドや、パワーポップ・ファンからも支持を集めるCILINDERSらの熱演が収められている)。そういえば、後に日本盤でも紹介されるMETEORSなんてグループ(サイコじゃないよ!ニューウェイヴよりなバンド)もEMI傘下のTrioから79年にアルバムがリリースされていた。

他にも、Phillipsからのシングル"My Generation"(モチロンWHOのカヴァー)でデビューを飾ったSPEEDTWINSも、Just Anotherメジャー・パンク・バンドとして忘れてはならない。女王様チックな女性ヴォーカル、ジョディーを中心に、上下レザーづくめのバイカー・スタイルとSMスタイルなどをミックスしたキンキー極まりない異端キャラでブレイクした彼らは、アルバムこそ1枚しか残さなかったものの、77年～79年のオランダに於いて、周囲に与えた影響、インパクトは相当デカかったとの話(噂では後に初期のFILTHのメンバーも加わったといわれている)。さらにはオランダのBLONDIEと呼ばれた女性ソロのHANSJE(ベルギーのTOO MUCHのカヴァー、"Silex Pistols Piew Piew"のシングル有り)や、後にAriolaからアルバムが再発になるPANICなどもメジャー・デビューし、猛威を振るっていたという。

FILTH

FLYIN' SPIDERZ

一方、メジャーで火を吹くバンドがいる裏で、75年ごろから地下水脈で活動していたバンドが、FLYIN' SPIDERZと双璧をなす第1世代、IVY GREENである。パンク誕生以前の結成当初は長髪でROLLING STONESのカヴァーなどをプレイしていた彼らも、76年のロンドン・パンク勃興を敏感に察知し(一説ではジョニー・ロットンやマルコム・マクラレンとも接触があったとか?)、見事なまでのパンク・バンドに転身!実は76年8月にライヴをいち早く行うも、パンクに無関心な周囲からは大した評価を得られなかった彼らだが、77年もParadisoを中心に地道にライヴを重ね、翌

HELMETTES

RONDOS

78年には自主のPogoレーベルから、1stアルバム『Ivy Green』と、片面1曲のみのシングル"Wop Shoo Wop"をリリース。ここから一気に支持を集めていった彼らは、結果80年代後半までに計5枚のシングルと計4枚のアルバムを残す長寿バンドとなった。また、よりアンダーグラウンドなインディー・レーベルのハシリ、1000 Idioten(千人のイディオット!)からシングルを77年にリリースしたPAUL TORNADOや、一年遅れて78年に同レーベルからEPをリリースした前述のSUZANNESも、76年〜78年初頭のダッチ・パンク開拓史を支えた重要バンドなので忘れずに!

―Underground Labels―

前述した1000 Idiotenに加えてオランダ初期パンクの歴史でハズせないのが、アムステルダムを拠点とするNo FunとPlurexの2大インディー・レーベルだ。元々はオランダ初のパンク・レコード・ショップで、情報交換の場としてもパンクスの溜まり場となっていたNo Funからは、『Back To Front Vol. 3』のジャケットにフィーチャーされたGOD'S HEART ATTACK、以降はニューウェイヴ・スタイルとなるMECANO LTD、オランダのNo.1キラー・パンクといわれるHELMETTES、そして当初は60年代から活動→一度解散したが、パンク到来とともに復活したSUBWAYの計4バンドのシングルがリリースされており、いずれも今や高額プレミアの付くアーリー・ダッチ・パンクのお宝ヴァイナルと化している。Plurexからは、これまた『Back To Front Vol. 4』でジャケに使われたTITSを皮切りに、MOLLESTERS、FILTHのシングルがリリースされる(FILTHに関しては、No Funショップにて彼らのデモを聴いたTITSのメンバーが衝撃を受け、Plurexからのリリースが決まったというイイ話も有)。それ以降は、ポスト・パンク的なTAPESや、ピコピコ・ダッチ・ニューウェイヴの始祖、MINNY POPSの初期作品をリリースするなど、いわゆるパンク・ロックからはシフト・チェンジしながらも、Plurexは、78年のみで終わってしまったNo Funよりも1年ほど息長く運営を続けた。事実上、この2レーベルのバンドが初期オランダ・パンクをアンダーグラウンドで広めた連中だったが、どれも初期衝動命のLive Fast, Die Youngな勢いでシングル1枚ほどで消えていってしまったのが惜しいところ。

また、時を若干ずらして、オランダ第2の都市ロッテルダムで立ち上がったKing Kongレーベルも、70年代のアンダーグラウンド・シーンを支えたレーベルとして忘れてはならない。RONDOSやRAILBIRDSなど、いわゆるイギリスのCRASSばりのポリティカル/DIY一派によって立ち上げられた自主レーベルで、そのスタンスや活動は後に続く80年代ハードコアへとスピリットが継承されていくこととなる。リリースとしては、SEEIN'REDのメンバーも影響を受けたと言っている、オランダ初のDIYレコードである79年のRONDOS/RAILBIRDSのスプリットEPや、その2バンドにBUNKER、TERMINAL CITYを加えた2枚組4 WAYスプリットEPがあり、以降はRONDOSの単独作品をリリースしていくが、80年代に入ってからは息は長くは続かなかったようである。

―In To The 80's!!―

80年代になると、ロンドン・パンク同様にメジャー勢/第1世代の勢力は弱まり、よりアンダーグラウンドなシーンに影響を受けた第2世代たちが産声を上げ始める。RONDOS一派とは異なれど、ポリティカル/DIYスタンスを掲げたEXは、80年代のアムステルダム、いやオランダ全土のパンク・シーンに多大な影響を与えた重鎮。そして音楽的にはややポスト・パンク的だったEXに対し、ストレートなパンク・ロックで〈アンダーグラウンド・パンクス此処に在り!〉の狼煙を上げたNITWITZは、自身が後にBGKへと転身することもあり、音楽的にもハード・パンク〜ハードコアへの橋渡しを遂げた偉大なるバンドである。また、彼らが立ち上げたVögelspinは、80年代オランダ・ハードコア第1世代をつかさどるレーベルとして真っ先に名の挙がる主要レーベルだ。時を同じくして、地方都市ユトレヒトでは、これまた完全DIYなRock Againstレーベルが立ち上げられ、そこから飛び出した元祖ストリート・パンクなLULLABIES、女性のみのNIXEらがアンダーグラウンド・シーンを支えていった。ここからリリースされるレコードのほとんどは、チープな一枚刷りの色紙ジャケで、7"シングル盤に7〜8曲(伝説のRAPERSのEPには11曲!)もブチ込まれており、このスタイルは、後の81〜82年頃に各地方から雨後のタケノコの如くボコボコ出てくる自主リリースの第2〜第3世代のバンドたちに大きなヒントを与えている。

こうして時代はハードコア世代へと移り変わり、70年代終わりに生まれたパンク・スピリットは、より堅固なものとなって、アンダーグラウンド・シーンへと継承されていくのであった。ここではそれらのバンド全てを紹介することは出来なかったが、続くディスク・レビューや、今では多数リリースされている各種コンピ(『Killed By Death』シリーズやEpitaphヨーロッパから正規リリースされた『I'm Sure We're Gonna Make It』、その他『Punk Rock In Holland』、『Feel Lucky Skunk!?』などの海賊盤モノ)、そして個人的にもダッチ・パンクの炎のバイブルとして崇めている歴史本、『Het Gejuich Was Massaal』などを参照にして、いろんなバンドを聴いてみてチョーダイ!そこにはパンク・ロックに魂を売ったモノにしかわからない衝撃と快感が待ち受けているぞ!!

LULLABIES

NIXE

70's DUTCH PUNK ROCK 20

TEXT:ヤマダナオヒロ/かずう SHiT-FACED&Bitter Sweet Generation

さて、ここからは蘭国の70'sパンクを超厳選ディスク20枚で紹介しましょうかい!おっと、70'sと言っても、〈プロト・パンク上がり77年組〉、〈メジャーorメジャー傘下のインディー・レーベルからのバンドが多かった78〜79年組〉、〈よりアンダーグラウンドな極小自主レーベルからもポコポコとバンドが出てきた80〜81年組〉を主軸と考え、77〜81年までの音源を集めていることを最初に断っておこう。NEO PUNKZやCHOP など(←誰か譲って!)、個人的に一番好きな、よりDIYでアンダーグラウンドなハードコアへの橋渡しバンドがあまり紹介出来ていないが、ここに紹介する20枚はあくまでも入り口!エントランスなのでやんす!!(ヤマダナオヒロ)

BROMMERS/Edefect EP

うわ〜んコレたまらないんだよ!いきなり泣きのギターでピロ〜リ〜♪って来て「奇跡を信じて」なんて歌う"Miracles"と、引きこもりで内向的なもやしっ子が力一杯暴れて反抗してるような、ヒョロいけどドタバタ2ビートなナンバー"Fine Words"で締めるA面2曲だけでも、結構〈泣き虫パンク〉好きのボクのツボ突きすぎ!でも歌詞はナショナル・フロントのこととか歌ってるんだよね。全4曲、腕力は無さそうだけどコレはパンク!(ヤ)

(Pleasant Piece Of Plastic S 3275)7"EP 80年

EX/Disturbing Domestic Peace

TORTOISEともスプリットを出すなど、現在はポスト・ロック/オルタナな方面から支持を得ている、オランダの元祖DIYパンク・バンド、EXの45回転盤1stアルバム。無機質で硬質、知的で実験的な楽曲は、同世代のチープでサヴェッジな本能直結型ガキ・パンクスとは明らかに一線を画す。WIRE+GANG OF FOURばりの鋭角ギターが痛烈!ちなみに初回盤には、パンク・ロックな名曲"Human Car"+1のライヴ7"が付いてた。(ヤ)

(Verrecords EX005)LP 80年

FILTH/ST

A面"Don't Hide Your Hate"もキャッチーで良いのだが個人的ハイライトはB面の2曲。淡々としたリフにリズムカルに歌うAメロから「ハァハァハァハァ…」と繋いでサビでは耳元でささやく「SEX」ですよ(男ヴォーカルです)!印象に残らない訳がない(苦笑)。そして鼻歌ランキング常に上位に食い込むポゴ・アンセム"Nothing For Me"!一度聴いたら口ずさめるPOPなサビが最高!(か)

(PLUREX 003)7"EP 78年

FLYIN' SPIDERZ/Flyin' Spiderz

元はパブ野郎だったバンドが、パンクの波で大変身を見せた1stアルバム!アルバム通すとやや〈熱いオヤジのロケンロー臭さ〉もあるが、コンピでも知られる1stシングル曲"City Boy"をはじめとするプリミティヴなパンク・ロックの原石揃い!個人的にB面ケツ3曲の胸キュン→キラー→激キャッチーな流れが好き♪ちなみに同路線で2ndアルバムを残した後、極初期のSPIDERZ名義に名を戻しNEW WAVE風味なバンドへ転身。(ヤ)

(EMI 5C 064-25725)LP 77年

GOD'S HEART ATTACK/ST

アムスで最初にライヴをやったパンク・バンドの唯一のシングル。やっぱり鼻歌リストにずっと入りっぱなしの"Treat Me Like A Doll"。名曲です。B面の"Ain't No Hooker"では逆にハードでイカつい曲。ブレイクが気持ち良い。VoもA面B面と曲に合わせて歌い方変えているトコとかカッコいいし、ギターも上手い、コーラスが気持ちよく掛かったベースもよく動く…んだけど、いまいちドラムのヘタクソさが気になる所。(か)

(No Fun no.1)7"EP 78年

HELMETTES/I Don't Care What The People Say

ダッチ70's最狂のサヴェッジ・パンク!両面とも初期衝動200%のジャギジャギ・サウンドとスノッティー・ヴォイスで耳をツンザく楽曲がキラーだけど、とくに『Back To Front』収録のB面"Half Twee"にヤラレた人も多いハズ!ちなみに歌うは15歳のガキんちょで、バックはNo Fun仲間のGOD'S HEART ATTACKやMECANO LTDのメンバーだって知ってた?間違っても、略して〈メット〉とか呼んで欲しくない神懸り的45盤!(ヤ)

(No Fun No.1/2 2)7"EP 78年

IVY GREEN/WAP SHOO WAP

ロックンロール・レジェンド!オランダのミュージシャンやパンクスから最もリスペクトを受けているバンドで、オランダで最初のパンク・バンドの一つ。ワン・コードでギリギリまで引っ張ってんのに「ワッシュワ!ワッワッシュワッ!」って掛け声と巻き舌Vo、キー・ボードが創り出すシンプルなR&Rはオランダの魔法の葉っぱなんてなくても意識を宇宙に持ってかれる異様な世界感が凄まじい!75年結成で88年頃まで活動。(か)

(Pogo atln 11134)片面7"EP 78年

LULLABIES/Single Single EP

Rock Againstの重鎮にして、オランダの元祖ストリート・パンク的位置にいるバンド!この前に、LP並みの曲数を収録した2枚組7"EP「Double Single」を出してるけど、楽曲のメリハリで言えばこっちが面白い!"Cops In The Street"、"Fashon Punx"などの曲名から期待する通り、B級80'sパンク・フェチ心をくすぐるショボbutシンガロングな掛け合い入りの熱い楽曲の連打にヤラレます!ちょい速なA.UPSTARTS風かな?(ヤ)

(Rock Against Z3)7"EP 81年

MOLLESTERS/Plastic

TITS、FILTHのシングルと並ぶ、パンク期PLUREXのDIE名盤!ずっと同じコード展開で続くガチャガチャでミニマルな演奏、唐突に歌い出すスノッティー極まりないヴォーカルなど、どれを取ってもMY好みなA面曲がとにかく最高!と言いつつ、B面"I Am"も基本的にあんまし変わらないんだけどね(笑)。バンドとしてはかなり暴力的な活動遍歴を重ねていたらしく、地元ロッテルダム近郊のパブから追放されまくっていたとか。(ヤ)

(Plurex 002)7"EP 78年

NITWITZ/ST

VÖGELSPINレーベル(アムス80'sパンクの重要レーベル)からの1st EP(全6曲入)。えっらい性急な8ビートに動き回るベースがすんげえドライヴィング・ハード・パンク!忙しいリフに耳をとられているとあっという間に次の曲に入ってしまう。捨て曲なしっ!この中の何曲かは77年に書かれたものだそうだ…。恐ろしすぎるセンスです。のちにB.G.K.に発展する(←さり気ないけどココ重要)。(か)

(VÖGELSPIN bite 001)7"EP 80年

NIXE/Nixe EP

ユトレヒト産、元祖ライオット・ガールズ4人組!スカスカなバックに乗せてシャウトをキメる"Boring City"ほか、極初期(パンク期)のSLITSにストレートでハードなパンク・ロックを演らせたようなキラー・トラック満載!単独作はこの7曲入りEPのみだけど、Rock Againstのオムニバスにチョコチョコ顔を出しているので要注意。ちなみにコンピCD『I'm Sure We're-』のジャケで舌出ししてる生娘はベースのニッキーっす。(ヤ)

(Rock Against 品番不明)7"EP 81年

PLEEMOBIELZ/Dagenlang Balen!

見るからに田舎のガキんちょ4人組。ジャケ写1番手前のベースのヤツなんて絶対チ●毛生え揃ってなさそうだもんね、とバカにしてたら痛い目見た!ドタバタな2ビートは予想通りだけど、『Killed By Death』の何番かで紹介されてた、硬めなベースがブイブイ言ってる1曲目"Troep"が最高!他2曲(ミッド×1、スロー×1)も、楽器持って1週間くらいで始めたような初期衝動溢れる必死さが伝わって涙チョチョ切れます(笑)。(ヤ)

(Kamikaze 201081)7"EP 81年

SHITH/Tonight She's By My Side

BROMMERS同様、繊細なメロがたまらないパンク・ロックを聴かせるSHITHの唯一作!キーボード入りのラウドなバックに乗せて、複数で歌って聴かせるヴォーカルと、途中&ラストで加速する展開にこっちのワクワク度まで加速しちゃうA面がとにかく最高!ライヴで見たらきっとサビでポゴッて歌っちゃうんだろうなぁ。B面も路線は変わらず切なさがチョイUPした佳曲。両曲併せ、自主シングル組の中でもオススメ度高し!(ヤ)

(Loof VR 10556)7"EP 80年

SPEEDTWINS/It's More Fun To Compete

海賊盤コンピ『Punk Rock In Holland』のジャケでおなじみ、女王様&下僕チックな出で立ちと、SMショーばりの〈ビザールでござーる〉なステージングでも話題を博してたSTの1stアルバム。パンクとバイカー・ロックをミックスさせたワイルドな楽曲は、コンバット豊田(わかる?)ばりの巨漢女ベーシスト、ジャッキの圧迫感を遥かに凌ぐ淫パクト!こう見えて大学の社会学部のメンバーで結成したって言うから世の中わかりませぬ!(ヤ)

(Universe LS 4)LP 78年

SUBWAY/One Way Subway(Where To Go)

帰ってきたウルトラマンのMAT隊員ばりの〈V字〉コスチュームで武装したSUBWAY。彼らもオールド・ウェイヴ上がり組なだけあってやや古臭いロックンロール・ノリを見せるが、No Funからのシングル後に出されたこの6曲入りミニLPに関しては、片面3曲ずつ収録のうち、どちらも真ん中の2曲目が良いという法則もアリ!ピアノ・ロッキンな"Squeeze Me"と"Where To Go"の2曲はキャッチーなロールがたまらん名曲!(ヤ)

(Universe TURN 5)MLP 79年

SUZANNES/New Disease EP

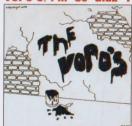
IVY GREENやFLYIN' SPIDERZ同様、極初期のオランダ・パンク創成期を支えた重要バンド!RAMONESの1stアルバムの衝撃をそのまま持ち込んで結成したと言うけどラモーン・パンクじゃ全ッ然ねぇです!けど1曲目"Hippie"辺りのほんわかしたメロディー(若干サーフ風)にはやや要素アリか?キルバイ系でもナイけど、耳が肥えてからじっくり聴いたら、リチャード・ヘルとか辺りともリンクするプロト・タイプな楽曲が心地良し。(ヤ)

(1000 Idioten IDI 3333)7"EP 78年

TITS/Daddy is my pusher+We're so glad Elvis is dead

なにやら怪しげなタイトルですねぇ。サビのトコ"親父は売人!"でもうまくハマるね(笑)。ロッキンでホップなピアノを全面に押し出したキャッチーな名曲!B面のタイトルもすげえ!『エルビスが死んですっげえ嬉しい!』を連呼!!金属的なギターが何気に入ってるけど何せピアノが凄い。でもフェード・アウトで終わらせるのはちょっと…。名門PLUREXレーベルの第一弾。唯一の単独作。う～ん、他の曲も聴いてみたかったな～。(か)

(PLUREX 001)7"EP 78年

VOPO'S/I'm So Glad The King Is Dead

キング・オブ・ガチャガチャ・ダッチ・パンク!DIE名作な81年の1stアルバム『Dead Entertainment』では、哀愁メロがクセになるハードコア・パンクへの橋渡しサウンドを確立する彼らだが(2ndはハード・メタル風)、EPは激原始的なガキ・ハード・パンク丸出し。このドタバタ感にこそ初期衝動のパッションが詰まってるってもんよ!元はジャケ絵のペンキがピンクだが、ボクのは黒で塗りつぶされ済。こういうことすんなよぉ(怒)!!(ヤ)

(Redlux RCS 1109)7"EP 80年?

RONDOS+RAILBIRDS/Split EP

オランダのCRASSと言われるRONDOSと、その盟友RAILBIRDSによる完全自主スプリット作品!両バンドとも、ライヴかと思わせるほど粗野で荒々しい音質が、スリリングな緊張感を産んでいてドキドキさせられる。とくに後者のドライで軽いパンク・ロック・ナンバー"Lonely"に激燃え!King Kongの次作2枚組4WAYスプリットEP(W/BUNKER、TERMINAL CITY)も併せ、後のアナーコ/ポリティカル勢に魂と気合いを伝承した名盤!(ヤ)

(King Kong KKR 30379)7"EP 79年

VA/Utreg-Punx

MEGAHOONSのEPに続くRock Against第2作目は、ユトレヒトの第2世代を集めたオムニバスEP。大黒柱のLULLABIES、フリーキーな女VoのNOXIOUS、後に自主でEPを出すRAKKETAX、そして女番長のNIXE、DIYゴッドのEXと、どれもここから大きくなっていったバンドばかりを収録!後のハードコア世代やDIY勢に多大な影響を与える、このレーベルの方向性を決定付けた歴史的重要作!全バンド楽曲が良いのも名盤たる所以だ!(ヤ)

(Rock Against Z2)7"EP 80年

MAXIMUM PUNK ANGER
80's DUTCH HARDCORE STORY

TEXT:SO kaotic hero/MICHIAKI ECHOLALIA

暗闇を創れ!そして身体の全てを使い、其処で生きてみるんだ!僅かな時間でもいいさ、お前の都合に合う奴だけ誘い込んでみろ。そして出来る限り常識的では居るな。これは不満を餌にしたアンタの世界なんだ。暗闇なら不意に射し込んで来る光を逃す事はないだろう。確実にその光を盗んで、此処に戻って来い。これは80年代オランダで暗闇から帰還したアウトロー達の話である。(MICHIAKI)

JESUS AND THE GOSPELFUCKERS

昔、オディロン・ルドンという画家がいた。激動にあったベル・エポックに生きた彼は、自身の作品に関しての二面性を持っていた。若い頃のそれはグロテスクで、オカルティズムに溢れていた。空に浮かぶ目玉、木に生えた骸骨の男、人面蜘蛛…そこには精神を削ぎ落としながら生みだされるリアルが在る。白と黒だけを使い、渇いた様な世界を描き続けていた。しかし晩年、彼はその世界を越え色彩画家として生まれ変わった。神秘的で目の覚めるような色使い。美しく、極めて纖細。暗闇に生きたからこそ…彼は得たのだろう。ただ入り込んで、さ迷っているだけでは何も見ることはできない。つまり何が言いたいか、それは陰陽だ。どの時代にも、何処にでも、どんな物でも、そして誰にでも在るのだ。

何かを感じたら、目を見張ることだ。

まず、コレはほんの極一部の、憶測での流れでしかなく、バンドやシーンといったものは各地に点在し(主としてAMSTERDAM、ROTTERDAM、UTRECHT、GRONINGEN等)日本やその他各国と同様に、決して一つの流れに沿ったものではない事を理解して頂きたい。

正式名KING OF THE NETHERLANDS。ほぼヨーロッパの中心部に位置し、人口は約1600万人。

日本人にとってみればチューリップと酪農、風車…等というノドカなイメージしかないかもしれない。だが、陰となる存在であるかのハードコア・パンクは確かに生まれ、インテリジェントでエナジックなバンドたちが多数ヒシメキ合っていた。

では、オランダのハードコア・パンクのファースト・ウェーブは何処からやって来たのだろうか。

ある人によれば、80年にリリースされた『MORT SUBITE/SPOILERS』SPLIT EPだと言い、またある人だと、それはJESUS AND THE GOSPELFUCKERS(pre-AGENT ORANGE)、THE NITWITZ(pre-B.G.K.)やTHE JETSETだと言う人もいる。このTHE JETSETは女性ヴォーカルのROODWITZWART COLLECTIVEという強力なアナキスト集団の一員で(その他にPUINHOOP、BLOEDBAD、MASSAGRAPH 等)、81年結成時からファスト・ハードコア・パンク、次第にDISCHARGE影響下のハードコア・サウンドへと変貌していくものの、単独音源はテープ・リリースのみでレコードだとVA『HATELIJKE GROENTEN』EPとVA『ROODWITZWART』LPへしか参加していないのが非常に惜しい。また彼等は写真、メンバークレジットをその視点から断っていたという。で、話を元に戻して、オランダ初のハードコア・パンク・バンド、リリースに関して決定的なモノは定かではない。しかし、先頃の特集でも取上げられたNEO PUNKZを前身とするSUSPENSEが81年にリリースした『MURDER WITH AXE』EPで脅威のD-BEATソングを披露しており、このバンドも早い段階でハードコア・パンクを演ろうとしていたのは間違いない事実であろう。

当時のオランダはその他ヨーロッパ各国同様、御多分に漏れずアメリカのバンドの音源を手に入れる事が難しかったようで、UKスタイルへの流れはこれも同様に必然だったのだ。そして、オランダのハードコア・ウェーブはDEAD KENNEDYS、MDC、BLACK FLAG、CIRCLE JERKS、VA『LET THEM EAT JELLYBEANS』LP等アメリカのバンドを聴いた後だとも言われ、特に81年12月アムステルダムでのDEAD KENNEDYSとMDCのGIGは多くのパンクスに多大なる衝撃と影響を与えたようである。シーン自体は全体的に小さかったが、後にEMMAやBABYLONといったスクワットへのトリヴュート的なCOMPが作られたように、古くからスクワットでのGIGが主流となり他国よりも盛んに行われていたようだ。

魅力的な一つとして、あえて言うならスピードを付ける前夜のパンクがとても面白いのではないだろうか。その狭い括りの中でどれだけの数のバンドがいたかは、もはや知る術は無いが触れておきたい。

NIJMEGEN出身のTHE SQUATSの『NOISE OVERDOSE』EPは目隠しされたら絶対にオランダのバンドとは分からない程コーラス、リズム等、完全にearly 80's UKスタイルであるし、ライヴ音源でのSHAM 69の"BORSTAL BREAKOUT"のカヴァーからしてもUK Oi!/PUNKを敬愛し、またヴォーカルは英語アクセントを押韻していたようである。このEPはCAPTAIN Oi!の『Oi! THE RARITIES VOL.2』でも聴く事ができる。本気か皮肉か、冗談かTHE SQUITSの『NOISE AGAINST SILENCE』EPもOi!Oi! UK PUNK一本槍。"あなたはスキンヘッド、だからパンクスが大嫌い"、"パパママ愛してる"、"スターになんかなりたかねーぜ"なんて色んな意味で初期衝動全開の怪作である。当時の談で、リアル・パンクはUSにあり、と言っていたのは何とも不思議な話。後にゴリゴリのハードコア・レコードをリリースするMORNINGTON CRESCENTも82年のデモ音源時ではUKのIMPACTのようなパンクをプレイし、レコードとはまた違った凄さを演じてくれる。蛇足ではあるが彼等は総勢12名ものヴォーカルが変わっていったとあり、JESUS AND THE GOSPELFUCKERS/AGENT ORANGEのメンバーもいた時期があった事から相当に入れ替わりが激しかったようである。その後も、こういったクールなUKベースのバンドはSASKATCHEWAN、N.V. LE ANDEREN、BLITZKREIG(meets SCANDI!!)等少なからず存在し、その足跡を塩ビ盤に刻みこんだのだ。

先述の通り80年代初頭のヨーロッパ各国に於いてUKスタイルへの流れは必然であり、

CHAINSAW ZINE

THE SQUATS

LÄRM

オランダだからというモノではないだろう。しかし古くから、スカンジナビア諸国と並び良質なバンドを輩出している国として言われている由縁は何なのだろうか。その一つの山場として、挙げておきたいのが83年のVA『ALS JE HAAR MAAR GOED ZIT… NR 2』(重要なのはオマエのヘアスタイルだけ)LPとVA『HOLLAND HARDCORE』TAPEだ。共にUK/USハードコアを吸収、融合、昇華、爆発させた礎となる記録と位置づけしたい。そして、この両国の異なったスタイルの中間を見事に体現させた事こそがオランダの最大の魅力なのではないだろうか。VÖGELSPIN REC(BIRD TENON:NITWITZ〜B.G.K.のレーベル)よりドロップされた『ALS JE HAAR〜NR2』はB.G.K.、PANDEMONIUM、ZMIV、HAEMORRHOIDS(幻のEPは存在しないよう)、NULL A…etc有名無名関わらず、"DK'S81年の衝撃"に端を発したのか、油の乗った'旬'なバンドたちの'旬'なドキュメントとなった。一方、LÄRMのメンバーによるテープ・レーベルE.I.H(EL IS HOOP:THERE'S STILL HOPE)よりリリースされた『HOLLAND HARDCORE』TAPEは、よりUKからUSへの橋掛かり的一端を垣間見る事ができるのだ。前述のTHE SQUITSも男性ヴォーカルへと代わりよりファストなサウンドへと変化していき、LÄRMもまだUK譲りのノイジィーなハードコアを残しつつ、ドタドタと加速しようとする辺りは、翌年の『CAMPAIGN FORMUSICAL DESTRUCTION split w/STANX』LPやその後の必殺のLÄRM節とは違いバンドの移行期を見られるようで非常に面白い。そして女性ヴォーカルだった事も興味深い事実なのだ。マイナーなメンバー・チェンジ、THE SEXTONS〜DISTURBERS〜TOTAL CHAOZと名前を変えLÄRM(独語:NOISE、発音を表記するとLAIRM)となっていったようだ。前人未到の速さもさる事ながら、彼等は政治運動の先導に立ち、自身のレーベル、ファンジン、バーを持ち、常にアクティヴな姿勢で率先してきたのである。このテープは85年までの三部作のシリーズとなっており、STANX、ZMIV、KNAX(ZMIVのヴォーカルとドラム在)やPANDEMONIUM、INDIREKT、FUNERAL ORATION、GEPØPEL…etcのこれまた'旬'なバンドのショーケースであり、今最も再発が望まれる遺産だと思っている。

その『ALS JE HAAR〜NR2』、『HOLLAND HARDCORE』を皮切りにしたかどうかは怪しい所だが、83年というのは一つの転機となったバンド、リリースの産声が上がった年なのではないだろうか。やはりオランダといえばこのバンドB.G.K.(BALTHASAR GERALDS KOMMAND、初代オランダ国王の暗殺犯より命名)の同年リリースの『JONESTOWN ALOHA』LPは群を抜くスピードと破壊力で一躍オランダ、ヨーロッパを代表するバンドに成し得た。英語で歌う事について、彼等は詩が乗せ易いからと答えているがその事もその電撃的スピードに一役買っているのかもしれない。彼等もまた詩に限らず、GIGの値段を下げたり、ベネフィット・ライヴをしたりとアクティヴな活動も実践してみせたのだ。この時代になると各国のCOMPにオランダのバンドが顔を出し、国を行き来している。そして数多くのバンドが息づき、ポリティカルな動きも盛んに行われていた。その反面、多くのバンドがメンバーを共有し合い、例えばPANDEMONIUM-DISGUST-ZWAARKLOTE-INCEST、NO PIGS-NOGWATT、GEPØPEL-SNOEP VERSTANDIG等、お互いを高めあっていたのであろう。それは、盛り上がり≠人の多さではないといったところではないだろうか。そして時代は'B.G.K.、LÄRMより速く'を目指し狂気のスピードを加速させていく…。

古くはVICE SQUADやANTI PASTI、ANTI NOWHERE LEAGUE等UKのバンド、DEAD KENNEDYSやMDC、BLACK FLAGといったUSのバンドやその他諸外国からののバンドがオランダの地を踏み、それをサポートする地に足の着いた地元のバンドがプレイしていた。便宜上の都合で国ごと・スタイルごとにしてはいるが、それは決して分け隔てられたモノではない事を忘れないで欲しい。

そして、姿を変えながらもその赤い灯火は今も尚、燃え続けているのだ!BLIJF PUNK!

B.G.K.

LÄRM

80's DUTCH HARDCORE 20

TEXT:SO kaotic hero/MICHIAKI ECHOLALIA

本文及びレヴューで紹介したレコード等は、様々な形で再発されています。オリジナルを探すよりは困難ではなく聴く事ができます。そして、勿論まだまだ紹介しきれていない作品も数多く存在しています。未知なる国オランダを掘り下げてみては如何でしょうか?(SO)

AGENT ORANGE/YOUR MOTHER SUCKS COCKS IN HELL

痛快軽快なビートに内から湧き出るロック・テイストをブチ込んだ、チンピラによるチンピラのための真のROCKIN'HARDCORE PUNK ROCK!この騒々しい音楽に哀愁さえも醸し出す様は、技量云々よりも若くして過去をノスタルジックに浸った人生模様さえも浮き出すよう。大人になんかなりたくねぇ!そんな熱き衝動が聴こえてきそう。ちなみに、彼等の名はあるレーベルとの契約があったため、秘密裏にGENOCIDE EXPRESS名義でCLEANSE THE BACTERIA compに参加したそうである。(S)

(GRAAF HENDRICK RECORDS 001)7"EP 83年

THE ARTRATZ/DE STEUN ZOLEN BOOGIE

ガチャガチャ、バタバタ、モコモコ。その音を形容するならば、こんな言葉がピッタリ且つ他に見当たらず。そして聴き終えた後には疲労感さえ感じずにはいられない。しかしオブスキュアながらこのバンドもハードコアの夜明けを感じさせてくれる。暇を持て余した兄貴のプロト・ハードコア・プンク聴き手の神経をズタズタ、ボロボロにするそのサウンドは奇才の片鱗を覗かせる。色々な意味でギリギリの紙一重的問題作。(S)

(ART RECORDS)7"EP 82年

B.G.K./WHITE MALE DUMBINANCE

フルスロットルGO AHEAD!!!神業としか言いようの無い唸り捲くるベースが牽引して尋常ではないスピードで猛進する高速スピードだけではなくメロディーが共に絡み合い、極上のハーモニーを奏でる。シンプルにして芯を突くリリックもならではの妙技。もはやこんな陳腐な言葉など意味を持たず、彼等のハードコアたる所以を肌で耳で心で感じて欲しい。「学校へ行き/結婚し/残りの人生を働き過ごす」。このたった3語に込められた疑問符は余りにも大きい…。(S)

(VÖGELSPIN RECORDS 010)7"EP 82年

GEPØPEL/PARACIDE

オランダ中期の主要レーベルDIE HARDからの本作。この時代のどのバンドよりもよりUS的で、ひたすらに乾ききった荒野を疾走するべく姿はスリーヴのままである。それでも、ある意味ダッチ・スタイルのロック臭は勿論感じる事が出来る。この言葉には言い表せないオランダ特有のロック・テイスト(ギターの音色)は是非々々、自身の耳で聴き比べてみてもらいたい。GEPØPELという言葉はある単語の低俗な人の発音方法で、一種のジョーク・ワードだとか。(S)

(DIEHARD 1)7"EP 85年

INDIREKT/NAUCH UND NEBEL

ミッドテンポのパンク・ロックからスラッシュ・コア状態まで、曲によって様々な一面を覗かせる女性フロントのINDIREKTの2nd EP。奥の深さとセンスはピカイチ!それでも、あくまで根本にあるUK的アプローチは忘れていない。数々の音源を残しながらも、イマイチ人気が伴わないのは残念。その繊細な悲鳴はまるで理想と現実の狭間で苦悩するかのように、彼等・彼女の声を我々に突きつけるのだ。また、GERORGE ORWELLの句を引用しこう載せている「自由とは2足す2が4になると言える自由である」。(S)

(DIEHARD 004)7"EP 86年

LÄRM/NO ONE CAN BE THAT DUMB

唯一無二にして、だからこそ伝説と生り得た存在。レコードを突き破りターンテーブルごと破壊される平和の為の騒音(ノイズ)!7"EPに16もの曲を詰め込み、全てが革新的であり新たな境地へと切り開いた開拓者なのではないだろうか。決して一時代を築いただけではなく、継続し、その遺伝子を世界中に散りばめた事は音楽という一つの媒体を超え、人間そのものの存在を問うかのごとく人々の心を揺さぶり続ける。LÄRMAAGHARDCORE!!!(S)

(SELF RELEASE)7"EP 86年

NEUROOT/RIGHT IS MIGHT

異端であり孤高。漆黒の闇よりジリジリと不気味に迫り来る無機質な金属サウンドと死神ヴォイスがより恐怖の底へと突き落とすかのように、あくまでもスピードに頼らずに全編NEUROOTの異空間を形成している。重く息苦しいこの世界に彼らは何を見ている?何を感じる?そう、これはレコードに込められた、映画よりも生々しい荘厳な一つの物語だ。体感せよ!(S)

(SMEUL PRODUCTIONS SM002)7"EP 85年

NOGWATT/FEAR

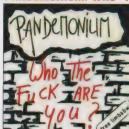
オールFEMALEバンドのNOGWATTであるが、ガールズ・バンドなんて色目で見たらボルダーに埋没覚悟だ!彼女たち曰く「例えばLÄRMを男性バンドなんて呼ばないでしょ?!」と言い放ち、偏見に満ちた見方を突き返していたようであるが、そんな事はこの音を聴けば一刀両断・木っ端微塵に粉砕、平伏してしまうだろう。イタリア・ツアーも敢行し、イタリアンHCからの影響も多大にあるようで変則的な展開はそこにも表れているのかも。(S)

(REVENGE RECORDS 001)7"EP 85年

NO PIGS/EP

MDCのヨーロッパ・ツアーのサポートのために結成されたバンドで、何と言ってもNOGWATTでも太鼓を担当しているINGRID女史のスッタスタのバチ捌きが最高に冴え渡る!ノイジィー一歩手前のドライヴィング・ギターも疾走感を出すには十分に威力を発揮しているのだ。湿性と乾性の両方を併せ持った脅威の中立的不協和音楽団。語弊を恐れず言うならばTHIS IS NEDER HC/PUNK。(S)

(NOZEM RECORDS 001)7"EP 84年

PANDEMONIUM/WHO THE FUCK ARE YOU?

触るな危険、音楽という名の暴走破壊行為。逆立てた毛髪より、武装したジャケットよりも鋭く危ない、武器を持たない反逆分子此処に来たれり!激速チューンのオンパレードであるが、ギターの音色はDISCHARGE風味を効かせているのはこのバンドの二面性を知らしめされる好材料となるのか。真面目とユーモアが表裏一体となり皮肉と本音が混濁する。対極に位置するものが同居する事で美へと変わる貴重な瞬間だ!(S)

(Limbabwe 001)7"EP 83年

THE SQUATS/NOISE OVERDOSE

OI/PUNK～HARDCOREの流れをふんだんに感じる名作。UK 80's直系の楽曲、ザク切りなギターと荒くれたヴォーカルが正にワルの証!世界中の不良共の幾人かは、パンクを利用し雑音を撒き散らしている。今も昔もそれは変わってはいない。そう、彼等も例外ではなかったのだ。自分の中にある欺瞞を殺るのか?殺らないのか?って事の様だ。(M)

(Nep&Bedrog N&B 002)7"EP 81年

THE SQUITS/NOISE AGAINST SILENCE

THE SQUATSとどう関係していたのか、関係してなかったのかは不明だが…何か臭う…。若さ故か、時代なのか、偏見を招く歌詞の暴走ぶりに何となくニヤリ。UKスタイル全開のパンク・サウンド。"スターになんかなりたかねぇぜ!"なんて、間違ってもなれないような連中が言うところがたまりません!やはりニヤリ。(M)

(Squits 品番不明)7"EP 82年

SUSPENSE/MURDER WITH THE AXE

81年にオランダで生まれた怪物。息は短くとも、直径17.5センチの丸い塩ビに深くその爪跡を残した。UKハードコアの衝撃的な始まりを敏感にキャッチし、素早く体現したのだろう。抑えきれない衝動に満ち溢れ、狂気をも感じさせる。未熟でありながら破壊を望む、荒くれた世代に称賛!(M)

(Neo 2)7"EP 81年

VANALLES&NOGWATT/EP

SPLITでもなければ、あのNOGWATTでもないVANALLES&NOGWATTなるバンドの唯一の単独作。これは社会に拒絶されたクソガキの反社会的音楽に他ならない。この時中学生程の年齢にしてNO FUTUREと憂い、同年代の友人たちが無邪気に野山を駆け回っている間にも、彼等は地下の一室でその野蛮な音楽と共に不満と衝動のみを蓄え滾らせていたことだろう。その後の曲では大人への階段を上ったり、上らなかったり…。(S)

(SMALL PUNX RECORDS)7"EP 83年

THE VULTURES/ST

THE SQUATS同様、OI/PUNK～HARDCOREの流れを感じるキャッチーなプリミティヴ・サウンド。しかしながらギターなどの不協和音により独特で、全く突き抜けてはいない。逆に其所が癖になる様な気はする。80年代と言う混沌の過去に巣食う、餓鬼共の下手な挑発。それに乗るのも悪くはない!(M)

(no label RCS 1125)7"EP 81年

WINTERSWIJX CHAOS FRONT/ST

知る人ぞ知る名作!知らなけりゃ知らないで問題は無いんだけど。音や雰囲気に比べ、ルックスが余りパンキッシュでないのが残念。そこも個性ですが。しかしながら、メッセージ性も含め最高に内容は熱い。ザラついたキラー・ハードコア・チューンの殴打連発!やっぱり知っといてもいいかとも思います。(M)

(KROTTENBEAT RECORDS)7"EP 86年

ZMIV/BANZAI! HERE'S ZMIV BEWARE

血沸き肉踊り、最強にして最凶。奇跡のDUTCH 82'メガトン・ロウ・デッド・パンク・アタック!地獄を彷徨うビスジャン・モンスターは悪夢となってやって来て首を狩る!この時点でフィニッシュ・ハードコア、特にTERVEET KÄDETの影響を受け、DISCHARGE、BAD BRAIND、BUTTOCKS、HEADCLEANERS等々世界中のバンドをリスペクトしている事が感慨深い。地獄に堕ちる前に聴いてくれ!(S)

(SELF RELEASE)7"EP 82年

N.V. LE ANDEREN+RIOTPUNX/Sound Of The Streets

あえてRIOTPUNXのみに触れよう。ノイジーでドタバタなプリミティヴ・ハードコア。UKのDISORDERの様な混沌とした、愛すべき自暴自棄的RAWサウンド!怒りは原動力であり、精神論は退廃的日常を吹き飛ばす起爆剤として発火する。金にならねぇとか自己満足だとか、もうそんな話ではない。単なる現実だ。(M)

(VÖGELSPIN RECORDS BIG BITE 007)LP 82年

VA/ALS JE HAAR MAAR GOED ZIT...NR2

欲しい!誰か譲っておくれ(本気)…。AMSTERDAMNED、B.G.K.、OUTLAWS、HAEMORRHOIDS、LAST FEW、NULL A、PANDEMONIUM収録。83年のHARDCOREに掛ったバンドによる本作。最高のテンションとエナジーを封じ込めた、今やオランダのハードコア・レジェンドであり象徴とも言えるレコード。ならず者達の足跡は時代を越え、聴く者の心にも、その足跡を残すかも知れない。(M)

(VÖGELSPIN RECORDS)LP 83年

VA/BEWARE OF THE WOLF IN SHEEP'S CLOTHING

刹那的なムーヴメントの中で、もがき苦しみ、唯只管に自分達の音楽を信じて雑音に身を投じてきた7者7様の'ロックファイル'!特にHIROSHIMA NOODUITGANGはCRASSレーベルのバンドにも通ずる凍てついたパンク・ロックと屈折したハードコアで音楽に対する造詣の深ささえ感じてしまう。その他収録はDEAD LOCK、INDIREKT、NO PIGS、SCA、NOGWATT、GEPØPEL。羊の皮した狼に気を付けろ!(S)

(NOZEM RECORDS 002)LP 84年

MAXIMUM PUNK ANGER

INTERVIEW

SEEIN' RED

共産主義者であると同時に俺たちはパンクスなんだ

INTERVIEWED: 行川和彦　*TRANSLATED:* 中島友太　*PHOTO:* 榊原弘朗

[3月28日/新宿ルノアール]

オランダからSEEIN' REDが来日した。世界で初めてブラスト・ビートを生み出したLÄRM(ちなみに彼らはLÄRMを"ラーム"と発音していた)の、ヴォーカリスト以外の3人が89年に始めたバンドである。

ぼくは横浜FADでのライヴを観たのだが、ひたすら熱いステージを展開。アンコールでは旧友をヴォーカリストに迎えてLÄRMの曲を立て続けにやった(ちなみにオリジナル・メンバーで一日だけLÄRMが再結成するとのこと)。しかし、彼らは断じて伝説ではない。とにかく現役のパンク/ハードコア・バンドとしての姿がそこにあった。

今回の取材では新宿D.O.Mでのライヴの日のリハーサル終了直後、ポール(vo/g)、その弟のオラヴ(ds)、そしてジョス(b)に60分強の時間を割いてもらった。筋金入りのポリティカルDIYパンク/ハードコアのイメージを打ち出しているバンドだし、そのとおりでもある。そんな彼らが、いわゆる商業誌のDOLLの取材に応じたことを意外に思う人もいるだろう。ジョスはこう言ってくれた。「SEEIN' REDは音楽以上のもので、歌詞もすごく重要だ。可能な限りたくさんの人たちとコミュニケーションしたいから、こういう雑誌に載って多くの人にメッセージが伝わればいいと思っている」。

かつて「Naive」という曲で自ら歌ったように、SEEIN' REDの歌詞はかなりナイーヴだ。それはLÄRM時代以上にも思える。しかし、彼らのすべては25年間コンスタントに活動してきたすえに激化した感情の塊である。SEEIN' REDは単なるカタブツではない。かなりのオープン・マインドで人間味にあふれてユーモア・センスもあるナイス・ガイだ。本当にシリアスな人は、そういうものである。そして音楽的にも思想的にも、イノヴェイターには既成のレッテルを貼れないってことだ。

▶あなたたちは70年代からパンクを聴いていましたよね。まず、どのへんのバンドからパンクに入ったかおしえてもらえますか。

ポール&オラヴ「SEX PISTOLS、CLASH、DAMNED、BUZZCOCKS」

ジョス「77年にはオランダにもパンク・バンドが出てきて、それから70年代後半にかけてDIYパンク・バンドも出てきた。例えばTHE EXやLULLABIESとか、今ではレコードが高値で取引されているようなバンドだね。そういったバンドを観て俺たちは育ってきたんだ。それからアメリカからツアーでバンドが来るようになって、レコードも多く流通されるようになって」

ポール「BLACK FLAGやMINUTEMEN…」

オラヴ「DEAD KENNEDYSやMDCとかの」

ジョス「そうしたバンドがヨーロッパ全体のパンク・バンドに大きな影響を与えて、NITWITSとかがスタートして、LÄRMも生まれた。その頃オランダのパンク・バンドには2つの主流があって、ポリティカルなバンドと飲んで騒ぐだけのバンドがいて、俺たちはポリティカルな方に向かったんだ」

▶70年代のアナーコ・パンク(注:アナーキズム志向のパンク)に影響を受けたとのことですが、それはどのへんのバンドですか?

ポール「イギリスのCRASSがすごく人気あった時は、そういう大きなシーンがあったよ。そこからRONDOSやTHE EXとかがオランダで生まれた。それと時をほぼ同じくして、俺たちはLÄRM(の前身バンド)を結成した。RONDOSから一番大きな影響を受けたね」

オラヴ「当時はよくスクワッド(注:いわゆる住居不法占拠)とかでライヴをしていた」

ジョス「たぶんRONDOSがオランダで最初に本当にDIYでレコードをリリースしたバンドだ。オランダではそれまでパンク・バンドはメジャーから出していて、パンク・レーベルもメジャー・レーベルが運営していた」

▶アナーコ・パンクの人たちにも影響を受けたけど、ヒッピー崩れだったりドラッグまみれだったり飲んだくれだったりする人も多くて、幻滅したそうですが。

ジョス「いや、そういうわけではないんだ。さっき言ったように当時のオランダのパンクは2つに分かれていて、Oiパンクの人たちは飲みまくっていたけど、アナーコ・パンクの人たちはスクワッドとかで自分たちでセッティングをしてライヴをやり、自分たちでレコードを作り、自分たちの雑誌を立ち上げていた。アナーコ・パンクはパンクの中でもポリティカルだったと、俺は思うんだ」

▶一方LÄRMはストレート・エッジも標榜していましたが、それはどのへんの影響で?

ジョス「MINOR THREATだと思う。80年代初頭、パンクといえばほとんどが酒を飲んで酔っ払うことや暴力についてとかを歌っていて、馬鹿げていたけど、俺たちは一切そんなことはしていなかった。それからMINOR THREATをはじめとするストレート・エッジ・バンドのメッセージを聴いた。そっちのほうが俺たちには馴染みやすかったんだ。いい考え方だと思ったし、やっと自分たちらしさを見つけた気がしたよ。そして、俺たちにとってもうひとつ重要だったのは政治性だ。当時も今も、ストレート・エッジについてしか歌わないバンドはたくさんいる。酒を飲んじゃいけない、だとかね。そんなことだけしか歌わないなんて馬鹿げているよ」

▶LÄRMのようにストレート・エッジのアティチュードをもちつつポリティカルなバンドは、当時新鮮でした。他の国にもほぼ不在で。

ポール「そうだね、あまりそういったバンドは

いなかった。それは当時オランダが置かれていた状況による影響もあるんだ」
ジョス「NATO軍、クルーズ・ミサイル、原子爆などといった問題が山積みで、それらのことが身近にあったからね」
▶実はジョスがタバコを吸っていて驚いたのですが、ある意味そのへんにこだわりはなくなったんですか?
ジョス「ん?俺のことかい(笑)?まあこうなったのは個人的な選択なんだ。もう一個ショックを与えるようなこと言うとね、ビールも飲んでいるんだよ」
ポール「(爆笑)」
▶いや、OKです。ぼくも同じですから(笑)。
ジョス「でもドラッグはやってないよ」
▶LÄRMは色々な面で革新的だったと思います。もちろん歌詞も重要ですが音楽も重要で、特にあの速いビート、後にブラスト・ビートと呼ばれるものは、どうやって生まれたんですか?何かの影響を受けて?
オラウ「"ワンツースリーフォー!ダダダダダダ!!!"って感じでやった(笑)」
ポール「当時まともに演奏できなかったからなだけだよ(笑)。LÄRM(の前身バンド)を始めた頃は誰も楽器の経験なんてなくて、勢いでやっていたらああなった。ギターはチューニングが合っていなかったし、ドラムもまったく叩けてなかったし。LÄRMはドイツ語でノイズという意味だからね。当時の俺たちを最もよく表しているよ」
ジョス「俺のベースなんて弦が一本しかなかった。それで十分だったよ(笑)。オラヴはドラム・セットも持ってなかったから、椅子と二本の棒を持っていろんなものを叩いてた。LÄRMのディスコグラフィーCD(『Complete Campaign For Musical Destruction』)の最後から2曲目は、その椅子がドラムで大ハンマーをスティックにして叩いていた時にレコーディングしたものさ(注:3人の最初のバンドであるSEXTONSの80年代初頭の曲)」
▶エネルギーがたまりまくっていて、それをガーッと出したらああなった感じですかね。
全員「そうそう、そうなんだよ(笑)」
▶あのビートがその後のパンク/ハードコア・シーンにものすごく影響を与えましたね。特に80年代後半のUKのバンドにものすごく影響を与えたと思いますが、そういったバンドと当時から交流はあったのですか?HERESYとの交流は知られていますが。
ポール「いや、(LÄRMを始めた80年代半ばは)特になかったよ。LÄRMをやってた頃は他のバンドに影響を与えてたなんて知らなかった。LÄRMをやめてから知ったんだ」
ジョス「HERESYとはイギリスとドイツで一緒にツアーをした。あとNAPALM DEATHやRIPCORDとかね。ぼくらはむしろフィンランドのハードコアからものすごく影響を受けているんだ。BASTARDSやTERVEETKÄDETとかね。だからLÄRMがそれほど大きなバンドとなっていたかは、やめてからわかったんだ。ファーストLPなんて1000枚を売り切るのに8年ぐらいかかった。でも今は200ドル以上で取引されてる。驚きだよ」
▶でも当時のUKシーンにはLÄRMの音源が広まっていたみたいで、NAPALM DEATHのLP『Scum』の"インスピレーション・リスト"にも載っていたりしましたし。
ジョス「彼らのそのファーストLP(のインナー・シート)にはLÄRMのTシャツを着た犬が写ってるね」
ポール「EXTREME NOISE TERRORも、バンド名を俺たちのジャケットに載ってる文("extreme noise")から付けたんだ(笑)」
▶HERESYらとツアーしたきっかけは、彼らがコンタクトしてきたからですか?
ポール「彼らがアムステルダムに来た時に会って仲良くなり、俺たちがツアーをしてくれと頼んだ。彼らはLÄRMを知っていたよ」
ジョス「当時ぼくらはよくイアーエイクの(オーナーの)ディグと連絡を取っていたよ。最初HERESYのフレキシ(ソノシート)をメール・オーダーして、それから彼と手紙のやり取りをするようになったんだ。『マキシマム・ロックンロール』の"シーン・レポート"とかも読んで、外国のバンドとコンタクトを取ったりもしていたね」
▶アメリカのレーベルから87年に出たコンピレーション7"EP『End The Warzone』(PILLSBURY HARDCORE、ATTITUDE ADJUSTMENT、STRAIGHT AHEADらを収録)に参加したのも、そういうつながりで?
オラウ「STRAIGHT AHEAD(注:SICK OF IT ALLのアーマンやクレイグ、HELMET~BIOHAZARDのロブも在籍)がLÄRMの友達だったんだ」
ポール「STRAIGHT AHEADから連絡があって、参加したんだよ」
▶ちなみに、アメリカのS.O.D.の『Speak English Or Die』のサンクス・リストにもLÄRMの名前が書かれているのですが、交流あったわけじゃないですよね?
全員「いや、彼らがLÄRMを好きなだけだよ(苦笑)」
▶LÄRM~SEEIN' REDと、ずっと強固なDIYの姿勢で活動していますよね。やはりそれは意識的なことですか?最初はメジャーのレコード会社やプロモーターから話が来なくて、自然とそう始めたのかもしれませんが。
ポール「そうだね。当時は何もなかったから自分たちでやるしかなかったんだ。レーベルだってこんなクソノイジーなバンドをリリースしたいなんて思わないしね。それで実際にやってみて機能することがわかったから別に問題なかったんだ」
オラウ「その方が楽しいしね」
ジョス「あとはもちろんイデオロギー的なものでもある。DIYは俺たちの主義なんだ。たとえば、俺たちはコマーシャル・バンドにはならないし、商業的なライヴ・ハウスでプレイする

ことはあってもやることはいつもと同じだ。お客さんに曲のメッセージの詳しい説明もするし、だから今回のツアーでも歌詞の対訳を作った(注:それは関係者により観客全員に配られた)。俺たちにとって歌詞やそこにあるアイディアはとても重要だ。日本では英語を理解する人が少ないと聞いたからそうやって対訳も作ったし、ポリティカルなことを語ったインタヴューもした。少しでも多くの日本の人に俺たちの考えを知ってもらうためにね。とにかく"DIY=SEEIN' RED"さ」

▶で、LÄRMが活動をやめた時期はどんな感じだったんですか?ヴォーカルの脱退も一因でしょうが、みんなからの扱われ方が心地良くなくなったからとも言っていますね。

ジョス「ちょっと馬鹿げて聞こえるかもしれないけど、俺たちは人気が出すぎたと感じていたんだ。音楽性も少し変わってテンポが遅くなっていたんだけど、ファンはみんなそれを認めなかった。もっとファストで短い曲をやれ!ってね。それでなんだか疲れてしまっている時にヴォーカルが弁護士になるための勉強に専念するということでLÄRMを一度ストップさせて、SEEIN' REDを始めた。はじめはもっとメロディアスでスローな曲をプレイしていたけど、アメリカのDROPDEADやドイツのSTACKと親しくなるにつれてやっぱりファストな曲も恋しくなっていった。あと歌詞もすごく怒っている内容のものだったから、やはりアングリーな歌詞にはファストな曲がシックリきたんだ」

▶そのスローな曲やメロディアスな曲を演奏していた頃は何か意識的な変化があったと?

ポール「当時IGNITIONやFAITH、MINUTEMENとかから影響を受けて、彼らのようになりたかったんだ。でも結局はうまくいかなかった(笑)。ファーストは良いアルバムだけど、ちゃんと聴けるようになったのはもっと後のことだね」

▶ライヴを観て思いましたが、やっぱりファストな曲の方がカッコいいというのが素直な気持ちですかね。

ポール「もちろん速い曲やっているけど、遅めの曲もやっていて、今はちょうどミックスされている。LÄRMでは速いのばかりだったけど、SEEIN' REDでは上手く両方できるよ」

▶ポールはMINUTEMENのロゴをギターのストラップに付けていますね。いまだに好きなんだなぁと思ったんですよ。

ポール「ああ(笑)、フェイヴァリット・バンドなんだ(注:『Workspiel』でカヴァーした)」

▶そのメロディアスな曲をやっていた90年代前半は内省的で迷いも感じられたんですが。

ポール「個人的に人間関係で色々あって、エモーショナルな曲ができていた。俺は……ガールフレンドのこととか色々と問題があって、色々と悩んでいた時期だったと思う(爆笑)」

ジョス「エモな時期だね(笑)」

▶興味深い話です(笑)。その時代があったからこそSEEIN' REDの今がある気がします

ジョス「音楽はすべてエモーショナルなものなんだ。曲を書く時の基本は心にある」

ポール「個人的な感情もあればポリティカルな感情もある。俺たちの場合は怒りがあったりとか。その時のアルバム(『Workspiel』など)は個人的な感情がもっとも出ていた時だけど、今はポリティカルな方が強いね」

▶ちなみに、SEEIN' REDというバンド名はMINOR THREATの曲名の「Seeing Red」から引用したんですか?

ポール「いや、アメリカのドキュメンタリー映画からだ」

ジョス「"WITCH-HUNT COMMUNIST(いわゆるアカ狩り)"についての映画だ」

ポール「俳優や映画関係者を中心に、アメリカで共産主義者の疑いがある人をブラックリストに挙げて、何の根拠もなしに取り締まった頃のことを描いた作品なんだ」

オラウ「"seein' red"って言葉自体は、共産主義者を差別する人とは違うという意味でも使われるんだよ」

▶80年代後半以降、ソ連(注:今のロシア、ウクライナ等がかつて属していた共産主義連邦国家)や中国で色々ありましたが、共産主義に対するあなたがたの考え方にLÄRM結成当初からの変化はありますか?今でも共産主義について特別な思いをもっていると思いますが。

ポール「いや、(ソ連や中国のとは)まったく違うよ(笑)。みんな共産主義と聞くとすぐにロシアや中国のことを思い浮かべるけど、それは共産主義が間違った方向に行っただけの話で、俺たちは共産主義の中でも左寄りの思想を持っている。もともとの共産主義の原理に近い。ロシアに関して言えば一つの政党が共産主義の理念を利用してすべてを掌握してしまっただけの話で、そのこと自体は共産主義とは何の関係もない。そのおかげで人々の間では共産主義について少し誤った認識が広まってしまっていて、確かにデリケイトな問題にはなってきているね。この前なんてロシア人のライターがインタヴューをしに来て、『君たちは共産主義者なの?』って聞かれたから『そうだ』って答えたらそれっきり中断されてしまったんだ。でもやはりロシア人の彼とは置かれてきた環境がどうしてもオランダ人の俺らとは違うから、うまく説明しようと思ってもできなかったね」

ジョス「でも(共産主義であろうと)どんな状況や理由があろうと、独裁政権というのは決して許されるべきことじゃない」

▶その共産主義の原理的な理念というのはマルクスが提唱したものですか?

ポール「そう、共産主義のオリジナルのアイディアだ。もちろんその影響は大きいけど、共産主義者であると同時に俺たちはパンクスなんだ。だからそれだけじゃなくてパンクスが提唱するアナーキズムからも影響を受けているし、単なる"共産主義のバンド"というふうには思われたくない。でもまあよく俺たちは"Red Band(赤のバンド)"と、人に説明する。左派の影響が強いからね」

▶オランダは王政でしたよね。

ジョス「そうだよ。女王が一応国のトップということにはなっているけど、それとは別に総理大臣もいるし、彼女が何かしらの政治的権力を持っているわけではないんだ」

▶日本と同じような感じですね。

ポール「そう。国の象徴のような存在だ。オランダのプロモーターみたいな感じだね」

▶それについては特に「構ゃしねぇ!」という感じですか?

ポール「いや、あんなもんは税金の無駄遣いだ(笑)」

ジョス「彼女は今年即位25周年のお祝いとして国民から500万ドル相当ものプレゼントを受け取るんだ。そしてそのための盛大なパーティには2000万ドル以上もの金が使われる。ホームレスや貧困に苦しんでいる人がいる中で、そんな話を聞くとヘドが出そうになる。家も食べるものもなく、道端であえいでいる人がいるのに、彼女一人が女王だっていうだけの理由でそれだけのものがもらえるなんて馬鹿げてるとしか言いようがない。もうひとつ議論を呼んだのが、女王の長男である皇太子の結婚問題だ。結婚をした相手はアルゼンチンの女性なんだけど、彼女の父親はアルゼンチンで多くの大量虐殺が行われたヴィデラ軍事独裁政権時代に農林大臣の地位にあった人物だった。そのことで結婚当時は大きな論争

が巻き起こり、結婚に猛反対した国民も多い。彼女の父親は結婚式に招待されなかったりとかね。アルゼンチンで、政権に夫や息子を奪われた女性たちが起こした抗議行動があったんだけど、そのためのベネフィット・コンピがあって俺たちも参加したよ」

▶そういう直接行動とともに[illegible]あえて英語でシンプルな言葉を書くと？

ジョス「聴く人がそれぞれ考えてリアクションしてもらいたいから、メッセージをダイレクトに伝えるためにもシンプルな言葉を使ってる。オランダでは、よくライヴで曲間に観客と話し込んで議論を始めることがあるんだ。ある時なんかはみんながお互いに怒鳴りあうほど議論が白熱してしまって、ショウを一時間も中断したことがある。あまりに話し込んでしまうためによく『早くプレイしろ!』と野次られることが多いんだけど、その時は『俺たちはジュークボックスじゃねえぞ!』って言ってやるんだ(笑)」

▶ちなみに、NOFXのファット・マイクが提唱[illegible]

ジョス「本気でそういった活動をしているのなら良い面もあると思うよ。流行に乗ってるだけじゃないのなら、個人的には良いことだと思う」

オラヴ「見ている限りでは誠実な活動をしていると思う。若いパンクスたちにそういった問題を提起するのは重要なことだと思うし、NOFXにはそれができていると思う。それで得たお金はそういう方面に寄付しているし」

ポール「一年後にはそんなこと忘れてる、なんて状況になってほしくないけどね(笑)」

▶[illegible]

ジョス「今回もこうして日本に来ているように、直接みんなと会ってもっとパーソナルなレベルでのネットワークを作っていきたいんだ。たとえば知らない人からレコードのオーダーが来て、実際に物は送っても支払いが来ないことがある。でも直接知り合った人から50枚のオーダーが来てすぐに支払いがなくても、必ずいつかは支払ってくれる。そういった強いネットワークだね。大きなマーケットに出るには俺たちの音楽はエクストリームすぎる。そして同時にそれには色々と妥協をしなくてはいけない部分も出てくるんだ。実はLÄRM時代に一度、ニュークリア・ブラストからオファーがあったけど断ったんだ。自分たちの音楽は自分たちでコントロールしたかったからね。大きなレーベルに所属していると、レコードをリリースしないといけないなどといった制約が出てくる。今なんか新しいレコードのレコーディングを一年近くやってるけどまだ納得できるものが仕上がってない。レーベルに所属していたらこうはいかないし、この日までに曲を作ってこいとか、このショウでプレイしろなどといったことが出てくる。でも今は自分たちのペースでライヴもリリースもできる。自分たちの手ですべてをコントロールすることが大事なんだ」

▶[illegible]

ポール「44歳。ゴミ収集の仕事してる(笑)」

オラヴ「42歳。印刷工」

ジョス「40歳。小学校の校長をしているよ。けど、俺が校長をしているのはショックかな」

▶[illegible]

勝手にしやがれ
KATTENI-SHIYAGARE

どこでどんな状況で音を出してもいつもの勝手にしやがれの音になってる

INTERVIEWED:KYO MAD3 [3月28日/新宿らんぶる]

ロックにスイングするバンド、勝手にしやがれがメジャー・リリースの『フィンセント・ブルー』から約1年で5thアルバム『シュール・ブルー』をリリース。シングル・カットしたアニメ「ギャラリー・フェイク」のオープニング曲「ラグタイム」を含む全10曲は前作との連作となる絵画シリーズの完結編でアルバムのコンセプト・完成度がずば抜けた力作となりました。リーダーのシンガー&ドラマー武藤昭平氏とホーンのリーダー、トランペットの田中カズ氏の2人との毎回お馴染みのロングトーク。今回はテープこそ切れなかったけどやっぱりいっぱいいっぱいでした。1時間半分からの抜粋をお送りします。

▶だんだんリリースのペースが早くなってる気がするんですけど(笑)。前から1年切ってますよね。

武藤「その前のがメジャーに移るとかで、1年何ヶ月か経ってるから。まあ、大体1年に1回くらいのペースは守っているっていうか」

田中「シングルが間にあるからね」

▶マイペースでそのままいけてるんだろうなとは思ってたんですけど。

武藤「(しぶい声で)まあ、湧きあがるフレーズの泉っていうか……(笑)」

▶録音自体始めたのって去年の年末くらいからですか?

武藤「いや、実は去年リリースした時から既にレコーディングやってたりしてたんですよ。『シュール・ブルー』と前作の『フィンセント・ブルー』がふたつでひとつのコンセプト・アルバムなんで、去年リリースした時点で『シュール・ブルー』の半分くらいの曲は実はあったんですよ。あとはセッション繰り返したら録れる状態ではあったから」

▶最初から連作のコンセプトってあったんですか?

武藤「本当は、ふたつあわせて12〜15曲くらい(のアルバムを)構想してたんだけど、それをふたつに分けてもミニ・アルバム・サイズになってしまうじゃないですか。後から『フィンセント・ブルー』用のカラーにあう曲を付け足したりとか、リリース後に『シュール・ブルー』用のカラーの曲を付け足そうかなと思って、曲を作っていったんで」

▶サンプル盤だと裏に絵がついてて、あの段階で前に聴いてた人は「ああ、今回はシャガールのイメージなんだ」ってわかるじゃないですか?

武藤「あの(シャガール風の)絵はたまたまコンセプトに沿ってひらめいたイメージで描いたから。青いマリアと、哀れな男は赤にして、それがひとつになってっていう」

▶今回結構歌詞がキリスト教的っていうか、シャガールって晩年教会のステンドグラスとか作ってるから、そういった関連もあるのかなと思ってたんですが。

武藤「連作だからといって、聴いた印象が『フィンセント・ブルー』の延長だねっていうのも面白くなかったから、今回のカラーをもっと強調するにはどうしようかなっていうのがあって。「オーヴェールの教会」っていうゴッホの絵がモチーフのひとつになってるから。主人公の哀れな男を強調するには、何かにすがっているイメージがあった方がいいなと思って」

▶アルバム全体の印象なんですけど、今回すごくホーンのベースの音が立ってるなって感じがしたんですけど、何か違う録音方法とか試したんですか?

武藤「いやなんにも。今まで通りのやり方で「せーの」で合わせて。ただエンジニアさんが顔を合わせるのが2回目だから」

田中「エンジニアの人もね、『フィンセント・ブルー』録り終えてから『シュール・ブルー』の録音に至るまでずっと聴いてたよね、ウチらの音源をね。結構好きで聴いてくれてた部分もあってさ」

武藤「で、次やるんだったらこれしたいあれしたいって。ドラムのマイクとかも毎回セッションの度に「今日はこれ試します」って一回一回違うし。わけわかんないモノばっかり持って来るから」

田中「そうそう(笑)」

▶エフェクト関係とかって、その辺はみんな……?

武藤「全部エンジニアのアイディアで。たぶん閃いたからそうしてくれたんだと思うけど。エンジニア含めてチームみたいになってるから、ウチらはウチらで曲を一生懸命表現して演奏するっていうのに徹して。生音での段階でバンドはこれでOKって感じで。色んなアイディア出してくるから、もう「何々っぽくやろう」じゃなくて、例えばヴォーカルにディレイかけたからってロカビリーを感じさせる訳じゃないし。そういう意味では、色んな手法で、新しいスタイルとしてできてるなと。まあメンバー自体も以前よりスキルは上がってるっていうのはあるとは思うんだけど……」

▶確かに、キメもすごい合ってて。今回はすごくキメが多い感じがしますね。

田中「キメ、多いかもね」

武藤「多分ね、俺が一番上達してないですよね(笑)。あまり変わってない、基本的に(笑)。でも合わせるコツとかが、みんなで7人がいい形のバランスで分かってきてる。相乗効果で。ウチは相変わらずドンカマ(メトロノーム)なしのせーのでやるから。今回のもリズムは揺れてるけど、すっげえ走ってるところもあるんだけど、それは全然違和感なくて。気持ちいいなあと」

▶バンドでやってると、走るところって、全員走ってますよね。

武藤「「ドンカマ遅れてます!」みたいなね(笑)。だから、メンバーもちゃんと鍛錬はしてるわけだし、ドンカマに向かってっていうより、曲に向かって演奏して欲しいから。気持ちいい演奏だったら全然正解だし。それを一番大切にしてるっていうか」

▶今回は特にテーマが重いですけど、最後にちょっと希望がある終わり方してますよね。

武藤「比較的イケイケでガーって発散するものも好きなんだけど、結構考えさせるのが好きなんで。今回は前作と合わせてコンセプト・アルバムっていうことで作ったから、考えさせるものを作りたいっていうのがあったから」

▶歌詞はいくらでも深読みできますよね。

武藤「歌詞では、前作からリンクしていったりとか、前回で投げかけたものが今回解決していったりする部分があったりとか、謎解きみたいになってて」

▶曲自体は前回よりアッパーな曲が多い気がするんですよね。でも歌詞のせいか全体はディープなイメージで、最後に救われる印象があって。ちなみにラストの「シュール・ブルー」のピアノの低音、エフェクトしてますよね?

武藤「あ、エフェクトじゃなくて、ペダルを踏んだ音を拾ってる。ピアノだけに何チャンネル使ったかな、あれ?すごい(マイク)立てててさ。リアルにそこで弾いてる感じと共に、ちょっと夢の中っぽい感じが欲しいなっていうのがあって」

▶あれもコンセプトとしてホーンを入れずに?

武藤「アルバムで出てくる現実的な部分は全てメンバーでやって、最後に想像させる、エンドロールっていうか、全員じゃない方がより想像力を働かせられるかなと。ふっと軽くなるような感じが欲しくてそれまでずっとわざと重い曲で固めて。しかもひとつ前の「ブルー・バード」に関してはわざと歪みを強くして聴いててイヤになるような感じにしようっていう。そして最後の最後にすっと魂が落ちつくような。音だけを聴いてそういう気分を味わって欲しい」

▶ところで、「午前零時の自画像」では初の全員ソロがありますね?

武藤「そう、初めて(ニッコリ)。一応コンセプトに基づいて、ストーリーの中で今日の終わりと明日の始まりの狭間で、一体俺はこういう状況の中どういう顔をしてるんだろうというのがテーマになってて。曲のイメージとしては悲しいのか楽しいのかわからない。メンバーとしてはひとりひとりどういう顔をしてるか、ちゃんと浮き彫りになるように全員ソロをとって。そういうコンセプトだから「午前零時に

君はどんな顔してるの?演奏しなさい!」みたいな(笑)」
▶今回すごく曲がコンパクトになってる感じがします。でも前作と合わせて両方聴かないとだめなんですよね?(笑)
武藤「そうですね。そうすると本当にお腹いっぱいになる(笑)。狙ってコンセプト・アルバムにしたから、フーの「トミー」みたいな。起承転結になってて、色んなヴァリエーションがあって、その中で際立った曲もあって、それでアルバムとしてもすごいいい感じで聴けて、1曲1曲でも聴けて、ストーリー展開としてどうなってるんだろうって歌詞を追っかけてったりとか、深読みしながらでも楽しめる、そういうものを作ろうと思ったから。色んな角度で聴いてもらっていいんだけども、結局は2枚1組で聴いてもらうと一番嬉しいかなと。例えば今改めて「ロンドン・コーリング」をずーっとトータルで聴くかっていうと、好きな曲ばっかり聴いちゃうじゃないですか」
▶A面だけで止めたり(笑)。
武藤「(笑)そうそう。結局はトータルで理解した上でそういう楽しみ方もできるよっていう作りにはしてる」
▶3枚目の『デカダンス・ピエロ』がトータル・コンセプトとして秀逸だったっていうのがあったと思うんですが、『シュール・ブルー』はコンセプトとしてはもっと上をいってる感じがしますね
武藤「要は『デカダンス・ピエロ』のプレッシャーずっとあったっていうのがあって。俺としては『フィンセント・ブルー』『シュール・ブルー』をまとめて聴いてもらって「ほら、『デカダンス・ピエロ』どころじゃないだろう?」っていうのが一番言いたかったんですね」
▶では最後に、実は最初に聞こうと思ってたんですけど、この1年の活動で印象に残っているライヴを教えて下さい。
田中「「ライジング・サン(2004年8月14日)」はねえ、よかったですよねえ。天気がねえ。ホントよかったなあ……」
▶なんか今遠くを見てましたけど(笑)。
田中「やっぱ広い雰囲気でできるって、あんまりないじゃない?結構今までウチのバンドが雨続きだったんで、で、天気よかったんだよね。お客さんも反応がよくて。一番(印象に)残ってるかなぁ」
武藤「10月にライジング・サンのアフターパーティーでZEPP札幌でやったんですけど、その時東京が前日嵐で飛行機飛ばないわ、やっと飛行機飛んだと思ったら札幌が大雪で降りられないわで、なんとか会場に着いたのが出番の15分前で。慌ててセッティングして着替えてやったんだけど、ライヴはいつも通りにいいやつできたっていう。前からウチってリハなしでいきなりぶっつけ本番でライヴって多かったんだけど、メジャーでいい環境でいいライヴできるのが当たり前になってきたところで、リハなしでいつでもいい音だせる底力のあるバンドだっていう。過酷に育ってる自身があったから。久しぶりでそんな環境だったけど、いいライヴできたから、底力、ウチあるねって」
▶再認識ですね。
武藤「お客さんに対してっていうよりも、ウチのバンドのメンバー相変わらずだなって思えてよかった」
▶じゃあこれで今後もリハなしでOKですね?
武藤「まあこれからでも、いくらでも(笑)。たまたまメンバー飲み屋とかにいて、楽器が並んでたら「やってみる?」ってポンと音を出してもいつもの勝手にしやがれの音になってる、そんなバンドっていうのが底力のあるってことで。甘えず、これからもそこで行きたい。原点だし」

THE PEPPERMINT JAM

ALBUM

「野暮なトラ」

TTCD4057
定価¥2,625 (税抜¥2,500)

2005・6・1 SALE!

メロ・ロカがやって来た!!
♪サングラスマンなど超級クラブヒットを生み続ける日本メロ・ロカNO,1バンド! ザ・ペパーミントジャム!!ファン待望フルアルバム「野暮なトラ」ついにドロップ!!!

MAXI SINGLE 「[illegible]ブルー」 レコ発ワンマンライブ決定!
新宿ロフト 18:00 OPEN 19:00 START 前売り ¥2,300 当日 ¥2,800

新宿ロフト03-5272-0382
ぴあ 0570-02-9999(Pコード:[illegible])
ローソン 0570-06-3003(Lコード:[illegible])
LIVE INFO:PEP OFFICE 090-1995-8977

全国ツアー「虎猫ツアー2005」

★6/10 (fri)…名古屋TIGHT ROPE ★6/11 (sat)…大阪KING COBRA ★6/12 (sun)…静岡Sunash ★6/17 (fri)…高知jam club J's ★6/19 (sun)…岡山Deasperado ★6/24 (fri)…宇都宮KENT ★6/25 (sat)…仙台DROOM ★7/8 (fri)…いわきCLUB SONIC ★7/9 (sat)…足利BBC CLUB ★7/23 (sat)…ツアーファイナルワンマン 渋谷CHELSEA HOTEL

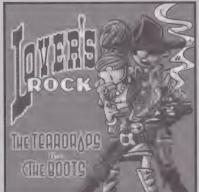
TTCD4056
定価 ¥1,575(税抜¥1,500)

プロデューサーにザ・ティアドロップスの高橋亨を起用!

THE TEARDROPS the BOOTS

ザ・ティアドロップス ミーツ ザ・ブーツ

『ラヴァーズ・ロック』

2005.5.18 ON SALE!

TTCD4058 定価¥2,625 (税抜¥2,500)

お待たせしました!伝説のバンド再始動!!
ロンドンナイトコンピにドロップインした、もはや日本のロック殿堂入り!!ザ・ティアドロップスとザ・ブーツ(元GO-GO 3オノタカコの新ユニット) がNEW SONGSをダブルドロップ!!

1. 東京ディスコナイト 2. Ro!Ro!Ro! ROLLER COASTER! 3. PEANUT! 4. 消しゴム
5. Love (1〜5 THE TEARDROPS) 6. REPRISE
7. 虹の彼方 -Radiant Rainbow- 8. D-Girl 9. Shake It,Shake It 10. Heavenly
11. days (7〜11 the BOOTS)

コレが「ロンナイ・ジェネレーション」のまさに夢の競演ってヤツなんだろうね。つまり、80年代の日本のPOPを象徴したTHE TERADROPSとGO-GO 3が、この21世紀に再び、あの時代のトキメキ感を胸の奥に抱えながら、今という時代のロケンローなPOPとして復活したのだ。思い出と未来に乾杯!

大貫憲章(LONDON NITE)

VIVID SOUND CORPORATION
Freedial 0120-107-069 (通販専用) www.vividsound.co.jp

VIVID SOUND TICK TACK

RAZORS EDGE

2005 5.11 ON SALE

MAGICAL JET LIGHT

17songs 3rd Album | PZCA-23 | PRICE:¥2,300(Incl. tax)

RAZORS EDGE | MAGICAL JET TOUR
PIZZA OF DEATH RECORDS PRESENTS

5/21(土)熊谷VOGUE
w/BREAKfAST, JOY

5/22(日)新潟CLUB JUNK BOX mini
w/BREAKfAST, world today

5/29(日)神戸STAR CLUB
w/ANTI-JUSTICE, etc...

6/4(土)山梨/甲府KAZOO HALL
w/BREAKfAST, SETSCREW

6/5(日)下北沢SHELTER
w/ANTI-JUSTICE

6/18(土)旭川CASINO DRIVE
w/NO HITTER, etc...

6/19(日)札幌KLUB COUNTER ACTION
w/NO HITTER, Oi! VALCANS, CHAOTIX

7/2(土)町田PLAY HOUSE
w/BREAKfAST, Idol Punch

7/3(日)名古屋HUCK FINN
w/BREAKfAST, Idol Punch, NICE VIEW

7/16(土)福岡/西新LIVE HOUSE JA-JA
w/Idol Punch, BEVIEE, STEP LIGHTLY

7/17(日)広島NAMIKI JUNCTION
w/BREAKfAST, Idol Punch, ASPHALT, DJ DAI

7/18(月)岡山PEPPER LAND
w/BREAKfAST, Idol Punch

7/23(土)大阪/十三FANDANGO
w/BREAKfAST, Idol Punch

TOTAL INFO :
PIZZA OF DEATH RECORDS
03-5790-2381 / live@pizzaofdeath.com
http://www.pizzaofdeath.com (PC) http://www.pizzaofdeath.com/i (MOBILE)

fabulousplanes
Little One

ファビュラス・プレインズ／リトル・ワン

including 9 songs / KOGA-178 / ¥1995 (in tax)

THE BEATLES, TEENAGE FANCLUB, OASIS, MAROON 5 ファン必聴！

元piggiesのキタムン率いるPOWER POP/INDIE GUITARバンド初の音源！珠玉のメロディー&ハーモニーに現代感溢れるラウドアレンジは聴く者の涙腺を直撃する！USカレッジ&UKインディーファン必聴！！

5.14(sat)
KOBE BACKBEAT
The Squeaks, fabulousplanes, THE WIMPY'S, OVERCOAT'S, HEARTBREAK JETTS, DIG LAZY

6.18(sat)
Shimokitazawa SHELTER
The Squeaks, fabulousplanes, DiSGUSTEENS, THE DUDOOS, SHORT CIRCUIT

http://www.h3.dion.ne.jp/~moonage/

The Clicks

2005 5.14 on sale

Magic Of White
クリックス／マジック・オブ・ホワイト
including 11 songs / KOGA-179 / 2100 (in tax)

超キュートガールズ3ピースパンキッシュギターバンド「クリックス」
渾身のファーストフルアルバム、遂に発売決定！

http://www.geocities.co.jp/MusicStar-Piano/2060/

PSYCHAGOGO
PICNIC IN ALTAMONT '69

サイカゴーゴー／ピクニック・イン・オルタモント '69

九州を代表するガレージ、オルタナ/インディー・ポップの重鎮「サイカゴーゴー」10年ぶりのセカンドアルバム待望のリリース!1度聴いたらオルタナだね、2度目はハードだけど以外にポップだね、3度目聴いたらやっぱ曲が良いよね、4度目には2005年の今こんなバンド他にはいないよね、5回目にはサイカゴーゴーにはまった自分に気付くという1枚で無限に美味しい2005年型サイカワールド!!特にパワーポップ、ガレージ、オルタナ/インディー・ロックファンにはお薦めです。

including 12 songs + 5 cover song / KOGA-176 / ¥2100 (in tax)

The Squeaks
スクイークス／S.T

元piggiesのテツ率いるPOWERPOP PUNK/ROCK'N'ROLL 4ピースのファーストフルアルバム!彼らの最高傑作と断言できるポップかつハイクオリティーな楽曲とハードドライヴィンサウンドの波状攻撃!M-5には彼等のフェイヴァリットバンドであるSLAUGHTER&THE DOGSのグッドカヴァーも収録。

including 10 songs
KOGA-177 / ¥1,995 (in tax)

http://boat.zero.ad.jp/~zbh03858/squeaks/top

K.O.G.A Records http://www.koga-records.net TEL 03-5431-5155 / FAX 03-3412-6051

PUNK

パンク専門サイト

業界最多

1200曲

パンクーT

全ての着信メロディを生の激熱ギター音＆迫力ドラム音などの生音入りで提供。

人気パンク情報誌『DOLL』との提携で最新情報や

パンクアーティスト画像＆インタビューなどパンク満載充実コンテンツを実現。

更に人気J・POPをパンクアレンジで楽しめて全曲をお友達にプレゼントできる。

全曲試聴もできて、パンクファンにはたまりません!!

iモーション専用コーナーでは

パンクアーティストのPV映像を

無料で提供中。

iMenu⇒メニューリスト⇒着信メロディ／カラオケ⇒Rock／Club／洋楽⇒パンクーT

http://punk1.jp

For-side.com

株式会社フォーサイド・ドット・コム

東京都新宿区西新宿6－10－1 日土地西新宿ビル7F

http://www.for-side.com

TEL:03-5339-5066 FAX:03-5339-5067

C O N T E N T S

NO.214

表紙＝シーン・レッド
撮影＝榊原弘朗
表紙デザイン＝赤塚ラヂヲ

INTERVIEW

MARKY RAMONE

トミー流とかマーキー流というのはなく、ラモーンズ・スタイルというのは1つしかないんだよ

INTERVIEWED: かずう SHIT-FACED&Bitter Sweet Generation *PHOTO:* 菊池茂夫＊ [3月11日／渋谷パークタワー・ホテル]

2001年4月15日ジョーイ・ラモーンが48歳で、2002年6月5日ディー・ディー・ラモーンが50歳で……そしてRAMONES結成30周年にあたる2004年9月15日……55歳の若さでジョニーは天国へ旅立った……寂しいけど3人は天国からボクらのロックンロール・ライフを見守ってくれてるんだぜ!まず最初にこの3人に「ありがとう」と言いたい。R.I.P.

そして今回"ラモーン・ビートを完成させた8ビートの職人""ラスト・オブ・ザ・ラモーン・ヘアの男(トミーは白髪の長髪、リッチーはビジネスマン風、CJは坊主頭)"マーキー・ラモーンがRAMONES在籍時に8ミリで撮り溜めていたビデオがDVD作品になった!『RAMONES RAW』!!!ツアーのオフ・ショットを中心にRAMONES出演の子供番組などのTV出演時の映像などかな〜りレアな映像が目白押しなこの一枚!ファンには堪らないDVDとなっております!ボクらは永遠にロックンロール・ハイスクールの留年生!ロックンロールに卒業の二文字なんてないんだ!ってことでロックンロール・ハイスクール在校生を代表して勝手ながらアチキがマーキー・ラモーン氏にインタビュウしてまいりました!緊張して心臓が"ロコ・ライヴ"並みに加速していきホテルの部屋に入ると"うわっ!!本物!!!!"(←本音:超ビビリまくり…汗)……いきなりいるんですもの……ビックリしましたよ。こういうのって何分か待たされるのが普通かと思っていたからかなりビビリました(苦)。「そういや目覚ましテレビのハリウッド・スターの対面インタビュウとかも軽部さんが部屋に入ると本人が待ってるっていうパターン多いしな〜」なんて思いながらこわばった表情をマーキーに向けると「ハーイ!」ってフランクな雰囲気でコチラの緊張をほぐす満面の笑みで手を差し伸べてくれた。握手した時「あぁ……これがラモーン・ビートを刻む手なんだぁ」なんて感動しちゃって(笑)。マーキーってば大きな身体でオーラも凄いから(ホント凄かった)怖い人なのかなって心配しちゃったけど、実際は話も一つ一つ真剣に聞いて真剣に答えてくれてすごく真面目な人だった。ま・グダグダとアチキのレポートを読んでも仕方がないので"マーキー・ラモーン制限時間40分GIRIGIRI……いや、ちょい超えのインタヴュー"をノー・カットでどうぞ!!!

▶はじめまして。今日はよろしくお願いいたします(←声うわずり気味)。早速ですが、あなたのRAMONES加入前の音楽歴についてお聞かせください。

「高校時代にDOSTというバンドに在籍していて2枚のアルバムを出したけれど若気の至りで解散したんだ。その時のギタリストは、後にプロデューサーになってKISSの最初の2枚のアルバムをプロデュースした人物だよ。その後、N.Y.DOLLSのドラマーになりたくってオーディションを受けたんだけどジェリー・ノーランが採用されて俺は不採用だったよ(苦笑)。その後、ウェイン・カウンティー(&バックストリート・ボーイズ)で演奏するようになって、リチャード・ヘル(&ヴォイドイズ)をやるようになり、そして1978年の頭にラモーンズに加入したんだ」

▶(KISSの話といい、オーディションの話といいしょっぱなから最高の答えが返ってきたぜ!←ちょっとテンションが上がる)DOSTの時もドラマーだったんですか?

「そう。ドラマーだったよ。16か17歳だったと思うんだけど親には「絶対高校だけは卒業しろ」と言われていたからツアーには出れなかったんだ。学校は嫌いで仕方がなかったんだけど、学校は大事だと思うよ。特に今みたいな時代はね」

▶ギター、ベース、ドラムや鍵盤など楽器は沢山ありますが、ドラマーというポジションを選んだのは何故ですか?

「8歳の時にエド・サリバン・ショー(エド・サリバン司会の公開音楽番組)にビートルズが出てて、当時TVは一家に一台しかない時代でTVのある居間に走って観に行ったよ。リンゴ・スターがドラムを叩いているのを観たのがキッカケだね。それまではオモチャの兵隊や戦車、オモチャのピストルやら弓矢で遊んでいたんだけど、その時から「ドラムを叩きたい!」って思うようになったんだ」

▶(幼稚園の頃TVで歌うザ・グッバイのよっちゃんを観てギターを弾きたいと思うようになったとは死んでも言えねえ……苦笑)ビートルズ初期のリンゴのドラミングって正確で速いドラミングが多いと思っていたので通じるモノは感じましたよ!

「俺ほど速くないけどね(笑)。リンゴの正確なビートを刻んでいくのはスゴイ良かった。派手なオカズをキメる時にはキメる!っていう所が好きだったね」

▶8ビートをあの速さで長時間叩くのは至難の業だと思うんですがコツはありますか?

「(女性の通訳さんに向かって)女には教えられないよ(一同爆笑)。ほら、こんな風にやるんだ……(誌面で紹介したいのはヤマヤマだが文章にするのが難しすぎます・泣。見た所、ポイントは右手の人差し指の動きでした。通常の手首の動きに乗っかる様に、すげえ速さで人差し指でスティックを叩くイメージ。すいません、誌面ではコレが精一杯です……)。ラモーンズ加入前にやっていたスタイルとは(ラモーンズのスタイルは)全く違う世界だったから慣れるのは本当に大変だったよ。このスタイルで1時間20分ステージでぶっ通しでやるわけだし、俺が加入した当時ってのはトミーがやってた頃よりもどんどん速くなっていった頃だったからね。それは他のメンバーがスピードに慣れて簡単に出来るようになってきたからでもあるんだけど、何しろ慣れるまでに1ヶ月位は掛かったよ」

▶「ロックの殿堂」でのスピーチ時にあなたのコメントで「このスタイルを創り上げたトミーに感謝」という言葉が印象的だったんですが、トミーのスタイルを引き継ごうと思ったのは何故ですか?例えばあなたが加入した時点で全く違うドラム・スタイルにすることも可能だったと思いますが。

「トミーの後を引き継ごうというのではなく、ラモーンズのスタイルは1つしかないんだよ。トミー流とかマーキー流というのはなく、ラモーンズ・スタイルというのは1つしかないんだよ。基本の形というのは勿論トミーが創ったんだけども、ラモーンズに在籍しているのは結果的に自分の方が長いし、トミーから引き継いだ後は自分が創っていったと自負しているよ。例えばフィル・スペクターのアルバム(『エンド・オブ・ザ・センチュリー』)に関しては、あれはトミーには無理だったと思う。技術的に彼には無理だった事を、自分が盛り込んでいったしトミーだったらああはならなかったハズだよ。というのも、トミーは元々ドラマーじゃなかったし、それであれだけの事を成し遂げたのは、それはそれで驚異的な事だけ

MARKY RAMONE

※

ど、自分は元々ドラムの畑の人間なんで、トミーが創ったスタイルの先は自分が考えて創り上げていったよ」
▶では、先日発売された『RAMONES RAW』というDVDについてなんですが、まずタイトルに込められた意味を教えてください。
「〝RAMONES AROUND the WORLD〞という意味と、自分がHi-8(8ミリ・ビデオ・カメラ)片手に撮っていった非常に生な映像だという「生々しい」という意味のRAWからとった意味と、両方を掛けたタイトルなんだ。まあ、俺がやった事はバンドのメンバーだったら誰でも出来る様な事で、ただそれぞれのメンバーを内輪の人間が撮っていったっていう話なんだけどね。逆にそれが作り込まれた映像よりも、よりパンクな、より自然体でのバンドの姿を捉えることができたっていう意味でのタイトルだね」
▶(RAMONES AROUND the WORLDという意味だと知りすこぶる感動)編集作業での苦労した点や面白かったエピソードがあったら教えてください。
「一番楽しかった瞬間ってのはもちろん完成した時だね(笑)!なにしろ9年間も撮り溜めて制作、編集に1年半掛かったからね。苦労した点は権利関係や許可を取ったり、一人一人の肖像権を取って歩いて電話やEメールなど、なにしろ〝段取り〞が大変だったよ。編集をお願いした人が5つの(完成)ヴァージョンをあげてきて、全て観て1つのモノにOKを出したっていう形だったんだけど、5つの中から1つ選ぶというのも大変だったね」
▶作中では日本でのシーンもありましたが、1回目の来日時NHKの「レッツ・ゴー・ヤング」という番組に出ていたと思うんですが、その映像は使われてませんでしたね?その時の映像は所有してないんですか?
「逆に聞きたいんだけど、その時の映像ってどうやったら手に入るのかな?」
▶今、詳しい資料がないからわからないですが、NHKに問い合わせるしかないんでしょうかねえ……。

※

「1980年の6月頃だったと思うよ。何曲やったか覚えてる?」
▶実際にその映像はボクは観てないんですよ(笑)。2歳の頃なんで(笑)。
「(笑)でも、知らないかなぁ」
▶日本のラモーンズのファンサイトか何かに書いてあったと思うんですよね。
「そのTV番組に出演した時は〝何か新しい事が始まっているんだ!〞っていう時代だったんで面白かったよ。でも皆イスに座って拍手していたから俺たちにとってはすごく新鮮で面白いなって思ったよ(笑)。それと俺とディーディーは沢山酒を呑んで皆をビックリさせた思い出があるよ(笑)!」
▶ラモーンズとして7回来日していると思うのですが、日本での思い出話や日本の印象を聞かせてもらえますか?
「日本に来ると、違う惑星に来たみたいで楽しいよ。ゴジラの人形を集めているから、そういったオモチャが充実しているのも嬉しいね(笑)。あと、ディーディーと2人でねり歩いて酒のある所でたらふく酒を呑んだのが思い出だね」
▶日本酒ですか?
「うん」
▶(通訳さんに)お土産に日本酒を持ってくれば良かったかな〜(笑)?
「でも今はシラフだよ。もう呑んでないしね。(思い出した様に)シーナは綺麗だったよ!」
▶(インタヴュー前DOLL山路氏に「シーナはまだパンク・ロッカーですか?っていう質問はどうでしょうかね〜」なんて冗談を飛ばしていたもんだからビックリ!)えっ?
「ロケッツ(シーナ&ザ・ロケッツ)のね!」
▶(……やっぱり)話は変わりますが、ラモーンズの初期の頃はいわゆるNY.PUNKと括られるバンドとの対バンが多かったと思いますが、80年代に入って、日本人Vo.を擁するTHE MADやスティーヴ・ジョーンズがプロデュースしたH.C.パンク・バンド〝クラウト〞など、ハードコア、ハード・パンクと言われるバンドが増えてきましたが、地下シーンとの交流などはありましたか?
「ノ〜……。全くなかったよ。あまり外との接点がなかったというよりも内輪のサークル的な付き合いが濃かったんだよね。ジョニー(・サンダース)やジェリー(・ノーラン)とかグレン・マトロックなんかの仲間たちと集まってたり、ラモーンズも国外ツアーが多かったからね」
▶なるほど。では時間がないのでそろそろラモーンズの作品についてのコメントを頂きたいのですが、まずあなたが加入前の3枚と一時脱退した後の3枚について、いちリスナーとしての意見をお聞かせください。
「グレイト(『ラモーンズの激情』)、グッド(『リーヴ・ホーム』)、グレート(『ロケット・トゥ・ロシア』)、OK(『トゥー・タフ・トゥー・ダイ』)、OK(『アニマル・ボーイ』)、グッド(『ハーフウェイ・トゥー・ダイ』)」
▶あっ……いや……(コメントが欲しかったのに……泣)。
「オマエもそう思うかい??どう思う?」
▶グレート(『ラモーンズの激情』)、グレート(『リーヴ・ホーム』)、スペシャル・グレート(『ロケット・トゥ・ロシア』)!!!!!
「スペシャル・グレートはコレ(マーキーのラモーンズ加入後初のアルバム『ロード・トゥ・

ルーイン』を指して)だろ?」
▶それは次の質問でお願いします(笑)。
「リッチーのはどうだ?」
▶グッド(『トゥー・タフ・トゥー・ダイ』)、このアルバム好きなんですよ(『アニマル・ボーイ』)、グッド(『ハーフウェイ・トゥー・ダイ』)……ではあなたが叩いている8作品に対しての作り手側の意見をお聞かせください。
「スペシャル・グレート(『ロード・トゥ・ルーイン』)!ベリー・グッド(『エンド・オブ・ザ・センチュリー』)、アイ・ラヴ・ディス、ベリー・グッド(『プレザント・ドリームス』)、ヘイト!!!バーッド(『サブタレイニアン・ジャングル』)!!!!グッド(『ブレイン・ドレイン』)、グッド(『モンド・ビザーロ』)、OK(『アシッド・イーターズ』)、ベリー・グッド(『アディオス・アミーゴス』)……オマエは?」
▶(マーキー本人に対して作品の評価をつけるって……キツ過ぎる…泣)えぇと……スペシャル・グレート(『ロード・トゥ・ルーイン』)、グッド(『エンド・オブ・ザ・センチュリー』)、グッド(『プレザント・ドリームス』)、グッド(『サブタレイニアン・ジャングル』)……。
「ノーッ!!!!これはちっとも良くないぞ!!!出てる俺が言うんだから間違いないよ(笑)!これは良いアルバムじゃないよ(笑)」
▶(「サイコ・セラピー」とか「アウトサイダー」とか入ってるし好きなんだけどな〜)なんでですか(この頃の話は何かで読んだことあるから何となくわかるけどさ〜)?
「プロデュースがまずダメだし、ドラムのサウンドも気に入らないし曲自体がそもそもあまり良くないね。コレ(『モンド・ビザーロ』)は??」
▶(アチキってば後期3作品は大好きなんですね〜!!)グレート(『モンド・ビザーロ』)、グレート(『アシッド・イーターズ』)、グレート(『アディオス・アミーゴス』)!!!
「コレ(『モンド・ビザーロ』)は"グッド"だよ、グレートじゃないな。うん。グッドだ」
▶なんでですか?
「比較の問題だよ。ベリー・グッド(『モンド・ビザーロ』)、グレート・グッド(『アシッド・イーターズ』)、ベリー・グッド(『アディオス・アミーゴス』)だな」
▶なるほどー(笑)。コレ(『アディオス・アミーゴス』)はベリー・グレートですね??大好きなんですよ、『アディオス・アミーゴス』!!
「うん。俺も大好きな作品だよ。プロデューサーが良かったよ」
▶ダニエル・レイですね。(時間を気にし始める俺…)話は変わりますが、『エンド・オブ・ザ・センチュリー』を観させていただいたのですが、かなり衝撃的でした!メンバー同士のわだかまり等、ファンにとってはつらいシーンも多かったのですがこれこそ真のドキュメンタリー映画だと感動しました。あなた自身の感想を聞かせてもらえますか?
「どんなバンドにもあるダーク・サイドを出したのが『エンド・オブ・ザ・センチュリー』だと思うんだ。でも暗くて悲しい出来事ばかりだったわけじゃなくて、楽しくて面白い事も沢山あったわけで、それを出したのが『ラモーンズ・ロウ』なんだ」
▶それはボクもすごく感じましたよ。
「人生には両面あると言うことだと思うよ」
▶この2つは是非セットで観てもらいたい作品ですよね?
「店でセット売りされることはまずないけど、人間2つ手があるのはこの為なんじゃないかな。片手に『ラモーンズ・ロウ』、片手に『エンド・オブ・ザ・センチュリー』って感じでさ!」
▶その通りだと思いますよ(笑)。ところで最近のあなたの音楽活動は??
「ディー・ディーとジョーイが亡くなってから、次々と「トリビュート・アルバムを出しませんか?」「トリビュート・ツアーをやりましょう!」って色んな業界の人からE-メールが沢山来て、是非そういうのもやりたいと思ってたのでその為(トリビュート)だけのバンドを結成して、今までラモーンズのライヴを観たことがないような若い人達にもラモーンズの曲を生で聴くことが出来るように結成したんだ。でも音楽活動はそれだけではなくて、今までDVD(『ラモーンズ・ロウ』)制作に時間をとっていたから新しい音楽活動になかなか時間がさけなかったんだけど、そんな中でやっているのは友達2人と一緒にライヴをやったりね。そのバンドは俺からラモーンズへのトリビュートということで『ライヴ・イン・メキシコ2004』っていうタイトルのアルバムが近々にリリースされるんだ。17曲ほどラモーンズの曲をプレイしてるよ。あとスポークンワード(詩の朗読)のツアーも独自にやっていってるよ。1年から1年半先の話だけど、ジョーイの14曲の未発表曲があって権利が今、自分のトコにないんだけど権利の事さえクリアになれば、その曲に俺がドラムを重ねて新しいアルバムを創るという事も、ダニエル・レイと話が進んでいるよ。フィル・スペクターも「数曲プロデュースしてもいい」って興味を示してたし、エド・ステイシアムもね。もしかしたら実現するかもね!!」
▶それは是非実現させてください!!あなたにとってパンクとはどのようにお考えでしょうか?
「パンクとは音楽だけではなく考え方そのものだよ。正直に、例えどんな状況でも自分の中の真実と向き合いながら生きていくことさ。そして、周りに流されない動じない……それがパンクさ!」
▶では、あなたにとってのラモーンズとは?
「Ha Ha(笑)!!キチ○イ病棟だよ!!Ha Ha Ha Ha!!!!」
▶その一言でOKですか(笑)?
「(自分に向かってくる)エネルギーの津波だよ。もしくは音の壁と言えば良いのかな(笑)。一回ライヴでスピーカーからの爆音でお客さんが(音圧で)後ろに押されたって話もあるしね」
▶ボクもラモーンズはいつだってボリュームのツマミを一杯にしていたって話を何かで読んで、ライヴの際は「割れてもいいから外音目一杯上げてくれ」って頼むようになったんですよ(笑)。他のラモーンズ・マニアなバンドマンもやっていると思いますよ(笑)!
「100万WATTのパワーで頑張れよ!!」
▶では残念ですが最後に日本のラモーンズ・マニアにメッセージをお願いします!
「まず、ラモーンズを好きになってくれてありがとう。そして今までラモーンズの伝説に命を吹き込んでもらってありがとう!!!!」

KEEP ROCK'N ROLL ALIVE!!

INTERVIEWED: 大越よしはる　*PHOTO:* 斎藤ユーリ　[4月3日/市ヶ谷ソニー]

THE DATSUNSと並んでニュージーランドが誇る爆走ロケンローの星、THE D4。3月にリリースされた2ndアルバム『OUT OF MY HEAD』も好評の中、渋谷AXでの「BANDSTAND」のために来日した。来日直後、「BANDSTAND」で共演予定だったGUITAR WOLFのビリー(B)急死という悲報がもたらされたが、メンバーは消沈しながらも必死でリハーサルし、当日のライヴでは「Invader Ace」と「Jet Generation」を演奏してビリーへの素晴らしいはなむけとしてくれた(涙出た…)。そのライヴの翌日、ジミー(Vo,G:以下J)、ディオン(G,Vo:以下D)、ヴォーン(B:以下V)、ビーヴァー(Ds:以下B)の4人に話を聞いた。新作アルバムの1曲目を飾る名曲「Sake Bomb」の日本語詞を担当した東京のR&RバンドTHE FACEFULのギタリスト・サワ(「BANDSTAND」でもアンコール2曲でギターを弾いていた)も同席。

▶昨日のライヴも、前の方で観させてもらいました。
J「ライヴは前の方に限るよね!」
▶凄くいいライヴでした。
J「僕たちも楽しんだよ!」
▶これでビリーさんのことがなかったら、もっと楽しい気分でインタヴューに臨めたんですが…。
J「ビリーは、昨日会場にいたと思うよ。…きっと笑ってたと思うよ」
▶ビリーさんについて思い出など、話してもらえますか?
J「いろいろありすぎて、何から話していいやら…。一緒にいる時はいつもビリーが一番面倒を見てくれて、ニュージーランドでもロンドンでも僕らが演奏してるところには必ず来てくれて、いつも笑って、ジョークを飛ばして…そんな思い出がいっぱいだよ…」
▶…気持ちを切り替えていきましょう…。…今回、通算で5回目の来日?
J「ハイ(日本語で)」
▶2003年には3回来てますよね。
J「そう。もっともっと来るつもりだよ!(笑)」
▶アルバム2枚で、日本に5回来てるバンド、他に聞いたことないですよ。
B「日本イチバ〜ン!(笑)」
J「まだレコード契約もない時に、THE FACEFULとかGUITAR WOLFとかに呼んでもらって、最初の来日の時はサワくんのご両親の家に泊めてもらったりしてさ。新宿JAMで演った時も、GUITAR WOLFがシークレットでオープニング・アクトとして参加してくれたり…。初来日はバンドにとっても革命的な感じで、5回ショウをやったんだけど、もっと上を極めて行こうって、その時に思ったんだ。洗礼みたいな感じさ」
▶今回は1週間の滞在でライヴは昨日の1回だけで、俺としては残念だったんですが…もっと回数やるプランはなかったんですか?
J「今回はいろんな絡みがあって、1回だけになってしまったんだけど、次に来る時は新宿JAMとか三軒茶屋HEAVEN'S DOORとか、僕らの好きな小さいクラブでたくさんショウをやりたいね。小さいハコで、観客と密接にプレイするのが僕たち流なんで」
▶期待してます!…さて、新作の話にしましょう。前回インタヴューした時、新作は2004年の初めくらいにという話を聞いたんですけど、実際は約1年遅れって感じですね。その間は、どうしてましたか?
J「より良くするために必要だったんだ。いろんな曲を書きためて、コレだ!という曲が降りてくるのを待っている状態で、それを探しながら、いいアルバムを作るために1年かけたって感じ」
▶いいアルバムになってると思います。特に、1曲目「Sake Bomb」!
J「飲むかい?"サケボム"!(笑)」

▶(笑)「Sake Bomb」の、日本語の歌詞はサワくんが対訳してるんですね。
J「そうそう」
THE FACEFULサワ(以下S)「歌詞カードが送られて来て、「訳して」って言われて。…でもメロディもわかんないし、まさか録音するとは思ってなかったから…(苦笑)」
J「サワくんには絶対の信頼を置いてるからね。サワくんが書いたとおりに僕らは歌ったから」
▶メロディ聴かないで書いたっていうのに、なんか恐ろしいまでにピッタリはまってるっていうのが…。
J「サワくんは天才なんだよ(笑)。ロックンロール・ブラザーだ!」
▶最初は、英語詞のヴァージョンが先にあったんですか?
J「そう」
▶全然日本語ヴァージョンに違和感ないですよね!
J「魔法みたいな感じで。サワくんは魔法使いだから(笑)」
▶そういう、楽しいナンバーも素晴らしいんですけど、今回のアルバムは前作と較べると、全体に、歌詞に非常に深みが出てきましたね。
D「同じようなアルバムを2回作るのは嫌だった。パーティーのことは今回も歌ってるけど、今回はもっと個人的な歌詞にしたかった」
J「この1年間、ロンドンでメンバー一緒に暮らしたりして、大きいレーベルと契約してるんでプレッシャーも凄かったんだけど、でも自分たちに正直に、本当に伝えたいことを正直に表わせたアルバムだと思う。リアルな感じで」
▶特に今回、ひとつのハイライトになってるのが、「Stops Me Cold」。
D「実は元々、もっと速く演奏していたんだけど、たまたまテープをスローで逆回転させた時に、「なんだこれ、カッコいいじゃん!」ってことになってさ」
J「このスローさで、恐怖心を煽るような感じにして、それに伴って、歌詞も…僕らはコレを〝音楽的ストーキング〟と呼んでるんだけど」
▶ストーカーの歌ですよね。
J「そう。僕らの中に潜んでいるストーカーについての歌。僕らの実体験にもあるんだけど、僕らが憧れていて、でも親密になれなかったような人、そんな人たちへの想いを歌った曲だね。でも普段は、壁を登って窓から入り込むような真似はしないよ(笑)」
▶(笑)それをライヴで演ったのもけっこう驚きだったんですよ。
J「フルセットをやる時に、真ん中辺りで演るようにしてるんだ。僕らのセットはどっちかっていうとガチャガチャした感じで…その中で、観客にとっても僕らにとっても台風の目みたいになるような感じで」
▶オルガンを入れたり、アレンジ自体にもかなり幅が出てきましたね。
J「音作りに力を入れたんだ。だからこんなに時間がかかってしまったんだけど。いろんなテンポを試したりとか、いろいろ実験してみて。前作と似たようなサウンドにはしたくなかったんで、今回の曲に自然にフィットするような感じで作りたかったんだ」
▶ライヴの構成も非常にヴァラエティに富んだものになってきましたね。アップダウンが巧みに構成されてきたっていうか。
D「もっとダイナミックにライヴが出来るし、自分たちでやってても楽しいんで。今では、全部1曲じゃないかと思われるような、同じようなノリだったんで、これからは1曲1曲に主張させるよ」
▶昨日もアップダウンを繰り返した末のGUITAR WOLF大会が、凄い盛り上がりになってましたね。
J「僕らもとっても楽しかったよ!」
B「ジェットジェネレーショ〜ン!」
J「実は1日練習してたんだ」
▶ちゃんと歌えてましたね!全部聴こえてましたね歌詞が。
J「ホント?(笑)…もう、宿題みたいに、前の晩練習してたからね。サワくんと演奏出来たのもホントに楽しくて」
D「D5!(笑)」
J「ロックンロール・ファミリー!」
▶で、昨日の「Jet Generation」もそうですけど、THE D4の特徴として、全然ヒネリのないカヴァー曲っていうのがあるんですけど。
J「敬意を払って、敢えてそのまんま演ってるんだ」

▶今回もいいですよね。FUN THINGSとLIME SPIDERS。
J「実はレコーディング前日にカヴァーすることを決めたんで、リハーサルし過ぎた感じが出ずに、新鮮な感じでレコーディング出来たよね。僕らはヴォーカル以外は一気に録ってしまうんで、ライヴ感っていうか、一体感が出せてたと思うよ」
▶FUN THINGSの「Savage」は、TEENGENERATEのヴァージョンを先に聴いたとか?
J「そう」
▶凄いな。世界のTEENGENERATE。
J「最高のヴァージョンはTEENGENERATEだから!」
▶今回も基本的にはFUN THINGSヴァージョンじゃなくて、TEENGENERATEヴァージョンを参考にしてますか?
J「両方ちょっとずつ、みたいな」
▶一昨年インタヴューした時は、ライヴが年間200本とか言ってたんですが、最近のツアー状況はどうですか?
J「昨年はアルバムの準備をしていたんで、12本しか入れられなかったんだけど、今年はここまでに30本。この後20本ブッキングが入ってる。今年はもっともっとライヴがやりたいね。最低でも200本。出来れば300本!(笑)」
▶(笑)そんな状態で、最近ニュージーランドに帰ってるんですか?
J「行ったり来たりだね。オーストラリアに行って帰ったりとか。火曜日からはヨーロッパに行くよ。THE HIVESと一緒なんだけど…(インタヴュアーの黒いスーツ姿を見て)キミHIVESに入れるよね?(笑)」
▶もうちょっとやせないと…(苦笑)。
J「THE HIVESは太めのメンバーもいるから、大丈夫だよ(笑)」
B「THE D4に入るんなら体重落としてくれ!(爆笑)」
▶(苦笑)ちなみにこの(スーツの)下は、GUITAR WOLFのTシャツなんですよ。
全員「ファンタスティック!ビューティフル!」
▶…で、ニュージーランドっていうと、THE D4以外にはTHE DATSUNSが有名ですけど、仲いいですか?
D「とってもいい友達だね」
▶最近会ってます?
V「普段は会う機会が無いけど…」
J「ヴォーンはドラムの奴と会ってるよ。あと、今度一緒にバーベキューやる約束してるんで、そこで会えると思う」
▶THE DATSUNS、昨年来た時に観に行ったんですけど、メンバーみんな女の子みたいにかわいいんでびっくりしました。THE D4とは対照的ですね。
J「僕らブサイク?(笑)」
▶いや、男らしいっていうことですよ(笑)。
J「ありがとう(笑)」
▶期待されるのが次のアルバムなんですけど、今度は2年とかじゃなくて、もうちょっと早く出せるんでしょうかね?
(一同笑)
J「次はそんなに待たせないで済むよう頑張るよ。今度のアルバムの時は、6ヶ月の間、それぞれ自分たちの家で曲を書こうとしてたんだけど、上手く行かなくて。僕たちはメンバー一緒に同じ環境にいて、それで曲が書けるんだってことがわかったんで、次のアルバムはそういう風にやる。あと、ツアーが終わってすぐに曲作りに入ろうとしたんだけど、ツアーのあと1ヶ月くらい休んでから曲作りに入った方が上手く行くみたいだね。次もサワくんに(日本語の)歌詞を書いてもらって、僕らの想いを伝えよう(笑)」
▶シリーズ化しましょう(笑)。
S「ギャラは?(笑)」
J「ギャラの話は後で!(笑)」
▶今後の展開には本当に期待してます。
J「僕らも本当に楽しみだよ」
▶最後にDOLL読者にメッセージをお願いします。
J「キミたちは世界でもNo.1のロック・マガジンを読んでるんだよ!」
▶そこに編集長が(DOLL塚本氏を紹介)。
(メンバー全員が拍手)
J「英語ヴァージョン作って、世界中で売ってよ。英語圏にはこんないいR&R雑誌がないんで…。期待してるよ」
▶DOLL読者じゃなくて編集者に対するメッセージになってしまった!(笑)
J「(笑)読者に対するメッセージは…Keep Rock'n Roll Alive!…みんなバンドを組もう!そして自分のレコードを作って、僕らに送ってくれ!」

DiLLiNGER ESCAPE PLAN

レコード契約だってするし、さらに大きくなりたい

INTERVIEWED: 石井恵梨子　*PHOTO:* TEPPEI　[3月11日/原宿ハウリングブル]

01年初頭の初来日から考えると今回がなんと5度目の来日となるデリンジャー・エスケイプ・プラン。その間に彼らの評判は「カオティック・ハードコアの新鋭」から「エクストリーム界の最高値」へ、さらに「メロディックな問題作を出したバンド」へと変化してきたわけだが、結局ライヴを観れば邪念など木端微塵。見る者すべてを圧倒する激烈パフォーマンスは健在であり、特にツアー最終公演となった〝independence-D〞でのショウは過去最高レベルの殺傷力を記録。掛け値なしで素晴らしかった。グレッグ・プシアート(Vo)とリアム・ウィルソン(B)に話を聞いたこのインタヴューでは、進化を恐れないバンドの強さと、不変の信念を持ったバンドの強さ、その両方が味わえると思う。なお、彼らはスティーヴ・エヴェッツをプロデューサーに迎え、来年夏には新作を完成させる予定。前作『ミス・マシーン』否定派の溜飲を下げることになるか。引き続き要注目である。

▶すごいライヴでしたね。最初に浮かぶのが、よくあれだけ暴れながらミスなく弾けるなぁっていう素朴な疑問なんですけど。
グレッグ&リアム「ははははは!」
グレッグ「(隣に同席したサウンド・エンジニアを指し)彼がいるからだよ」
リアム「格子ガラスみたいなもんで、僕のミストーンも彼が覆い隠してくれるんだ」
グレッグ「だから質問を正しく言い換えると、〝よくあれだけミスしながら間違えてないフリが上手にできますね〞ってことになる(笑)」
▶(笑)。あと、グレッグがどんどんヴォーカルとして存在感を強めているような。
グレッグ「俺が入ってもう4年になるけど、今は早く次のアルバムを作りたいと思うんだ。というのも、前のアルバムはバンドに参加して初めての作品だし、制作の後半に進むに従って、全員が一つにまとまってる、バンドっぽいなっていう実感が湧いてきたんだよね。そのバンド感は今さらに強まってるし、それを早く次の作品に活かしたいよ。『ミス・マシーン』が、この次に進むための重要な布石となるだろうっていう自負もあるし」
▶えぇ。ただ、『ミス・マシーン』は変化が大きかったぶん、賛否両論の声も上がりましたね。どう受け止めました?
リアム「期待通りって感じだよ。意見が真っ二つに分かれることは自分たちでもわかっていたし、だけど俺たちの次のヴィジョンを反映したのがこの作品だっていう自信もあった。否定意見の中に〝テクニカルな部分が足りないんじゃないか〞っていうものがあったけど、今までのどの作品より『ミス・マシーン』はテクニカルな作品だ。プレイする難しさは弾いてる自分が一番よくわかってる。『カルキュレイティング・インフィニティ』の発売当時は〝時代の先を行く作品だ〞って言われたけど、それと同じことで、今ピンと来なくてもいろんな音楽が出てきた2〜3年後に聴いてみれば、あぁそういうことだったのかって気付くんじゃないの?」
グレッグ「ただし俺はそれまで待てないから、悪い批評を書いた連中のメール・アドレスを入手して、全員にターミネーターを送り込んでやったけどな(笑)」
▶数ある批評の中で一番嬉しかったもの、一

番トンチンカンで的外れな意見だと思ったもの、それぞれを教えてもらえますか。
リアム「的外れだと思ったのは〝マイク・パットンの影響が強すぎる〟ってやつかな。だって影響されてないわけないじゃん。昔からずっと尊敬してたアーティストだし、彼から認められたからコラボレーションが実現したんだし、あの共演によって未知の扉を開けてもらったのは事実だから。でもそれはサウンド面の話じゃなくて、考え方やアイディア、音楽との向き合い方って意味だ。そこは当然のように影響されたけど、じゃあ俺たちがマイク・パットン的な音を出そうと思ったかと言えば断じてノーだ。そこは聴けばわかると思うね。で、嬉しかった意見なら、〝『カルキュレティング〜』パート2みたいな作品じゃなくて良かった〟ってものかな。バンドとして成長していること、次のステージに向かおうとしていることがちゃんと評価されたんだから。長い時間をかけて作った作品だし、やっぱり出す時はドキドキしたんだよ。でもほとんどのメディアは絶賛してくれたし、失ったものよりも得たものの方が多いことは自分たちでも確信してる。まぁ昔からのハードコア界隈の友達には〝まーいーんじゃねーの?〟って感じの奴もいたけど(苦笑)」
▶マイク・パットン以外に、ナイン・インチ・ネイルズと比較する声もありました。実際インダストリアルに近いもアプローチも多いし、ライヴではサンプラーを同期させてますよね。その手の音楽も聴くんですか?
リアム「モロってわけじゃないかな。ヘヴィでゴツゴツしたインダストリアルっていうよりは、もっと普通のエレクトロニカをよく聴いてる。あとはレディオヘッドの『OKコンピューター』みたいな、ロックとエレクトロニカの中間みたいな音はお気に入りだね。ギターを重ねるだけじゃ出せない深みが、サンプラーを重ねることで表現できるんだ」
グレッグ「ライヴでサンプラーを使うのも幅が広がっていいと思うよ」
▶クリス(dr)が曲によってヘッドフォンをつけるのも、プレイに支障ないですか?
リアム「変わんないよ。全然」
グレッグ「しかもクリスは自分たちの曲に飽きてくると、あのヘッドフォンでこっそりヒップホップを聴いてやがるんだ(笑)」
▶(笑)。それにしても、以前はまさかレディオヘッドがお気に入りだなんて信じ難い音を出してましたよね。ポップ寄りのアプローチはあえて避けていたんですか?
グレッグ「アプローチを避けてたというより、アルバム作ること自体を避けてたっつうか(笑)。5年も間が空くくらいだからな」
リアム「基本的に曲を書くのはクリスとベン(g)で、僕たちはその元ネタからアイディアを広げていく。だから曲作りで明確なことは言いづらいんだけど、意識してポップを避けていたとは思わないね。昔からポップなものは普通に聴いてたし、『カルキュレイティング〜』を振り返って聴けば、そういう要素が取り入れていることもわかると思う。幅広い要素を取り入れるっていうデリンジャー流の方法論は昔から変わらないよ。変わったのはメロディに対するアプローチの仕方だけ」
▶いわゆるポップ・ミュージックで影響を受けてきたものって、たとえば?
グレッグ「Rケリー(ニヤリ)」
▶……ははは。
グレッグ「プリンス。あ、こっちはマジだよ。すべての曲を自分で書いてすべてを自分でプレイして、さらにはその創造性に対する自由を自分で獲得してるんだ。天才であるゆえんだと思うよ。素晴らしい才能だよな。あとはレディオヘッドも好きだし、エイフェックス・ツインなんかも大好きだね」
リアム「フガジ。彼らの哲学には影響を受けたな。あとブロンド・レッドヘッドも好き」
▶これは影響とは違うかもしれないけど、02年のフジロックではビリー・アイドルのカヴァーやってましたよね。
グレッグ「ちょっと面白いかなと思ってね。あの曲自体は好きだったし」
リアム「変化球を投げたいと思ったんだ。みんながガーッと熱くなって俺たちを見てるところに、ちょっとした変化を入れて〝おっ、なんだ?〟って思わせようと思って」
▶以前は極限に挑戦してナンボ、エクストリームを極めてナンボっていう、いわばギネスみたいな世界にいたと思うんですね。でもグレッグの加入以降は純粋に音楽を楽しむようになったということですか?
リアム「うーん……とは言え、今でもそういう限界にチャレンジしてる気持ちはあるんだよ。わかりやすく外に向けたものではなく、内面に向かう限界だったりするんだけど。自分たちに対して常に厳しくあること、常に限界に挑む姿勢っていうのはデリンジャーの重要なテーマだし」
グレッグ「まさにね。デリンジャーの憲法第一条って感じだよな」
▶周囲が思うほど、自分たちの姿勢は変わっていないと?
リアム「基本はね。もちろん日々変化する部分もあるけど、ステージに上がる時の使命感、曲を書くときの使命感、あと自分たちに対する高い期待値を持続することはずっと変わらない。それに、使うべきは変化ではなく進化って言葉だと思うね。自分たちの目標を常にリセットし、それを更新していくこと。それを続けながら毎回達成感を得ることができるのは、すごく恵まれてると思う」
▶では、今の段階で目標にしてることって何かありますか?
リアム「まず考えてるのは、今年の夏にけっこう大きなバンド、たとえばトゥールくらいのバンドの前座としてツアーをしたいってこと。今はヘッドライナーのツアーが多いから、トゥール並みのバンドに付いてツアーできたらいいかな。そのツアーをいい形で終わらすことができたら、次のアルバムも最高のコンディションで作れると思う。その間にファンを今の倍には増やしたいし」
グレッグ「んで、俺はジェイムス・ヘッドフィールドを抜きたいし」
▶トゥールもそうだしメタリカもそうだけど、彼らはチャートの世界にも顔を出すロック界の成功者ですよね。自分たちもそんな世界に行きたいと思いますか?
グレッグ「そりゃね。その世界にいる連中を片っ端から埋めてやりたいくらいだ(笑)。トゥールもそうだし、10年前くらいまでのメタリカもそう。彼らは自分たちのやり方を貫き、妥協することなく成功を手に入れたんだ。それってどんなロック・バンドにとっても究極のゴールなんじゃないかな。周囲の意見に音を曲げられるんじゃなく、自分たちの音の力だけで周囲の見解を変えていくんだ。レイジ・アゲインスト・ザ・マシーンもそうだし、ナイン・インチ・ネイルズだってそう。俺らは彼らに追いつき追い越していく立場として、より大きな規模で活動していきたい」
▶アングラ信仰がゼロですよね。すごく正しいと思うんだけど、ハードコアの世界はそれが通じないことも多いでしょう。
リアム「でもそれを言い出したらレーベルと契約した時点でセルアウトってことになっちまう(笑)。本当の意味でセルアウトすることなく成功したバンドって、世界的に見てもフガジだけだと思う。それ以外はないよ。もちろんフガジは最高に素晴らしいバンドだし俺も大好きだけど、でもデリンジャーはそういうバンドではない。レコード契約だってするしさらに大きくなりたい。そういうことだよ」

HEAVEN SHALL BURN INTERVIEW

バンドの姿勢も歌詞の内容も変わってないし変えるつもりもないよ

INTERVIEWED: 田中大　*TRANSLATED:* 小出優子　*PHOTO:* TEPPEI　[3月12日/新木場スタジオコースト]

CALIBANと並ぶジャーマン・ニュー・スクールHC、HEAVEN SHALL BURNが遂にindependence-Dにて日本の地を踏んだ。ライヴではこちらの想像を上回るステージングと驚異的な音圧に度肝を抜かれた人も多いはず。彼らの出番が終わった後、楽屋にてMatthias Voigt(Dr)、Patrick Schleitzer(Gu)の2人に話を聞いてみた。

▶まずライヴお疲れ様でした。簡単にメンバー紹介をお願いします。

Matthias(以下M)「俺はドラムをやってる」

Patrick(以下P)「俺はギターだよ。あとヴォーカルがMarcus、もう1人のギターがMaik、ベースがEricだよ」

▶日本盤のリリースも決定した最新作『ANTIGONE』についていくつか聞かせて下さい。まずCENTURY MEDIAへ移籍するまでの経緯について教えて下さい。

M「LIFEFORCE RECORDS(以前のレーベル)は良くしてくれたけど、CENTURY MEDIAからオファーをもらったから受けたんだ。やっぱりCENTURY MEDIAは大きなレーベルだし、自分達のメッセージを広めるには良いと思ったからだよ。けどLIFEFORCEを離れたかったわけじゃない。彼らは良い仕事をしてくれていたからね」

▶CENTURY MEDIAは凄く大きなレーベルですよね。自分達のどこを気に入ってオファーをくれたと思っていますか？

M「実はCENTURY MEDIAには知り合いがいるんだ。2003年に俺達のライヴを見てくれて気に入ってくれたのが知りあったきっかけなんだけど。だから俺達はライヴを見てくれた事がオファーのきっかけにもなったんだよ」

P「それとメタルコアと呼ばれるバンドが人気が出てきてるのも理由の1つだとは思うよ」

M「そうかもね。今、自分達やCALIBANが注目を集めてるのは事実だしね。けどCENTURY MEDIAは流行ってるからってオファーを出すようなレーベルじゃないよ。CENTURY MEDIAには昔からメタルコアなバンドはいたわけだから」

▶CENTURY MEDIAに移籍して世界的に流通が良くなったと思いますが、ドイツ以外でのアルバムの反響はどうですか？

M「オランダ、ベルギー、ギリシャで反応が良かった。スペインとフランスではあんまり良くなかったね。アメリカのHCシーンからの反響もなかなか良かった」

P「南米でも流通があってブラジルのLIBERATION RECORDSからリリースするんだ。おかげでチリとブラジルの反響も良かった」

M「LIBERATIONからだとCDと値段がかなり安く出せるんだ。3～5ドルとかでね。だから貧しい人達の手元にも俺達のCDが届くと思うよ」

▶HEAVEN SHALL BURNはVEGANまたはSXEバンドですか？

M「基本的にそうなんだけど…」

P「俺だけ違うんだ。VEGANだけどSXEじゃないよ。他のみんなはVEGAN STRAIGHT EDGEだね」

▶サウンドはメタルに近づいて行っても、歌詞の内容やバンドの姿勢は変わらないんです

か?

M「そうかな。サウンド自体は自分達ではあんまり変えてるつもりはないんだけど…。もちろん歌詞の内容は変わってないし変えるつもりもないよ。説教みたいに、こうしろああしろってメッセージを押し付けたりはしたくない。俺達の歌詞を読んで考えてくれたり何かを学んでくれたら良いかな。自分達がCDを出す事によってメッセージを広げたい、と思ってるよ。想像のファンタジーみたいな歌詞も書けるといえば書けるけど、俺達にとってそれは意味のない事なんだ」

▶曲は誰が書いているのですか?どういう事に重点を置いて曲作りをしていますか?

M「曲を書いてるのは今いないんだけどMaikだよ。だいたいMaikがアイディアを持ってくるね。それでみんなで集まってリハをやるんだけど、やっぱり全員がその曲を気に入る事が大事かな」

P「そうだね。みんなが気に入らないとパートを変えたりするよ」

M「英語が一番できるのもMaikだから歌詞も彼が書いてるんだ。俺も一度チャレンジしたけどできなかった(笑)」

▶HEAVEN SHALL BURNの楽曲、サウンドにおいて、意識したり影響を受けたバンドはありますか?

M「バンドでいえばEARTH CRISIS、BOLT THROWER、AT THE GATES、DISMEMBER。たくさんあるから全部は挙げられないな。みんないろいろ聞いてるからその内ラジオで流れているようなポップ・ミュージックのメロディーを自分達流にアレンジして使うかもしれないね(笑)」

P「わざわざ新しい事をやろうとは思っていない。自然に出来た曲を作ろうと努力してるよ」

▶お互い世界的に評価されて来た所で、CALIBANとのスプリットを再度リリースするみたいですね。前から予定されていた事ですか?今回もお互いのカヴァーを入れますか?

M「CALIBANもLIFEFORCEを去ってROADRUNNERに移ったんだけど、彼らも別にLIFEFORCEがいやだったわけじゃないんだ。CALIBANとHEAVEN SHALL BURNはキャリア的にもリリースのタイミングも似てるよね。それでLIFEFORCEからまたその2バンドでスプリットを出そうってオファーがあった。同じバンドで2回スプリットを出すケースは珍しいよね」

P「お互いのカヴァーは今回はやらないんだ」

▶HEAVEN SHALL BURNにとってCALIBANはどんな存在ですか?良きライバルみたいなイメージなんですけど。

M「CALIBANは俺達と比べたらもっと大きいバンドって感じがする。この2、3年で彼らはたくさんツアーをしていたしね。昔はよく比べられたりしてたけどね、音楽性も変わったしあんまり比較対象にはならないんじゃないかな」

▶今年中に新作をリリースするそうですが、かなり急ピッチですね。何故そこまで早くリリースするんですか?

P「うん、レーベルは今年中に出したいと言ってるんだけど曲がないからね。さっきのCALIBANのスプリットもあるし。だから今年中はちょっと無理そうだよ。来年の春になりそうな感じだけど」

▶今までの音源でDAY OF SUFFERINGやPOINT OF NO RETURN、DISEMBODIEDのカヴァーをしていますね。その辺のバンドはやはり好きで聞いていたバンドですか?

P「もちろんだよ。今挙げたバンドは大好きなバンドばかりだね。DAY OF SUFFERINGはHCとメタルのクロスオーバーという意味では、メタルコアの先駆け的存在だと思うよ」

M「いや、最初のメタルコアはBIOHAZARDとかMERAUDERなんじゃない?最近のメタルコアはトラディショナルなメタルの要素もあるけど、BIOHAZARDとかの時代はヒップホップも入ってたしね。今のバンドとはクロスオーバーしてる部分がちょっと違うよね。80年代後半のCORROSION OF CONFORMITYとかCRUMBSUCKERSみたいなHC/PUNKとスラッシュ・メタルのクロスオーバーも。時代によって違うけど今のバンドも似たような事をやってると思うよ」

▶さっきも言ってた「ANTIGONE」がPOINT OF NO RETURNのメンバーがやってるLIBERATION RECORDSから南米盤がリリースされる事になった経緯について教えて下さい。

M「何年か前にPOINT OF NO RETURNが、ヨーロッパ・ツアーをした時に対バンしたのがきっかけでそれ以来の友達なんだ。それで俺達がPOINT OF NO RETURNのカヴァーをやりたいって言った時に、LIBERATION RECORDSもやってるヴォーカルのMarcosがHEAVEN SHALL BURNのCDをリリースしたいって言ってくれてね。おかげで南米にも俺達のCDが流通されるわけだよ」

▶現在のドイツ、ヨーロッパのシーンはどんな感じですか?

M「若いキッズはCALIBANとかKILLSWITCH ENGAGEを見に行く子が多いね。もうちょっと年が上の人の方がポリティカルな事に関心があって俺達みたいなバンドを見に来てるね。だけどそのくらいの年になると家族が出来たりで落ち着いちゃう人も多くなるでしょ。そういう人はだんだんライヴにも来れなくなっちゃうんだ。だからシーンと呼べるものもないような気もするけど、ツアーで寝る所を貸したりとかお互いに助け合ったりするつながりは今でも残っているよ。けど数は減ってきているね…まったくSucksだよ(笑)」

▶最近聴いたものでは何が良かったですか?

M「DARK TRANQUILITY良かったよ。聴いてるものは毎日変わるけどね」

P「JUDAS PRIESTの新しいのも良かったけど(笑)。こないだのKREATORも」

▶それでは最後に今後の予定について教えて下さい。

M「CALIBANとのスプリットをまず録って、ニュー・アルバム用の新曲を書く。あとこれまで1回もやった事なかったUSツアーをやりたいね」

P「そしたらすぐ日本に帰ってくるよ!!!」

INTERVIEW

STREET DOGS

素晴らしいレコードを出し続けて、爆発的なショウを世界中でやり続ける

INTERVIEWED: 大橋光裕 Mitch SxE

HELLCAT RECORDSから華々しくデビューを飾り、注目を浴び始めた新進気鋭のバンドから1人の歌唄いが脱退した。脱退された方のバンドは新しい歌手を迎え、メンバー・チェンジを繰り返しながらもアメリカを代表するパンク・ロック・バンドとなった。一方の歌唄いはバンド活動からの引退を宣言しながらも、やはり歌う事、表現する事を我慢出来なくなったのだろう。自分が辞めたバンドで今マイクを握っている男と以前バンドを組んでいたベーシストと共にバンドを立ち上げる。歌唄いの名はマイク・マコーガン、抜けたバンドはDROPKICK MURPHYS(以下DKM)、立ち上げたバンドがSTREET DOGSである。彼と手を組んだジョニー・ルーがSTREET DOGSの謎を解き明かしてくれた。

▶まずSTREET DOGSの簡単な歴史について教えてもらえる?

「98年頃のことだったと思うんだけど、ジェフ・アーナ(DKMとSTREET DOGSの初代ドラマー)の家の地下室で俺達は生まれたんだ。マイク(Vo)、俺(Ba)、ジェフ(Dr)、思い出したくもない奴がギターという布陣だった。まあ趣味のようなもので、バンド名もSTREET DOGSじゃなかったし、THE CLASHのカヴァーばかりやってた。マイクがDKMを辞めてTHE BRUISERSが解散して俺が暇になった頃だったよ。それからマイクも俺も他にやりたい事が出来て暫く放り出してたんだ。3年程前からマイクがジェフと、初代ギタリストのロブ、女性ベーシストのミシェーレの4人で集まってジャムり始めた。ミシェーレがもう1つやってるバンドに専念することになって辞めた時、俺はROGER MIRET AND THE DISASTERSをやってたんだけど、デモ・テープを聴かせてもらったら、それがあまりにも良かったんで～DISASTERSを辞めて加入することにしたんだ。楽しむ為に始めた事なんだけど、あまりにウケが良かったんで、全てを放り出してこのバンドに賭ける事にしたんだ」

▶STREET DOGSが影響を受けているバンドは?

「どんな音楽からでも影響は受けているよ。THE CLASH、THE REPLACEMENTS、SOCIAL DISTORTION、COCK SPARRER、STIFF LITTLE FINGERSからボブ・マーリー、ボブ・ディラン、THE SPECIALS、THE POGUESまでね」

▶君は～DISASTERSを抜けてSTREET DOGSに加入したの?それとも今でも～DISASTERSのメンバーなの?

「正確に言うと～DISASTERSではアルバムを1枚レコーディングしただけで、ライヴは2、3回しか一緒にやってないんだ。練習の為に週に何回もボストンからNYに行くのも大変だったし、DKMのマネージメントで働いていたから、～DISASTERSでツアーに出るのも不可能だった」

▶マイクがDKMを抜けた理由は消防士になる為といわれているよね。STREET DOGSはどうやらフル・タイムのバンドのようだけど、彼はもう消防士は辞めてしまったの?

「ああ、確かにDKM脱退後、消防隊に入隊したんだけど、現在はこのバンドの為にそれを辞めている。戻るつもりは無いようだけど、次の5年以内に希望すればいつでも元のポジションに戻れるそうだよ。ラッキーな野郎だぜ」

▶彼の入隊後、NYCであの忌まわしいテロ事件が起きて多くの消防士や警官が亡くなった。彼が消防隊を辞める大きな理由となったのではと感じているんだけど。

「あの事件は間違いなくマイクの人生や詞の書き方に大きな影響を与えている。彼はあの後、NYCで慰霊祭や救助活動に従事していたんだ。その時にとても個人的な想いを詞に綴っている。俺達は何が起こったか風化させな

い為と残された遺族の方々に募金を募る為に近い将来、コンピレーションを作ろうと思っていて、その為にその曲は残しているんだ」

▶君達は活動開始とほぼ同時にCROSS CHECK RECORDSと契約を結んだようだけど、どうしてこんなに速く契約を取りつけることが出来たの?

「デモ・テープを聴いた段階で契約を望んできたんだ。狂ってたよ(苦笑)。まあ当時はボストンの小さなローカル・バンドとしてやっていけりゃ良いや程度にしか思ってなかったから、レコードを出せるってだけで喜んでいたんだけど、『Savin Hill』がリリースされた後、もっと真剣にこのバンドに取り組もうって考え始めた頃にはこのレーベルじゃ駄目かもなって感じだしてた」

▶アルバムのタイトル『Savin Hill』にはどんな意味があるの?

「サビン・ヒルはボストンのドーチェスター地区にある小さな区域でね。マイクはそこの生まれ育ちで収録されている曲の殆どがその隣近所や住人について描かれているんで、このタイトルにしたんだ」

▶「Borstal Breakout」のカヴァーをしているけど、少し歌詞を変えてあるね。THE BUSINESSがカヴァーした「On The Streets Of London」(DKMの原曲はボストン)を思い出したよ。

「元々はエンジニアを務めてくれたマシュー・エラードのアイディアでね。歌詞を「Boston Breakout」にしたら凄く良くて使うことにしたんだ」

▶「Stand Up」ではケン・ケーシーとアル・バーが参加してマイクとのトリプル・ヴォーカルを披露している。全てのDKMファンにとっては真に夢の競演だよね。

「元々「Savin Hill」はケンがプロデュースする予定だったんだけど、彼らも「Breakout」のレコーディングで時間の調整が出来なくてね。それでもケンが俺にも何かやらせろって言うんでアルが参加することは最初から決まってたから、面倒臭いんで2人共歌わせることにしたんだ。ヴォーカル録りをスタジオの外で見ていてこんなにゾクゾクしたことは今まで無かったよ、圧倒されたね。特に今でも俺達は仲が良いんだよってのを知らしめることが出来たのが良かった」

▶1stアルバムのリリース後、ロブとジェフが脱退してるけど、その理由は?

「彼らがずっとこのバンドにい続けるとは思っていなかった。まずジェフは素晴らしい仕事と借金があって、ツアーに出られる状況ではない。ロブは元々メタルの人間で、このバンドにもメタルの要素を入れようとしてきた。マイクも俺もそんなものはこのバンドに必要無いと思ってたからね。彼は俺達の方からクビにしたんだ」

▶でも1stアルバムの多くの曲はロブによるものだよね。曲作りの面等を考えると大きな損失ではないかと思うんだけど。

「確かに多くの曲を書いているけど、それ以上に俺やマイクが曲書いてるからね。マイクはDKMで書いてたし、俺はTHE BRUISERSで書いてた。新しいドラマーのジョニーもMIGHTY MIGHTY BOSSTONES(以下MMB)時代には曲を書いてた。今では3人も曲を書ける人間がいる訳だから、逆に言えばロブがいなくなったことにより、俺達の音楽性の幅が出来たと言えると思うよ」

▶新しいメンバーのマーカス・ホラーとジョー・シライーはどのように見つけてきたの?ジョーは前作ではコーラスに参加しているね。

「さっきも言ったように彼は元MMBのメンバーだった。15年以上ディッキー(・バレット、MMBのヴォーカル)と活動を共にしてきたんだけど、最近、MMBが解散してしまったので、STREET DOGSに参加を決めてくれた。元はと言えば昨年のFLOGGING MOLLYとのツアーの時、ジェフがツアーに出れなくて、彼がヘルプしてくれたのが始まりでね。ジェフの正式な脱退が決まった時点で次は彼しかいないって思った。マーカスはテキサス州ダラスの出身でオーディションを受けて加入したんだ。まだ22歳、可能性のある若いギタリストだよ」

▶THE DENTSとスプリットEPを出してるけど、彼ら(彼女ら)のことを紹介してくれる?

「ベースのミシェーレはSTREET DOGSのオリジナル・メンバーでボストンじゃ最高の女性ベーシストだ。彼女がやってるんだからTHE DENTSは最高のパンク・ロック・バンドだよ。最近CDをリリースしたから探して聴いてみて」

▶ニュー・アルバム『Back To The World』がリリースされたけど、前作から1年程しか経っていない。パンク・バンドがアルバムを出すペースとしては異常に速いと思うんだけど。

「出来る限り毎年リリースし続けたいと思ってるんだ。誰もやっていないからこそね。今でも曲は書き続けているし、曲によっては今までの曲とは全く違ったタイプの曲も出来てきてる。もう次のアルバム用の8曲のストックがあるよ」

▶今作でも元MMBのネイト・アルバートとマシュー・エラードがプロデュースを担当しているね。彼らの特別な点はどこなのかな?

「ネイトはSTREET DOGSという船の帆を張る風のようなものでね、このバンドの非公式な5番目のメンバーでもある。才能あるプロデューサーというだけではなく、優れたギタリスト、作曲家でもある。MMBの初期の彼のペンによる曲を聴けば、それは誰にでも分かるだろう。マシューは彼の有能なアシスタント・エンジニアなんだ」

▶SOCIAL DISTORTIONとツアー中なんだよね。

「ああ、最高だよ!毎晩ステージの袖から彼らのショウを見てるんだけど、学ぶことがあり過ぎるくらいさ。バンドとしても多くのことを学ばさせてもらってる。彼らとツアーが出来るだけでも夢のようなのにね」

▶STREET DOGSのショウに俺達は何が期待出来る?どれほどクレイジーなの?

「マジで凄いよ!大抵俺達は「Savin Hill」でショウを始めるんだけど、ファンはマイクの声よりもデカい声で一小節目を歌いだすんだ。それだけで俺達のアドレナリンは急上昇する。その後はもうお祭り騒ぎさ。日本のファンの皆もちゃんと歌詞を覚えておいてくれよ。俺達はそれを聴くのを楽しみにしているんだ!」

▶今後の予定は?

「完璧で完全な世界制覇だね!まあ冗談はともかく、素晴らしいレコードを出し続けて爆発的なショウを世界中でやり続けるってことだよ。今年はニュー・アルバムを引っさげて日本を俺達の強力なライヴで侵攻したいと思ってるよ!楽しみに待ってて」

INTERVIEW

CAREER SUICIDE

アンダーグラウンド・コミュニティーの繋がりがパンク・ロックの醍醐味!

*INTERVIEWED:*ヤマダナオヒロ　*TRANSLATED:*スージー山岡　*PHOTO:*榊原弘郎　[3月24日/西荻窪ジョナサン]

キルド・バイ・デスishでディスコードishな、カナダのハードコア・パンク・バンド、CAREER SUICIDE!本誌No.212号にも掲載されていた通り、彼らが突如3月18日〜24日まで来日ツアーを行い、日本のアンダーグラウンド・シーンを半ば好き勝手に(笑)荒れに荒らしていった。自ら切り開いたアンダーグラウンド・コネクションを駆使しての、もはや無謀ともいえる完全DIYな日本ツアーは果たしてどんなだったのか?最終日の東京/西荻WATTSでのギグ前に、ピュアでやんちゃ極まりないメンバー4人全員に突撃インタヴューATTACKをキメてみた!バンド・ヒストリーや音源情報などはNo.212号を参照にしていただくとして、今回はツアー秘話などをご堪能あれ。ヨッパラーイ!

▶今のメンバーになってからどれくらい?

マーティン(Vo)「CAREER SUICIDEは4年間バンド活動をしてきているけど、ラインナップは毎月変わってて、現在のは16番目だな。マイクは本当はFUCKED UPのメンバーなんだ」

マイク(B)「帰国したら俺はクビになる予定だよ(笑)」

マーク(Dr)「俺はヘルプのドラマーとして参加しているんだけれど、CAREER SUICIDEはみんなトロントの連中で、俺はシカゴの人間なんだ。彼らはシカゴで頻繁にショウをやっていたから、それで一緒にやるようになってね」

マーティン「彼はヘタなドラマーだけど(ホントは激ウマ!)、癌で余命いくばくもナイから、せめて一緒に日本に連れてってやろうってコトになってね(笑)」

▶初めての日本ツアーはどうだった?

マーティン「凄くエキサイティングなショウも沢山やれたし、超面白いウチアゲ(打ち上げ)も経験したよ。新たな友人も増えたしね。(日本語で→)サケ〜、ベロベロ〜、ヨッパラーイ!」

ジョナー「とにかく毎晩超酔っ払ってたけど、どのショウも素晴らしかったよ。特に初日の東京とか大阪が良かったな。地方も規模は少し小さめだったけど最高だった。昨日の甲府も超クレイジーだったよ!派手に飲んだしね、ミズワーリ!」

▶今回は自分たちからコンタクトを取って来たんだよね?

マーティン「その通り。ここ数年ずっと日本に来たいと思っていたんだけど、どうやったら来れるのか分からなくてね。去年アメリカでFORWORDと一緒に4日間ツアーする機会があって、その時に彼らは俺たちの来日をサポートすると言ってくれたんだ。それで何とかなると思ってね」

ジョナー「(向かいのテーブルを指して)お!あそこにいるのはFORWORDじゃないか!」

マーティン「オーイ、FORWARD!!俺たちが日本に行きたがっているのを知っててシンガーのイシヤがメールをくれたんだ。そして東京のギグをセッティングするヘルプをしてくれた。あとは新しく12″シングルを出したHIS HERO IS GONE/TRAGEDYのヤニックが残りのショウのブッキングを手伝ってくれたね。イシヤはDEVOURのヤスヒロを紹介してくれて、彼が浜松のショウを取り付けてくれたり。FORWORDは本当に良い友達だよ」

▶日本では電車の移動がメインだったけど、苦労した点は?

マーティン「北米ツアーの時はいつもバンで移動しているんだけど、2つのショウの間に10〜15時間も移動してるってことも多い。でも日本だと電車に乗って2時間で着くだろ?新幹線は速いし、ずっとスムースだったよ。ただ問題なのは、俺たちは友人で今回ローディーを努めてくれたアレックスとジェームスも含めた6人で行動しているけど、それぞれがマーチャンダイズなんかの大荷物を抱えているから、運ぶのが一苦労だったってコトかな。今回は、2人の友人に同行してもらうことによって移動が可能となったんだ。彼らのヘルプ無しには無理だったね。彼らの名前は是非本に載せてくれよ!」

▶わかりました(ホラ載せたよ!笑)。ところで東京の初日は成田から会場に自分たちだけで直行したみたいだけど、開演時刻から2〜3時間遅れてた着いてたよね(笑)?

マーティン「飛行機のトラブルで2時間遅れてしまったよ。いざ成田に到着したものの、俺たちって日本はおろかアジアは初めてだったから、四苦八苦して電車等を乗り継いで何とか新宿に辿り付いて、そこでやっとFORWARDの皆と合流したんだ。最初FORWARDの皆は空港まで迎えに来てくれるって言ってくれてたけど、自力で新宿まで電車で行ってそこで落ち合った方が早いと思ったんだよ。でも100ポンドもの重さの荷物を頭や腕に抱えてウロウロするのは結構キテいたね(笑)。力持ちにはなったけど、ビールの飲み過ぎで太ったし(笑)」

▶しかし14時間くらいのフライトから直行で来たワリには、ライヴはエネルギッシュでメチャクチャ良かったよ!

マーティン「俺たちも超楽しかった!少し疲れてたけど、東京にいるぜ!ってだけで元気が出たよ」

ジョナー「飛行機から降りて東京のダウンタウンに来て…とにかく初めての日本だったから、本当に別の惑星に舞い降りたような興奮だった。街に出て、クラブに着いたら会場一杯にオーディエンスがギッシリ!もうゾクゾクしたね」

マーク「俺なんて興奮して立っちゃったもんな。(歌うように)ああ〜〜立っちまった〜!」

▶日本が凄く好きみたいだけど、どんな部分に惹かれるの?

マーク「何せ地球の裏側だもんな。自分の住んでいない場所ってだけで面白いよ。そして可愛い女のコが多いよねえ。女子高生とか最高!あとオニギリ!」

ジョナー「建物も興味深いし、良い人たちが多い。そしてメシも美味けりゃビールも美味い!女のコも可愛い!それにこういうライヴ・ハウスってカナダには無いんだよ。勿論カナダにもやる場所はあるんだけど、WATTSやD.O.Mのようなところは無いね。年齢を問わずに誰もが行けて、誰もが純粋に音楽を楽しめるって場所が無いんだよ。日本は素晴らしいね」

マーティン「誰もが本当に親切にしてくれるし親身になってくれる。本当に来て良かったと思える場所だよ。そしてビールが飲めて、音楽をやって、素晴らしいサウンド・システム…凄いよ。あと日本で最高なのはやっぱウチアゲかな!?」

ジョナー「ヨシ!カナダにもウチアゲを輸入しよう!」

▶カナダとはぜんぜん違う?

ジョナー「カナダではどの会場も〈酒を飲むこと〉が中心でね。でも日本は違うよ!皆本当に音楽を愛しているってのが分かる。日本ではハードコアやパンク・シーンがかなり成熟していて凄く良いよ」

▶ところでみんな歳はいくつなの?

マーティン「マークが23で、マイクは22。ジョナーが24で、俺は25だよ」

▶さっきのリハで日本のスターリンの〝ロマンチスト〟をやってたけど、その歳でよく知ってるよね〜。どうやって情報を得てるの?

ジョナー「スターリンは『Killed By Death Vol 5』に入ってて超お気に入りだよ!日本のパ

ンクは大好きで、そういえばフリクションの『クレイジー・ドリーム』も買ったけど超クラシックだね!あとトロントにサイモンっていうケチな野郎が住んでて、そこの地下室には日本のハードコア・レコードが沢山コレクションされているからしょっちゅう行くんだ。そこでスターリン、バスタード、エクスキュートなど色々聴いたよ」

マーティン「一番最初に俺がSEX PISTOLSを買ったのはもう今から12年前になるんだけど、それ以来ずっとこの手の世界中のパンクを聴き込んで色々調べたりしてるよ。それにしてもバーニング・スピリッツのバンドはどれも本当に良いね。日本のバンドの中でもトップに数えられると思うよ。あとはKRUWのEPも良かった!」

ジョナー「他にもTEENGENERATEとかTHE SLOWMOTIONSは超エキサイティングだね」

▶ところでこの間行われた『Vancouver Complication』(70's カナディアン・パンクのコンピ)のCDリリース・パーティには行った?

ジョナー「あったね!D.O.A.、DISHRAGSが出て…けれど俺たちはツアーでカリフォルニアにいたから行けなかったんだ。でもその手のリユニオン系のバンドは今はあまりエキサイティングじゃないんだ。俺たちはTEENAGE HEADとも一緒にライヴをやったけど、彼らは残念ながら当時ほどカッコ良くないよ」

▶じゃあ今のカナダで面白いバンドはいる?

マーティン「長い間あんまし盛り上がっていなかったな。SUM 41みたいな酷いバンドが沢山あって、つまらねぇ音楽ばかりだった。たまに良いバンドが出てきたものの、音楽シーン的には大した方向に進まなかった。トロントの外とか…郊外には、街中とは又別のシーンがあったようだけどね。でも今は少し盛り返してきたかな。FUCKED UPのようなバンドはかなり客を集めることが出来るし、TERMINAL STATEなんかもそうだね」

ジョナー「SUM 41は本当にクソみたいなバンドだよ。小さい女のコ向けみたいな音楽だね。あとはNOT BY CHOICEとかも」

マーティン「そういうバンドがシーンを破壊しているのさ。クソッタレなプレイでね」

マーク「子供向きのマンガみたいなもんだよ(笑)」

▶ところで、キミたちは本当にパンクが大好き!って感じで、今回のツアーや普段の活動も含めて、凄くピュアでエネルギッシュな印象なんだけど、その根源となるエネジーってどういうところから来てるの?

ジョナー「金!なんちゃってね(笑)。俺たちはとにかく音楽をプレイすることが好きなんだよ。パンクでクレイジーなロックンロールに夢中なんだ」

マーティン「俺たちは本当にプレイすることを愛していて、それが例えリハーサル・ルームだろうが、日本で200人のオーディエンスの前だろうが、どちらでも構いやしないんだ。とにかく俺たちはプレイしていたい!って感じ(笑)。勿論こういう風に世界をツアーしたり旅行したりする機会を持てて本当に幸せに思っているよ。そして良いショウがやれて皆も俺たちのプレイを楽しんでくれたりするのが凄く嬉しい。でも別に、このバンドを始めたのは日本やヨーロッパに行きたいからとか、レコードを出してみたいから等の理由ではないんだ。俺たちは自分が心からプレイしたいと思う音楽の為にバンドを始めたんだよ。それが俺たちを真にかき立てる根源なんだ」

▶じゃあそのスタイルとしてパンク/ハードコアを選んだ理由、惹かれた理由は?

ジョナー「俺たちはワイルドでスピード感のある音楽にのめり込んでいるんだ。イェイ!Live Fast,Die Young!」

マーティン「パンク・ミュージックをプレイすることは自分たちが本当に望んでやっていることなんだ。まぁ人生それしかないわけじゃないけど、楽しんでやっていることだよ。でもこれは仕事じゃあない。こういう風にバンドをやっていても金になるなんてもんじゃないし、むしろ金を失っているくらいだからね。マークなんて今回日本にくるにあたって、自分の持っている高価なレコードを売り払って資金にしたんだよ」

マーク「金はいつも無くなっているよ(笑)。MINOR THREAT、S.O.A.、IRON CROSSのオリジナル盤も売り払って飛行機代を作ったんだ」

マーティン「でも、そういうことは彼や俺たちが音楽をプレイすることを愛しているからやっていることなんだ。アンダーグラウンド・コミュニティーの繋がりを大切にしてこうやってツアーも出来て、そういうことがパンク・ロックの醍醐味だったり重要なポイントだからね」

▶お金で買えない価値があると(笑)。日本にツアーに来ると言うと、まずお金の話しかしないバンドが多いこのご時世なのに、当然だけどちょっとイイ話だね。

マーティン「日本にはまたスグにでも戻って来たいね!ドモアリガト!!」

▶じゃあ最後に、今後の予定を聞かせて。

ジョナー「次はアルバムを予定してて、プロデューサーはZERO BOYSのシンガー、ポール・マハーンだよ」

▶マジでぇ〜!どうやって一緒にやることになったの(うらやましい!!)!?

ジョナー「俺はZERO BOYSが凄く好きだったんだ。超クラシック・バンドだよ!どうせフル・レングスをやるなら、ヘンなものは作りたくはなかったから、ハードコアを録るならこの人!って人にプロデュースをお願いしたいと思ってたんだ。そこでインターネットでチェックしてみたら彼は自身のスタジオを持ってインディアナで活動していたんだ。で、俺も彼にメールを送ってCAREER SUICIDEのレコーディングに関して打診してみたよ。まあ今のポール・マハーンがハードコア・レコードをちゃんとプロデュース出来るか否かにおいてちょっと大丈夫かな〜とか思ったりもするけど(笑)、でも絶対に良いものを作ってくれると思う!俺は彼こそ素晴らしいレコードを作ってくれる人だと信じているのさ。楽しみにしてててくれよ!!」

HARD SKIN

HARD SKINは10年前と何も変わってないぜ!!

INTERVIEWED: Yobs RUDENESS RECORDS *TRANSLATED:* DAN *THANKS:* JUN

"10 years on and nothing's changed!!"と叫んでロンドンからアノOi!バンドHARD SKINが戻って来た!!待望の2ndアルバムをリリースし、東京でのライヴも決定!!今までの活動をFat BobとJohnny TakeawayにE-MAILで聞いてみました。

▶まず、メンバー紹介からお願いします。

Johnny Takeaway(以下/J)「おれはジョニー!!」

Fat Bob(以下/F)「Fat Bob-Bass/Vox/Old and Fat、Nipper-Drums/Vox and Jockney Reject、Johnny Takeaway-Guitar/Vox and Genius」

▶HARD SKINの初めてのリリースは95年にDamaged Goods Recordsからリリースされた7"EP×2『The New Wave Of The Close Shave』でいいのかな?

F「正式な1stリリースは、アルバム『Hard Nuts and Hard Cunts』で、この7インチ・コンピレーションに収録された"First Day Angry Song"はアルバムからカットだよ。なぜならアルバムの曲を録り終えた後にこのコンピレーションのリリースの話があった為、曲がもうなかったんだ」

▶このコンピレーションEPに収録してあるバンドの中にはSNUFFやOI POLLOIのメンバーが参加しているバンドがいるみたいだけど?

J「そうだっけ?(Johnnyは実際、Mixを手掛けています)」

F「そう、みんな友達でその頃イギリスにはすばらしいNew Oi!バンドがたくさんいて楽しかったよ」

▶OIZONEは後にリリースした数枚の7"EPやアルバムは日本でも売ってましたよ。

F「OIZONEはバンドは新しかったが、メンバーはみんな45歳ぐらいだったんだ。オレたちは多くのインスピレーションを与えられたよ。SHITTERは今まで1番最悪のサウンドだな。OIASISは実際にOASISのメンバーなんだよ。彼らは冗談でこの"Second Hand Cop"を収録したんだ。Liam GallagherはNipperの親友だよ」

▶それでは1stアルバム『Hard Nuts and Hard Cunts』について。

J「これは上物だよ。ストリートにある実際の出来事。このアルバムはオレの息子みたいなもんだよ。欲しいならコピーを売ってやるよ」

F「このアルバムは4回のセッションで録音したんだ。ロンドン・ブリッジの近くの本当に不快なスタジオでね…オレたちは一日中パブで飲むようになりその後、この極上のOi!を録る為に夜スタジオへ行ったんだ。このアルバムは今までに世界中で10万枚以上売れてるんだ。このアルバムのリリース後、たくさんのメジャー・レーベルの奴らがHARD SKINとサインしたがって来たよ。だけど奴らに言ってやったよ。Fuck Off!!ってね」

▶"First Day Angry Song"の歌詞に出てくる"Gipsy Hill"はどんな所?

J「fuckin' skill」

F「ジプシー・ヒルはオレたちのなわばりみたいなもんさ。Sarf Londonにあって、パブ、魅力的な女、ダーツ、玉突き、そしてオレたちの好きなGrubを食べれる伝説のGipsy Rose Cafeがある所だよ。汚い所だがそこがオレたちのホーム」

▶そういえば、この頃のドラムのクレジットはNosherですが彼は…?

F「彼はオリジナルのドラマーだった。1stアルバムの録音時はNosherが叩いていたんだよ。しかし彼はアルバムがリリースされる前に死んでしまったんだ。Millwallのフットボール・ゲームの時に起こった暴動の時にね」

J「そう、Nosherは最初のドラマー。彼のスピリットはいつもオレたちの音楽に生き続けているよ」

▶みんな80年代初期のUK Oi!をリアルに体験しているんですか?

J「yeah!!StratfordのThe Green Manで見た

THE EJECTED!!1979年!!〝I'm gonna gonna gonna gonna gonna get a gun-when I do YOU BETTER FUCKIN' RUN〟」

F「オレは100 club、Skunkx、Bridghouseなどで行われたほとんどのOi!バンドのGIGに行ったよ。凄く荒れていたが得たものは大きかった。COCKNEY REJECTSや4SKINSが君らに影響を与えたように、それはOi!の基本だった。82年にBridgehouseで見たCOCKNEY REJECTSがオレの人生を変えたよ」

▶2000年にHARD SKIN、SOUTHPORT、CAPDOWNで『The Christmas Fisting EP』をリリースしていますが、この7″EPで有名なクリスマス・ソング〝Ding Dong Merrily Oi Oi!〟をカヴァーしていますね。日本のOi!ファンにはCLOSE SHAVEのヴァージョンで有名ですが。

J「その通り、だけどオレたちのほうがイイだろ?」

F「この曲を選んだのは多くの人がCLOSE SHAVEのヴァージョンを知っていたから混乱を招きたかったんだ。実際、オレたちをCLOSE SHAVEだと思っていた人もいたからね。この曲はスタジオで2時間で録り終えたんだ。なぜなら、同じ日にCAPDOWNも録る予定で〝早く終わらせろ〟という雰囲気だったんだ」

▶あなたたちは年に数回しかライヴをやっていなかったと聞いてますが…。

J「パブでよくGIGをやったよ」

F「オレたちは4年間ロンドンでGIGをやってないよ」

▶ライヴ・アルバム『Live And Loud!!&Skinhead』がリリースされていますね。

F「このライヴ・アルバムにはミルウォールと東京でのライヴが半々で収録されているんだ。録音は悪いが、その場の雰囲気とエナジーは凄く熱かったよ」

▶このライヴ・アルバムに収録されている2000年11月7日西荻WATTSでのライヴはロンドンでも数回しかライヴをやらないHARD SKINのライヴが東京で行われたということでOi!ファンの間では伝説のライヴとなっていますよ。

J「笑いが止まらなかったよ。カワイイ子もたくさんいたしな。アサヒ!アサヒ!!サッポロ!!」

F「あの東京のGIGは最高だった。オレたちは誰もHARD SKINなんて知らないと思っていたんだ。だけどGIGが始まると凄い熱気と反応でとてもいいOi!のGIGだったよ。その日一緒にプレイした4EVERS、BOSS(大将)、HAT TRICKERSにも驚かせられた。オレが聴いていたどのバンドよりも優れていたよ」

▶4曲収録のライヴ7″EPもリリースされていますが、ジャケットがBLITZ『Never Surrender』の7″EPジャケのそのままですね。だけど限定100プレスなのでほとんど日本に入ってきてませんけどね。

J「何のことだ?」

F「これはJ CHURCHのメンバーがやっているレーベルからリリースされた物でオレたちは現物を見ていないんだ。彼に会ったらもらうよ」

▶そして1stアルバムから10年振りの2ndアルバムということですね。

F「そう、HARD SKINは10年前と何も変わってないぜ!!」

▶〝Skin Hard〟という曲を聴いてそう思いました。

J「HARD SKIN!!」

F「あれは、オレたちのテーマ・ソングだ。a way of life!!」

▶〝The Boys In Blue〟というFootballソングも収録されていますが、みんなMillwall FCのサポーターなんですか?

J「yep!!ブルーはLionsのチーム・カラーさ」

F「オレたちが愛するLions-Millwall FC!!」

▶アルバムのリリースに合わせてヨーロッパ・ツアーを行ったそうですが。

J「ツアーはとてもハードだったよ。オレは死人のようだった」

F「2004年12月のヨーロッパ・ツアーはHARD SKINにとって初めての正式なツアーでうれしかったよ。ジョニーはこの2週間でゲッソリ痩せたよ。ニッパーはスコットランドの彼女に自分のプレイを見せ付けて、いいとこ取りだったよ。オレたちはTHE RESTARTSというバンドと一緒にツアーをしたんだ。みんな団結していて、どこへ行ってもパンクスとスキンズのケンカもなかったしね」

▶クリスマスにはSHAM69、COCKNEY REJECTS、4SKINS(Millwall Roi's LAST RESORTのことだと思う)と一緒にライヴをやるという告知を見たのですが…。

J「それは実現できなかったんだ。妄想の中でシャムと一緒にプレイしたよ」

F「クリスマスGIGは残念ながらキャンセルされたんだ。Jimmy Purseyがクリスマスの日にママに会いに行かなければならなかったからなんだ…」

▶5月には5年振りの東京ですね。ずっと待っていたファンもいるんですよ。

J「yeah!!Wattsが2000年だから、もう5年も経っているのか?」

F「その通り!!あれから5年間、ずっと待っていたぜ!!GIGの後にJapanese Skinhead Barmy Army crewと毎晩、飲み明かしたいな。カワイイ女の子も一緒にね」

J「女の子はステージの前の方へ、男はビールを忘れるなよ!!」

F「Oi!Oi!Oi!」

〝have a beer with HARD SKIN Japan Tour 2005〟

5/28日(sat)新宿ACBホール
HARD SKIN
大将
LAST TARGET
EVIL SUBSTITUTE
BOOTed COCKS
Royal SHAMROCK
SIGN OF LIFE
BENKEI

5/29日(sun)新宿ACBホール
HARD SKIN
HAT TRICKERS
TOM AND BOOT BOYS
RAISE A FLAG
UNITED WE STAND
THE ERECTiONS
THE 69YOBSTERS
ROYAL BUSTER

http://www.h7.dion.ne.jp/~rudeness/

ANTISECT INTERVIEW

In Darkness, There Is No Choice

INTERVIEWED: Lance Hahn　*TRANSLATED:* 石川浩子

イギリス、ダヴェントリーのノーサンツはミルトン・キーンズの建築不毛地帯を過ぎ、ロンドンの北西へ少し向かった所にあり、コヴェントリーとバーミンガムの途中にある。この田舎町は、ドゥームの先駆者であるANTISECTが生まれた町でもある。

Pete〝Lippy〟Lyons(G)を中心にANTISECTが結成されたのは1982年のこと。当時のラインナップは、Pete〝Polly〟(Dr)、Renis〝Wink〟Rekiki(B)、Pete〝Little Pete〟Boyce(Vo)の4人。

Winkの脱退後に加入した2人目のベーシスト、John Brysonはこう言っている。

John「メンバーはみんなダヴェントリーにある学校の出身だったよ。Peteって名前にはいつも悩まされてた。LippyもPollyもBoyceもPeteだったからね。みんなPeteって呼ばれたがってたんだ!」

ANTISECTを結成するまでにメンバーがやってきたバンドは、ポリティカルとは無縁のバンドであった。

John「LippyとPolly(たぶんBoyceもだと思うが定かではない)はDISCHARGEの流れを汲んだXYLUMってバンドをやってたね。俺はFACE ACHEにいたんだ。それ以前はDROSSというバンドをやってた。ストレートなサウンドだったよ」

LippyはANTISECTでパンクの新境地を切り開こうと挑戦を試みる。この頃、ヘヴィなリフとメタルの影響を受けたハードコアは、DISCHARGEとともに発展していく途上にあった。

John「ANTISECTの音楽面の柱になっていたのはLippyだったよ。彼はより複雑なものに興味を持つようになっていったんだ。〝プログレッシヴ〟や〝メタル〟のようなサウンドにはかなり早い時期から注目してたね。Lippy、Polly、そして俺も初期のMETALLICAやSLAYERに惹きつけられながらも、ああいうサウンド以上にヘヴィなものをやりたかった。俺は世界中のありとあらゆる音楽の中から、とてつもなくヘヴィなリフを見つけることに興味があったよ。それは今でもね。初期のANTISECTには俺の影響を受けたリフがはっきりと出ている。BLACK SABBATHの「Symptoms Of The Universe」の影響がね」

もちろん、ANTISECTにとってDISCHARGEの影響は大きい。

John「DISCHARGEの存在は大きいね。DISCHARGEとANTISECTは同時にメタルの路線を辿り始めたんだ。ANTISECTはLippyとDISCHARGEとの関係から生まれた部分もあるから」

1982年も終わりに近づく頃、ANTISECTは初ライヴをプレストンで行っている。VARUKERSのサポートであった。その後はコンスタントにライヴをやり、デモをレコーディングする。11月には共演をきっかけに親交を深めていくことになる、アナーコ・パンク・バンドの第一人者とも呼べるFLUX OF PINK INDIANSとノッテンガムでステージを共にするのである。ひところFLUX OF PINK INDIANSがヘヴィでよりメタリックなサウンドへ向かっていったのはANTISECTの影響も大きかったようだ。2バンドの友情はレコード・リリースへとつながっていく。ANTISECTはFLUX OF PINK INDIANSの設立したレーベル〝Spider Leg〟からデビューLP『In Darkness, There Is No Choice』をリリースする。

この作品はCRASSやFLUX OF PINK INDIANSの情熱的なモノローグを持ち、DISCHARGEやGBHなどのハードコア・バンドの凶暴性を融合したような、強烈なステイトメントに満ちていた。同じ〝Spider Leg〟から作品を出していたレーベル・メイトのAMEBIXとも共通するテイストを匂わせ、まさにイギリスで最も尊重されて然るべく(そして皆がコピーする)ハードコア・アルバムである。

反マスメディア、反戦争、そして動物の権利をプロパガンダする内容がANTISECTの歌詞からは読みとれる。

「〝ペットの子犬を食えって? 残酷なこと言うなよ〟　だが子羊を屠殺場へぶち込むことは問題ないだろ　よく焼いた肉料理のために、血まみれになった死の小屋　盗みとる生活のために、君はどんな権利を提供するんだ?」

動物の権利を主張するバンドの意志は、歌詞以上に行動に表れており、警察から目を付けられることも度々だった。

John「主にLippyの考えが強かったね。ANTISECT特有の主張というよりは、〝Animal Liberation Front〟と関連した活動だった。イギリスのノーサンプトンにある俺達の家にはよく警官がやってきてたな」

「Heresy」という曲ではこんなことも歌っている。

「君の目的は何　君の神は誰　君の心を所有しているのは誰　君が進むのはどんな道　君が話をするのは誰のため　君がつけているのはどっちのマスク　君の境界線を引いたのは誰　君の弱点は何」

レコード・ジャケットのアートワークも独特だった。折り込みポスターがついたCRASSレコードのようにパッケージされ、黒と白のデザインは多くの点で他のバンドの作品と異なっていた。一目でアナーコ・パンクを想像させるアート・イメージである。フレームのように見えるようなツルと葉で囲まれたデザインは、ある意味では自然主義と呼べるだろう。しかし折り込みポスターは、環境汚染から核戦争までの様々な不安と恐怖を表現する、残酷な描写であった。アートワークを担当していたのはFishである。

John「アートワーク自体で訴えているものがあると思うんだ。それぞれがそれを見てどう感じるか、それがアートワークの意味するものだよ。Fishはノッテンガムの出身だったな(ガールフレンドはCatと呼ばれたよ。おかしいだろ)」

『In Darkness, There Is No Choice』をリリースした頃には、Winkが脱退し、John Brysonが加入している。

John「Winkは83年から84年頃にバンドをぬけたよ。俺は彼の後に入ったんだ。Winkがどうしてバンドを離れたのかはわからないが、それ以上は楽しめなかったんだと思うよ」

ノーサンプトンで活動していたFACE ACHE出身のJohnは、ANTISECTの他のメンバーと同じようなパンク/ハードロックを通過してきている。

John「15歳の頃だったかな、1976年にJohn Peelのラジオ・ショウでDAMNEDの「New Rose」を聴いたのが始まりだったよ。その後は、DAMNEDはもちろん、PISTOLS、999、DRONES、LURKERS、THE BOYS、RAMONESなんかを狂ったように聴き漁ったな。長かった髪を切り、それを染め、細いパンツを手に入れた。それ以前はHAWKWINDやBLACK SA

BBATHを聴いていたんだよ。ちなみに今も聴いてるけどね」

もともとLippyと友達だったJohnがバンドに加入するのは自然なことだった。

John「Lippyと俺とは地元ノーサンプトンの小さなパンク・ネットワークを通して友達になったんだ。俺達はすぐに意気投合したね。それからずっと長いこと親友だよ。他のメンバーは俺が加入した当初は不安だったんじゃないかな。俺はみんなのように〝長髪のヴェイガン・パンク〟じゃなかったからね。最終的にはうまくいったけどね」

当時のイギリスの多くのパンクスのように、JohnもCRASSに心酔していた。

John「CRASSの表明しているメッセージには影響を受けたよ(今はそうではない)。しかしサウンドの面では違ったけど」

しかしANTISECTへの熱意が高まるにつれ、Johnはアナーコ・シーンへ深くのめり込んでいくのである。

John「……本物の破壊を意味するんだと思う。知性と創造性とでできた社会の中心にいる人間を攻撃する勇気だ。それは危険だしリアルだ。Lippyに出会う前から知ってはいたが、受け入れてはいなかった。ANTISECTのメンバーと夜通しの議論を重ねていくうちに、そういう方向にゆっくりと引き込まれていったんだ」

メンバーが6人編成だった時代もある。Rich HillとCaroline Wallisがヴォーカリストとして加わったが、すぐに2人ともクビになった。

1984年にはオリジナル・ヴォーカルのPete Boyceが脱退し、リード・ヴォーカルがいないトリオのまま、過酷なスケジュールで組まれた国内・国外(イタリア、オランダ、ベルギーなど)ツアーを敢行する。ヴォーカル不在のままツアーに出る不安はあったようだが、全く練習しなかったようだ。

John「これは秘密だよ。LippyとPollyと俺の3人で最初はイギリスを廻ったんだけど、歌詞は誰も憶えようとしなかったんだ。車でライヴ会場に向かう道中に、ヴァンの後部座席で歌詞を憶えようとしたんだけど絶望的だったよ。曲を書いていたLippyでさえ、暗記することができなかったんだから!結局は演奏に合わせて、1966年に開催されたワールドカップのサッカー・チームの名前を歌おうってことにしたんだよ!!」

1985年にはEP「Out From The Void」をリリースする。ツアーを重ね、演奏力もあがってはいたが、スタジオでレコーディングすることに関してはまだ初心者も同然だった。

John「ここに収録の曲はどれもライヴで聴くほうが断然に素晴らしかった」

僕の思い込みかもしれないが、この頃になるとANTISECTからはヘヴィ・ロックだけでなく、インダストリアル・ミュージックからの影響も感じるようになる。

John「Lippyは違ったけど、俺の考えではANTISECTは音楽的にそうだったと思うよ。俺はTEST DEPT(電動工具や金属が叩き出すノイズとインダストリアル・ミュージックとを融合し、そこに過激な政治発言をのせ放つ、メッセージを持ったバンド)が好きだったしね。〝インダストリアル〟という言葉が生まれる前から、そういうジャンルには興味があった。もちろん、MOTÖRHEADやZEPPELINも大好きだよ。Lippyのレコード・コレクションはヴァラエティに富んでたね。2人ともHAWKWINDやBob Calvertも好きだった」

そして、ANTISECTはトラディショナルなパンク・サウンドからさらに遠ざかり、新しい領域に踏み込んでいく。

John「Lippyは完全主義者だった。自分でやっていることに幸せを感じないなら、あっさりと手を引いたよ。俺はトラディショナルなパンク・サウンドでも良かったが、Lippyが満足しなかったんだよ」

この頃の歌詞には次のようなものがある。

「潮の流れに吸い込まれる　円がどんなものであっても、簡単に飛び乗れる　しかし、それをやってしまうのは自分自身を犠牲にすることだ　自分自身であることの恐怖
未知の世界へ足を踏み入れることの恐怖
自分で作った鎖に自分を縛りつけ、監禁状態
自由には手が届かない　しかし人は他人を諭す前に学ぶべきだ」

レコードのアートワークでさえ変化を見せている。黒と白のデザインは、頭蓋骨とホラーのイメージへと変わっていった。しかしPaul Garnerの描いたカヴァーは、読者がイメージしているようなPusheadやMad Mark Rudeの作品とは全く違う。

先にも触れたEP「Out From The Void」の他に、もう1枚のEP「Stand Alone」もレコーディングしている。

John「さっきも言ったように、EPには全く納得していないよ。金も時間もなかったし、自分達が望んでいたサウンドを形にする知識も技術もなかった。この作品を録るのと同時に、バンドには亀裂が生じ始めたんだ」

不安定なバンドの状況にも関わらず、レコードは成功をおさめている。

John「イギリスのインディーズ・チャートで7

位に入った。ファンはとても気に入ってくれたんだよ」

翌年、〝金もなく、うんざりし、疲れはてた〟Johnはバンドを脱退する、

John「バンドをやめたのは1986年だった。Lawrewnceが俺の後に入ったね。彼は素晴らしいやつだったよ」

その後、ANTISECTは2年間続いていく。しかし1988年に器材を盗まれたのをきっかけに、バンドは終焉へと向かっていった。

John「……ある日、ヴァンを置いてちょっと出かけた隙に、器材の全てが盗まれたらしいんだ」

悲しい話であるが、2000年にはオリジナル・ベーシストのRenis〝Wink〟Rekikiが亡くなっている。

John「Winkの死は本当に悲しかった。俺が彼について知っているのはほんのわずかかもしれないが、俺は彼のことが大好きだったんだ。Winkはいつだって100%誠実な態度で接してくれたんだよ」

ANTISECTの残したものは、ポリティカル・ハードコアの次の世代に確実に引き継がれている。そして、今も尚、世界中のバンドに大きな影響を与え続けているのだ。

John「NAPALM DEATHや彼らに続くバンドを見てごらんよ。全ては俺達と共に始まったと思うんだ。俺達がDISCHARGEから影響を受けているのと一緒で、NAPALM DEATHも俺達から影響を受けているんじゃないかと思う。ブラック・メタルや俺達が80年代中期にやっていたサウンドの要素を感じるからね。……俺は強い信念を持っていたし、他のメンバーもそうだったと思う。ただ、あの頃のシーンでは失望させられるやつも多かったよ。誠実さと正直さが全てだ。これ以上言えることは俺にはないな」

LET'S START DiGGiN'~PUNK BEFORE 1977

THE WHO

vol.29

TEXT:大越よしはる

…最近のこの連載のネタに対して一部読者様より「わかりにくい」との声アリ。…そうか、SILVER APPLESやトゥインク、わかりにくいッスか?…だからってワケじゃないが、先月と今月はわかりやす路線で(3月号でちゃんとした特集記事もあったことだし、60'sガレージはここではしばらく取り上げません)。で、今月。はい、またしても今更な感じのセレクションですが、やっぱり避けては通れないバンド…今回はTHE WHOです。イってみよう、ヨロシク。

学校の同級生だったピート・タウンゼンドとジョン・エントウィッスルの2人が、1962年に学校の先輩だったロジャー・ダルトリーのバンド、THE DETOURSに参加する。メンバー交代を経てロジャー・ダルトリー(Vo)、ピート・タウンゼンド(G)、ジョン・エントウィッスル(B)、ダグ・サンデン(Ds)の4人でTHE BEATLESのコピーなどを中心に活動していたTHE DETOURSだったが、やたらデカい音での演奏がすぐに評判となった。しかし同じ名前のバンドがいることがわかったんで、64年2月、バンド名をTHE WHOに変更している。当時のイギリスのミュージシャンの王道的パターンとして、メンバーはこの頃からブルーズやR&Bに入れ込むようになり、レパートリーもブルーズ/R&Bのカヴァー中心になっていく。

その頃、評判を聞きつけてTHE WHOに挑んだのが、サーフ・バンドTHE BEACHCOMERSのドラマーだったキース・ムーン。「俺の方がダグより上手く叩けるぜ!」といって泥酔状態でステージに上がったキースは、その場でオーディション代わりにTHE WHOのメンバーたちとボ・ディドリーの「Roadrunner」を演り始めたが、メチャクチャなプレイの末、2分と持たずにドラム・キットを破壊しつくして、更にその場でゲロったとかそうでないとか…。後にドラム破壊パフォーマンスでMAD3に道を拓いたキースだが、最初から破壊王だった訳です…。そんな大馬鹿を一発で気に入ってしまうのが、このバンドの偉大なところだ。キースはそのままTHE WHOのドラマーに収まった。

マネージャーの指示でモッズのイメージを前面に出して売り出そうとしたTHE WHOは、バンド名も一時モッズ風にTHE HIGH NUMBERSと変えて、1964年7月にシングル「I'm The Face」でデビューを果たすが、大コケ。マネージャーが交代してバンド名もTHE WHOに戻したが、一方でモッズ的イメージ戦略は更に徹底される。有名なターゲット模様のシャツやユニオン・ジャックのジャケットでキメて、鼻がデカくてモテなかったピート・タウンゼンドもモテモテに…なったかどうかは知らないが、腕を無駄にブン回す風車ギターやステージ終盤の楽器破壊パフォーマンスで、人気沸騰。「I'm The Face」から半年後の65年1月、シングル「I Can't Explain」で改めてTHE WHOとしてのデビューを果たす。

THE KINKSの代表曲「You Really Got Me」のリフやコード進行に影響された「I Can't Explain」だったが、パワフルなリズム・セクションにポップなハーモニーが乗った独自な味わいで、全英8位の大ヒットを記録する。続く「Anyway Anyhow Anywhere」も全英10位、そしてそれに続いたのが「My Generation」だ。「俺の世代について話そうぜ!」と繰り返されるコーラス、異様な迫力で鳴り響くジョン・エントウィッスルのリード・ベース(レミーやジャン・ジャック・バーネルあたりに与えた影響はデカイだろう)、華麗なギター・ソロなんかとは無縁にかき鳴らされるパワー・コード。この曲がなければ、返礼となるリチャード・ヘルの「Blank Generation」も生まれない訳で。若い野郎どものフラストレーションの爆裂、それこそはパンクの原動力だが、それは1965年、THE ROLLING STONESの「Satisfaction」やTHE WHOの「My Generation」の中に既にあったものだ。そしてそれはパンクだけでなく、ロックの一番根っこの部分にいつもあるものだ。

ともあれシングル「My Generation」は全英2位の大ヒットとなり、1965年12月にはデビュー・アルバム『MY GENERATION』がリリースされる。初期のTHE WHOを永遠に代表し続ける、ロック史上でも屈指の名盤。「I Can't Explain」路線のハーモニーが印象的な「The Kids Are Alright」は後にEDDIE & THE HOT RODSもカヴァーしたし、アルバムの最後に収録された爆裂インストロ「The Ox」の暴走ぶりも素晴らしい。

1966年に入ると、3月にはシングル「Substitute」をリリースし、これも全英5位の大ヒット。「俺は他の誰かの代役なのさ、背が高く見えるけどヒールが高いだけなのさ」と皮肉っぽく歌われる歌詞には、「俺たちとってもイカシてるだろ、だけど中身は空っぽだぜ!」と歌われたSEX PISTOLSの「Pretty Vacant」を連想せずにはいられない。実際、かつてのロック・スターたちをオールド・ウェイヴと斬って捨てたパンクの時代に、PISTOLSは「Substitute」をカヴァーしている(後にRAMONESも)。

1966年8月にはシングル「I'm A Boy」が全英2位とこれまた大ヒット。12月にはアルバム『A QUICK ONE』がリリースされ、「Happy Jack」がシングル・カットされる。これが67年には全米チャートで24位に入り、THE WHOはアメリカでも売れ始める。67年6月には有名な"モンタレー・ポップ・フェスティヴァル"に出演し、ハードな演奏と楽器破壊でウケをとった。この時にジミ・ヘンドリックスがギターを燃やしたのは、当然THE WHOのパフォーマンスに対抗するためだ。

一方で、THE WHOはポップなシングルと

『THE WHO』

『LIVE AT LEEDS』

『BBC SESSIONS』

ハードなライヴだけが売り物ではない、ということを明確にし始めていた。1967年11月にはアルバム『THE WHO SELL OUT』をリリース。『A QUICK ONE』から登場した組曲風の曲作りは『SELL OUT』を経て練り上げられ、69年5月にはロック・オペラ『TOMMY』で完成形となる。見えない・聞こえない・話せない三重苦の少年トミーの心の救済を描いた『TOMMY』は決してわかりやすい作品とはいえなかったが(しかも2枚組)、全米4位、全英2位の大ヒット。その後75年には映画にもなっている。

こうして深みのあるアーティステックなバンドとしても名声を博したTHE WHOだったが、一方で爆裂する野獣派のライヴ・パフォーマンスもTHE WHOの本質の一面だった。で、1970年5月にはライヴ盤『LIVE AT LEEDS』がリリースされる。ここで聴けるTHE WHOの演奏は、正にハード・ロック。それも音楽ジャンルとしてのハード・ロックじゃなく、文字通り〝ハードなロック〟としてのハード・ロック。ガナるロジャー・ダルトリー、咆哮するピート・タウンゼンドのギター、重戦車のようなジョン・エントウィッスルのベース、そしてキース・ムーンの狂気のドラミング。

その後もTHE WHOは更に邁進。1971年8月に登場したアルバム『WHO'S NEXT』は全英チャート1位、全米チャート4位の大ヒットとなり、THE WHOの最高傑作といわれている。名曲「Baba O'Riley」は、凝った音作りと不思議な展開で、曲だけ聴いていれば別にパンクっぽくは聴こえないが、繰り返される〝Teenage Wasteland〟というキーワードは、大スターになったTHE WHOがガキの頃の焦燥をまだ失っていないことを感じさせてくれる。

ピート・タウンゼンドのトータル・アルバム志向は続いていた。1973年10月にはまたも2枚組のロック・オペラ『QUADROPHENIA』をリリース。主人公ジミーの、モッズ連中の中で遊びまわるプライヴェートと冴えない社会人ライフの間でズタズタに引き裂かれるアイデンティティのドラマは全英、全米共に2位の大ヒット。79年には『TOMMY』に続いて映画化され、日本ではむしろ映画「さらば青春の光」としての方が有名だろう。

…その辺りまでがTHE WHOのクリエイティヴィティの頂点だったと思う。1974年10月には未発表曲を集めた編集盤『ODDS & SODS』を、75年10月には2年ぶりの新作オリジナル・アルバム『THE WHO BY NUMBERS』をリリース。相変わらずチャートの上位を占め続けていたが、やや切れ味を欠く感じになってくる。

THE WHOが1975〜76年にかけてスタジアム級の会場で大規模なツアーをやっている間に、若いバンドたちが小さなハコで粗暴なR&Rをプレイし始めた。ツアー後にしばらく活動を休んでいたTHE WHOがアルバム『WHO ARE YOU』をリリースしたのは78年8月のこと。既にパンクが音楽シーンを席巻していた。

THE WHOのメンバーたちから見れば、パブでシンプルなR&Rを荒々しく演奏している若い連中は10年前の自分たちそのものに見えただろう。パンクの種は確かに彼らがまいたものだったはずだが、1978年のTHE WHOはパンク・バンドじゃなかった。パンクに影響を与えながら、自分たちの活動にとってパンクが逆風となったのは、以前ここで紹介したDOCTORS OF MADNESS同様だ。DOWNLINERS SECTは10年前にやっていたことをそのまんままたやり始めて復活したが、巨大化し続けたTHE WHOにそれは無理なことだった。

追い討ちをかけるように、『WHO ARE YOU』リリース直後の1978年9月、キース・ムーンがアルコールとドラッグで急死。個人的には、THE WHOはここで終わりにするべきだったと思っている。バンドは翌79年、元THE FACESのケニー・ジョーンズを後任ドラマーに迎え、『FACE DANCES』(81年)、『IT'S HARD』(82年)とアルバムをリリースするが、やはり限界だった。82年4月には解散が発表され、解散ツアーの演奏を収録したライヴ盤『WHO'S LAST』(84年リリース)には『FACE DANCES』と『IT'S HARD』からの曲は入っていない。

その後もTHE WHOは度々再結成され、ジョン・エントウィッスルの死亡(2002年)を乗り越えて04年には初来日も果たしたし、今も世界のロック・ファンを沸かせているのは素晴らしいことだと思う。だがSEX PISTOLSにカヴァーされたあのTHE WHOは、やっぱり初期のアルバムで味わうべきだろう。80年にヴァージンが『MY GENERATION』を再発したのは、少し前に再発されたDOWNLINERS SECTのアルバムが元祖パンクとして評価されたのを意識してのことだったかもしれない。荒ぶるTHE WHOの真髄はライヴにこそあり、と考えれば、名盤『LIVE AT LEEDS』と、スタジオ・ライヴが堪能出来る『BBC SESSIONS』もオススメだ。79年のドキュメンタリー映画のサウンドトラック『THE KIDS ARE ALRIGHT』やベスト盤『WHO'S BETTER, WHO'S BEST』なんかも。

BATTLE OF NINJAMANZ

EUROPE TOUR REPORT

REPORTED: 柳屋ムツミ BATTLE OF NINJAMANZ

BATTLE OF NINJAMANZ 2回目の海外リサイタル(1回目は2月25日、2月26に韓国)は初ユーロ・ツアー! 6日間連続(マジかよ!)そしてサイコフェス(サタニック・ストンプ)の10泊12日。イヤー、マイッタマイッタ! ってな感じだったけど、鍛えてきたゼ! 鍛えてきたゼ!! バカになれたこのツアーをうるおぼえのままリポートする。(実話ドキュメント!)

3月24日(木)

成田からコペンハーゲン経由、プロペラ機に乗り換えベルリン着。MAD SINのコフテ君いわく、「迎えをよこすから心配するな」の言葉は案の定しっかりと守られてなかった。私達もハナっからそんな言葉を信じてなかったが、友人のハナヨさん(90'sキューティー・キッズは知ってるヨネ!?)がわざわざ心配して迎えに来てくれた。そして2日間のベルリンの世話をしてくれるプードル君の家に20分ぐらいで到着。最高にイイ男!!荷物を置いてスーパーに買い物。休日前ということでレジには長蛇の列。クソがスンゲー臭くなりそうな肉の塊がゴロゴロ陳列されてた(クリビツ!)プードル君お手製の料理をごちそうになり、みんなでおやすみ。明日のショウのため体調を整え、ZZZZ……と思いきや、最高の夢心地から一転、朝7時ごろGIGを終えたMAD SIN御一行(コフテ、ヘルビス、テックス)が乱入!!!このテロ行為により、時差もヘッタクレも今後なくなっていった。昼過ぎまでカンパイ・パーティー。

3月25日(金)

私達は今回のMAD SINのツアー(他、U.S. BOMBS/DEAD LINE/GENERETARS/etc)のアフター・ショウに同行。つまり、全部のバンドが終わった後に出演という形だった(コフテが気を使ってくれて、最初にやっても人がいないし、大勢の客に見てもらいたいとの理由で!)。SO 36という結構大バコ(1,000人ぐらい)でMAD SIN他のショウが終わり、そこからほど近いWILD AT HEARTで初ヨーロッパ・ステージ!!サイコス、グリーサーズはもちろん、パンクスもスキンズもいっぱいいて楽しかった!アンコールも1回やって、ギャラも出てまずはよし!ってな感じ。もちろんリハーサルなど無いけど気になんかしてられない。さあ明日はチェコだ!!

3月26日(土)

朝10時ごろ出発。ここからのツアー・バス運転手はCOCO君。彼はMAD SIN初来日の時、強制送還をくらった男である(笑)。「フジヤマを空から見た事が唯一の思い出だ」(泣!)と語ってた。まァ次は、お金持って日本に来て下さい。高速をひた走り、峠を越え、チェコのプラハへ。果たして人は集まるのか!?なんて思ってたら来るわ!来るわ!!スパイキー君からスキンズ君まで400～500人ぐらい。みんな私達を

楽屋のMAD SIN

ものめずらしそうにジロジロ見てる。ムフフ(コレがおもしろいもので忍zのショウが終わると一転、一気に友達になってしまう。以降6日間この繰り返しがつづく)ビッチな女が声をかけてくるが何を言ってるのかわからないので適当に「日本のサムライは京都の太秦映画村にいる」だの「渡辺 謙よりマツケンが今は有名なサムライだ!」と伝えたが彼女からは「オーッシット!」のみ。女にはじめて、口を大きくあけ、舌をなめながらウィンクされた。ムフフ。帰りはオマワリに停められたり、深い霧の中迷子になりつつも、なんとかホテル着。

3月27日(日)

さてさて、今日は音楽の都ウィーンへ。途中コフテ君と合流。プラハの彼女!?に別れを告げ、いざ出陣。そしてお約束のトラブル発生!コフテ君ツアー・バスにパスポートを忘れてきて、チェコ～ウィーンの税関で30分待機。(オイオイ、女からむと何かすぐ忘れるんだヨこの男わ!!)さらにGuのクボ君が勝手に国境を渡ろうとして、みんなに止められるし、それでもなんとかウィーンに入国。なぜか、女の人がポツリ、ポツリ、バス停やら、ガス・ステーションにいる。しまいにゃブラジャー全開の女までいる。なんじゃい?ここは!(結局そーゆーエリアだった)そして今回の会場へ。これがまたビックリ!1,200人規模のホールと野外ステージが1個、200～300人クラスのハコが2つまとまって高い塀の中にある。スッゲー!!まるっきり日本のシステムと違う。今夜も期待出来そうと思いきや、昨日をうわまわるパンクス、スキンズ、そしてサイコス。ビデオでしか見た事ないような鋲ジャン&トロージャン女!!ごっついスキンズ集団。1,000人位いた!MAD SIN終了後、いきなりコフテが「今すぐやれ!」とか言ってんの!ハァー!?マジかよ!心の準備ノー・ガードですヨみなさん。でもまァやるしかないでしょ!2曲だけ演奏して、隣のハコでやるから来てくれと言ったら、たくさん来てくれた。目の前でレズがチューしてた。2回のアンコールやってフィニッシュ。店のオヤジがラジオのDJやってるからインタヴューさせてくれと言ってきたが「アンタ英語そんなに得意じゃないでしょ?」日本人でもわかりますヨ!ヘタクソだもん。したがってやめた。さーて、ねんべねんべ!

3月28日(月)

ドイツはミュンヘンに6時間ぐらいかけて移動。MAD SINの新譜を聴かせてもらった。ラフ・ミックスだがシンガロング必至なカッコイイ内容。みなさん震えて待て!コフテに前から寂れた墓場はないか?とたずねてたのだが、よーやく見つけてくれて写真撮影。コフテいわく「きったない墓場はチェコぐらいにしかない!」と言ってた。今日の会場はさすがドイツ、サイコスがかなり多い。「お前は忍zだろ?シュパイヤーに行くからな!」と声をかけられた。待ってるヨー!ドイツ式のカンパイでかなりベロベロになった。

ベルリンSO 36楽屋

3月29日(火)

アーヘンという田舎町まで8時間ぐらい。ツアー・バンドの連中が口を揃えて、この会場とオーディエンスはクソだ。と連呼してたが、いざ私達がやってみると、あーなるほど本当ノリが悪いわ!でも関係ないもんね。だって誰1人私達の事知ってる人がいないんだから。他のバンド、メンバー・スタッフに対して、バカみたいに叫んで唄った!これもまた気持ちEものだな。物販コーナーで高校生ぐらいの子が金がないから、ニルヴァーナのパッチと交換してくれ!だって。しょーがねーなァーもう。店を追い出される感じでMAD SIN他のツアー・バスで1杯。ベッドが20個位!テーブル付きの4人がけシートが3つ!!スゲーなァ。こんなバスでツアーやったら本当楽しいだろうなァ…

3月30日(水)

フランクフルトに近いダルムシュタットにてMAD SINとの6日間連続(忍Zは初体験)ユーロ・ツアー最後の町に到着。かなり古い建物&音が悪い。そしてもの凄く熱い、カビ臭い、最悪だなァここは…でもまァいつも通り「やるしかネェ」…だな!この条件の中いつもどうりMAD SINは花火を打ち上げ!ヘルビスは火を吹く(芸術的)ハコの中煙りで2m前しか見えない(コレ本当)それでもやりましたヨ。前略、お母さん!最後みんなとハグ、ハグ、ハグハグ!!忍z&コフテ、ココ、プードルとドイツのトラディショナルなホテル(旅館?)にて朝まで呑み明かす。コフテは本当に別れるのが寂しかったみたい。目に涙までためてネ…ここじゃ語れない話もいっぱいしたしネ…なんかさァ、なんて言うの?友達だから?イヤイヤ、この感じは…そう!家族の絆だ!間違いなくファミリーだ!!なァ兄貴!!!(ダメアニキ!!!!)さあ次はラスト、サタニック・ストンプのみだ。(P.S. GuのクボSはクボ君朝までコフテと語りあったせいか、風呂の水を流しっぱなし。部屋が大洪水の中寝てた。むろん、逃げるようにバックレた。そして日本からメールが届いた…訃報だった。)

WINEのライヴ

ベルリンWILD AT HEART楽屋

3月31日(木)

フランクフルトにてOFF。ROBINと夕方合流。アイリッシュ・パブとケバブ屋に行って、ホテルのロビーでDIE IN STYLEのラッキーとサンドラと飲む。さてと今日は早く寝よう…

4月1日(金)

SATANIC STOMP

今回のツアーはこのサタニック・ストンプのオファーにより始まった。DEMENTED ARE GOのマーク、KLINGONZのチッチ、ドイリィ、ストランギー、モッカー達がすでにこの会場入りしており久々の再会にハグ、ハグ、ハグハグハグ!!である!ROBINも忍zもストランギーがベースを貸してくれるとの事。サンキュー!初日、日本代表はROBIN。次の日、忍zである。ウヒョヒョヒョーイ!7時ころ客入り。ポツポツと集まってくるが、気がつきゃ1,000人オーバーのサイコス。ドイツはもちろんヨーロッパやアメリカからたくさん来てた。ポーランドのヤツにまたしても「サムライのハートを信じてる。宮本武蔵が好きだ」と語ってきたのでもちろん適当に「だったらマツケンをお前は知ってるか?」と返した。そしたら、そりゃーもう興味深々!でも面倒なのでシカトしたらROBINのヒロシ君がつかまって、テキーラ10杯飲まされたって!(笑)だってあいつら、サムライもニンジャも今だにいると思ってるんだもん。「俺達がラスト・ニンジャなんだぞ」と言っても「ハイハイ、その話しはおいといて!」みたいな仕草をしやがるプンプン(笑)。まァこんな話どーでもイイヤ!ROBIN!ROBIN!!1,000人中、日本人10人。つまり100人に1人か…ほほーう少数派(マイノリティー)ってやつだな。イイじゃない。やっつけてやってよ、ROBIN!!そりゃー!いったァ!いったぞ!!…不思議と体の中から熱いものがこみあげてくるなァ。そして握りしめるコブシ!最初とまどってる外国人サイコス(こっちじゃアタシ達が外者か!)も徐々にノリはじめてる。イイゼ、イイゼ!!やるだけやっちまえー!ってなもんだ!最後にゃみんなノってたぜ!最高!!見たかシュパイヤー!!アレ?サムライとニンジャってここにいるじゃない!!なんちゃって一カクカク(古)ヨーロッパのファミリーも大絶賛してた!ROBINの日本人のプライドをドイツで見た!アリガトウ!

4月2日(土)

2日目。外の駐車場でサイコスはキャンピング・カーの前でガンガン音を出しながらBBQ&Beer!楽しそうなので見物。ビールもらったり、肉くったり、桜も咲いちゃって、お花見気分!今日で最後かァ…プードル君も寂しいって!アタシ達だって寂しいよ…でもやるしかない!…ハイ!ライジング・サン・バンダナをしめステージへ。666%やりとげたよアタシ達。そしてアンコール1回やって、今回のユーロ・ツアー・フィニッシュ!LIVE終了後、物販コーナーでお客さんが待っててくれた。持ってきたCDもTシャツもほぼ無くなった(結構それ

ダルムシュタット　忍Z、MAD SIN、etc...

がうれしかった!)サタニック・ストンプ以外今までツアーの演奏のどーのこーの?内容なんてどーでもいいからあんまり覚えてない。Drのヒゲちゃんも、Guのクボくんも、W.Bのエマも、合の手のマークンも、そこにステージがあるからやるのであって、いい汗をかく!それだけで気持ちよかった。ただおもしろいのは誰もアタシ達の事を知らないって事。海外1年生に対して最高の褒め言葉は「お前達COOLだ。ところでバンドの名前なんて言うんだ?どっから来たんだ?」ムフフフ次は覚えといてちょーだいネ!

今回のツアーで感じた事は、そのォつまり、これはツアーじゃなくて合宿だったって事(笑)?それも特訓!リハもない、ショウも1時すぎ、で何時にやるかわからない、そしてロング・ドライヴの末、いきなり飛び入りしたり、かなりハチャメチャ。それもすべてをブッキングしてくれたビッグ"コフテ"デヴィルの愛情でしょう。アイツ、ポケット・マネーで全部やってくれたし…あんなデカイ体なのに心は繊細で他のゲスト・バンドといるよりオレ達といる事を凄く望んでるのがわかったし、大切にしてくれた。ヤツと別れてからストランギーの彼女の元へ電話があったそうだ。コフテが「オレは忍zにジェラシーを感じてる」って…。そしてストランギーもオレ達のステージを見て、泣いてたって。彼女がそっと話してくれた(クボ君談)。フゥー…これ以上何をのぞめって言うの!?本当にうれしい言葉だ。そのクボ君もギター・ブラザーのテックス以外になんと師匠とも言える人物と運命的な出逢いもした。(アタシ達はその方に敬意を込めて"軍曹"と呼んだ!)クボ君は2ヵ月ものあいだアメリカをさまよってドイツでアメリカ人のスッゴイカントリー・シンガー&ギタリストに会うんだもん。巡り合わせってフ・シ・ギ…そうそう、あと関係ないけどやっぱ海外でバンド見ると全然カッコよさが違う。FRENZYなんて最高だったし、GUANA BATZはチョーグレート!!!すぎた!日本で見るのと本当ケタ違いにイイ。なんなんだろうなァ…?空気感?まるっきり違う違うもんなァ…オッサンどもが子供みたいにはしゃいでるし昔ほどのレッキンはなくても(それでもそーとーな人数)1人1人楽しみ方を知ってる。フムフム…アメリカから、カラベラとレズレックスとビッチな女の子バンド(たぶんヤラレ系)来てたけどビッチちゃん以外、オレ達と同じ境遇だったせいか気も合った。

カラベラのGuのヤツ本当面白くて、アタシが1人裸祭り開催中の時も一緒にノッてくれたり、レズレックスのダニエル君も少し無口だけどイイ男だった(外国人のオチンポから比べりゃーそりゃアタシのオチンポはピーナッツですケドネ!プンプン…)。実は私、はじめての時差ボケでして、日本帰ってきてからこの原稿を書いてるのですけど、まるっきり記憶がさだかではないのです。(ナニー!?)とはいえ、おぼえてる事しか書いてないのでウソはついてません(笑)。たぶんそーとー緊張してたんだと思う(笑うなよ!)。だから最後のシメ何を書こうかずーと迷ってるのですよ。ツカモトさーん!何にすっかなァ……アレも書きたいケドまずいしなァ……イヤイヤそれもまずいでしょう……あっそうそう、お世話になったプードル君の話で彼ずーっと髪の毛のセットがきまらず、失敗するたびに壁にパンチ入れたりドアを蹴飛ばしたり、一気に豹変するんですヨ!(笑)コブシまで腫らして。普段最高に優しい男なのに何でそこまで自分を責めるんだって聞いたら、ヤツこう答えたよ。「コレなかったら(サイコ刈りにゆびさして)Not?me(オレじゃない)だって!!!!!!!!!」

THANKS to
MADSIN, COCO, POODLE, DEMENTE DAREGO, KLINGONZ, CALAVERA, REZUREX, SANDRA, HANAYO-SAN, WILD AT HEART

次回BATTLE OF NINJAMANZ リサイタル・ショー
5/28(土)新宿 LOFT"TOTAL MADNESS"
with:FORWARD, PILE DRIVER, 日本脳炎, SAIGAN TERROR
新生BATTLE OF NINJAMANZをお楽しみに!

4月5日(火)
成田着、夜。こんな大不良!今まで見た事ネーよ!!ってなぐらいなロックンローラーとの最後のお別れをしてきた。みやげ話しいっぱいもって帰ってきたんだけどなァ……まったく話しできネーヨ!!プンプン……ねェビリーさん!!!!

音楽的生活様式

音楽的日常風景の報告メモ　連載190回

森脇美貴夫　Micky MORIWAKI

「ジョー・ストラマーと『繁華街のネズミ』」

3月某日

雨が雪に変わり少し積もった。関西の友人T氏から電話。「たまに日記読んどるけど、病気の話多いな。辛気くさいな。もうちょっとパッとした話ないのか。全然ポップなとこもないし、音楽のことなんか殆どないやんか。老人の日記やな、病気日記みたいやで」と言われる。私は苦笑しながら、「まあ、そやけど、実際病気やからしょうがないやんか、それにオレはもう老人の年齢やで、そやから『老人日記』でエエねん」と言った。「そない言われたらそうやけど、読む方としては暗なるな」「エエねん、オレは。読む方よりオレの方が暗いからな」「オマエ開き直っとるな」「ハハハ…」「まあ頑張れや」「何を?」「ハハハ…なんでもエエから頑張れちゅことや。また電話するわ」。T氏は病気知らずである。私はそれを羨ましいとは思うが、だからといってT氏はT氏であり、私は私であることはどうしようもない。

雪降って雀の声もうすくなり

3月某日

アシュラサードのラムダ氏から3年かけて1人で制作したというデビュー・アルバム『アシュラサード』をプレゼントされる。ハードコア、テクノ、トランスなどをミックスしたダンス・ミュージックと言ってしまっていいのだろうか。メインのヴォーカルは女性である。私はこのバンド(プロジェクト・チーム?)をまったく知らなかったのであるが、何の予備知識なしに音楽に接することはいつだって新鮮である。CDはなかなか面白かった。パンクそのものではないが、楽しめる音楽は一杯あるということだ。CDとはまったく別に「ラムダのゆるゆるKICK」(何かの連載記事か?)から抜粋された原稿のコピーが添えられていて、そこには彼のこれまでの日常生活のキャリアが語られているのだが、これがなかなか読み応えがあるのだ。大阪でのんびりといい加減な生活を過ごしていたある日、体調が悪くなり、医師から「ネフローゼ」を宣告され、もう死ぬのかと思い、人生感が変化し、独りヨーロッパに渡りストリート・ライヴを演りながら生きるということ、生きているということを色々と考えてしまった、というようなことがシリアスでありながらも面白おかしく(失礼)展開されているのであった。医師は「あなたは長生き出来ない」と言ったのであるが、その時の当人の心境を今の私は未だイメージすることが出来ない。因みにネフローゼとは腎臓疾患であり故寺山修司もこの病気であった。ともあれ、この「ラムダのゆるゆるKICK」はまるで良質の短編小説そのもののようで私は一気に読み終えたのであった。

「繁華街のネズミ」(中井多賀宏/文芸社)

3月某日

甲府のF氏から電話。「体調悪そうだね、ラマ舎の長田やT氏にも久しく会ってないみたいだね」と言われる。「そっちはどう?」と私。「オレは絶好調だよ。身体悪いとこ1つもないからね」「そうなんだ、じゃあ、それだけでFさんは人生の勝利者だよ」「何、それ?」「いや、健康が一番大事ってことだよ」「そうか…そうかもしれないな、この年齢(F氏は私と同じ55歳)になるとそういうことになるかな」「そうだよ、オレは今のところ人生の敗北者ってことだ。——でも、まあ、いずれにせよ、皆んな行き着くところは同じだけどね、死ねば終わりだ」「まあそう言わないで、もうしばらく生きていこうよ」と言いながらF氏は少し笑い、私もそれにつられて笑ってしまったのであった。

3月某日

クリニックから帰り井の頭公園の木々の上をふと見上げると、そこには明るく黄色に光る満月があった、それも信じられぬ程大きな月で、いまにもこの地球に落ちてくるのではないかと思われる程の近さで輝いている。私はしばし立ち停まり、そっと月に向かって手を伸ばしたのであった。

3月某日

大阪の中井多賀宏さんから詩集『繁華街のネズミ』(文芸社)をプレゼントされる。同封の手紙に「クラッシュ、ジョー・ストラマーを敬愛しています。今回の作品もジョーから学んだ視点で作ったもの…」と記されている。著者プロフィールに依れば中井さんは32歳で、詩人、作家、音楽家、フリーの憲法講師とのこと。32歳というのは私から見れば随分と若いということになるが、本人にとってはどうなのだろう。自己の10代、20代を振り返れば、32歳というのはもう十分にいい年齢、けっして若くはないと思っているのかもしれない。因みに私は大学を出てこれといった仕事もせずにいた時、某出版社の人に「ところで——君は何歳だっけ?」と訊かれ、ちょっと口ごもりながら「もう24です」と言ったことを今も鮮明に覚えている。この「もう」には当然ながら自分は「若くはない」ということの自覚があったのであるが、「なんだ未だ若いね」という言葉を返された時のとまどいのような気持ちを覚えたこともまたたしかなことであった。私は私のことを「もう若くない」と思い、他者は「未だ未だ若いじゃないか」と思った。この差異を当時の私は上手く捉え消化することが出来なかった。ともあれ、「中井さん、あなたの32歳はどんな感じですか?」と私は問うてみたくなったのである。この詩集の帯コピーには「逃げるか　押しつぶされるか　二つに一つしかない行き場の無い繁華街で明日という新しい1日から俺達は逃げる。雑踏の孤独の塊の叫びを綴った詩集」とある。私がこのコピーに言葉を重ねる必要はない。私はこの詩集から1つの詩をここに採り上げておくだけである。

—歯抜けの商店街—

歯抜けの商店街をとぼとぼ歩く

この寂しさは
いったい誰のものやろうね?

中井さんの手紙の終わりに「いつか——さんとジャンジャン町でクシカツでも食べたい——」とあった。林君のいない大阪、林君のいないジャンジャン町。私はいつかそんな大阪、ジャンジャン町で中井さんに会うことがあるのであろうか。かつてジョー・ストラマーはクラッシュの音楽について、「すべては歴史が証明してくれる」と言ったが、歴史を作るのはいうまでもなく人である。が、その人が誰であるのかは、誰にも分からないのであった。

4月某日

3月末に咲き始めたわが家の杏は満開である。鮮やかなピンク色の花が青い空の中に溶けてゆくような様は実にキレイである。

4月某日

私はニール・ヤングのベスト・アルバムを聴いていた。窓から見える玉川上水沿いの桜がキレイであった。

SUZY & LOS QUATTRO

スペインのパワーポップ/ポップ・パンク系バンド、スージー・アンド・ロス・クアトロのフル・アルバム「READY TO GO!」が国内盤としてWIZZARD IN VINYLから発売された。更に磨きの掛かった洗練されたポップ・サウンドを堪能することが出来る。日本へ向けて歌われた「Lipstick To Japan」、GO-GO'Sの「Vacation」を含む全11曲、盛りだくさんな内容のアルバムとなっている。

THE PEPPERMINT JAM

俺たちはペパーミントジャムを極めてる

INTERVIEWED:恒遠聖文
[3月30日/新宿らんぶる]

永遠の悪ガキ、ザ・ペパーミントジャムが、ティアドロップスの柳川氏の熱いラヴコールに応え、TICK TACK(VIVID)からニュー・アルバム『野暮なトラ』をリリースした。甘く切ないメロディーはますます磨きをかけ耳にこびりついては離れないし、ちょっぴり大人になった(中三から高一くらいの感じ)感はあるものの、持ち前のやんちゃっぷりは更に拍車がかかっているから手に負えない。野良猫がトラを気取る痛快な様を感じておくれ。

▶これまではLetrock/HEAVY SICKからのリリースでしたが、今回はVIVIDですね。
AKIHISA(以下A)「柳川さんに前から話をもらってたんでPONさん(ラフィンノーズ/Letrock)に話したら、どんどんやった方がいいぞって言ってくれて」
▶せっかくなんで柳川さんにもペパーミント～の魅力を聞いてみたいんですが。
柳川「VIVIDでやるっていう以前にもう大っ好きで。ロカビリーなんだけど日本語でポップだし、これは引きがあるなぁって。あと、うち(ティアドロップス)に近いなぁと」
▶たしかに近いですよね。
柳川「でも、うちらは完全にカワイイ路線を狙ってたんだけど、彼らには不良っ気、男っぽさがありますよね。で、これはロカビリー界の中だけでは留まらないなと思ってラヴコールを送ってたんですよ。ただletsrockやHEAVY SICKとの関係を壊してまではやりたくなかったんですけど、PONさんとオカポン(HEAVY SICK)がVIVIDに来てくれて『頼むよ、なんか文句いったら目黒川に沈めていいから』って」
A「わはははははは」
柳川「だから最初はファン的な感じだったんです。で、それから付き合いはじめて飲みに行ってみたら……ガックリきましたけどね」
▶なにかあったんですか?
柳川「こいつ、いきなり脱ぎだして」
A「いや、仲良くなるにはてっとり早いかと思いまして。お出ししときました(笑)」
柳川「あと、最初は『ティアドロップス、ファンだったんですよぉ～』って言ってたのに、あとで聞いたらホントはマジックのファンだったんですよ」
▶でも、ティアドロップスも好きでしょ。
A「そりゃあもう好きですよ、もちろん」
TOSHIHIKO(以下TO)「影響うけてます」
A「もうパクりまくってますから。詞をみながら気に入らないとこに赤ペンをパッパッパッって入れて……」
▶気に入らないとこって、ひどいこと言ってますが(笑)。
A「(無視して)はーい出来たって言って。すぐ詞が出来ちゃうんですよね。俺はもうパクりの王様ですから!」
▶でも、けっこー詩人ですよね。
WATARU(以下W)「絵が浮かびますよね」
▶ヤンキー漫画とかで5話に1話くらい切ない話があるじゃないですか、そんな感じがあるんですよ。
A「そう、それ!ヤンマガ路線ですよ!」
▶情景描写が独特ですし、歌詞だけ読むとよくこれがリズムにのるなぁって感心します。
W「知らないとこで、実はちゃんとやってるんですよね」
A「そう、みんなの知らないとこでコソコソと赤ペン先生は働いてるんですよ。まぁ、最近はRCサクセションからパクリまくってますからね!(得意げに)」
▶そんな威張って言われても……。パクってるかどうかは知らないですけど、たしかにRCの歌詞の雰囲気はありますね。『トランジスタ・ラジオ』とか『スローバラード』とか。
A「す～ぐ、いただいちゃうんですよね!(再び得意げに)」
▶だから、そんな威張って言わなくていいですってば(笑)!では、今回はどんなアルバムを目指しました?
W「僕はロカビリーとかパンクとかっていうジャンルより、歌のメロディーのイメージの方が強いんで、それがうまくまとまるようにしました」
TAKUYA(以下T)「僕は、いい音でカッコイイやつをってことしか考えてなかったですね。入ったばっかりですし」
▶そういえば、TAKUYAさんの加入のいきさつを教えてください。
TA「僕が地元の後輩なんです。僕も自分でバンドやってて、いきつけのスタジオで会ったりしてたんですよね。で、(AKIHISAは)空手やってたんで、たまに蹴られたりして」
W「ほんとのこと言っちゃだめだって(笑)」
A「いや、もうハッキリ言って暴力のみがこのバンドを支配してますから」
▶もともと目をつけてたんですか?
A「まぁ、なんかメンバーは近くに住んでた方がいいじゃないですか。スタジオも近い方がいいし。俺は練習嫌いだから」
▶嫌いなんですか。
A「大ッ嫌い(即答)。俺、2回に1回は行きませんもん。練習ってわかんねぇな。俺、これ以上のびねぇし!」
▶そんな言い切られても(笑)。
A「だからまぁ、遠くに行ってまでやりたくねぇから、地元で『あ、イイのがいた』って」
▶では、彼が入ってどうですか?
A「もうねぇ、最初はほんと頭きてました!」
▶そんなこと言わなくていいですよ、こんな場で(笑)。練習こないくせに。
A「30分くらいしか顔ださないくせに、下手だ!下手だ!って言って酔っ払ってくだまいて帰りますからね」
▶嫌な先輩ですね。
TA「こわいんですよ」
A「いや、でも、入ってよかったよ。やりやすいし」
TO「ブルースとかやってたらしくて、アドリブが得意なんですよ」
W「あと、レコーディングの知識もってるから、ずいぶん助かったよね」
A「……嫌な奴だよなぁ～」
▶なんで、そこでおとすんですか(笑)。
A「レコーディングで俺が自分の声をもっと深く、もっと濃くとか言うじゃないですか、それをこいつが目もりにしていくんですよ」
▶心強いじゃないですか。
A「心強いですね。で、ぜんぜん心強くないやつが……こいつ(WATARU)!ドラムなんて2日くらいで録り終えてんのに、なんか知らないけどこいつは毎日くるんですよ。で、弁当だけ食って帰る」
W「何回かありましたねぇ～」
A「何回かじゃねぇよ、ずっとだよ!あとは別室で漫画よんでたり」
▶ひどいですね(笑)。
A「コーラスの時でさえ弁当食ってましたから

ね」
▶それはもう、クレジットは(弁当)にした方がいいです。さて、今回はちょっとだけいつもより大人っぽい印象があります
TO「今回はポップな曲よりも、ちょっとマイナー調のをメインで」
▶たしかにマイナー調の比率が高いですね
TO「それは意識的に。そういう曲の方がAKIHISAのヴォーカルが生きると思って」
▶たしかに。あと、ペパーミント～どっかしら歌謡曲のにおいがありますよね
A「まぁ、俺たちはリーゼントしてるしウッドベースも使っちゃってる以上はロカビリー・バンドだから、それは大切にしていきたいんですよ。ただ、ロカビリー・バンドっていうのはみんなロカビリーしかやんないじゃないですか。でもね、俺たちはそれ以前から聴いてた、長渕剛、矢沢永吉イズムにのっとってるわけですよ!なんか、みんなそこら辺のバックボーンを出さないじゃないですか」
▶まぁ、出す必要ないですしね(笑)
A「でも、俺たちはそれを恥ずかしがらずにね。どっちかっていうと永井真理子の『ミラクル・ガール』も聴いてたぞ、って部分も大切にして」
▶よくわかんないですけど(笑)
A「そこら辺は俺たちの大切な部分を占めてるし、今まで吸収してきたいいものを出していこうと。それがペパーミントジャム!」
▶反則技はなさそうですね。こういう部分を出したらマズイだろうっていう
A「でも、最近はチンコは出さないように」
▶それは意味が違います
A「自分のMCに限界を感じたら出しちゃうみたいな。大阪で出したら『こいつは喋る能力がない奴だ』って目で見られましたよ。だからもうやめました。俺はもう大人になったんですよ!そういう部分がアルバムにも出てるな」
▶大人っぽさの理由はそれでしたか(笑)。では聴き所は?
A「一曲、バラードを歌ってるんで、ぜひとも女の子を口説く時にバックで流しといてください」
▶以前、女の子が家に来るときはわざと窓辺でわざと歌ってるって言ってましたよね
A「当然じゃないですか! 女の子を口説く時は今夜きみ～(二人だけ/キャロル)…から始まるんですよ。それを窓辺で聴こえるように歌って、『あれ?聴こえちゃった』って言うんです」
▶ははははは。では、今後はどんなバンドになっていきたいですか?
A「今後?バンドやって食っていけるバンドになりたいっすねー」
▶現実的だなぁ
A「だってそうでしょ。あとはねぇ……モテたい!ようはそれですよ。モテたいからがんばってるわけですからね」
TO「あとは世界進出ですね」
A「しかも日本語でね……って、それ言っちゃだめだよ!」
TO「あ、だめなんだ」
A「だってマネされちゃうんじゃん。一番最初にやった奴が一番えらいんだから」
▶(最初じゃないと思いますけど)。では、最後にメッセージを
A「なんだろな?今日も元気でがんばろーとかしか思いつかねぇよ」
▶では、TOSHIさんに締めてもらいましょ。
TO「え、俺っすか?じゃあ……(いきなり悪ぶった口調で)俺たちは、ペパーミントジャムを極めてっからぁ、みんなついて来い!」

BREAKfAST

7年やってるとヒガミっぽくなります(笑)

INTERVIEWED: 行川和彦　[3月25日/新宿らんぶる]

ケンジ・レイザーズ(RAZORS EDGE)のレーベルのスラッシュ・オン・ライフから、BREAKfASTが2年4ヶ月ぶりのセカンド・アルバム『3rd & ARMY』をリリース。メンバーの岡のアイディアで作った日本脳炎とのスプリット盤を経て、発酵した旨いサウンドが詰まりまくった逸品。やっぱ彼ら、一味違います。フリーキーなファスト・ナンバー中心ながら、ファンキーなパンク・ロックもたっぷり用意し、前後不覚のスロー・ナンバーも披露。まあ人気バンドにもよくライヴに誘われるせいかオシャレ系とも見られたりする。けどメインストリーム・インディにも属さず、アンダーグラウンド村にも属さず、何気に飄々と孤高のオーラを発する正直で人間味たんまりのバンドなのだ。『3rd & ARMY』は百万年後も色あせない。ホント音楽が好きなんだなぁとボディ&ソウルに響いてくる音だ。ジャケットは、ブラック・フラッグのアート・ワークを手がけまくったレイモンド・ペティボンがメンバーの似顔絵を描き、はっぴいえんどの『風街ろまん』風のデザインに仕上げられた。メンバーは森本(vo)、酒井(g)、岡(b)、添田(ds〜今回の取材には欠席)。

▶まず今回のアルバム、こんな感じにしたかったとかはあります?

岡「曲調とかおおまかなことは、前作と一緒。速い曲があって、ロックな曲があって、遅い曲があってというバランスはだいたい同じで。あとは一曲一曲に、前のアルバムが出てから今までのアイディアを、それぞれが出し合ったと。自然に、各々やりたいことをそれぞれ持ち寄るみたいな」

森本「でも『セカンドにも遅くて長いの入れた方がいいんじゃないの』とか言ってた(笑)」

酒井「速いのができたから、じゃあ速くないのも作ろうかみたいな感じで増えてった曲がアルバムになってった(笑)。速いのだけだと、つまんねぇもんな、俺は」

▶語弊があるかもしれませんが、パンクとか何かしがみついているようなバンドがぼくはダメなんですね。けどBREAKfASTは違う。

森本「あとは、このスタンスが、認められれば、いいですね(笑)」

酒井「一般(の人)に認められれば(笑)」

▶聴いて思ったのは、やっぱりクセがあるのは変わってないというか、そんなに器用ではない。結局みなさんが描いている音楽が自然と出ているんじゃないかと思うんですよ。作為なしで。たとえば"[illegible]みたいな曲を作ろう"みたいな感じで作ることあるんですか?

岡「俺はベースで作ってて、そういうの意識してるところはあるんですけど、それをいい意味で(他のメンバーが)裏切ってくれる。そういうのが面白くて。自分が考えてきたものに対して想像がつかないもので出してきて、まったく違うものにできあがって面白い」

酒井「俺はツェッペリンとか考えて作って全然ツェッペリンにならないから不満だ(笑)」

岡「そう感じる曲がまったくない(笑)」

▶まあファンキーな曲にそれっぽい匂いもありますね、強引に解釈すると(笑)。でもパンク/ハードコアの曲を作るって意識もない?

酒井「やっぱ速い曲を作ろうとしたら、ハードコアのことを考えてしまう。でも、そう考えなくても作れるんですけどね。だってマイナー・スレットやバッド・ブレインズやブラック・フラッグとかが曲作った時って、手本になるハードコア・バンドっていないじゃないですか。あいつらは、ブラック・サバスやツェッペリンやテッド・ニュージェントとかを聴いて、ああいう音を作ってるわけだから。俺としては、そういうふうに作りたいなと」

▶実際そんな感じがします。70's パンクはあったにせよ、それ以前の(音楽の)影響が強いじゃん、あのへんの人たちって。

酒井「だからオリジナル・ハードコアの連中の人たちがやったような感じで俺は速い曲も作りたいなと思って作るけど。ボストン・ハードコアっぽくなればいいなとかって(笑)」

▶今回も楽しめたのが、やっぱり焼き直しとかでないからですね。ハードコアの曲でも色んなもののダシが利いているのがわかるから。みなさんの中で蓄えているものがあるという。今いわゆるパンク/ハードコアの新譜を買ったりとか、あまりないそうですが、他の系統の音楽を買うのに忙しくなったから?

酒井「そうですね、普通のロックを買うようになったのかな。さっきの話みたいになるけど、(パンク/ハードコアの)オリジネイターたちは、横のつながりのバンドか昔のバンドしか聴いてないなぁーと。ハード・ロックの迫力のバーン!とハードコアのガーン!というのと一緒に感じるんですよ。だからって今のハード・ロック・バンドの新譜も全然買ってないし。ぼくは70年代のロックのCDとかばかり。あとはCORRUPTEDかなっ(笑)」

▶ちなみに今回の多くの曲を作った酒井くん、パンク/ハードコア以外の普通のロックでのめりこんでいるものは?

酒井「普通のロックなら、今も昔も俺はレッド・ツェッペリン。あとザ・フー。俺全然チェックしてなくて、二人(森本と岡)は聴いてたから借りたら、すげぇカッコよくて」

▶もともと酒井くんは王道もの聴いてたね。

酒井「ビートルズとかストーンズとか、王道が好きですね。王道は王道なだけあって、カッコいいからね。マニアックなのもいいけど、わかりやすくカッコいい……そういうのってやっぱ参考になるなと俺は思うんですよね」

▶ミュージシャン的に?

酒井「ミュージシャン的に。聴いてて"だからカッコいいんだー"みたいに思ったり。ここでこういうコード進行持ってきたからこの曲はいいんだ、とか。このギターのリフに対してドラムはこういうリズムを叩いているから、パッと聴き複雑な印象を与えるけど、よく聴くとただシンプルにリズムが違うふうに進んでるだけだ、とか。そういうのって王道のバンドって上手く表現してる」

▶「ノンフィクション」って曲は、スローだけど面白い曲ですね。ファーストに入っていたスローな曲ってあからさまに…。

酒井「ブラック・フラッグ(笑)」

▶…の『My War』に入ってる曲みたいだったけど、これはどういう感じで作りました?

酒井「ダイナソーJRとキング・クリムゾンで(笑)」

森本「だからブラック・フラッグっぽくないんですよ(笑)」

酒井「でもSSTっぽいんですよ。でも、これはすごくBREAKfASTって感じになったんじゃないかなぁ」

▶オリジナリティあります。ちなみに音質、色々考えた?ファーストとかなり違うので。

酒井「前のは高音がギャーッ!ってなってて俺は耳ざわりな感じがしたから。昔のハード・ロックなんか聴くとそういう音してないから、そういうのに近いミックスを今回したなぁー。中音とか低音を(出して)。ヘンな言い方をしたらこもっている感じ。そういう音にしたかった。だから大きな音で聴いても迫力のある、耳ざわりじゃない音に、したくて」

▶いい意味で一般の人にも聴ける音の仕上がりだと思いましたよ。でも今のメジャーの音質とも違うという。

酒井「今のメジャーの音っぽいドンシャリでヘヴィなのは…。(今のメジャー系CDを、今回ミックスしたCHARM〜EXCLAIMの)ウガくんが『こういうのもあるよ』って色々聴かせてくれたんですけど、ちょっと違うなと。ツェッペリンやクリムゾンみたいな70年代のああいう音を、がんばって目指しました」

▶歌詞の話にいきましょうか。今回もスケボー関係が多いですが、森本くんの歌詞はスケボーやっている時パッとイメージが浮かぶ?

森本「そぉーうですね。やってる時に歌詞が思い浮かぶとかはないですけど、やっぱりスケボーやってると、路上でやるものなので、車に乗ってて景色を見てたりしてても、スケボーの観点で景色が見えたりするんです。そういう部分で、たぶんスケボーやっているっていうことで、感覚が普通の人と違っちゃっていると思うんで、そこを出してみたというか、出ざるを得ないというか」

▶確かに、バイク乗っている人はバイカーの視点で書くかもしれないし。時間の感覚とか。

森本「船乗りが海の歌を歌うような(笑)」

酒井「恋愛すればラヴ・ソング(笑)」

▶スケボー知らなくても色々解釈できますし。そういうのと違う「怒りが降る」の歌詞は?

酒井「結構前に書いた曲で。何かの本…新聞の記事を読んで考えたことじゃないかなぁ。笑いながら人を殺すように覚えさせられてるみたいな、戦争とかの話にしてもテロにしても。殺される側でなくて殺してる側が、むしろ犠牲者なんじゃないのって、そういうふうに(人を殺す)教育を受けたことが。"僕たちが流される夜"とか(のフレーズ)は、カッコいい表現ねぇかなみたいな(感じで書いた)」

▶松本隆的ですかね(笑)。「家路」の歌詞は?

森本「俺です。なかなか難しいですけど、スケボー以外の詞も書こうといつも思ってるんで。ちょっと、そういう幻想的なものへの憧れみたいなのが、すごいあるんで」

酒井「森本ファンタジー(笑)」

森本「スケボー(の歌詞を)抑えると、どうしてもそういうのが出てきちゃう」

▶詩人ですよ。では「ピザマン」の歌詞は?

酒井「これ、俺が書いたんですけど。遠藤賢司って人に「カレーライス」って曲があって、すごい表現が上手いなぁと思ったから、そういうふうに俺も書いてみたいなぁと思って。人がたくさん死んだり、大きな国が小さな国を攻撃してるんだけど、ぼくたちはただお腹減らして"早くピザ来ないかなぁー"っていう(状態の)、ギャップ感みたいなもので。遠藤賢司の「カレーライス」も、三島由紀夫が腹切った話を淡々と…人が死んでるのに(自分は)お腹すかしてカレーライスを待ってるという。それの、まあ変な話"替え歌"みたいな感じで(笑)。替え歌ではないけど、出前を待ってる間に観るニュースみたいな」

▶ところで、一般の人に受け入れられないだの、人気があるバンドに嫉妬するだの、よくそういうことを言っていますよね。

森本「ネガティヴな。7年やってるとヒガミっぽくなります(笑)」

酒井「だんだん世の中わかってきてヒガミっぽくなってきてますよね。というのは…」

森本「まあ、やってることに対して、自信をもってるんで。自分の考える評価と周りの評価との違いが、歯がゆい。俺は、ですけど」

酒井「俺もそうです」

岡「俺は、そうでもないです(笑)」

森本「まあそういう気持ちと、(いい音楽やっていることを)自分がわかってんだからいいんじゃないかっていうのもあるんです。ただ、周りのバンドもけっこうどんどん大きくなってきてるし(笑)、あせりも若干、あります」

▶たとえば?

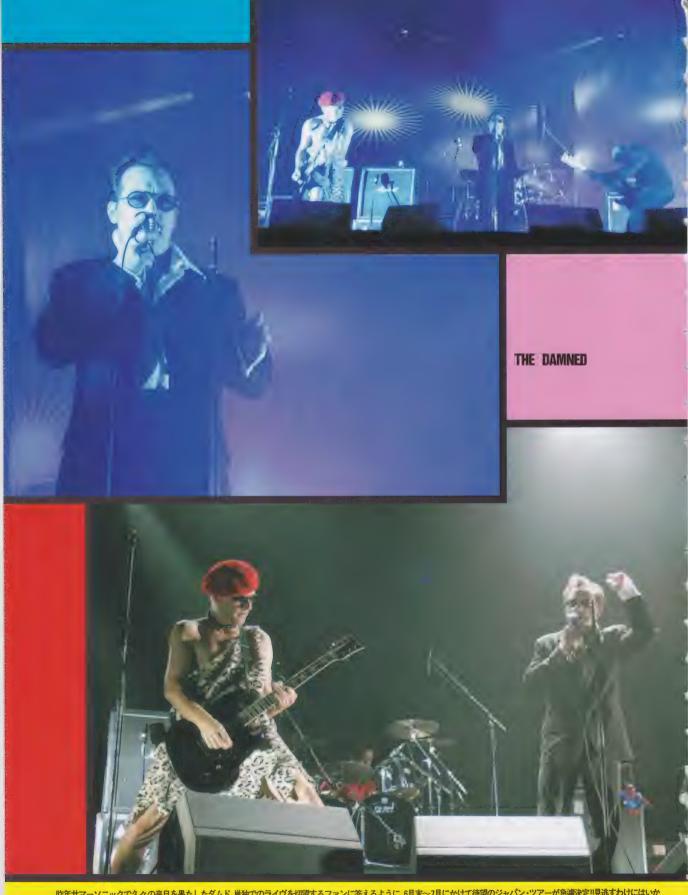
森本「STRUGGLE FOR PRIDEもそうだし、日本脳炎とか、YOUR SONG IS GOODとか。前に『何でバンドやってるの?』と言われて『BREAKfASTです』って俺が返事したら『STRUGGLE FOR PRIDE凄いよね』と言われて。(彼らの人気)凄ぇなーと思って(笑)」

酒井「(BREAKfASTを説明する時に)『日本脳炎ってバンド知ってる?スプリット出してるよ』と言ったり(笑)」

▶まあ今SLIGHT SLAPPERSも日本脳炎のサイド・プロジェクトと見られているような。

酒井「(SLIGHT〜のヴォーカルの)クボタくんがかなり落ち込んでると思うけどね(笑)」

森本「彼と語り合いたい(笑)」

THE DAMNED

昨年サマーソニックで久々の来日を果たしたダムド、単独でのライヴを切望するファンに答えるように、6月末～7月にかけて待望のジャパン・ツアーが急遽決定!!見逃すわけにはいかないぜ!!!ツアー日程は以下の通り。6月29日広島クラブクアトロ、30日大阪心斎橋クラブクアトロ、7月1日名古屋クラブクアトロ、3日渋谷クラブクアトロ、4日恵比寿リキッドルーム。問い合わせ:03-5466-0777クリエイティヴマン

日本脳炎/The Slowmotions/THE BASEMENTS

日本脳炎、The Slowmotions、THE BASEMENTSという一癖も二癖もあるパンク・ロック・バンド達による全日本ツアー「DEAD HEAT DISCO '05 tour」が、3月5日の新潟JUNK BOXを皮切りにスタートする!全15箇所を廻るDIEハードなツアーだが、このツアーに併せて3バンドによる完全自主制作ビデオ(各バンド、プロモを2曲ずつ収録)もリリースされるとの事!!しかもこの作品はライヴ・ハウス限定販売!!もうこれは行くしかないだろ!!!!(ツアーの詳細はThe Slowmotionsのインタヴュー・ページ又はイヴェント欄を参照)

パンク・ロックが古いとかヤワなものだとかは全く感じてない

INTERVIEWED: 岡本正貴　[3月31日/高円寺半兵ヱ]

今の時代ここまで素直に、かつリアルに、自分達のPUNK ROCKを表現できるバンドがいるだろうか?2001年から、数々のメンバー・チェンジを経て今のThe Slowmotionsに至るのだが、これまでのバンドの軌跡を辿るディスコグラフィーCD『ダイヤルを回せ!』が4月末に発売された。5枚のEPと未発表曲「お前に夢中」を収録した、満足度120%間違いなしのこのCDと、これから日本脳炎、The Basementsと共に行われる全国ツアーに先立って、レトロで日本な感じのお店で楽しくまったりした雰囲気の中インタヴューを行った!ダイヤル(CD)から放たれるナチュラルな極上の日本産PUNK ROCKに酔いしれて欲しい!

▶ベタですけど、メンバー紹介からお願い致します。

CHIRO(以下、C)「チロで〜す、ベースです」

133「ヴォーカル、133」

TOMOYA(以下、T)「ギターのトモヤです」

IZUMI(以下、IZ)「イズミ・モーション、ドラム!」

▶まず、The Slowmotionsっていう名前の由来はなんですか?

IZ「Theナントカーズってのが付けたくて、でもそのナントカーって部分が思いつかなくて。前のメンバーとファッション・パンクかなんかのカヴァー大会みたいのがあって、そん時のメンバーで集まって、そん時のバンド名決めんのに、やっぱりナントカーの部分が決まらなくて、それでそのまま出ちゃったりしたんだよね、The ナントカーズで(笑)。まぁ、それで出て、そん時は一回きりだったんだけど、面白かったから演ろうかってなったんだよね。で、ちゃんとバンド名のナントカーの部分を考えようってなって、「スローモーション」いいね、ってなってね。うん、そうなんとなくなんだよね」

▶ロゴやイズミさんの唇の安全ピンのマークに意味はあるんですか?

IZ「いや、パンク的な物だからってくらい。安全ピンに対するこだわりなんてのは全くなく(笑)」

▶今のメンバーさんの加入の経緯なんかがあれば教えてもらえますか?

IZ「うぅんっとねぇ、ライヴハウスに行って、ライヴを見て、ライヴハウスでスカウトした(笑)」

▶全員そんな感じで?

IZ「うん、そうだねぇ。多分」

C「俺のベース見た?見てなかったよね?」

IZ「見てなかったけど…(笑)」

▶じゃあ、スカウトする時はやっぱり昔から知ってたりとか、人柄で判断してですか?

IZ「いや、昔からとかじゃなくて結構初対面だったけど、トモヤとかはギターがカッコ良かったから、一緒にやんね?って感じの軽い感じで」

▶今のメンバーさんが入ろうと思ったキッカケ、もしくは加入時の意気込みとかありました?

C「俺とかは客の立場でずっと見てて、うわぁ〜カッコいいなって思ってて。それでお声が掛かった時は弾いてみたいな、ってなったんだよね」

T「何かがあった。上手く言えないけど」

133「俺は、う〜ん、俺も単純に見ててってのもあるんだけど、もっと違う風に面白くできねーかなぁって思って、イズミに誘われた時ね。前のもカッコ良かったんだけど、違うのもできねーかなぁって思ってね」

▶133さん加入によってやっぱり変わったと思いますか?
133「まぁ、それは新しくなったのかな。前のやつもカッコ良かったんだけどね!」
▶イズミさんは元Evanceだったと聞いているんですけども…。
IZ「違います(笑)」
▶(笑)。でもパンク・ロックからハードコアにっていう、その人の音楽の趣味の移行や、バンドのスタイルとしての移行ってのはよくある話ですが、ハードコア・バンドをやって、何故またこういうナチュラルな形のパンク・ロックを演ろうと思ったのですか?やりたかったから以外に、何かキッカケとかがあったんですか?
IZ「ん〜〜〜…世代…世代かね、う〜〜〜ん、難しい質問だなぁ。俺はハードコアから聴いてったから順番とか、その世代に生まれてきてたら、パンク・ロックから聴いて、ハードコア聴いてってのが普通の流れかもしれないけど、俺はハードコアから入ったから、パンク・ロックが古いとか全く感じていなかった。だから自然になんだ。別にパンク・ロックがヤワなものだとは全く思ってないしね」
▶では、The Slowmotionsを始めるにあたって、影響を受けたバンドなんかはいるんですか?
IZ「あ、Vibrators」
▶音も目指したりしてます?
IZ「いや、目指すとかはあんまないなぁ」
▶音的に目指してるバンドとかはあります?
IZ「ないなぁ」
133「俺もないなぁ、ないものの方がいい、ないものをやりたい。逆になんとかみたいって思われんのは嫌だなぁ、絶対」
▶音楽を聴かせてもらって歌詞にも耳を傾けると、The Slowmotionsの曲はとてもシンプルにそして直に響くものがあるんですけど、特に思い入れのある曲の歌詞とかありますか?
IZ「俺はまぁ、全部かな」
▶その時その時思った事を?
133「そういう時もあるかな?(今の)こんな感じだよね。スタジオに入った時なんかに」
IZ「昔あった事を考えたり、みんなでしゃべったりしてるような言葉で表現したい、ってな具合。わかるかな?わかるよね?辞書なんか見なくてもわかる言葉で表現したい」
▶歌詞がとても聴き易くて、すんなり入ってきます。では今回のHG Factよりリリースされるディスコグラフィー CD『ダイヤルを回せ』についてなんですが。収録されている未発表曲、「お前に夢中」はライヴでも演ったりしてて、僕も見せてもらった時はカッコいいなぁって思ったんですけど、変な質問ですが、誰に夢中なんですか?
133「いろんなものだね。好きな娘であったり、好きなものであったり」
▶メンバーそれぞれが、今夢中なものを教えてもらえますか(笑)?
IZ「え、言えない(笑)」
133「いっぱいありすぎてわかんないよ」
▶ジャケットも毎回毎回凝ったつくりですが、どんな感じで作ってるんですか?
IZ「1stは前のベースのヒロキがジャケも盤面も作って、一枚一枚作ろうか、って感じだったんだけど、みんな辞めてっちゃって、途中からはそんな話もなくなってっちゃって。ジャケット凝るとかはまぁ、全然普通だと思ってるし、アレもそうだし、自分が思いついた事を出してるだけ」
▶今活動してるバンドや一緒に演ったバンドで、好きなバンド、カッコいいと思うバンドっていますか?
133「沢田研二かな(笑)」
C「一緒に演ってないじゃん(笑)」
▶今回、日本脳炎とThe Basementsとツアーを組まれるという事ですが、全日本ツアーにあたっての意気込みなんかはありますか?
133「楽しみ!初めてだし!」
T「俺はないかなぁ、そのまんまいつも通り」
C「初めてだし、どう意気込んでいいのかってのもないけど、俺は意外とキツイ目に合ってみたいなってのがある」
▶キツい目っていうのは?
C「なんか、こう苦労とかじゃないんだけど、疲れた〜、でもやって良かった〜みたいな。いろんな人がいるし、きっと」
▶完全燃焼したい、って事ですか?
C「そういうのともちょっと違うんだよなぁ(笑)。俺わりと引っ込み思案な方だから、そういうとこ、次々変わってって、ツアーの中で、殻が破れてったらいいかなって思ってる。だからそういう意味でもいろんな目に合ってみたい」
IZ「俺は酒飲んだり、遊んだり、なんかでもあんま考えないで行きたいね。単発ツアーはちょくちょくやったりもするんだけど、全国ツアーとかでは、今はこういうメンツで演ってるんだ、ってのを見せたいってのもあるし、友達と酒飲みたい(笑)」
▶なんでこの3バンドでツアーする事となったんですか?
133「よく一緒に対バンとかしてて意気投合したってのもあるよね」
IZ「俺は、なんかオモシれぇ事やってるから。日本脳炎も、The Basementsもオモシれぇ事やってると思うからだね。動きとかも身内で見ててわかるし。日本脳炎も、The Basementsも、音源とか出したり、精力的に活動している。そういうバンドと回りたいってのもあるし。あ、そうそう、Tシャツ作って売ります。ビデオも"DEAD HEAT DISCO '05 TOUR"の3バンド(The Slowmotions/日本脳炎/The Basements)で、ライヴでしか売らないのでよろしくお願いします。各バンド2曲ずつプロモーション・ビデオで」
▶ライヴがとてもカッコいいと評判のThe Slomotionsですが、本人達が一番印象に残ってるライヴってありますか?
IZ「俺は代々木公園の野外ステージ。曲の最中止まったりしたしね(笑)」
133「俺、今のメンバーじゃないけど浜松町の俺の一番最初のライヴかな」
C「俺も一番最初のライヴかな、強烈に残ってんのって」
T「全部印象に残ってるといえば印象に残ってんだよなぁ。全部面白いし。まぁ、初めての時なんかは全然ダメだったけど」
▶ライヴ時の変わったエピソードありますか?
133「エピソードならいっぱいあるなぁ。ステージにギター3人上がってて、2人弾いてないとか(笑)。アンプささってないとか(笑)」
▶イズミさん、右足を怪我されてますけどそれもライヴで?
IZ「いや、これは3日前に天沼陸橋を走ってる時にバイクで転んで」
133「チャリンコで転んで(笑)」
▶今後の活動、いや、それよりもバンドの展望なんかを教えて下さい。
133「ワールド・ツアー!」
IZ「う〜ん、じゃあ俺も(笑)」
一同「(笑)。なんじゃそりゃ!」
▶The Slowmotionsファンに対してメッセージを下さい。
133「俺はお前らに夢中!…カッコつけすぎ(笑)?」
C「ライヴに来てもらえれば、メッセージは伝わると思います。言葉で言うよりかは」
▶じゃあ最後、あなたにとってのThe Slowmotionsとは?
IZ「他にやる事ないから(笑)」
T「今」
133「Now(笑)」
C「これを通して今自分が成長している、いろんな事をこのバンドを通して教えられてる」

DEAD HEAT DISCO '05 TOUR
The Slowmotions/日本脳炎/The Basements

＊5/5新潟Junk Box
w/Blowback, Vivisick, Deride, Age, 9 Shocks Terror(Ohaio/USA)
5/7旭川Casino Drive
w/破廉恥, Deflexion, Engage, The Swanpy Dales
5/8札幌Counter Action
w/CTR狂い咲きサンダーロード, The Knockers
5/10函館Baycity's Street
w/Crude, Mustang
＊5/11青森Sunshine
w/Exit, Rock'in Five, Tabroid
＊5/12盛岡Club Change
w/Flock
＊5/13仙台Bird Land
w/Naked Yeggs, Kinsmen, The☆Munchies
5/15神戸108
w/Johnny Rockets, Traitor, ティッシュ, Lucy&the Lipstix, Laukaus, 狂撃-Kruw-, The Telepathys, 199X
5/16京都Woopees
w/Warhead, Cider 77
5/18小倉Dagoo
w/悪AI意, Fiasco, 挌, Pillbox
＊5/20和歌山Gate
w/Milk Coffee, The Rainy Nights, Dart Boys, S41, Chimera, マサカリ
＊5/21三重Question
w/Contrast Attitude, Acrostix, Come On Babys
＊5/22豊田豊田駅前公園
w/ORdER, Rotary Beginners
5/24浜松G-Side
w/The Little Mirrors, Gonemad, The Scooterz
＊5/25東京D.O.M
w/Murder Style, The Telepathys

日本脳炎は＊印の日のみ出演

RUDE BONES

今年は作って飲んでって感じですかね

*INTERVIEWED:*安部 薫　［3月30日/新宿らんぶる］

前作『RUDE BONES』の発表が2002年12月だったこともあり、一見すると久々の感があったりもしたのだが、通常パターンと異なる『RUDE BONES and The DOWN STAIR SESSIONS』が間に挟まっていたので、6thアルバム『GET MAD NOW』までの時間は今思うとそれ程経っていないようにも思える。だが、結成10周年を迎えた昨年はメンバー・チェンジを経験するなど、アルバム毎のインターバルでは、例のThe DOWN STAIR SESSIONSも含めてバンドにとってはかなり風景の移動感があった時間だったに違いない。ライヴ的要素と作り込まれた要素が同居する、ある種、過去を消化しながら同時に未来へと向かうバンドの有り様を伝える『GET MAD NOW』を手がかりにしながらフロントマンのOHKAWAにバンドの今について聞いてみた。

▶前作『RUDE BONES』(02年)のセルフ・タイトルにはどのような意味があったのでしょうか。

「いろんなことをやって少し落ち着いたというか、集大成的な作品を出したってノリがあって『RUDE BONES』というタイトルをつけたんですよ」

▶その後、堀江ヒロヒサ(ニール&イライザ)、及川ヒロシ(Central)、TAIKI.N(Soul Clap)、グレッグ・リー(HEPCAT)、Q MAXX(The Slackers)と共に、『RUDE BONES and The DOWN STAIR SESSIONS』(03年)をリリースされていますが。

「RUDEで長くやってきて、割と歪まなくてもいい感じの曲がだいぶできるようになってきたかなと思っていて、いずれは歪みに頼らないアルバムを出そうと考えていたんですよ。それが丁度いい時期だったというか、一区切りついた時に、周りで自然とやってくれるミュージシャン達と一緒にやるのが面白いんじゃないかということでスタートさせました」

▶DOWN STAIR SESSIONSのサウンドはポップ色が強く感じられたのですが、DOWN STAIR SESSIONSでの経験が今回のサウンドに影響したところはあったのですか。
「逆にやりたいことができたってところで落ち着いたので、『今度は元気なものをやりたい』という気持ちの変化がありました」
▶昨年は結成10周年という節目を迎えた訳ですけど、結成当時、10年後の自分達をイメージしていたところはあったのですか。
「当初はバカ売れしている予定だったんですけど(笑)、何かあっと言う間に経ってしまいましたね」
▶この10年、目標をひとつひとつクリアしてきたという実感はありますか?
「僕達としては日本のリリースもありつつ、海外でもやりたいという思いがあるんですけど、まだやり足りないっていうのはありますね。でも後半はイギリスやヨーロッパを回れていろんな経験ができたかなというのはあります」
▶アメリカに比べるとヨーロッパでの反応というのはどうなのでしょう?
「ノリとしては普通に聴いてくれて評価してくれるという意味で差はないと思いました。丁度僕達が行った時期(02年)にイギリスはスカ・パンクっぽいバンドが多いなっていうのがあって、時期としてはアメリカよりはやり易い時期に行ったという感じはありましたね」
▶印象に残っているバンドとかは?
「CAPDOWNというバンドと一緒にやってライヴDVD(『CAPDOWN/RUDE BONES』)を一緒に出してもらったんですけど、人気もあってカッコよかったですね」
▶昨年はメンバー・チェンジがありましたが、その辺の経緯を教えて下さい。
「元々微妙にHIROSHIと方向性が違ったりするのがありつつ、お互いが少し違う方向のままうまくやってきた感じだったんですけど、10年が経って『そろそろ分れてもいんじゃないかな』って話が出た…という感じです」
▶トロンボーンが抜けて今度はトランペット(4040)が入るというのが、ホーンのバランス感から言っても意外だと思ったのですが。
「(バランスは)変ったと思いますよ。ライヴの感じとか。それに伴って元気な曲も増えたから丁度いいとは思っているんですけど、敢えてトランペットを入れたというのはないです」
▶新しいRUDE BONESみたいなものが自分の中で発見できたということは?
「トランペットが入って感じも変るし、また新しい感じというかバンドの演奏がもう一回締まり直したというのはあります。腕もあるし音楽的意見も出してくれるのでリーダーが2人いるような感じですかね(笑)。彼(4040)もV&40って自分のバンドでリーダーをやっている人ですから」
▶今回の音作りでも意見を?
「多少ホーン・アレンジを任せたりはしました。僕が殆ど作るというスタイルはあまり変らないんですけど、今回はスタジオでエンジニアの人と話して『こんなふうに変えてみたら』という部分で柔軟に対応してみました(笑)。結果、(今までと)感じが変ったって話もあるんですけど」
▶具体的にはどのようなところで?
「やたらがなんないで歌うとか、メンバーに歌わせたりとか、その場でメンバーにアレンジをやってもらったりとか。僕らって、割と現場でいじったりはしないスタイルをとっていたんですけど、今回は例えば元々なかったところで『ソロを入れてみて』って具合に、ギターでも結構チャレンジしてもらったり、面白かったですよ」
▶ニュー・アルバムの『GET MAD NOW』ですが、1曲目の「Just to have fun」は結構ロック寄りな感じがありますよね。
「そうですね。割と歌い方も崩していますし」
▶タイトルからしても作品を象徴している印象を受けたのですが。
「ちょっと内容は違うんですけど…。インターネットの中の話なんです。ネットオタクを描いたような。それに伴ってPVも撮ったんですよ。結構映像も好きなんで」
▶アルバム全体の印象ではレコードのA、B面に分けられる内容になっていると感じたのですが。
「今回アルバムのコンセプトとしては、勢いのあるもの、もう一回元気のあるロック的なものをやりたいというのがまずあったんですよ。あとこれも初めてなんですけど、いつもは曲を(アルバム)ピッタリ分しか作らないんですけど、今回曲をより多めに、16、7曲ある中から削っていったんです。で、コンセプトは『元気なアルバム』だったので、頭に勢いのある曲を入れて、後ろにスピードものばかりでなく皆が気に入ってたものを入れていきました」
▶後半は大袈裟に言うと実験的というか。
「それが変る為というか、新しいものを入れていく為の要素なんです。前半の速い曲はある程度ストレートですけど、後半には割といじったものを入れていきました。僕らの周りでは、『面白い』とか『興味深い』という理由で『後半の方が好き』って言う人が多いですね。だから前半は若者向け、後半は通好み向けって感じですかね(笑)」
▶打ち込みを使った10曲目「Go by the flow」〜11曲目「We are in Love」への流れが個人的には面白かったです。
「レゲエっぽい感じの。実は「We are in Love」はリミックスを頼んだりしたんですよ。元はバンドっぽいアレンジだったんですけど、それをV&40のベースのSUGI-Vに渡してリミックスしてもらいました。そういう試みも初めてなんですけど、『ライヴでどうするんだよ』って話もあったりします(笑)」
▶全体の曲の並びについてはすんなりいったのですか。
「ある程度は僕が決めて、メンバーに感想を聴いたりするんですけど、全員一致っていうのはあり得ないんで最終的には自分で決めていくってところがありました」
▶アルバム・ラストの「Continuation」は勢いのある曲ですが、それがまた1曲目の「Just to have fun」へと繋がっていく感じですよね。
「ずっと聴いてもらえればいいですね(笑)」
▶「Just to have fun」はインターネット世界を扱った歌詞とのことですが、アルバムではどのようなことが歌われているのですか。
「今までどおり曲によってバラバラですよね。あと8曲目(「No place to go」)はギター(DAI-CHON)が曲を書いています。バックのギター・ラインは決まっていて、歌メロを俺がのっけ直したという感じです。まあ、彼の書く詞も暗かったですね(笑)。それも初めてなんですけど、相変わらず詞はヴァラエティに富んでいると思いますよ」
▶サウンドでは初期の勢いを取り戻したということですが、歌詞でもそういう面は?
「詞に関しては、一個一個書くのにいつも苦労しているんですけど、言いたいことが出てきた時に書くという感じです。アルバム通してひとつのことをっていうのはないですね」
▶サウンドライクなところがあったりはするんですか。
「そうですね、英語でやっている以上は。で、プラス詞もいい方がいいと思っているので中身のないことは歌いたくないです。歌を作っていくと詞もリンクしていくので、詞に関しても手を抜きたくはないです」
▶RUDE BONESのアルバムが完成したばかりであれなんですが、以前アルバムを発表していたソロに関しての予定とかは?
「今ソロを作っています。詞がやっと書き終わりそうな段階で、年内までにはなんとか頑張ってやっていきたいです。超急ピッチで作っていく感じで…。さらにRUDEも作っていきますから、今年は作って飲んでって感じですかね(笑)」

●セックス・ピストルズのコレクター、ギャヴィン・ウォルシュ によるピストルズ・コレクター・ガイド・ブックとしては正真正銘の決定番である。

●ピストルズの誕生から破滅、その後のメンバーや取り巻く状況までを、詳しく鋭い視線で書き綴ったバイ、オグラフィーを冒頭におき続いて膨大な数のコレクションを、その内容や品番、リリース年、リリース国はもちろん、希少価値も含めて紹介。

●なかなかお目にかかれない激レアなレコードやポスターもカラー写真で満載しており、見ているだけでも胸躍る、初心者からマニアまで納得の１冊である。

●GAVIN WALSH・著
石川浩子・訳

SEX PISTOLS
GREAT COLLECTION
セックスピストルズ　グレートコレクション

◆ドール増刊７月号◆完全限定発行５０００部シリアル・ナンバー入り◆２００５年６月１日発売予定
◆B4変形判・平とじ・１３０ページ　◆予価２,２００円(税込み◆全国書店、一部レコード店等にて販売
★本誌を確実に入手するには、お近くの書店で「ドール増刊７月号　セックス・ピストルズ・グレート・コレクション」とご注文して頂くか、もしくは直接ドール宛に代金＋送料 150 円を添えて現金書留又は郵便為替（無記名）にて申し込んで頂ければ購入出来ます。

株式会社ドール 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北3-1-9青田ビル303 TEL 03-3339-1952 FAX 03-3339-1994
HP http://www.doll-mag.co.jp/ E-MAIL hensyu@doll-mag.co.jp

THE LAST SURVIVORS

本当に素晴らしいバンドとは、去っていくその後ろ姿すら美しい。THE LAST SURVIVORS解散。本誌に於いても、80年代フィンランド・ハードコア特集や今月号のオランダ・ハードコア特集等で尽力してくれたMICHIAKI(Vo)からその事実を聞いた瞬間、出てくる言葉は何もなかった。

バンド活動に於ける真摯な姿勢は、時に他のバンド・メンバー達から"職人的"とも評されていたが、終わりの時も又、職人気質を感じさせる潔さであった。これまでの正式単独音源は1st 7"EP『CHAOS IS HERE』(CRUST WAR)、2nd 7"EP『HELL CORNER』(POGO 77)。そして、彼等の遺作となる3rd 7"EP『DEAD AND REBORN...』が男道よりリリースされる。

一瞬にして体中の全血液が沸騰し、己の鼓動で世界が激しく震える程、極限にまで研ぎ澄まされたRAW&DESTRUCTION。そう、これは至上にして無上のハードコア・パンク以外の何ものでもないのだ。

THE LAST SURVIVORSという器は消え去っても、奴等はその姿を変え再び戻ってくるに違いない。(山路健二)

60日目 漫遊!ラスティック響和国

添乗員：ダビすけ

舶来ラス蕃めぐり

Les OGRES de BARBACK(仏) "RUE du TEMPS"(14曲CD)

販売員:万丈(渋谷ピートモス・レコーズ)

LES OGRES DE BARBACK/ RueDuTemps(IRFAN VOYAG-777)CD

ラスティック好きにとって、フランスのバンドは嬉しいものですが、言葉の壁もあり、なかなかお気に入りのバンドを見つけづらいものです。今回紹介のバンドは奇跡的に知る事ができました(大袈裟かな)。フランスものと言えば、LOS CARAYOS、MANO NEGRAそしてLES NEGRESSES VERTS。基本的にはこれを聴いて、周辺を探す感じ。それで終了。ひろがらねぇ…。インターネットが普及したからと言っても、海外のサイトをボリボリと読み漁るのもなかなか大変で…。ましてフランスのサイトに関しては先に述べたように僕には全く意味不明な仏語で表記されているから(当たり前だが)…英語なら辞書を片手になんとかできるけど、生まれてから一回も仏語習ったことないから全くわからん。で、日本でもフレンチ・ポップが定着してきてるからそこからの情報といっても、僕の好きなのとはちょっとピントずれてるし、結構、諦めてた。そしたら最近、フランス人の友達がやっとできまして、開口一番で「ネグレスヴェルトみたいなバンド今いないの?」と聴いた訳です。返ってきた答えは「いっぱいいいるよ。」なんだそれ。今の日本じゃマヌ・チャオ位しか有名じゃないじゃん。で、今一番、カッコよいバンド教えてくれと言って出て来たのがこのバンド。聴いてみた。文句なしに最高であった。

このレ・ゾクル・ド・バルバックは90年代後半から活動していて、シャンソンやミゼット、ファンファーレにジプシースタイル、そしてバスクの民俗音楽を混ぜたミクスチャーバンド?こんな説明しかできない自分のボキャブラリーの無さが腹立たしいが、とにかくフランス民俗音楽のベースとなっているものを取り入れているわけだから、ラスティック好きが嫌いな訳がないのである。アコーディオンやフィドルの音色もアイリッシュとは違うし、なかなか奥が深い。そして巻舌、字余り風な仏語Voにもやられる。ケイジャンみたいなインチキ・フレンチ風ではない。メロディも独特なものがあり、僕の大好きな哀愁もたっぷりでている。できれば歌詞も理解したい所。まだまだ知らない音楽はたっぷりあるのだ。フランスのシーンに関しては知らないことだらけだが、かなり良質なバンドが沢山いるようです。今年は非英語圏の音楽も積極的に取り上げて行きたいものですが、やはり言葉の壁は厚い。結構、お金と時間もかかる。私個人では限界もある。板挟みです。キビシーな…。

(Bang-Joe/LOS RANCHEROS)
www.peet-moss.com

レ・ゾクル・ド・バルバック

今月のルーツ参り

HERB ALPERT & THE TIJUANA BRASS(米)

参詣人:添乗員

ハーブ・アルパートとティファナ・ブラス /DoubleDeluxe(KING AMW-1〜2)2LP

連載60回目にして今さらながらの初紹介、Trumpeterハーブ・アルパート。あのA&Mレコードの"A"ってのはアルパートの"A"だっつう、同レーベル創業者の1人たる彼が、60s中期に率いてたブラス主体のインスト楽団がティファナ・ブラス。AmericanPopsとMariachi(メキシコの楽団形態の1つ。本誌'00年2月号P59拙文参照)とのミクスチャい雰囲気で、Ameriachiなんて呼ばれた路線。本誌一般読者にとってブラス系音楽といえば、1にSka系、2にSwing系なんだろけど、ラスチック・ストムパーの中には、1にDixielandJazz、2にAmeriachiみたい趣味のヤツがいてもえーだろがってな感じ。添乗員もKlub Hillbillies@ZOOでのDJ当時からこの楽団の佳曲TijuanaTaxiを定番の1曲として回してきた。そういえば最近の買収騒動でゆれる某ラヂオ局の前世紀後期の某看板深夜放送番組のテーマ曲、といえばこの楽団のBittersweetSambaでした。

(ダビ)dabi@suke.ne.jp

ラス地区感交案内

※東京ラスティックないと
5.29(日)18:30幡ヶ谷ClubHeavySick
出:NancyLittleDogWaltz他
皿:TokyoRusticStompers
www.tokyorusticnite.com/

NICE VIEW

全部出さないと俺達は駄目だって気がする

INTERVIEWED: **佐藤良樹**　［3月27日/渋谷ルノアール］

4月20日にSONZAIより結成10年目にして初のフル・アルバム『THIRTEEN VIEWS WITH NICE VIEW』を発表したNICE VIEW。自分もそうだったが、NICE VIEWに対してファストなハードコア・バンドという固定したイメージを持っていた人も多かったに違いない。しかしこの本作を聴いてみれば、それを軽く吹き飛ばしてくれる、枠にとらわれない独自のサウンドを聴かせていることに気付くだろう。そこのところをショウタ(G/Vo)とコウイチロウ(B/Vo)の2人に話を聞いてみた。

▶シングルやコンピでのハードコア・バンド然としたイメージを持っている人だと今回の作品を聴くとかなり驚くのではないかと思うんです。土台はハードコアですが、その枠にとらわれない感じになってるように聞こえます。元からこういう方向性だったんですか?どれくらいからこのような感じになっていったのでしょうか?

ショウタ「元々スタジオでは遊ぶんです。それで曲も進まないという(苦笑)感じだったんですけど。そういう遊びの部分をもっと出せたらいいんじゃないかなっていう。メチャクチャですけど(笑)」

▶ライヴでもインプロビゼイションっぽいことをやってらっしゃるんですか?

ショウタ「インプロって言われると…もっとバカっぽいことをやってる感じなんですよ」

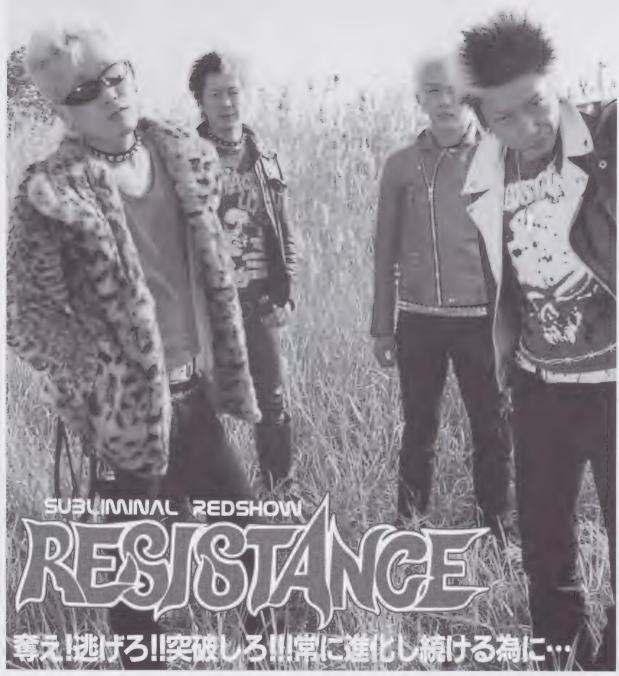
▶聴き手の方はかなりシリアスに受け止めるというか。

ショウタ「ああ…それは僕らの内側とは全然違いますね。受け止め方は人それぞれだけど、それは元々ある(固い)イメージで受け止めているからじゃないですか?」

▶遊び感覚…といったら語弊があるので、どういう感覚でやってるんでしょう?

ショウタ「メンバーによって意識は全然違うと思うし。例えばインプロっぽいものにしても、自分が面白いと思えるものをやりたいですね。あんまり頭で考えてないものがやりたいな。だから堅苦しく聴かれるのは違うじゃないですか。逆に何も考えずに聴いて欲しいっていうのは凄いありますね。ていうかインプロとか元々そういうもんかなと思うんです

ね。自由というか」
コウイチロウ「深読みしすぎ」
ショウタ「深読みされると申し訳ない気になってきますね(笑)」
▶SONZAIから出すことにした決め手みたいなものがあれば伺いたいのですが。
ショウタ「ENVYがやってるレーベルじゃないですか。なんだかんだ言ってENVYとは仲良く付き合をいしてるし、東京に呼んでくれたり、名古屋来たら一緒に演ったりして。(ENVYとは)一番信頼関係のあるバンドの1つだから。自分達を大事にしてくれるのもよく分かるから。そういうところから出せるのが一番いいなと思うし」
▶録音の開始時期というのは?
ショウタ「去年の9月から。それから結構間隔があって。最終的に音が上がったのが、今年の1月の末ぐらいですね」
▶結構長くかかってるんですね。
ショウタ「録り自体は3日間であとはミックス・ダウンですね」
▶ではミックスに時間がかかったというわけですか?
ショウタ「でもミックスも2日か」
▶9月に始まって1月の末に完了するまでの間はどういう感じになってたんですか?
ショウタ「それが逆に凄い良かったかなとか思う。その間隔の間に色々…演奏は2日で終わって、ヴォーカル録りが1日あって。その間にだいぶ変わったよな」
コウイチロウ「出来上がった音聴いて歌詞変わったよな」
ショウタ「その間に考える余地があって、そこで本当変わった」
コウイチロウ「間が空いたのは不可抗力だけど、かえってそれが良かった」
ショウタ「レコーディングの途中でもっと真剣になんなきゃ駄目じゃんって思って」
▶録ったのは名古屋ですか?
ショウタ「豊田市ってところで」
▶シングルとかも録ってるとこですか?
ショウタ「そこはオムニバスを1回録ったとこで。あとライヴ盤のマスタリングもしてもらった、そういう場所です」
▶エンジニアの方に信頼が置けるとか?
ショウタ「もちろん、信頼の出来るいい人だったし、音に対しても冷静でいてくれる、そこが凄い良かった」
▶ちゃんと自分の想像した通りの音が。
両者「いや、それは…」
コウイチロウ「どうしてもエンジニアの人に対する注文が抽象的になりがちなので、そういうところをなあなあにしないでちゃんとつき合ってこちらの言うことを理解してくれようとしてくれたことが助かったなあって」
ショウタ「理想の音が出来たかって言われればそれは難しい」
コウイチロウ「答えは1コじゃないからね。まだまだ出ないし」
ショウタ「そんなすぐに理想の音なんか作れるわけないし。まだ始まったばかりだし」
▶アルバムの構成について伺いたいのですが。まず「SCENE #1」「SCENE #2」「SCENE #3」について。
ショウタ「元々長いインプロで、それぞれの部分を使っただけで。(出来れば)長いのも聴いてほしい。やっぱりアルバムとしては…」

▶切った方がいいかなと。
ショウタ「それはもちろん。ちゃんと楽曲として存在している曲の中でうまく起伏になったらいいかなと思ったから、そういう風にしたんですよ」
▶聴かせて頂いた中で一番印象的だったのが「フールの誕生」でした。22分くらいありますよね、この曲はどういうアイディアから出来たのですか?
両者「……(笑)」
▶ライヴでもやっているのですか?
ショウタ「ライヴでも5、6回はやったことがあります。この1曲でワン・ステージというのもありました」
▶反応はどうでした?
ショウタ「お客さんですか?賛否両論でしたね。"実験的だね"って言われたりして。でも全然そんなんじゃないんですよね(苦笑)。実験とかじゃないんですよ。タイトルの通りなんですけどね。"バカだね"とか言いながら聴いて欲しいんですよ」
▶聴きながらつい意味を探しちゃいます。
ショウタ「人の深読みをこうやって聞くっていうのも面白いね(笑)。(暫く間をおいて)聴いていく内に感覚的な部分で聴き始めるっていうか。聴いていてどうでした?」
▶トランス感覚に陥るような感じもありますし、プレイされている側の方がよりその感覚が強いのかもしれませんけど。
ショウタ「演ってる本人達が一番気持ちいいかも。22分間ずっと聴けます?」
▶ええ。通しで何回も何回も聴けましたよ。
両者「爆笑」
ショウタ「通して聴かないと面白くないかもね。長い曲はマラソンみたいなものかもしれない。(以前は)日曜日に親父がTVでマラソン観てて、何が面白いんだ?みたいに思ってたのが、その面白さが分かってきた感じなんです(笑)。マラソンってただ走ってるだけじゃない」
コウイチロウ「でもマラソンはドラマがあるからね」
ショウタ「俺も遂にマラソンの観戦の楽しみが分かってきたぞという。あれはかなりミニマルな感じで」
▶聴いている方は緊張感を感じますよね。
ショウタ「演っている方はピックを落とさないように落とさないようにとひたすらピックのことばかり考えながら演ってましたね(笑)」
▶体力的にはどうなんでしょうね?
ショウタ「ドラムが一番つらいんじゃないですか。俺らもつらいんだけど」
コウイチロウ「つらいところをスポッと抜けた時に見えてくる何かがある。それが欲しくてやってるところもある」
ショウタ「でもね、それはなかなか難しい」
▶そういう部分は演者側にしか分からないんでしょうね。
コウイチロウ「聴いている方も気持が変わるのであれば演ってる方からは分からないし。いずれにしろ、これを聴いて人の気持が変わるのであれば」
ショウタ「俺はあんまり深読みはしてほしくない。でも難しいなあ、受け止め方は人それぞれだし」
▶感覚的なものなのでしょうか?タイトルにしてもちょっと抽象的というか。
ショウタ「感覚的なことを言いつつも突然具体的なことも出てきたりっていう。そういうのがあったら面白いかな。ファンタジー、ユーモア必要かな。あんまり(NICE VIEWに)ユーモアって感じないすか?」
▶こうやってお話を聞いているとそれも感じるのですが、お話を聞く前は感じなかったです。(今作のジャケット見ながら)これもユーモアを感じながらシリアスな意味を探したりして。有害なものが頭から出ているような。
ショウタ「いやいや、害のないものは有害だったりするしっていう」
▶ユーモアやファンタジーが込められていると。
ショウタ「ユーモアやファンタジーだけじゃないし。ていうか全部ですね。偏ってると面白くないし、息が詰まるし。部分的なものでは満足出来ないし。全部出さないと俺達は駄目だって気がする」
▶メンバーが面白がっていることが普通の人の先を行っているとこことかあるのでしょうか?
ショウタ「先を行っている人なんか一杯いるし」
▶唐突ですが、この人と録りたいとかいう人はいますか?
ショウタ「こないだレッド・クレイオラを観に行って。メイヨ・トンプソンにプロデュースしてもらって録ってもらいたいなってその時、思いました」
▶最近何を聴いてますか?
ショウタ「隔たりなく。ジャンルでは聴かないし。何聴いてるか逆に聞かれると困るな」
▶そういう姿勢が音にも表れていると。
ショウタ「そういうのは目指しますよ」
▶これから何処へ向かうのでしょうか?ハードコアじゃなくなるのかなとか。
ショウタ「出すエネルギーの凄さという点では他の音楽はハードコアには敵わないし。1回それにはまると抜け出せないというか。だからそこは残りますね」
▶テンションを持続させながら、自由にプレイしていくと。
ショウタ「これからどうなって行くかが一番難しい部分だと思うんですよ」
▶突拍子もないことになるとか。
ショウタ「突拍子を無くしてやろうっていう風には考えないと思いますよ」
コウイチロウ「何か企んでいるいるとかそういう訳じゃないし。自然に真面目に自分達の音楽と向き合いたい」
ショウタ「真面目に向き合ってくと勝手に自然になっていく気はするんですけどね」

INTERVIEWED: **伊藤暁伸** [3月23日/豊橋SCULLTON宅]

CLUB THE STAR移籍後の第一弾としてリリースする、約2年振り待望の3rdアルバム『POKER FACE』は1stアルバム『パンドラ』、2ndアルバム『Joker』と進化し続けている彼等が、また新たな顔を見せた。"音楽は自由だ"という言葉が現すように、PUNK、ROCK、HARDCOREなどのジャンルの枠に捕らわれず、自分達の音楽を楽しみながら追求する彼等は留まる事を知らず、今回リリースした収録曲からも充分過ぎるほど伝わってくる。しかし、彼等の魅力はLIVEを観てこそ初めて理解できる。その観る者を魅了する、時にクールに、時にキャッチーなLIVEパフォーマンスは、まさにSUBLIMINAL REDSHOW。今回はそんな彼等に、リリースされたCDの話も織り交ぜながら話を聞いた。

▶それではまず、今のRESISTANCEはどんなバンドなのかと言う事をお聞かせ願いたいんですが。

SCULLTON「もともと通ってきたトコロはHARDCORE、PUNKを通ってきたけど、今自分達がやりたい音楽っていうのは、一つのカタチに拘る事無く、そこで学んだ事を吸収して自分達がソレを確立して行く事。自分が影響されてる音楽が無くて、聴きたいと思う音楽も今はあまり無くて、音楽の事に対して不便な感じになってる。だったら「自分で好きな音楽を作ろう」って今はそんな曲ばっか作ってて、自分達の音楽が一番聴きたいと思うような音楽であればそれでいいかな。自分達の作ったCDとか聴かない人達もいると思うけど、俺はCD1枚1枚作る度に最高の、自分が一番聴きたいと思うCDにしたい。自分達のやってることが一番好きなものでありたい」

▶RESISTANCEのメンバーの中ではKENさんが最後に加わったという事なんですが、最初の印象と今とではどうですか?

KEN「全然違うね、やっぱり。前はHARDCORE、HARDCOREというか…何かドンヨリしてたよね」

SCULLTON「うん」

KEN「俺そんなのがやりたい訳じゃなかったから実際は。まぁ今はみんなで楽しく歌って、踊ってさ、みんなに聴いてもらえる、誰でもどんな奴でも判り易い曲をやってるかな」

▶T.K.O君はどうですか?同じ質問ですけど。

T.K.O「だいぶ変わりましたね。変わったし、昔はギャアギャアワアワアしてて、激しさばっかり先行してたけど、今はもうちょっと何かしら表現する様になったかな」

KEN「前は自分達でやり過ぎちゃってたトコあったよな。自分の限界に挑むみたいなさ」

SCULLTON「今は枠に捕われずに、自分達の居場所をどこかに求めたりするんじゃなくて、その居場所を自分達で作るのが楽しくてね」

▶CLUB THE STARに移籍して、対バンするバンドも変わってきてると思うんですけど、その辺の面白さも感じますか?

SCULLTON「例えばRESISTANCEを初めて観るお客さん、これは今までも言える事なんだけど、他のバンドを観に来てるお客さんが、俺達のLIVEを観て、少しでもいいなと思ってくれる事、それはチャンスだと思ってる。いろんなお客さんと出会って、そのお客さんが自然とRESISTANCEのLIVEを観に足を運んでくれるようになって。それはやっぱり嬉しいし、今までいろんなバンドと対バンしてきた事は間違ってなかったとも思う。それはこれからも続けて行こうと思うね。RESISTANCEは自分達の好きな音楽をいろんな人に観てもらいたいから」

▶今回リリースしたCDの内、10曲中『Joker』の収録曲が4曲入ってて、残りの6曲が新曲という事なんですが、この4曲を抜いた理由をお聞きしたいんですけど。

SCULLTON「それはRESISTANCEが一番進化し始めた時の曲で、RESISTANCEはどんな方向に向かって行きたいのかっていう具体的なものが見えてきた時期の曲でもある。今回のCDは今までよりも流通範囲も増えるし、より多くの人の手に渡る可能性がある。だから俺達の代名詞みたいな曲は勿論取って聴かせたいし、聴いてもらいたい」

▶僕は今までの曲の中では「アルコール」がRESISTANCEの代名詞みたいな感じがしたんですけど。今回リリースしたアルバム『POKER FACE』の中で、それに当たるような曲は何ですか?僕は「翼の行方」は凄くいいと思うんですけどね。

SCULLTON「あれは素晴らしいね。勿論、楽曲としては俺が凄くシンプルにもってってたんだけど、KENちゃんが上手く裏から乗せるような感じに仕上げたから、単純な曲にならなかったんだよね。でも俺達としては「星の砂」が一番気に入ってる。手から砂がこぼれ落ちるところまでCDに載っけてるじゃん。砂なんて手に握っててもこぼれ落ちる物だし、俺達はそれをこぼさないようにしっかり握ってたいね」

▶T.K.O君も「星の砂」?

T.K.O「「星の砂」、「アルコール」にしてもそうなんだけど、曲の展開とかテンポで初めてそういう事が出来たなって思うのが「アルコール」なの。あんなガチガチなビートでふざけてよくやれたなって自分達で本当に拍手したいのが「アルコール」で、「星の砂」っていうのは俺達にしては、また新しいビートって言うかテンポなの。別にこれと言って目新しいビートな訳じゃないんだけど、それを俺達の最初の頃の曲から考えたら、よくこのテンポで曲を作る様になったなっていうか、自分達も結構凄くなったなって、この曲が出来上がって思った。例えばラジカセに録って聴いた時に「あぁ、俺達よくやったな」って思うような曲だね」

▶歌詞はSCULLTONさんとKENさんの2人で書いてるじゃないですか。やっぱりお互いの個性が出ますよね。

SCULLTON「俺が書く場合は恋愛の歌とか書いててもストレートには歌えないから、卑猥な感じになっちゃうし。でもそこがまたRESISTANCEっぽいって言うかね」

KEN「俺はとにかく判り易く。曲なんて口ずさめなきゃ歌じゃねぇなと思ってさ。何か口笛吹ける様なさ。やっぱみんなで楽しむってのがあったから」

▶メロディー・ラインも2人で作ってるんですか?

SCULLTON「ヴォーカルのラインに関してはKENに任せてる」

▶逆に言うとその辺りも今までに無かった事ですよね。

SCULLTON「例えば俺が歌詞を書いたとしても、KENちゃんがいいと思った部分については強く歌うし、逆に必要ないと思えば削るし。やっぱKENちゃんが歌い上げるものだから、俺はその辺は任せてる。こんな感じのイメージでって事は言うけど、後はそれをKENちゃんがどう感じたかで好きなように歌ってもらってる」

▶その辺のメロディーを付けるだとかって作業で、苦労した事はないんですか?

KEN「いや、苦労したとかってあんまりないんだけど、自分でもよく判んないんだよ。さっきも言ったけど、口ずさめるようなものって言うのは確かだけど、その他は何にも考えてないし、意識もしてないんだよな」

▶苦労したとか無いんですか?

KEN「うん、なかったね」

▶あっ、俺やれるじゃんみたいな?

KEN「いやいや、そんな確信も無いんだけど、とりあえず一回歌ってみて、みんなが「いいじゃん」って言えば、「おお、これでいいじゃん」って感じかな。でも俺の中で「よし、やったぜ。決まったぜ」って言うのはあるけど、でもやっぱ自信ないんだよね。勿論「これしかねぇだろ」ってのはあるよ、はっきり言って。やっぱり「みんな歌えるような」って思って作ったら、自然とそんな感じに仕上がるんだよ」

SCULLTON「がなる歌を歌うってよりも、結局この人はSingerだったんだよね。元々が」

▶まあ、話は変わりますけど、今回のレコーディングは今までの録り方とはガラッと変わった訳じゃないですか。その辺りのところで苦労した所とかは無いですか?

SCULLTON「録ってる時は何も変わらなかったけど、ミックスの仕方とか、その時立ち会ってくれた人達を見てて、一曲に対してここまで拘るんだっていうか。ミックスにこんなに時間かけて細かくするものだとは思ってもみなかったからね。そういったところでは、本当の意味でのレコーディングを知ったって感じかな」

▶KENさんはどうですか?今までと違ったからやりにくかったとかはないですか?

KEN「うん、なかったね。こっちの意見を通してもらったからね。マイク持って歌っちゃダメだって言われたり、マイクも持ち込んじゃダメって言われた。でもやっぱりLIVE感出したいしさ、マイク持たなきゃ歌えないって言ったら、それもちゃんと話が通ったからね。普通にヘッドホンしてマイクに向かって歌うのはちょっとね…。挑戦してみたいとは思うよ、でもやっぱり当日になるとマイク持ちたくなるんだよ。LIVE感出したいし、なんだったら裸だからね、やっぱり(笑)。あと勿論椅子だね、前は鏡で」

▶やっぱり椅子は必要なんですね。

KEN「それ書いといていいよ。やっぱり裸だったって。そしてやっぱり椅子は必要だったって」

SCULLTON「椅子は座る為にあるんじゃないからな」

KEN「足掛けだから(笑)。勿論前には鏡ね」

▶では最後に、今後のRESISTANCEはどのように動いて行くのか、その辺りの事を聞かせてもらえますか。

SCULLTON「俺は入り口があって、そこから入ったから、出口はきっとあると信じてる。その入り口から出口までの間の時間っていうのは、人間の可能性を最大限に引き出す事の出来る時間であると信じてる。やっぱり俺達はこの4人でやってるものを信じて、壁があるならそれを一緒に壊して行くし、石に躓いたらその躓いた理由も学ぶし、躓いた事にも気付かず進んでいくようなバカな真似はしない。同じ失敗は二度としないって事だね」

JAIL LEAGUE Vol.1

2005.3.19.sat 池袋手刀

AUTO MOD

MOTHER MADE CHERRY PIE

GUILLOTINE TERROR

SUPER SISTERS

TOKYO YANKEES

CAT FIGHT(ギャルショッカー)

○押野愛子 VS GRAVE GRAINDER●

JAIL FIGHT
●グラスホッパー VS イグニッションマン○

JAIL FIGHT
○ヨシロックT VS イグニッションマン●

Photo by 榊原弘朗

AUTO MOD/ジュネ氏とMOTHER MADE CHERRY PIE/アサテル氏による、ハードコア!!格闘技!!キャット・ファイト!!!アルコール(千円で飲み放題)!!!!が融合した異種混合企画、"JAIL LEAGUE Vol,1"が池袋手刀にて開催された。ジャンルの垣根を超えた個性溢れるバンドのライヴ(D.S.Bも出演したがバンド側の意向により写真ナシ)、眼前で繰り広げられる真剣勝負の格闘技、キャット・ファイトのセクシーな闘いには強面のパンクスも思わずニンマリと、非常に刺激的で面白いイヴェントとなった。次回は7/9(土)池袋手刀にて開催されるので、今回見逃した不幸者は何が何でも足を運ぶべし!

BILLY

Photo by Takayuki MISHIMA

永遠のロックンローラー、ギターウルフのベーシストであるビリーこと関口秀明氏が、3月31日未明に心不全のためこの世を去った。享年38歳。突然の訃報にショックを受けたファンも多いであろう。口を歪めブンブンとベース・ラインを掻き鳴らすあの姿がもう見ることが出来ないと思うと残念でならない。しかし、ビリー氏が残したギターウルフの作品の数々は永遠に輝き続けるであろうし、それぞれの目には今でもイカしたポーズでキメるビリー氏の姿がクッキリと焼き付いているであろう。謹んでご冥福をお祈りいたします。

ugman

再スタートではないですよ。だってずっとやってるし。

*INTERVIEWED:*遠藤妙子　*PHOTO:*野沢直哉

久しぶりのアルバム『WITH OUT U.G.』を男道レコードよりリリースするU.G.MAN。メンバーチェンジも軽やかに(いや、本当はきっと強靭な意志の元に)乗り越え、燃えたぎる作品が完成(取材当日は未完成でしたが)。ストレートに驀進しながらも様々な引っかかりが体と脳に焼きつき残像を残していくような濃い作品。ハードコアだからこそ、アンダーグランドだからこその自由な存在も含めて、個人的には、そしてきっと多くのバンド達にとっても精神的な支柱になり得ているバンド。そんな彼らへのインタヴューはライヴ前に行なったのでメンバーも入れ替わり立ち替わりだったのだが、自由で各々が信頼している感じがあり、それも彼らららしかったのだ。次のライヴは5/21、BASEMENT BARにて。

ウザワ(B)「揃ってないけど、良ければ始めちゃいましょう。OKですので(笑)」
▶はい。今のメンバーになってサウンドも変化してるわけで。そのへんも含めてメンバー・チェンジのいきさつを伺いたいんですが。
ウザワ「前のメンバーが抜けたんで新しいメンバーが入ったってだけで、バンドとしての理由があってのメンバー・チェンジではないんですよ。で、自分が入ったいきさつは、前のヴォーカルが離れて、ドラムだった奴がヴォーカルやって。その頃、ベース抜きで3人でライヴやってたのを俺がたまたま見て。俺、ベース弾きたいって言って。俺が入ってドラムが抜けて今のドラムになってっていう」
▶ベース抜きのライヴを見た時、自分が弾いたらもっと面白くなると。
ウザワ「ですね。その時のライヴ、ギリギリでやってたと思うし。そういうのは1回だったら見てても面白いと思うんですけど何回も見るのは正直キツイなぁと」
▶加入以前、U.G.MANとはどんなバンドだと思ってましたか?
ウザワ「普通のバンドだと思ってましたよ。特別視してたわけじゃないし。勿論、面白いとは思ってましたけど」
コゾウ(Dr)「僕はちょっと年下なんですが、普通にカッコいいハードコアのバンドだなって思ってて。タニグチさんとか本当に楽しそうにやってるなって思ったし(笑)」
▶以前のU.G.MANって、さっきの話のようにベースがいなくてもやっちゃうみたいな、変則的でも、いや、変則的だからこそ面白いって面もあったと思うんです。
コゾウ「僕も最初は、狙ってるのかなって思ったこともあったんですが、たぶん全然そうじゃなくて。やれることをやるって真っ当な感じだと。じゃなきゃあんな迫力は出なかっただろうし」
ウザワ「以前はきっとね、メンバーの誰かが来られなくてもライヴをやっちゃってたと思う。どんな形でもライヴがやれるし、何が起こっても力に変えて笑えちゃえる感じがあったと思います。それは凄いことだと思いますよ。でも今は全然違うと思うんですよ。今は誰か1人欠けたらライヴはやらない」
▶それは4人のバンド感がより強くなってるからで。
ウザワ「うん。今の俺らが誰か1人欠けてライヴやったら、それは無理してることになるし。4人の形が一番いいと当たり前に思ってて。4人で曲も作ってるわけだし、そこで一人欠けてやるのは違うと思うんですね。それは、俺、バンドにとって当然いいことだと思ってるんですよ。やってて充実感あるし。曲もバンバンできちゃうんだけど、簡単に作るっていうんじゃなく、コレがいいって感じで作ってるから。今はバリバリ音で勝負してるし。いや、以前が音で勝負してないって意味ではないけど」
コゾウ「カッコイイと思いますよ、今」
▶それは変化させようって意識があって?
ウザワ「いや、自然にです。人が変わったから変わってきただけで。これがもし以前と変えようって意識的に思ってたとしたら、バンド名変えても良かったのかもしれないけど、でもそういう意識ないから。だからバンド名も変えず。出し方は変わったかもしれないけど、気持ちの部分、ずっといるタニグチ君もきっと変わってないと思うし」
▶うん。ライヴでも、お客さんの反応がいい意味でそんなに変わってないと思うし。なんか、伝わってる核の部分は変わってないんだなって思いますもん。
ウザワ「嬉しいですよね〜。でもそれ、タニグチ君の人柄かもね(笑)」
▶で、バンド感っていうのは作品にも感じられますよね。
ウザワ「疾走感はあると思うんだけど、一番速いのは誰かって一等賞を獲りたいわけじゃないからね。そんなのやりたいなら1人でやった方がいい。みんなでやってるって意識が無意識のうちにもあるから、「この音がきたんなら俺はこの音で返す」っていう、そういう感じがないと、曲作っていく意味ないし」
▶曲作りはどんな感じで?
ウザワ「例えばタニグチ君がギター弾いて俺が合わせてみんなが合わせるっていう。勢いで合わせていく感じ。勢いで作れないとダメだと思う。曲は短いけど、気持ちいいのがあの位の長さ。今作も全部で20分あるかないかだけど聴き応えはあると思う」
▶あるある。
ウザワ「ライヴもそうなんだけど、タニグチ君がリフ弾いて、パッと展開変えるんだけど、その瞬間にこっちもパッと合わせるみたいな。そういう緊張感はバンド感でもあり、人と一緒にやる面白さで」
▶ライヴも作品も、凄く人間的というかプリミティヴになってますよね。
ウザワ「あぁ、うん。今、4人の固まった音が出せてるなって思えるんだけど、巧くなったとかまとまりがあるとは違って、よりメチャクチャやれる気がする。それが人間的ってことなんでしょうかね。ホントに人ありき」
▶こういうバンドになりたいって動機は、初めてバンド結成した時だけで、その先はドンドンはみ出したものが出てくるはずだしね。
ウザワ「こういうバンドになりたいって思って、ずっとそれを追ってたらオシマイですよね。だったらコピーした方がいい。20年もバンドやってると初期衝動なんて忘れちゃってますね。でも初期衝動に勝る衝動が今はあるんですよ。それは凄く気持ちいい音が出せてるから。テクニックって意味じゃなく、音の強さっていうのかな、それは格段に増してるから音を出すたびに衝動的になれる感じで」
フジムラ(Vo)「遅れてすみません。ヴォーカルのフジムラです」
▶フジムラさんはドラムからヴォーカルに変わりましたが。
フジムラ「河南さんが抜けてヴォーカルどうしようってなって、誰もいないから僕やりますって。自信あったわけじゃないんですが」
▶初めて見た時、全然OKだと思いましたよ。
フジムラ「でも最初の半年ぐらいは何やってるかわからなかったですね、自分で。今はわかるし楽しいんだけど。回りは以前と比べるのは当然だけど、自分では比べられないですね。比べても答えは出ないし。河南さんを超えられるかって考えて、越えるって何?って話だし。比べて違いを見つけても、だからどうするか?ってとこで歌うわけじゃないし」
▶自分は自分ってことですね。でも敢えて比べますが、河南さんが現れた途端狂気になってるとしたら、フジムラさんは素のままに段々狂気になっていく感じがしました。人間らしいし、カジュアルって言ってもいいのかな。
フジムラ「人間らしいってのはちょっとわかんないけど、カジュアルだと思いますよ」
ウザワ「まぁ、ライヴも普段着だしね(笑)」
フジムラ「今日はこのTシャツ着ようぐらいは考えるけど(笑)。感覚として普段着ってのはありますね。且つ訳わかんない勢いもあって。やっと楽しくなってきた」
▶ファッションだけじゃなく、サウンドも雰囲気も素だしプリミティヴだし。だからこそ狂気になっていくのにワクワクするし。なんていうか、ハードコアなんだけど、ロックンロールのような感じさえしました。
フジムラ「それ、嬉しいかも。僕はハードコア・パンクだって思ってやってるんですけど、それがロックやロックンロールと繋がってるなって、作品を聴いて改めて思ったし」
タニグチ(G)「そうだよね、いい作品だよね、って遅れてすみません(笑)」
▶えっと、アルバムですが…。
タニグチ「今回は、凄いやつみたいなのを作ろうって話してたんですよ。凄いやつじゃなく凄っぽいやつ(笑)。凄いやつだと作れない可能性もあるから(笑)。前作までは、わかりにくいとこがポイントだったりしたんですけど、でも今回は凄っぽい作品(笑)」
▶鋭いのと同時にドカーンとしてますよね。
タニグチ「うん。みんなメチャクチャやってくれるんで、それが形になればいいなぁって。以前は、意外とコントロールしてたかもしれない。でも、今はガーッと出しちゃってるだけです。だけど、各々が音で仕掛けてくるんですよ、俺も仕掛けるけど。仕掛けにみんなが乗るみたいな。みんなが仕掛けるからいいんですよね。だから自然にU.G.MANの音としてまとまるのかも」
▶私はこのインタヴューで、ずっとプリミティヴで人間的だって言ってるんですが…。
タニグチ「ハードコアってものがそうだと思うし、それがカッコイイとこですよね。だって面倒くさいじゃないですか、これが新しい音だとか、レイドバックがどうとか、そんなの考えるのが面倒(笑)。考えるとハードコアの格好良さが損なわれるって気がするし。誰も思いつかないっつうか、思いついてもやらないっていうか、最終的に自分でも考えつかなかったものが出来れば嬉しいです。でも、ハードコアのバンドはホントかっこいいバンドばかりですよ。例えば、カラード・ライスメンとか、フォワードとか、その周りのシーンって、長くやってて、好きな人が集まって…いいなぁって」
フジムラ「いいですよ、ライスメン」
タニグチ「でも、最初に見たハードコアのライヴがU.G.MANだったって人もいるんですよ、まだ十代くらいかなぁ。凄くないすか?最初に見たのがU.G.MAN(笑)。すごく光栄です。だからこそ、常に衝撃を与え続けて行かないと失礼ですね。パンクとかハードコアとかって、人の生き方を変えたりする音楽だと思いません?僕も一応、人の人生を変えてやろうと思ってやっているんですけどね、個人的に」
▶うん。最後に、今、再スタートって気持ちで?
タニグチ「再スタートではないですよ。だってずっとやってるしね」

FUCK YOU HEROES

このバンドでこの3人で出す音に対して、3人とも違和感が無くなってきてるから

INTERVIEWED: **岡林大輔**　[3月29日/新宿ルノアール]

FUCK YOU HEROESの2nd『I'm nothing more than myself.』が完成!!自分達の活動を「日曜日の草野球」に例える彼ら。そのスタンスのまま、彼らのPLAYするグラウンドはどんどん大きくなっている。2ndアルバムの話を中心に、様々なバンドと袂を分け合う合同企画について、そして音楽についての話を聞いた。

▶1stリリース後、大きな変化はありましたか?
RYOSUKE「うーん……単純にやっぱり地方行った時に、お客さんがノリ方を分かってくれたのは、CDを発売したからかなと、漠然と思います」
▶地方も含めライヴの本数もかなり多いですよね。
RYOSUKE「意外とやってますよね(笑)」
▶FUCK YOU HEROES(以下FYH)単独企画の他にPEALOUTとの共同企画「激初期衝動シンポジウム」、DASHBOARDとの共同企画「AYORSA」、SAIGAN TERROR、SCUM BANDITZ、NAIAGARA33との共同企画「FUCK YOU! SAIGAN BANDITZ 33」と独自なスタンスで企画も組んでますよね。
RYOSUKE「足りない物を補ってもらってるんじゃないかな(笑)」
▶足りない物って言うのは?
RYOSUKE「単純に僕と同じ気持ちで、一つの事をしていこうと思った人がたまたま近くにいたって事がまず一つと、僕らとDASHBOARDだったりPEALOUTだったりが繋がって一緒に企画をやった事によって、ハジからハジが繋がれば出してる音が違えど、共通する物があると。まぁキッカケとしてやれたらいいかなって言う。まぁそんな重苦しい考えがある訳ではないですけど(笑)」
ANDREW「俺らにしか出来ないっていうところもあるよね」
▶今回のアルバムはその活動が反映されてか、基本的には前作の延長線上にあるかもしれませんが、アルバムとしての幅が出てきましたよね。分かりやすい所で言うとアコギの弾き語りっぽい曲があったりとか。意識はしましたか?
DOTU「1stの時はそう言うのを自然に出来なかったというか……今回は曲作りの時にすごいすんなり、ポンって持ってきた物にみんながそれぞれ自然な形で加えて、すぐ出来上がった感じで。前はそれをやるとやってて気持ち良くない感じだったんですけど、今回は「いいねいいね!」って感じでどんどん進んで」
▶普通は、時間をかけて練り上げてって事かなって思いますけどね。
RYOSUKE「逆ですね。前回よりも練ってないですね(笑)」
▶今のバンドの状態の良さが現れているのかもしれませんね。
RYOSUKE「こうしなきゃいけない!っていうカテゴリーみたいな物を、前回はある程度作っちゃってた部分があったと思うんですよ、3人の中で。それぞれのメンバーのいい所を探りあって作ってきたのが、2枚目を出すまでの間にもうこのバンドでこの3人で出す音に対して、3人とも違和感が無くなってきてるから、僕が(曲を)作ってる時すでに、2人の気持ちが勝手に入ったうえで曲を作って……アコギの曲とかも、僕弾き語りとかやってたからアコギでやりてぇなとか思って。たぶん2人も楽しんでやってくれるなって分かって持ってったら、みんな楽しんでやってくれた(笑)」
ANDREW「3人のルーツがストレートに出たよね。でも全然嫌じゃない」
▶僕も聴いてて違和感は全くなく自然に感じましたね。あと以前やっていたバンドの流れもあると思うのですが、スタスタって走る曲の中にもメロディックの要素も感じました。リフとリズムで押し切る感じとはまた違った……。
DOTU「普通に3人ともそういう物を聴いたと思うんですよ。聴いた物が普通に出ただけだと思います。1stの時にやろうとしてたら、もっと変な風になってたんじゃねーかって。自分達にとってはこっちもこっちも(ハードコアもメロディックも)関係なく聴いて大きくなってきたから、自然な形だったというか……今回の方が今までに聴いてきた物が自然に出たものになってるんじゃないかなぁ」
▶ギターにしぼって言うとメタリックなフレーズにオッ!ってなったんですが。
DOTU「あー(笑)いやでもそれも自然と言うか……まぁメタルも好きだったですけど、メタルと混ざってるハードコアみたいなのも好きだったし」
▶あっ、話はちょっと逸れるんですが、最近気に入ってるバンドってなんかありますか?
RYOSUKE「なんだろうなぁ。単純に僕はDSBを見た時に、僕らがやろうとしている事をその上でずーっとやっているのを観てしまったから、影響と言うか刺激になって。全てに関して。実際僕は聴いた事無かったし、観たのも

今回対バンしたのが始めてだったけど、影響と言うか……でかいですね」
DOTU「僕はずっと好きだったんで対バン出来てうれしいなって。俺はなんだろう、PEALOUTとか。対バンする人はやっぱり」
ANDREW「PAINT BOX!全部がヤバい!いろんなジャンルの人に聴いてほしいですね」
▶なるほど。話は戻りますがアルバムの音作りはいい意味で軽いと言うか……メタリックなリフとかもあるんですけどそこまで重くないし。
DOTU「なんて言うのかなぁ。メタルって言っても自分が聴いたのはメタルっぽいのを取り入れたパンク・バンドとかだから。普通です、そういう感じが」
▶ドラムの音もやっぱり同じように重過ぎず、いいバランスで良かったです。今回もエンジニアは?
RYOSUKE「ドラム(ANDREW)ですね(一同笑)」
▶どうでしたか?
ANDREW「最高でしたね!(一同爆)」
RYOSUKE「前作はやっぱりANDREWはANDREWで別のバンドとかずっと録ってきてるんで、僕らを録ったときに、やっぱり多少はこうして欲しいとか注文も言ったけど、今回は僕らが(レコーディングの)2日目に行ったときに音を作ってて、これでどう?って聴いたときの、もうそのままの音でいったんですよ。まかせたままで。ただ、ドラムの音がデカいんじゃないかとか(笑)。ANDREWのコーラスの声がやたらデカいとか。愛嬌として(笑)」
▶それはあるかも知れませんね(笑)。発売後すぐPEALOUTとのツアー、RAMSツアーという単独のツアーがありますね。
RYOSUKE「何よりPEALOUTとまたやれるっていうのは非常に良かったと言うか。前回で終わりにはしたくなかったし、今後もPEALOUTじゃなくても(注・PEALOUTは解散が決定している)あの3人が賛同する形であれば、また違った形でも続けていきたいし。で、ウチらのツアーはあんまり無茶しない様に。ツアー廻って帰ってきて、金がまったく無ぇとか、仕事やめて廻るってスタンスをやったらたぶんウチはウチじゃ無くなると思うし」
DOTU「俺は基本的に行かなくてもいいと思ってるけど。でもやっぱり行って応援してくれる人がいるってのが分かったから。だからやっぱり行かなきゃって」
▶では最後に一言お願いします!
RYOSUKE「えらそうな事になるんですけども、例えば青春パンクだから聴かないとか、英語じゃなきゃダメだとか、対バンがこういうバンドとしかやってないから嫌だとか、なんかそのバンドを見てないでジャッジしてるお客さんもそうだし、バンドの人もそうだし、変な話色んな雑誌の人もそうかもしれないし。それが無くなるように出来たらいいなぁって。すごいでっかい話かもしれないですけど。なんかこう、音楽好きならそれでいいじゃん!って投げっぱなしな考えを持ってくれたらいいのになぁって思います」
ANDREW「音楽は人から決して奪えない!」

SPIRAL CHORD

「魂の解放」〜要は考え無しで本気でバカをやることなんだ

*INTERVIEWED:*遠藤妙子　*PHOTO:*hatta 200MPH

凄まじい緊迫感と気迫。衝動的に放たれた3つの音はデカイ渦になって聳え立つ。ハードコアやオルタナを飲み込みながら、かつての日本のパンクやロックが体臭の如く滲み出てくる様もゾクゾクする。ex.COWPERSのゲンドウ(Vo,G)、200MPHのhera(Dr,Vo)、中尾憲太郎(B)の強力な3ピース、1stフル・アルバム『脳内フリクション』の破壊的テンションに驚け。メールで答えてくれたゲンドウの言葉にも熱が充満しているのだ。

▶COWPERSの活動停止の後、考えたことは?

「取り敢えず最初に生活からバンドを一切排除した。そこは時間が常にゆっくりと流れてそれはそれで有意義な時間だったが、それは俺という人間が音楽やバンドに生かされていることを再認識させる時間でもあった」

▶結成の経緯を教えて下さい。

「前身バンドともいえるF.I.Xがきっかけにはなっていると思う。F.I.X自体は企画バンドだったのでそんなに力を入れて活動するつもりは無かったけど、数本のライヴをやってCDシングルを出したら予想以上に評判が良かったので「じゃあ、アルバムでも作ろうか?」って流れになった時にベースのカンノ(the carnival of dark-split)が他界してF.I.Xは自然消滅。でも、heraとは「まだまだヤリ足りないな」と思っていた。それがきっかけにはなっていると思う」

▶音のビジョンが既にあったのか、それとも人ありきというとこからスタートした?

「明らかに後者。とにかく「heraとなら何かスゲー事ができる!」という根拠の無い自信しか無かった」

▶現在のメンバーまでの経緯を。

「2003年の1月にheraと正式に結成して、ベースに初期DISCOTOTIONに在籍していたSinnを誘った。それがオリジナル・メンバー。バンドのビジョンも決まらないままにV.A.『A CASE OF RFTC JUNKIES"Tribute to Rocket From The Crypt"』に参加。デビューGIGを行ったのは9月で、それを含めて計4本のGIGで「狂った2人のオッサンには付いて行けない」という理由でSinnが12月をもって脱退。その時点で2、3本のGIGが決まっていたから「さあ、どうする?」って事になり、先のV.A.のレコ発でのSPEEDOとのセッション時に一緒に参加してたケンタロウに声をかけ、ほぼ二つ返事でOKを貰い現在に至る」

▶まずゲンドウさんとheraさんの結びつきの強さのようなものを感じます。

「やっぱり同い年っていうのもあるんだろうけど、中高生の頃にDOLLや宝島でパンクの洗礼を受けて、住む土地は違っても同時代のカルチャーや音楽を同じように通過、体験してたというのがデカイんじゃないかな?だからスタジオでバーンと音を出して「これだろ?」、

「そう!それ!」というような、共通項を共有し波長をあわせるのが容易に出来るんだと思う。それこそ、お互いの関係が親密になったのは30代へ突入間近って頃だったけど、其処に至るには「見えない細い糸」を手繰り寄せたんじゃなくて、既に「ぶっといパイプ」が繋がっていたんじゃないかな」

▶heraさんが札幌に立つ前、「まずはゲンドウ君と一緒にやりたい。そして、札幌の、たとえ各々のバンドが解散しても脈々と繋がっているシーンの強さ、各々のバンドの強さの秘密を札幌に行って知りたい」と言ってました。ゲンドウさんから見た札幌の状況、札幌だから生まれた音楽という感覚はありますか?

「正直、この質問はとても答えづらい。俺はコノ街に住んで生活をしているだけであって、札幌のシーンを牽引しようなどとは決して思っていないしそんな度量も無い。実際、今は俺が気になるバンドは希薄だし、年間を通してもライヴ・ハウスに脚を運ぶ事は少ない。でも十数年前に出会った奴らが30歳を超えて、それぞれが色んな形の「生活」ってモノを抱えた今も、様々に形態を変えながらバンドを続けているのは俺自身への励みになっていることは確かだ」

▶バンド経験が豊富だからこそ難しかったことはありますか?

「俺には経歴なんて邪魔くさかったし、今更そんな肩書きめいたものは必要なかった。ただ、ギターを初めて触った時のアノ衝動を取り戻したかったんだ。「年もくったし、柔らかい音楽でも....」という風にはシフトしたくなかった。そこは多分、heraも同じ気持ちでやっていると思う。とにかく今はがむしゃらに攻めて行きたい」

▶3人の音の思い切りの良さ、各々の音が緊迫感と共に自由に出されていると思います。3人のアンサンブルについて思うことは?

「多分それは、それぞれがガキの頃に選んで手に取った楽器への愛情と執着による作用。高価な楽器だけが良い音や特徴のある音を出すのではなく、それを扱う人間が楽器の特性を引きだして巧くコントロールしてやることが独創的な響きを作り出す秘訣なんじゃないかな。そしてアンサンブルとは各楽器が紡ぎ合う人間同士の共鳴なんだ」

▶レコーディングはどのように?

「完全セルフ・レコーディング。昨年の9月と11月に札幌でGIGがあり、そのついでにリハーサル・スタジオに機材を持ち込みベーシックを録り、あとのダビングはその殆どを俺の自宅のレコーディング・ルーム"VoiD"(自部屋)で仕上げた。ミックスは俺の親友でもあり宅録講師でもあるAEROSCREAMのjcとPRO TOOLSを使いタッグを組んで仕上げた。セルフ・レコーディングのメリットは自分の中で鳴っている音像によりダイレクトにイメージを近づけることが出来ること。逆にデメリットは個人的な主観で事を進めてしまうが故にリスニングに耐えられないシロモノを作ってしまう恐れがあること。でも、幸い今回は全てデジタル機材を使ったにも関わらずアナログ感を全面に出したブットクてザラついたモノが出来て満足している」

▶焦燥感と解放感が同時に存在するような、凄まじい気迫の作品だと思います。焦燥感は普段から感じていることですか?音を出した時に自分の中から引き出されてくる感じ?

「焦燥感についてはまるで自覚が無いのだけれど、解放感という点については開放弦をバーンと鳴らした時点で、どうやら俺は何処かに飛んで行ってしまうようだ。GIG終了後も帰って来られなくなることが屢々ある。レコーディングでそのシチュエーションを作るのはとても困難な作業だが、このアルバムは1ミリでも其処に近づけたかった」

▶アレンジも含めて曲作りの方法、発想は?

「COWPERS時代は一人で描いたラフデッサンを元に、それをスタジオに持ち込んでメンバー全員で一枚の絵を完成させるという手法を使っていたけど、このバンドになってから俺の作曲に対する姿勢がチョット変わってきたと思う。先ずheraと2人でスタジオに籠もって延々とだらしのないセッションを繰り返しながら印象的なフレーズなりリフを抽出し、そこから発展させて行く。メロディこそ俺の中から放出されているモノだが曲の母体となるモノはまるっきりの共同作業になっている。これはこれで初めての経験でもあるし、とても面白い方法だと思っている」

▶ラモーンズのカヴァーについて。カヴァーの難しさ楽しさ。ラモーンズについて思うことなど。

「他人の曲をカヴァーするのはホントに難しいことだと思う。選曲からアレンジまで。ましてやトリビュート盤ではなく自分のアルバムに収録となると過剰に神経質になってしまう。当然、心から敬愛してなければ出来ない事だし、軽い気持ちでやってはいけない行為だと俺は思う。ラモーンズについてはheraをさしおいて俺が語るのは大変おこがましく思うのだけれど、彼等こそ「永久不滅」という言葉がハマるバンドは無かった。今はとても残念な事実しか残ってないけど、俺にとっては「永久不滅」であることには代わりは無い」

▶影響を受けた音楽、アルバムを作るにあたってよく聴いた音楽があれば。

「①HOT SNAKES/AUDIT IN PROGRESS、②INU/メシ食うな!、③RAMONES/LOCO LIVE、④THE CLASH/LONDON CALLING、⑤ハルカリ/ハルカリベーコン、⑥FUGAZI/END HITS、⑦SAMURAI/SELECT&POINT 0。①は1stを聴いた時にバンドを辞めようと思った位ショックを受けたが、この3rdはもっと凄かった現存するバンドで俺をミーハーな気持ちにさせてくれる唯一のバンドだ。②は数年前にCDで買い直してからずっと聴いてる。俺の「捻れ」の根源がやっぱりここにある。③はheraとケンタロウに強く勧められて最近やっと聴いた。恥ずかしながら、CJもアリなんだとやっと気がついた。④は例の25周年盤。中学生の頃の思い出がすぐにフィードバックしてしまう。⑤は良く出来ている。2ndよりこっちのほうが好きだ。⑥のこのアルバムはリリース当時よりも今の方が聴いてる。この次のTHE ARGUMENTの間にあるギャップが未だに解明出来ない。⑦は殆ど強制的にheraの鼻歌で洗脳された。先の名盤復刻と蘇生を世界中で誰よりも喜んだのはheraだという事実を俺は知っている」

▶オルタナ、ジャンク、ポストロックなどのサウンドや音楽の流れを知った上で、根源的なスタンスで音を出しているという印象なのですが、そのようなことは考えますか?

「意識してはいないけれど、結果的にそうなっているという事は把握しているし、ソレを否定はしない。実際オルタナもジャンクもポストロックもパンク・ロック無しには産まれてこなかった音楽だし、俺はそれらの音楽の誕生を常に「新しいパンク・ロック」として認識してきた。でも俺達は戦略としてそのスタイルを選んだ訳では無い。単純に好きなことを好きなようにやっているだけなんだ」

▶気迫ある素晴らしい作品ですが、その気迫は何によってもたらされているのでしょうか。

「単純に「魂の解放」にすぎない。要は考え無しで本気でバカになることなんだ」

▶最後に。

「俺が10代の頃、INU、FRICTION、THE ROOSTERSやSTALINに犯られたように、今の10代の人達にこの音がどのように作用するのかを知りたい。そして、満を持してと言うか、重い腰をやっとあげてWEBに進出する事になったので、気になった人はぜひアクセスして欲しい(www.spiralchord.org)。最後に、このアルバムの制作に無償の愛を注ぎ関わってくれた全ての人達に本当に心から感謝している」

DASHBOARD

やっぱ恐れないでやりたいことやるのがパンクで。だから僕もパンク(笑)

INTERVIEWED: 遠藤妙子　[3月30日/新宿滝沢]

DASHBOARD、待望の2ndアルバム『YOU'VE GOT TO HAVE FREEDOM』(STIFFEEN RECORDS)が遂にリリース!実に約4年ぶりとなる本作、休むことなく続けていたライヴで培った更なる勢いと、シャープで奔放に飛び回るサウンドがガッツリと合った痛快作。黒人音楽も独自に解釈した80年代ニューウェイヴを、更にDASHBOARDならではのサウンドで放出。天然さと捻くれ具合が絶妙に絡まり緊迫感と楽しさを同時に作り上げた、特異にして最高にダンサブルな作品が誕生した。メンバーはAxSxA(G)、MASUYA(Vo)、SHOUJI(B)、MASARU(Dr)、YASSAN(Tp)。AxSxAとMASARUに聞く。

▶約4年ぶりの作品ですが、この4年間のことをザッと教えて下さい。ライヴはずっとやってたんですよね?

AxSxA「ライヴはず〜っとやってました。前の作品の後、ドラムが抜けて、こいつ(MASARU)がドラム叩けてジャズとか好きだって言って"やらない?"って声かけて」

MASARU「"パンクとか知らないけど、いいの?"って」

AxSxA「なんかその方が面白そうだったし。で、サックスが抜けてトランペットが入って」

▶変化させたいって気持ちがあって?

AxSxA「あったんだと思います。ファンキーなものをやりたいと思ってて。それがメンバーの変化と上手い具合にタイミングあって。だから、無理矢理やってる感じはないよね?どう?」

MASARU「まぁ、好きにやってますよね。僕は自分が好きなジャズやファンクの音を、自分なりのアプローチでやろうとしたし、それが受け入れられなければ辞めようと思ったけど、辞めなかったし。かなり自由にやってるし、みんなも面白がってくれてるし」

AxSxA「でも最初は戸惑ってたでしょ(笑)」

MASARU「それはやりたいことをやる以前の問題でね。曲はこの人(AxSxA)が持ってくるんだけど、"こいつ、何してんのかな?"って(笑)」

▶曲の着地点が見えないって感じ?

MASARU「着地も何も、曲になってない(笑)。凄い大雑把な指示を出して……」
AxSxA「"草原のような音でね"とか(笑)」
MASARU「僕なりに草原の解釈をしても"なんか違うみたい"って(笑)。なんかってなんだよっていう(笑)」
AxSxA「自分ではパチッとイメージがあって、それが凄く変わるのが凄く嫌で。凄く変わるのは嫌なんだけど、ちょっとズレていくのは凄くいい(笑)」
MASARU「ヒドイもんでしょ(笑)」
▶でもメンバーの音によるケミストリーは求めてるわけで。
MASARU「きっとそうだと思います。僕も最初は戸惑ったけど、だからって話し合いとかはしなくてね、音を出していくうちに段々とわかってきたし。感覚や実感で得たものはあるから」
▶ですよね。言葉より感覚ですよね。
AxSxA「それ、ちょっとカッコ良く言い過ぎですよ(笑)。言葉にできないだけ(笑)。適当なのかも(笑)」
▶でも適当な音じゃないですよ。
AxSxA「うん。わりと創り込んでないからかな。削ぎ落としてるっていうか。やっぱり衝動的な、パッと作ったものが練りに練ったものより良かったりするし」
MASARU「だから音を出して段々わかってきたっていうのは、曲を練ってわかっていったって意味じゃなく、より衝動で出せるようになったってことで」
AxSxA「やっぱ曲のどこかにパワーダウンしてるとこがあるとダメで。別に速くなくても展開があっても、ちゃんとテンションで持っていけるような」
▶前作からの変化を改めて聞きたいんだけど、前作の頃は活動的にはスカパンクのシーンに居る感じでしたよね?
AxSxA「そうですね。でも僕の趣味も変わってきちゃったし。スカパンクじゃなくて面白いバンドいっぱい知ったし、スカパンクとか、もう、いいかなぁ〜って。その時々の自分の音楽の趣味が作る音に出ることは大いにあるんだけど、でもその趣味がね、どんなジャンルにせよ、濃いことをやってる人達に影響受けるようになって。あぶらだことか、ず〜っとやってきて、潜水状態って言うと失礼かな(笑)。でも説得力あるし、たまに世間の波と上手く合って(笑)。僕らもそうなったら儲けもの(笑)」
▶ジェームス・チャンスとかは昔から影響を受けてたの?
AxSxA「全然。僕、入りは完全にスカパンクだから。そんである時ね、ロスランチェロスと一緒にやった時、"ポップ・グループみたいだね"って言われて。"何?それ"って(笑)。自分ではスカパンクだと思ってたから」
▶ちょっと待って。私、背景はスカパンクだと思ってたけど、やってる音自体はスカパンクから外れたことをやろうって意識かと思ってましたよ、以前も。
AxSxA「いや、やってる音も完全にスカパンクだと思ってたんですよ」
▶あ〜、そこから既にオカシイんだ(笑)。
MASARU「だからこの人ね、元々変な感覚だったのに、自分で気づいてなかったんだと思うんですね(笑)。今、元々持ってた変な感覚に自覚的になって、そこと向き合って表現しようとしてると思うんですよ」
AxSxA「かもしれない。前作だって完璧なスカパンクだと思ってたもん、でも違ったみたいね(笑)。で、それに気づいたのは"ポップ・グループみたいだね"って言われて、そのへんの『NO NEW YORK』や80年代初期のものをたくさん聴いて。そしたら自分と感覚や指向性が凄く似てるんじゃないかって勝手に思って。"ヤラレタ"って思った」
▶遅いよ(笑)。でも凄くわかります。なんか、本気で誤解しまくってるっていうか(笑)。
AxSxA「そうそう。ビッグ・ボーイズとか今聴いたらハードコアがちょっと変な感じって思うけど、たぶん本人達は超ファンクのつもりでやってたと思う。凄い本気でファンクやってたんだろうなぁって、出来たものは全然違っても。それがね、面白い音楽の理由だったりするし、自分の感覚に気づいたきっかけにもなったし」
▶でも自覚的になったら、誤解のままの面白さを作り出すのが難しくなってきたりしない?
AxSxA「う〜ん。80年代ニューウェイヴの焼き直しだねって言われたとしても、ま、そうかもね〜って(笑)。なんか、何言われても全然平気になった。前はさ、スカパンクやってるつもりなのにスカパンクではないって言われると、結構気になったりしたんだけど。今は全然平気」
MASARU「こんなジャンルをやりたいって、そういうとこでやってないから、何言われても平気になったんだと思うんですよ。コレがね、80年代のニューウェイヴを意識的にやってたら、そこに当てはめようとするのかもしれないし、回りの意見も気にするかもしれないけど。やりたいことやってるから気にならない、結果がどうあれ(笑)」
AxSxA「なんかね、ちゃんとした曲じゃなくても世に出していいんだって(笑)。やりたいことはいろいろあるしね、どんどん実験したい。1分の曲や50分続く曲。今ね、ギターのピックを使わないでビンビンビンって押し続けて1曲作るってのを、俺、次の作品で狙ってるの」
MASARU「でもね、それ、ジャズの世界ではとっくにやってることなんだけどね(笑)」
AxSxA「またヤラレタ(笑)」
MASARU「だからこの人は新たな誤解をまたしてるんですよね(笑)。だから面白い」
▶本作も、過去の音楽を使いながらも、凄く現代的な音になってると思うんだけど、それは、なんていうか、過去の音楽に余分なリスペクトの気持ちがないからかもって、ちょっと思った。
AxSxA「あ、なんかわかる、言いたいこと」
▶過去の音楽は勿論大好きだけど、それを材料として機能させてるっていうか。
AxSxA「かもしれない。ミュージシャンの人間性やメッセージに共感することもないし。それより自分、自分大好きだから僕(笑)。でもクラッシュは凄く好きで愛情もあるんだけど、それはいろんなことを恐れずにやってたからで。そこにはさ、過去の音楽へのリスペクトも、伝えたいメッセージも勿論あるんだろうけど、なんか僕にはそれよりも、新しいことがやりたくて押えられない気持ちにグッとくるし、それがパンクだって思うし。ジェームス・ブラウンも好きなんだけど、彼はやっぱ異端だと思うし、その姿勢も好きだけど、異端でもやっちゃう音楽そのものが好きだし。やっぱ恐れないでやりたいことやるのがパンクで。だから僕もパンク(笑)」
▶メッセージとか普遍的なメロディとかじゃなく、瞬発力でいろいろ感じさせることができる音楽だと思う、DASHBOARDは。
AxSxA「なんかね、このバンド、わりとジュークボックスかなって思う。よくわかんない例えだけど(笑)」
▶でも、さっき実験的なことをやりたいって言ってたけど、やっぱりポップであるのがDASHBOARDの良さだと思うし、ポップでいて欲しいなぁ。
角張(STIFFEEN RECORDS)「それ、たぶん大丈夫ですよ。だってライヴ終ると、AxSxA君、「今日のお客さん、気持ち良く踊ってくれたかな?」って、結構気にしてますから(笑)」
MASARU「それ、大事ですよね(笑)」
▶前作が笑って踊れる曲が集まった作品だとしたら、今作は各曲で、笑いながら、泣きながら、怒りながら踊れるっていうね。いろんな顔して踊れそうな作品ですよ(笑)。
AxSxA「いいっすよね、怒りながらスゲエ楽しいとか(笑)。よくわかんないけど(笑)」

Jr.MONSTER

もう後悔しっ放しですよ、でもその後悔がバネになる

INTERVIEWED: 荒金良介　[3月25日/新宿ロフトレコード]

Jr.モンスターの2ndミニ・アルバム『Daily』は、表題に明示されているように彼らの日々の感情を活写した作品に仕上がった。二度と取り戻せない過去、だからこそこの瞬間を精一杯噛み締めて生きていく。それは他者への思いやり、気配り、優しさという形で歌詞に表れ、泣き笑いの感情となってサウンド自体にさらなる深みが加わった。汗が飛散する激情サウンドはそのままに、今作はこれまでになくメロディが熱く切なく語りかけてくる。パワー・メロディック節で迫る3ピース・バンド、ジュニモンの魅力がより露になった快作だ。Ejima Masatoshi(Vo/B)、Namiki Daisuke(G/Vo)、Mitugi"KEV"Hiroaki(Dr)に話を聞いた。

▶今作の3曲目「If You Live Life Over」が特に好きな曲で、サビの部分ではジュニモンのメロディ・メイカーとしての資質の素晴らしさが明確に出てますよね。歌詞の内容もいちばんグッと来て。

Ejima「来た?俺も作ったときにヤッベエなあと思って。まさにこの曲が推奨曲というか、PVになるんですよ。この線で売っていこうという気はサラサラないんですけど、ただ単にいい曲だからPVでみたいな」

▶狙わずにいい曲が出来ちゃった?

Ejima「いや狙ってましたよ(笑)、その線もあるぞと。だけど基本的には攻め攻めで」

KEV「でもメロディにはすごく気を使っているというか。まあ、前作もそうなんですけど、今回は結構メロディを押し出していこうというのが強くて。3曲目がいいと言ってくれたのは、それを意識したアルバムになってるからだと思うんですよね。誰でも聴けて誰の耳にも入るというのを心がけてるんで。ポップだけどなんか一癖あったりというのが自分たちの目指しているところなんで、それができたアルバムではないかと」

▶3曲目は特にそういうのが出てますからね。

Ejima「3曲目押しますねえ(笑)。でもいろんな人がいて、ほかの曲をいいと言ってくれる人もいるんで統一してないんですよね。それは俺たち的には、してやったりで。だからいい意味で捨て曲はねえのかなって。まあ、3曲目は圧倒的に多いですけどね。日本人泣かせですよね」

Namiki「前作も前々作もそうですけど、まず3人がメロディにしっくりこないとボツになったりするんで。なおかつ突っ走ったり勢いがあったり、なかでも3曲目みたいな曲はすごくやりたいことで。勢いだけじゃなくて、ちょっと切なくなったりもするでしょって」

▶激しい曲調ばかりだと、せっかくのいいメロディが潜ってしまうこともありますからね。

Ejima「そうですね。でも俺たちが気を付けているのはそれだけ(メロディ)のバンドにはなりたくないというのが前提にあるんで。だから3曲目もその中のひとつに過ぎないんで。3曲目お気に入り?」

▶うん。歌詞も生まれ変わったとしてももう一度自分の人生を噛み締めていきたいという内容で、これはアルバム名ともリンクしますよね。

Ejima「そうっすね。だから『Daily』でいいんじゃねえのみたいな。日常のことを歌ってるんだからって」

▶そういう気持ちになったのはなぜ?

Ejima「前作の『DON'T BE SATISFIED』は攻めの歌詞が多いんですけど、今回はわりと優しめというか、攻撃的じゃない日常的な歌詞でいいじゃないかって」

▶全体的に優しさに溢れてますよね。

Ejima「ネタ切れ(笑)?」

全員「はははははは」

▶歌詞を読むと、この人たちすごくいい人じゃないかって。

Ejima「まあ、でもキャラは作ってないですよ。ぶっちゃけて言うと、リアルですよね。前もそうだし今もそうだし、リアルな俺を書いて」

▶より地に足が着いた感じがします。

Ejima「それはそうですね。あんまり背伸びしてないというか、背伸びしてるのかもしれないけど、実は手の平で転がってるみたいな」

▶5曲目「Base Side Punks」もシンプルな仕上がりだし。

Ejima「これカヴァーなんですよ。スパイキー・ジョーっていうストレイトアップ・レコードから出していたバンドで、ポゴ・パンクとスキンズの合体みたいな感じで。もう解散していないんですけど、俺らの先輩系なんですよ。今スパイキー・・ジョーのギターは、ワン・フォー・オールのヴォーカルをやってるんですよ。やらせてください?って言ったら、いいよって。俺ら福生市が近くて、そのときにスパイキー・ジョーがこの曲をやってて。やべえ、この曲って。で、解散したからこの曲もったいねえなあと思って。俺ら地元が福生に近いから引き継ぎてえと思って、ちょうだいって。やっぱり今でもリスペクトしてるし、あの人たちになりたいなあと思ってるところもあるから。すごいハートがパンクスなんですよ、そういう部分も憧れてるし。それで解散したから名残惜しいなって、スパイキー魂引き継ぐって」

▶そういう気持ちがあったんですね。

Ejima「今回はほんと俺が日常思ってることを書いた感じですね。やってるからにはいろんなことをやりたいって思うじゃないですか。難しいことをやっててもいかにシンプルでストレートに見せるかというのも、プレイヤー的にやりがいのひとつでもあるんで。録って思ったんですけど、自分のやれる範囲をやっちゃったら成長しないと思うんですよ。限界よろしくのところで、さあ次はどう行くかという。今回もシンプルにやったつもりだけど、実は一人ひとり考えて飽きないようなギター、ベース、ドラム、歌い方、コーラスをやってて。前の俺たちだったらスキルの問題でできなかったし、ちょっとずつですけど音源にできたかなって」

Namiki「基本的には前作も今作もやりたいことは変わってなくて。まあ、前作でできなかっ

たことが今作に足されたという感じで」
Ejima「プレイヤー的な欲というか次はこんなことをやってやろうって、そういうのも入ってるし。そういう意味でも『Daily』みたいな」
▶バンド的に壁にぶつかった時期があったりしたんですか?
Ejima「毎回ぶつかってるような気がするね。囲われちゃって、どうしていいかわからなくて。そういうのも全部音に出てると思います。スタジオに入って楽器弾かない日もありますもん。お互いの悩みを言ったり、ああなりたい、こうしたいとか。ほかでは言えないこともメンバーに言えたり、すごいコミュニケーションは取ってるんで。ほんとはそんな時間ないんですけどね。いい意味でも悪い意味でもそういうのがすごく出てるんじゃないですかね。ぶっちゃけ準備期間はいっぱいあったんですけど、それを無駄に過ごしてて、ケツのほうで火がついたから。曲作りに時間がかかったりして、それは前作と変わってないんだけど。前作も録り終わったときに、もうこういうのやめようぜって。でも今回もなっちゃったみたいな」
Namiki「まあ、でもそんなもんなんだろうね。そういう意味でも『Daily』というか、日常なんですよね。歌詞の意味もそうだし、バンドの音もそうだし、前作からこんな感じだったよ、というのが出れば」
▶この1年はバンドにとって実りのあるものだったと。
Namiki「そうですね。ライヴの組み方を変えてみたり、自分たちの企画をどうしようかと考えたり。それは前作のツアーでももっと面白いことをやりたいと思ったし」
Ejima「もう後悔しっ放しですよ、でもその後悔がバネになるのかなって。満足したら終わりだと思うんで」
KEV「バンドとしてのあり方というのはすごく意識した1年ですね。前作のツアーのファイナルが終わったときに、俺らはこれからどうして行かないといけないんだって。自分たちのイヴェントの魅せ方をどうするのかというの結構こだわった1年で。Jr.モンスターだったら間違いなく面白いイヴェントになったりするんだろうなあというのを目指してて。徐々にだけど浸透してるのかなって。バンドをやってる歴は長いんだけど、自分たちがメインを張ったライヴはほとんどなくて。前作のツアーが初めてと言っていいほど、完全にトリで全30何カ所を回ったという感じだったから」
▶前作のツアーで得たものがかなり大きかったんですね。
KEV「うん、それはありますね」
Namiki「いろいろ大変だったし、反省会を毎日してたんで。でも反省したことができないから、それでまたストレスが溜まったりして。ライヴの魅せ方とか考えさせられたツアーだったんで」
Ejima「ツアーを回って俺たちに足りないものがわかったというか。失礼なんですけどね、お金を払って観に来てもらってるお客さんに対しては。でもメイン張って初めてわかったから。東京に帰って来て、また話し合ってライヴをやる度にそれと比較をしてみたりして、ライヴのクオリティはどんどん上がってると思うんですよね。だから今回のツアーはまたすごく楽しみ」
▶よりバンドの像が具体的に見えてきた?
Namiki「その日を楽しませたいという気持ちは言葉としては同じでも、3人の思い描いているものは違って。そこを3人が納得するところで話し合って、そうするとこっちだろうって。そういうのがいままで少なかったかなって」
Ejima「もうちょっと統一させて、一人ひとり自分が楽しめればいいというライヴをやるとバンドじゃなくなるからね。俺らは3人でひとつだからそれが固まったときはものすごくでかいし、それほど気持ちいいものはないから。演奏をミスしようが間がどうだろうとか問題じゃなくなるし、そういうライヴをしていきたいなあ、というのをこれから話し合うんですけどね(笑)」
▶これからかい(笑)。でも今作にはその3人のまとまりが出てますよ。
Ejima「それをまた表現するのが難しいんですけどね」
Namiki「いままではバラバラだったけど、今は同じベクトルで行けてるのかなって」

it's a mod mod MOD WORLD!!

TEXT: PRINCE NUTTY(A.K.A DADDY-O-NOV)

今年で日本のモッズ・メイデーは25周年を迎えるらしいんだけど、丁度僕も今の日本のモッズ・シーンのコンピCDを作るのに携わっていたのでここらで日本のモッズ・シーンを振り返ってみてもいいんではないか、いやみんなに知ってもらいたいってのがあって、でどこでやるのがと思ったら僕的にはDOLLだった訳です、僕にとっては当時も今もモッズとパンクは精神的には同じような感じなんだよね、うまくいえないけど、REBELとかFUCK THE SYSTEMって意味で。

ABSOLUTE BEGINNERS

もし1976年、イギリスにパンク・ムーヴメントが起きなかったら、77年、その中心にジャムがいなかったらその後のモッズ・リバイバルも今の日本のモッズ・シーンも存在しなかっただろうなー。パンクは社会、大人達に真っ向から反抗し今までのロックの大きな流れを完全否定してお前等はどっち側なんだと迫った。当時、高校生だった僕は迷わず髪を切り(元々長髪禁止だったんでそんな長くなかったんだけどね)、パンク側についた。初めはジャムも単にピストルズやクラッシュに次ぐパンク・バンドとして紹介されていたと思う。格好は他のパンク・バンドと明らかに違ってはいたけど、1stアルバム『IN THE CITY』での黒のスーツに細身のタイ、ポール・ウェラーの髪型、怒りをぶつけるようなヴォーカルとスピード感溢れる攻撃的な演奏、プロモでのアンプを蹴り飛ばす姿全てがカッコ良く、パンクそのものだった。78年になるとピストルズが解散し、パンクに変わってニューウェイヴの時代に入るが、クラッシュやジャム等は音楽性を広げたり、楽曲の良さで生き残って行く。そして日本にもジャムの音楽やファッションのバックグラウンドには60年代にイギリスで生まれたモッズというユース・カルチャーが存在するという事が情報として入ってくるようになるけどモッズってなんだって感じだった。そして79年には本格的モッズ・リバイバルの起爆剤となる映画「さらば青春の光」が上映される。これは73年にTHE WHOが発表した65年のオリジナル・モッズの少年ジミーを題材にした自伝的アルバムの映画化だけど、ファッション、音楽、生活様式全てにやられました。「私はこれでモッズになりました」というか僕はモッズのカッコしましたって感じかな。この映画で1番影響されたのは、ファッションもだけど、みんなでつるむ楽しさとか、踊る楽しさだった。当時盛んだったフィルム・コンサートで知り合ったジャムのファン・クラブの子達やライヴ・チケットを買うための並びで知り合ったりしたみんな(殆どが高校生だった)で、渋谷の道玄坂をのぼってちょっと入った所に在った激安の古着を売っていた店で買った3つボタンのスーツや、アメ横で買ったパーカーを着て毎日のように遊んだもんだ。ある時は親が出かけた友達の家でダンス・パーティー、ある時は「さらば青春の光」を映画館で踊りながら見たり、俺達はモッズだ、みんなとは違う、みたいな仲間意識があった。1枚のガムを1日噛んでいたり、5時15分になると訳もなくはしゃいだり、とにかく映画の登場人物になりきっていたね。後、映画の中でジミーが夜中に家に帰ると親に「お前はそんな変な格好して、1日中遊び回って、狂ってる」みたいな事いわれて「まともってなんだい」って言い返すんだけど、自分とだぶったなー。イギリスでは多くのネオ・モッズ・バンドが生まれ、そんな中出て来たのがスペシャルズだった。彼らは初めネオ・モッズみたいに言われたが、当時、パンクと密接な関係に在ったレゲエの前身でオリジナル・モッズが愛したスカとパンクを合体させた新しいサウンドで、格好も映画に出てくるファーディーのようなルード・ボーイと69年にモッズから派生して生まれたスキンヘッド・スタイルでモッズより不良な感じでいかしてた。80年になるとスペシャルズが6月、ジャムが7月と続いて来日するんだけど、僕はスペシャルズの来日前に坊主頭にしてポーク・パイ・ハット、501にサスペンダーで俺はモッズじゃなくてルード・ボーイだぜ、なんて言ってました。その後、僕はスペシャルズのライヴで声をかけられたコのやっていた2TONE KLUBというファン・クラブを手伝う事になったり、ジャムのライヴでは新たに若いモッズの連中と知り合い、暫くはよくみんなで遊んだ。その当時、唯一パンクやニューウェイヴがかかっていたツバキやクライマックスに行ってエースやチャスをまねて踊ったり、マッドネスをホテルまで追っかけたり、ダンス・パーティー、ブレイカーズやスクーターズを観に行ったり、相変わらずホーム・パーティーを開いて「悲しき雨音」を途中で止めて「マイ・ジェネレーション」をかけ大騒ぎしたりして朝まで踊ったり「さらば青春の光」を観に行ったり(何回観たか憶えてないよ、ほんと)していたが、やがてゲンやマナブはバンドを始めて現在の東京モッズ・シーンの基礎を築いて行くことになり、僕はと言えば新宿ジャムスタで毎週水曜日にエモーショナル・マーケットというライヴの企画をはじめ、ディスチャージを聴いてハードコアになったのでした。ちなみに、ブレーカーズと極初期のモッズ・バンド、コーツ、ニュー・センセーションズのメンバーが集まってブルーハーツが生まれるんだよねー。モッズが僕に与えてくれたものは今でも大好きなモータウンやR&B、フーやスモール・フェイセズ等の素敵な音楽とアラン・シリトー、そしてかけがえのない友達かなと綺麗にまとめてみました。後、まだ高校生だった(僕は二十歳くらいだったからおじさんて呼ばれてました)ミナコ、ズシさん、エビ達の、音楽や社会に対する純粋な愛や反抗心には本当に影響を受けました。出会えて良かったよありがとう。KEEP THE FAITH!

さらば青春の光(1979年)

さらば青春の光(日本版/1980年)

『THIS IS THE MODERN WORLD! KEEP THE FAITH!』
(RADIO UNDERGROUND RUC-005)CD

MODERN WORLD
JAPANESE MOD & FREAKBEAT SAMPLER

TEXT: MUNECHIKA THE MARQUEE

soulcrap

このコンピレーションを作ろうと思ったのは、えーと、60'sが好きなバンドや60'sをテーマに活動しているバンド、イヴェントなど各地にあるものの、ジャンルが少しずつ違ったり、地理的に遠いなどで接点が少なかったことを残念に思っていたので、このコンピレーションをきっかけにみんなで盛り上がれればなあ〜と漠然と思ってたらノブちゃんも同じことを考えてて盛り上がったのがきっかけかなあ。たとえば東京にいても、(もちろん東京にもいいバンドがたくさんいるけど)大阪のあのバンド、格好いいって聞いたけど、なかなかライヴを見る機会がない、音源でもあればなあって思うこととかってあるでしょ?個々では音源など出したり地元では精力的にライヴやイヴェントをやっていてすごく格好いいのに他の地方ではあまり知られていなかったりってもったいないと思うんだよね。世の中には色々なジャンルのバンドがいるし、皆活動するシーンなんかも色々ある中で、大きくくくれば60'sがルーツの人ってたくさんいると思うけど、その中で今も60'sの音にこだわって活動している人が少なからず全国的にいて各地にシーンもある。これってすごいことだなあって思うなあ。

chocomates

このコンピレーションに参加しているバンドは23バンドもあって、なんとかギリギリ1枚のCDに収まったくらい盛りだくさんなので、ちゃんと紹介しようと思ったら、この2000字の原稿では書ききれないんですが、とりあえず手短に紹介しますね(収録順)。詳しいプロフィールなどはCDを買って読んでね!

1. The Marquee(東京)東京を中心に活動している名和氏率いるFreakbeat バンド。ド派手なライヴ・パフォーマンスは必見!
2. The Scarlettes(大阪)その音はまさにCreation!大阪期待の新星!
3. The Absolude(名古屋)臼井氏率いる名古屋のFACEバンド!彼のメロディーには脱帽!
4. the garnets(大阪)大阪のMOD's番長。Maximum R&B!
5. soul crap(東京)ex-Blue Beat Playersのギタリストtaiki氏率いるソウルやレゲエのサウンドを取り入れた幅広い音楽性には脱帽!本当に素晴らしい!
6. Los Tailors(大阪)ムッケン率いるオモロ・ブルース・バンド。ライヴは必見!お客さんを楽しませる天才。
7. That's A No No!(東京)キュートなルックスに似合わずサウンドはクレイジー!
8. The Scotch Cokes(東京)ex-minnesota voodoomenのフロント2人が新たに結成した期待のmod garageバンド!Cool!
9. Chocomates(岡山)岡山発ガールズPOPバンド!Cuteなことはいうまでもない!
10. Shotgun Runners(金沢)金沢の色男3ピース・ガレージ・バンド!そのサウンドには痺れます!Rock me! Shake me!
11. The Fave Raves(東京)いわずと知れたSOULの大御所。踊らずにはいられません。
12. Phelge(東京)東京拠点に活動している正当派モッズ・バンド。初期ストーンズ好きにはたまりません。
13. ELITE65(東京)buzz!buzz!buzz!音や機材のこだわりは半端じゃない!とにかくかっこいい!
14. The Boss(東京)東京モッズ・シーンの大御所!日本を踊らせる最強R&Bバンド!
15. Movin'On The Groove(京都)京都のFACEカーク・タカダ率いるネオR&Bバンド。ホーン・セクションとド派手な衣装がたまらない!

That's A No No!

16. Carburettors(岡山)岡山発Freakbeat band!クールなサウンド、クレイジーなライヴ・パフォーマンスを体験しろ!
17. The Bergamots(長野)長野のアート集団!66年の再来!色男モッズ・バンド!
18. The How(名古屋)名古屋発実力派beat band!洗練されたそのセンスは必見!
19. CREEPER(広島)広島MODS界のダーク・ホース!甘い歌声に酔いしれろ!
20. CLOCKWORK ONIONS(福岡)福岡発60'Sガレージ・バンド。C'mon, Bigbeat Children!
21. six(東京)ブルージーでポップなガールズ・ガレージ・バンド。Cute&Wild!
22. Les Cappuccino(神戸)ヨーロッパ各国でも評価が高いmod jazz instrumental combo!
23. sister MARTENS(東京)Girls meet SKA!甘い歌声のオーセンティック・スカ・バンド。

このSHOW CASEの中から自分のお気に入りのバンドを見つけて、ライヴやイヴェントに足を運んでもらえたら嬉しいな。Weekend Start's Here!

Movin'on The Groove

Sounds from the STREET

HISTORY OF TOKYO MODS SCENE

1970年代末に起こった個人的な出来事

TEXT: 黒田マナブ

1978年か1977年頃、友だちがTHE JAMの「IN THE CITY」と「ALL AROUND THE WORLD」の7インチを持って遊びに来たんだ。当時一緒にバンドをやってた奴なんだけど、「凄くかっこいいバンドのレコード見つけた!」って、スリーヴ見ただけでぶっ飛んだ。それまでにラジオでSEX PISTOLSとTHE CLASHは聴いた事があったし、SHEENA & THE ROKKETS#1は大好きだったんだけど、7インチに針を落として、またぶっ飛んだ!!曲が最高にかっこよかった。それで直ぐにアルバム買いにレコード屋へ行って、もう「ALL MOD CONS」まで出てたかな。アルバムの「IN THE CITY」買って来て、どの曲も最高にエキサイトした。夢中になって聴いたよ。バンドのレパートリーに「ART SCHOOL」とか「AWAY FROM THE NUMBERS」とか入れてた。そのバンドは結局1回しかライヴやってないけど…。で、中のライナー・ノーツにも3人がブラック・スーツ着て、クールにきめてて、かっこいいなぁって。それで、ノーツにTHE WHOのMY GENERATIONやオーティス・レディング、MY GIRLとかスモーキー・ロビンソン、それにタムラ・モータウンとか書いてあって…何?これって、で、大貫さんノーツにもモッズ(カタカナで書いてあった)とかピーコック…?…ビバ…?って感じで。でもTHE WHOってハード・ロックじゃんとか思ってて、また?だし。

当時、THE WHOのロジャーが大好きな奴がいて、そいつに「MY GENERATION」とか「I CAN'T EXPLAIN」とか古い曲をテープにダビングしてもらって、そいつに「TOMMY」を観に連れていかれて、でもロジャーはカーリー・ヘアーだし。でも、MY GENERATIONとかは気に入ってた。その友達に今度THE WHOの映画が始まるからって言われて、それが『クアドロフェニア』で、前売りチケット買って79年の冬だったな。新宿の映画館に1人で観に行った。入り口にデコレイションされたベスパ50Sが飾ってあって…映画観てどう思ったかって…それは、今聴く必要ないだろ…。この街の何ヶ所かで同時に起こったんだよ。こんな他愛もない事件が…それがこの後に起こる事の始まりだったんだ。

1979年に『QUADORPHENIA』の公開があって以来、とにかくMOD的なアイテムを探しまわった。そのころ原宿にスマッシュという洋服屋があった。そこには当時の新譜がインポートされていたし、マネキンがM51パーカーを着ていて、この店にはハイロウズのマーシーも当時足を運んでいた。他にも当時のファッションには欠かせないバンドのバッジとか、もちろんロンドンから来たやつ(当時はそう信じていた)、新譜はパンク・バンドやネオ・モッズの7インチやアルバム、しかし、なかなか高価で手が出なかった。そんな風に街の所々でMODに興味を持ったキッズが現れ始めた。

マス・メディアは『QUADROPHENIA』の公開後1月も経たないうちにパンクの次はこれだと言わんばかりにロンドンのモッズ・リバイバルを紙面に取り上げた。しかし、そこで紹介された物はロンドンの状況とは異なり、この街には殆ど初めて伝えられる異国のユース・カルチャーであり、あまりにもチープな内容で、いい加減なものでたいした影響力はなさそうだった。よほど、情報源としてはスマッシュの方がましだったのだ。それでも、パンクがもたらした意識改革「全てをぶち壊して、ここから始めよう」的な空気感は音楽と一緒にこの街にまで届いていた。1980年の2月にスタートした。たぶん東京初のモッジン「Ready

マンジのTHE BROOKS

マナブのTHE STEPH

Steady Go」の巻頭でもファッション・モッズへの批判とマス・メディアへの怒りが書かれていた。これは今までの若者のカルチャーがメディアのおかげでことごとくくだらない物へと追い込まれてしまった事への宣戦布告、「俺たちのカルチャーは俺たちの物だ」という意思表明でもあった。メディアにコントロールされ始めたパンク・シーンを目の当たりにしていたせいもあるだろう。そして、この考え方はモッズ・シーンをマス・メディアから守り、自分たちの力だけでそのシーンを大きくし、モッズが一過性のカルチャーやファッションとしてではなく、アンダーグラウンドではあったがこの街の最も重要なシーンとして輝きを失わずにすんだのだ。

1980年7月、THE JAMが初の日本ツアーを行う。東京の初日、中野サンプラザホール、まだ昼頃だっていうのに、パーカーにスーツを着たやつやポーク・パイ・ハットをかぶったやつ、パンクスやいろいろなファッションのキッズがホールの前に集まっていた。その時期、まだクラッシュや他のパンクバンドたちは日本にはやって来ていなかった、だからそれはロンドンのカルチャーを伝える実態のある初めての事件だったのだ。そして、会場に入り僕たちは椅子に座り、ポール、ブルース、リックの登場するのをワクワクしながら待っていた。やがて彼らはあの写真でみたのと同じスーツ姿で登場する。そして、ポール・ウェラーがマイクに向かって一言話した瞬間奇跡が起こった。キッズはステージの前に向かって当たり前のように走り出したのだ。そして、それから1時間半の演奏を立ったままステージの目の前で、前の奴の肩につかまり汗だくになって楽しんだのだ。今はオールスタンディングのギグは当たり前になっているが、この時代はあり得ない事だった。この事件で俺たちは俺たちの楽しみ方を突き進めば良いって事や、いままでのシステムなんてクソ食らえだって事を確信を持って実感した。そして、ステージの後もホールの外に残っていたキッズの為にポールや他のメンバーも顔を出し、思い思いにサインをしてもらったりした、そんな、彼らの態度は今までのバンドのスターとは全然違う、フレンドリーな誠実さを感じさせた。彼らは雑誌などで話していたのと変わりなく接してくれたのだ。ステージ上の彼らは僕らと価値観を、そして今この時代への不満を共有する代弁者であって、決してスターやヒーローではなかった。そして、このTHE JAMのギグや、この後に来日したスペシャルズのとった態度はこの街に自分たちの手でシーンを作るきっかけになったのだ。

1981年、THE JAMが2度目の来日公演を行った5月、その直後の5月18日に「MODS MAYDAY '81」が吉祥寺のシルバーエレファントで行われる。THE JAMのライヴ会場で配られたフライヤー、そこには60年代に撮られたピート・タウンゼントの写真が載っているのだけれど、そこからは確かな足あとへの一歩が伝わってくる。ちなみに出演していたバンドを上げておこう。the Moderns、80年代の初めのシーンを引っ張ってゆくバンドだ。そしてSchools Out、New Sensations、後に僕とTHE STEPHを組む事になるゴキの居たバンドだ。会場には5〜60人程のキッズが集まった。これがその後のモッズ・シーンのなかで大きな役割を果たす事になるMODS MAYDAYの始まりだったのだ。

この時点ではまだ殆どのモッドたちはいろいろな街で数人の小さなグループを作っていただけで、活動するモッズ・バンドの数も少なかった。その中でTHE SHAMROCKは1つ頭を出した活動をしていた。渋谷のTAKE OFF 7で定期的にライヴをやっていたのだ。それにその頃やっていたアマチュア・バンドの出演するTVプログラムにも顔をだしてた。その番組出演の際ドラマーが急遽出られなくなって、その代わりのドラマーを務めたのが後にTHE HAIRのドラマーになる江口マヌーだったというエピソードも残っている。

そして、MAYDAYをきっかけに少しづつモッドたちは集まりだし、「クアドロフェニア」を上映している映画館や、たまに行われるギグに足を運び、レコードショップや古着屋などの情報交換をし、ちいさなマイ・ワールドを作り始める。スクーターも3〜4台はみんなが集まるコーヒーショップの前や映画館の前に並び始め、少しずつシーンも形を作り始める。そんな、現場に居て僕たちはいずれこのシーンがこの退屈な街全部を変えるであろうと信じていたし、それは確信へと変わっていったのだ。

この頃からモッドたちも新宿のジャムに集まるようになってくる、毎週行われていた「エモーショナル・マーケット」にはその当時のシーンの重要人物は欠かさず足を運んでいた。出演していたのはニューウェイヴ・バンドが殆どだったが、ライヴとは関係なく、そこで、次のパーティーやMAYDAYの企画を練っていた。そんな中の一つとして81年の大晦日にジャムでおこなわれた「10 HOURS DANCE」と言うパーティーがあった。これは僕がこのシーンで初めてライヴを行ったパーティーでもあり、とても印象に残っている。出演していたのはTHE SHAMROCK、THE FACE、僕がドラマーで参加したBLACK ARTS、この日がデビュー・ライヴだったTHE STEPH。それと、ART SCHOOL、SILENT I'S、THE SHAKES、BEAT LONDONNERS、THE BROOKSらが出演、オールナイトで行われ、100人近いモッドたちが集まり新しい年へのカウントダウンをした。

そして、1982年2回目のMODS MAYDAYが行われる頃には会場になるアシベがいっぱいになる位にそのシーンを膨らませていた。その時の出演バンドはTHE MODERNSが名前を変えたTHE FACE、若干15歳のメンバーからなるBLACK ARTS、その後HIGH STYLEを始めるマンジ率いるTHE BROOKS、彼らの演奏力はたいしたもので実力派だった、ソングライティングもしっかりしていた。そして黒田マナブがギター&ボーカルを勤めたTHE STEPH、それに、THE ADRESS、一回目のMAYDAYにも出演したNEW SENSATIONS。そして、ゲスト・バンドには「東京ディスコナイト」のヒットで有名な、THE SCOOTERSが出演、会場の外には数台のスクーターが並んでいたし、その夜はかなり興奮する出来事の一つになった。

このMAYDAYの後すぐの6月にはTHE JAMが3度目の来日を果たす。しかし、この来日

日本最初のモッズ・バンド、MODERNSのアライのバンド、ARAI AUTO GROUP

THE SHAMROCK（1986年）

ナンバーズを作ったゲンのTHE STANDARDS

LONDON TIMES

THE COATSの頃のヒロト（ハイロウズ）

THE HAIRの前身、BRIGHTON BLUE BEATS

ルイがヴォーカル時のTHE HAIR

コレクターズの前身、THE BIKE

が最後となってしまうのだ。この年の10月にポール・ウェラーはTHE JAMを解散してしまう。そして、この街のモッズ・シーンもこれをきっかけに少しずつ変化し始める。

1983年には幾つかの重要な出来事が起こっている。この年の新宿ロフトで行われたMODS MAYDAYに合わせて新しいモッジン「HERE TODAY」が発行される、これは、THE JAMのファン・クラブでニュース・ペーパー「PAN」やファンジン「MODERN WORLD」の発行を手がけていた渡部美菜子とMODS MAYDAYのスタッフが中心となり作った物で、その1stイシューはその年のMAYDAYに出演したバンド、THE PAGE THREE、THE SHAMROCK、THE STANDARDS、LONDONTIMES、THE BROOKS等のインタヴューを中心に編集した物だった。そして、このモッジンはこの頃から活発にシーンに登場し始めた新しいバンド達をいち早く取り上げ、またそこに集まるモッドたちの声を、そしてロンドンや世界各都市のモッズ・シーンとリンクし新しい情報を取り上げた、これらの一般に売られている音楽誌やファッション紙では取り上げられないリアルタイムな出来事を載せることでシーンの情報を伝えるメディアとして、80年代のモッズ・シーンで大切な役割を果たした。さらにこの年の10月「MARCH OF THE MODS」の1回目が新宿のロフトで行われた、出演していたのはTHE STEPHの黒田マナブが新しく組んだTHE PAGE THEREE、THE LONDON TIMES、THE BROOKS、そしてBLACK ARTSが名前を変えたTHE STANDARDSが出演の予定だったが急遽キャンセルし、その代わりがハイロウズのマーシーがギター&ヴォーカルを担当していたマージー・ビート・グループTHE BREAKERSだった。そして、この幾つもの重要なバンド、THE COATSやTHE HAIR、東京スカパラダイスオーケストラ、THE COLLECTORSなどが出演した「MARCH OF THE MODS」は21世紀の今も新宿のジャムで続いている。

1984年に入ってすぐに1枚のレコードがリリースされる、これは東京のモッズ・シーンからうまれた、当時唯一のモッズ・レーベル「RADIATE RECORDS」からの物で、そこにはTHE PAGE THREE、THE BROOKS、LONDONTIMES、THE STANDARDSの4バンド、4曲が収録されていた。その後このレーベルからはTHE COLLECTORSの前身のバンドTHE BIKEの作品や、6組のモッズ・バンドの楽曲を収録したコンピレイション・アルバム『DANCE』、THE HAIRやTHE I-SPYの12インチなどをリリースする。このレーベルはモッジン「HERE TODAY」の発行を受け継いだり、MODS MAYDAYの運営を引き継いだり、また80年代に発行されていた、ニュース・ペーパー「HIHEEL LIST」の発行を行う等80年代のモッズ・シーンで大きな役割を果たす。

そして、この84年、今まではバンドが中心に育って来たシーンにクラブ的な要素が入り始める。当時はまだたいして遊びに行くようなクラブはなく、六本木にあったクライマックスに行き何時間も椅子を暖めながらスペシャルズとかTHE JAMやデキシーズがかかるのを待っているしかなかった。しかし、新宿のツバキハウスのLONDON NITEは少し変わっていて、そこには何人かのモッドたちが集まっていてTHE JAMやTHE KINKS、ストーンズなんかで踊っていた。しかし、R&Bやソウルはあまりかからなかった。だから、モッズ・シーンにもDJやパーティーが必要になってきたのだ。

1985年のMODS MAYDAYに初めてDJが参加する。この年は渋谷のライブインで行われ会場はレディ・ステディ・ゴーが行われたウェンブリー・スタジオを模したデコレイションがなされ、司会が登場しバンドを紹介した、そして、この時はコンテストが行われ、DJのまわすR&Bやソウル・ミュージックでダンスを競い合い、会場は800人程のモッズで賑わった。

そして、この年の11月新宿のツバキ・ハウスで「GANG STAGE」がスタートする、このパーティーは現在もGANG STAGE、LONDON NITEでプレイしている、稲葉達哉がDJを担当、現在カリビアンダンディとしてDJをやっている、藤井悟や私、黒田マナブがプロデュースやディレクションをしていた。そのパーティーは60'sポップス&ビートクラブとして行われ、ネオ・モッズ、2トーン、ブリティッシュビート、ソウル、スカ、R&Bやガールズ・ポップなどがプレイされ、会場はスインギン・ロンドンなデコレイションが施され、当時のロンドン・モッズ・シーンとリンクしリアル・タイムな情報が溢れていた。このGANG STAGEは現在も新宿のOTOで毎月、その時代のリアルなモッドを意識したクラブとして続いている。

1986年頃からスカ・ミュージックがシーンの中で大きな影響を持ち始め、1987年のMODS MAYDAYにはギャズ・メイオールをDJに、そしてロイレル・エイトキンが参加するPOTETO5をロンドンから招き、SKA FLAMESも86年に続き出演、この後に起こるスカ・シーンにも大きな影響を与えた。また、今まではネオ・モッズ的なビートバンドが主流だったシーンのバンドたちも変化を始める、そのきっかけになったのはTHE HAIRの登場だろう。R&Bやブルースのカヴァーをハードなサウンドでプレイする彼らのステージは圧巻だったし、その年にデビューしたTHE I-SPYもノーザン・ソウルやモータウンに強い影響を受けたサウンドを作り出していた、HIGH STYLEもサイケデリックなサウンドで人気が高かった。この頃のシーンはよりルーツに戻ろうとするグループと新しい時代の動きに敏感に反応するグループと2つに分かれ始める。そして1990年10年目を迎えたMODS MAYDAYが行われ、シーンも一つの頂点を迎える。この年は東京スカパラダイスオーケストラや杉村ルイをシンガーに迎えたTHE HAIRや後にTHE HAIRのシンガーになるジュリー田中が参加するTHE GEARが出演、川崎のクラブチッタに1500人以上のオーディエンスを集め、スクーターも100台近く会場前に並んだ。

90年代に入りクラブやダンス・ミュージックがシーンの中でも重要になり幾つかのモッズ・クラブがスタートする。1992年には「ウイスキー・ア・ゴーゴー」がスタート、このクラブは60年代のシーン・クラブを再現する目的で58年から66年までにロンドンで流行っていた曲だけをプレイしモッドたちから絶大な人気を集める、このウイスキー・ア・ゴーゴーは現在もプレイされる音楽は変化したが今も続いている。このレイドバックした気分はバンドにも影響を与えBACK DOOR MENやTHE FAVE RAVESが人気を集める。そして94年にはTHE MACHINEやTHE BOSSがデビューし人気を上げてゆく、さらに97年にはPhelgeが人気を集め、シーンのメインストリームはよりレイドバック感を強くしていく。しかし、それに反発するかのように92年にレーベル「LOVIN'CIRCLE」がスタート。COOL SPOONやORIENTAL CROMGNON、SOUL MISSIONといった時代の最先端といいても良いサウンドを作るアーティストたちの作品をリリースする。またモッズ・シーンにいろいろな物を取り入れようとする動きもあり99年、MODS MAYDAYからMOD MAYDAYにタイトルを改め、PIZZICATO FIVEの小西康陽やロンドンのBLOW UPでレジデントDJを勤めた池田正典等がDJで参加、細分化する東京のカルチャー・シーンの中にその存在をアピールする。さらに、2000年のMOD MAYDAYにはニール&イライザ、01年にはFREEDOM SUITE、02年にはCymbals、Neat Beats、03年にはOi-Skall Mates、04年にはThe 5,6,7,8's等が出演、時代に合ったアーティスト達も参加、東京独自のモッズ・カルチャーを作り出している。

今現在もレイドバックするシーンと最先端であろうとするシーンは共存し、閲ぎあっているし、細分化も進んでいる。しかし、現在の東京はカルチャー・シーンやムーヴメントなんてたいした意味を持つかどうかもあやふやな時代、だが、この街に根付いたシーンは25年以上自分達のやり方で進化を続けて来た。MODという確かなアティチュードがある限り、このシーンはこれからもこの街で生き続け、最先端であるということが困難なこの街でクールな生活を勝ち取って行くだろう。そして、今年MODS MAYDAYは25周年を迎える、5月21日に川崎のクラブッチッタで開催され、15年ぶりに出演する、東京スカパラダイスオーケストラを初め東京モッズ・シーンのキーマン、あいさとう率いるTHE HAIR、今年初登場のスクービードゥー、他にも今のシーンをささえるTHE MARQUEE、SOUL MISSION、THE BOSS、THE ZOOT STYLE、WACK WACK RHYTHM BANDなど10バンドにDJも黒田マナブはじめGANG STAGEのレギュラーに加え、東京のいろいろなモッド・クラブから山名昇、モーリー、シロウ、テリー等が参加、さらにヨーロッパで今大注目のフランク・ポップをゲストDJに迎える。

またこの25周年を記念して、81年から今までに出演したバンドたち、THE HIGH-LOWS、THE HAIR、THE COLLECTORSは新曲で参加、他にもスクーターズ、東京スカパラダイスオーケストラ、THE I-SPY、THE SAHMROCK、THE STANDARDS、THE BOSS、BLUE BEAT PLAYERSなど22曲を収録したコンピレイションCDを7月にトライアドからリリース。さらにGANG STAGEも20周年を迎えスペシャルイベントが企画進行中、2005年はなにかと目が離せない年になりそうだ。

BACK DOOR MEN
THE FAVE RAVES
THE BOSS
THE TARGETS

東京モッズ・シーン座談会

司会:DADDY-O-NOV

80年代から現在までの東京モッズ・シーンを支えて来た人達に色々聞いてみようと思って集まってもらったんだけど、場所を居酒屋に選んだのが失敗だった。5人位のはずだったのにいつのまにか10人以上になるわ、みんな酔っぱらって勝手に話しはするわでめちゃくちゃな事5時間。でも面白い話が一杯聞けたと思っていたら途中でデッキが壊れていて殆ど聞き取れなかったため、メールにていくつかの質問に答えてもらいました。座談会風に構成しようと思ったら変になっちゃいましたトホホ。

BEGINNING

ミナコ「元々パンクからなんだけど、当事はオール・スタンディングのコンサートが許されてなくて、会場では大人しく着席して演奏を「見る」ことが原則だったんだよね。そういう事に不満を持っててGENERATION Xのコンサートで、観客の自己注意喚起とコンサート開催者へのセキュリティ緩和を訴えかけたビラを友達と配ったりしてたんだ。でモッズという概念よりも、好きな音楽を更に追求して同じように時代を共有しようとするコミュニティーを作ろうということになってTHE JAMのファン・クラブを始めたんだ」

マナブ「パンクには遅れたんだけどネオ・モッズはリアルタイムだったんだよね」

ミナコ「そうだね、丁度そんな時にTHE WHOの「四重人格」が公開されて、Paul Wellerが言及したところの〝Mods〟とは、なんなのかを初めて知ることになるんだよ。みんな台詞とか全部憶えてたよね。THE JAMのファン・クラブには、単にバンドのファンだけではなく、Modsに多く興味を持つ若い子達が集って、東京のモッズ・シーンの基礎を築くことになる人脈ができあがっていったのかなー」

マナブ「1977年頃、夢中になれればなんでもよかったんだよ。パンクスでもスキンズでも。ただ、その時に出会ったTHE JAMが俺のセンスにぴったりきたんだ。それからはTHE JAMに夢中になって、映画「クアドロフェニア」を見に行ったんだ。もうそれが最高で自分はモッズになるぞって!M51パーカを探しにアメ横行って、でも凄く高くて、とりあえずドイツ製のパーカ買ってみたりした。古着屋でVANの黒いジャケット買って黒い細いネクタイ探して、とにかく不良を気取ってた。でも、暴走族とか地元にいたヤンキーではなくて、イギリスの不良。アナーキーなことや左翼的なものにあこがれて、チェ・ゲバラとかね。そんな、自分の考えやセンスにピッタリはまったんだよね、モッズが」

マンジ「元々ビートルズが好きだったし、60's ファッションもイカスと思ってたんだ。それでTHE WHOの「I Cant Explain」を聴いてぶっ飛んだりね。常にイギリスのムーヴメントに興味在って、当時日本で流行ってたディスコ・ミュージックやOLD WAVEがつまらなくて77年から髪の毛立てて学校行ってた。でやっぱり俺も映画かな。それ以外だとZOOのMODS記事とか。そんでサーファーの友達について来てもらって原宿のスマッシュでパーカー買った。自分で四重人格のジャケットみたいに背中にWHOのマーク描いて。それ着て渋谷にロッカーズ観に行ったらミナコに声かけられたんだよね。で、そのあと野音の100円コンサートでモダーンズの人たちと知り合った。聞いたらミナコも友達で、なんだか狭いというか急にMODSの仲間がいっぱい出来た。JAM公演のすぐあとがMAYDAY81だったけど、モダーンズとスクールズアウト以外超ド下手でさ。でも物凄い新鮮でセンスも最高だった。今ここにいる60人か70人が世界で1番かっこいいと思ったかも。自分も含めてね。メーデーの時、スクールズアウトのメンバーに長髪のやつがいて演奏中に帰れコール出ちゃってさ。もう演奏やめちゃってケンカになったよね?あのときの張本人ってノブちゃんでしょ?俺は脇から観てて、やれやれ!って感じだった。思えばライヴ中にケンカやトラブルも沢山あったよねー」

マボ「やはり中3の時「さらば青春の光」観てなんだこれは、かっこいいって。免許取れる歳になったら絶対スクーター乗ろうって、ジャムはその後知ったんだよね」

ルイ「中3位の時に先輩とかがパンク聴いてて、俺もクラッシュ聴いたりデッケネとかGBHとかシャム69聴いたりしてて、そうするとツバキとか行くじゃない。そこにパンクスとかモッズとかいて、昨日までパンクだったやつがパーカー着てブライアン・ジョーンズみたいな髪型してたりして〝お前知らないの、モッズ〟とか言われて、84年位かな、まだマナブさんとかマボさんとか知らなくて、その辺からかな」

サトウ「俺の場合は86年〜87年だった。当時盛り上がり始めたネオGSブームと同時にシーンを知ったが、音的にもファッション的にも、断然モッズ・シーンの方がしっくり来た。特に当時は街で見かけることもなかった細身の三つボタン・スーツなんかは、「洗練された不良」といったイメージだったし、米軍払い下げのパーカを羽織ってスクーターを乗り回す姿も、「俺がやりたかったのはこれだ!」と思わすのには充分だった。かなり閉鎖的な雰囲気で、「仲間内としかつるまない」といった部分も、逆に惹かれた」

タイキ「85か86?か俺が15位の時の宝島にマナブやヨウジの写真が載っててね、こんな世界が存在するのかと、そしてあの映画を見たんだ。次の日にはアベ(ex'club aces)がもう当時は安かったラビット手に入れてね。海までRUN!って2人乗り(笑)」

ネモト「俺がモッズを知ったの91年の時で15歳の時でした。その頃はモッズを含めていろんなサブ・カルチャーが雑誌なんかに載ってて、その中にモッズも載ってたんで知りました。パンクの友達とかもいたけど、やっぱり世の中的にチーマーとかスケーターとかアメリカが主流だったと思います。自分もエルヴィスとか聴いてたし(MCハマーも)。んで、16歳で免許が取れるようになって何に乗ろうかなって思った時にヴェスパを知ってこれだって思いました。そしたらファッションも雑誌とかみて自然とそうなっていって気がついたらって感じですかね〜」

ナワ「やっぱり「さらば青春の…」でしょう。ビートが好きだった僕はジーン・ビンセント歌うロッカーに対抗してキンクスを大声で叫んだジミーには一発でやられちゃいました。ナイト・クラブで馬鹿やって連む友達を作りたくてMODSイヴェント探して、スクーター買って…そんな感じで気づいたらMODSになってた。一般的に僕の時代は服飾専門学校ブームでファッションに興味を持つ人が非常に多かったし、普通にMODSが流行ってました。ほら、宝島のキューティーやらスマートなんかでMODS特集が組まれてお洒落一般人スナップなんかに友達出てましたよ…(笑)。だからもの凄い大勢MODSっていましたよ、96年くらいまでがピークかな」

SCOOTER & NUMBERS

マナブ「ベスパのP200を手に入れて、吉祥寺とかまで夜走って遊びに行ってた。確かタロウ(元ブレーカーズ)も50S買って一緒に遊んでた。その頃、隣街に住んでたマーシー(ハイロウズ)、ヒコ(元ブレーカーズ)とかと知り合って、ACBでタロウがブレーカーズの前にやってたバンド「ビートロンドナーズ」とか見に行ってたな。ヒコがドラムで」

マンジ「VESPA100を手に入れるんだけど、自転車屋やバイク屋で旧いミラーを探して来て自分なりにデコレイトした。あくまでスクーターはファッションの一部って感覚だったな。81年の秋頃、荒井さんから『杉並の高校の学園祭で、「さらば青春の光」の上映会があるから行こう』と誘われて、新宿で待ち合わせて行った。15人位でみんなパーカー着てたから異様だったよ。学校まで歩いてたら環7をスクーターが1台俺達を追い抜いて行ったんだ。みんなで『おっ!mods!mods!』って叫んだら、そのワイン色のP200に乗った奴が逆走して来たんだ。しかもノーヘルで。そいつがマナブだった。一瞬にして大ヒーローでさ。でかいの乗ってる奴には俺も初めて遇ったし。その後、俺のVESPA 100はJOHN'S CHILDRENってペイントしたりしたけど、97年にカジにあげちゃった」

マナブ「そうそう、歩道をパーカー着たやつらがぞろぞろ歩いてて、えっ?モッズがいる!!って思ったら、環七を逆走してた。たしかTHE JAMの2度目来日の後だったかな、学祭だから秋頃だよね。それで「俺、マナブっていうんだ」ってパーカー来てる奴全部に挨拶して、その時にいたのがミナコとかずしさんとか村じいとか、確か、シャムロックのヤマモトとかタカハシとかも居た気がする。後ゴキとかサイとかもいたな。ゲンやパンもその時、当時の重要人物には殆ど会ったと思う。20人位。で、みんなの興味はでかい200ccのスクーターだったんだけどね。ナンバースはファンジン"HERE TODAY"の為のフォト・セッションに集まったのが最初だったんじゃないかな、スクーター・チームをナンバーズにしっようって決めたのは。その後、ゲンがリーダーみたいになってマボとかノリとか集まってファンジンなんか作ってたよね。でもなんか俺とガクはあまり乗り気じゃなかった」

マンジ「ナンバースの名前の案は俺がゲンに言ったことがあるが、いつのまにかそれに決まってたんだと思うよ。82年7月24日、スクーターズのレコ発を観に横浜ひかわ丸に行ったのが最初。ランブレッタ1台含む10台だった」

マボ「ジャムが来日するんで整理券取るのに友達のパンクス2人と原宿歩いていたらパーカー着た人達が集団でいて、それがマナブやマンジやゴキ達で、話ししてたら"スクーター持ってんの"って聞かれて、俺まだ持ってなくてその頃はタクトにフォグランプ付けてた。ジャムスタでライヴやってるからおいでよって、アドレス帳に書くんだけどペン持ってなくて、俺その頃ジミーみたいにアイラインひいてたんでそれで書いたんだよね。その頃マナブとかマンジとかカッコ良くて、スクーター持っててバンドやっててみんなが集まってるって事もカッコ良くて、どうしてもそこに入りたいと思って1週間後に50Sを買にいって何となく飾って、でアシベの82年のメイデイに行ったんだ。まだスクーターも5台くらいしかなかった。その後はVESPA150スプリントV、Lambretta-SX 150等何台も乗り継いでいる」

ルイ「俺は始めバイク雑誌の中古売買のコーナーでランブレッタを28万で購入した。買った後で解ったんだけど、INNOCHENTIの頃の物ではなく、SELVETTAのリンスだった。まだスクーターについて知識が無かったから、LAMBLETTAの型で走れれば何でも良かったから、キックの調子が悪かったけど、とにかくうれしかった。16〜17の頃だったと思う。200ccだから中免なんだけど、50ccの免許しか持ってなかったから、ベニヤ板にカッティング・シートでナンバーを自作して無免で構わずどこにでも行った。白バイに追掛けられたりしたけど、環七逆走したり、歩道走ったりしていつも逃げた。ある日、ヨージって奴に会ってNUMBER'Sってスクーター・チームの話になったんだけど、渋谷でSCOOTER RUNの途中、渋谷のチーマーに襲われて60人位にボコボコにされたって聞いた。それ以来NUMBER'Sは解散状態になったり、ゲンさんも、あまり姿を見せなくなって、何だか俺は聞いてて頭にきたんだと思う。胸くそ悪くなり、俺はヨージに「ゲンさんに会わせてくれ!」と言った。そして俺はゲンさんに会い、NUMBER'Sをやらしてくれと言った!ワッペンをコピーさせてもらう承認も得て、新たにNUMBER'Sを始めた。多分東京MOD'Sの生んだ何かを継承したかったんだと思う。俺はダチのナオキとWELK(westend lambletta club)っていうのを別にやっていた。けど、NUMBER'Sが大きくなるのは気分が良い事だったし、カッコイイSCOOTERが増え、何故か皆オリジナル指向だった。俺も古いSCOOTERにのりたくなったから、ボロボロのLi150と125を2台買って「日本橋VESPA」のマサルさんに組み立ててくれって頼んだ。レストアして動くようになるまで結構何年かかかったヨ。組み上がる頃には見た事も無い古いVESPA.GSやLAMBLETTA.L1やTV.SX等がNUMBER'Sには溢れる程増え、止まらなくなっていた。多分、89、90年頃がそうだった。カッコもスク

東京モッズ・シーンの母、ミナコ

東京のモッズ・シーンを25年支える
カールおじさん、マナブ(写真左)

マボ

フェルジのヴォーカル
怪物クン、ネモト

The MarqueeのGt/Vo.ナワ

THE BOSSのヴォーカル、サトウ

ーターもダサイヤツなんていなかったし、いる事すら出来なかった。皆、サイコーの気分だった」

サトウ「最初は手に入りやすかったベスパ50sで通学してたけど。もうすでにベスパではGS、ラリーといったケツのでかいスクーター、それからランブレッタLi1型なんかを乗ってるやつがつるんでるのを見て、すぐに150スプリントVに変え、第3京浜で通うようになった。俺がシーンに来だした当時は、Numbers第二期の時代で、ヨージやルイがフェイスとされていたと思う。服装からスクーター、振舞い方までこだわってるやつが多くて、最も閉鎖的な時代だったように思う。俺がシーンに溶け込むきっかけは、ある日、代田橋と下北沢の辺りを走っていたら、同じ銀色のスプリントVを押してるやつがいて、すれ違いざまに振り向くと向こうも振り向いていたんだけど、それがナンバースのマボ君で、次にJAMに行った時に「キミ、俺とすれ違ったよね?」とか何とか話しかけられて、RUNに誘われるようになった。88年から俺は目黒区に住んでいたんだけど、マボ君やヨージに誘われて走るNumbersのRUNの他に、目黒区に住んでいた4〜5人のスクーター仲間と、火曜日は下北沢のZOO、水曜日は中野のナベ横にあったナバロン、それ以外の暇な日は青山のMIXとか渋谷のROOMとか、モッズ系のイヴェント以外でもよくつるんで遊びにいってた」

タイキ「メーデーのランに参加したのは89の芝浦から。変な人一杯いたなぁ、イギリスのナンバーで走ってる人とか、ホントにスクーターの上で寝てる人とか。ヨウジくん、アイダくんの160GS、イイズカくん、モーリくんのLAMBRETTAは当時の目玉。90のチッタは更に凄かった(デコレイトするランプを探しにルイくんとかと夜な夜な?環八を走ったり)オレは角目のヘッドライトでボディーが黒でハンドル、フェンダー、サイド・パネルが銀メッキのVESPA180ss」

ネモト「俺が乗り出した頃はすでにナンバースとかが雑誌でも活躍してたから自然と憧れてました。なんかスゲーなこの人達、みたいな感じで。最初乗り出した頃はまだ80年代のフンイキが残っててタッセルとか革紐で自作とかしてましたね。んで、18ん時に150GSを手に入れたんですけど、その頃はあんま派手なデコレーションとか興味なくなっていて、ビギナーズみたいな58年頃のアーリー・モッズに興味があったんでシンプルなまま乗りました。80年代にはまずスクーターに乗っていること、80年代半ばは現行のスクーターではなく、当時珍しかった70年代のスクーターに乗っていること、90年初期は周りがラリーなんかの70年代スクーターに乗っている時に60年代のスクーターに乗っていること、90年中期から終わりにかけては人より珍しいアクセサリーを付けてより60年代モッズのスクーターを再現すること、そのいつの時代もナンバースの連中は最先端でした。マボさんの時代、ようじさんの時代、吉川さん、CAMELの時代、かじさんの時代、フジ、たかしの時代、レイ、根本の時代、ナワの時代といった感じじゃないですかね。ちなみに俺はベスパ3台、ランブレッタ7台乗りました」

ナワ「ジミー・ランブレッタにやられて頭金無し男の60回ローンで130万もするTV200を買っちゃった…。納車後すぐにエンジン焼き付いてまぁ金銭的には地獄でしたよ、あの頃の僕には…。でもマスト・アイテムなんですね、スクーター…。自分らしくカスタムして。これがMODSであることの証明!フライ・スクリーンにお名前記入!みたいな。ついでにパーカにチーム名入れたいなーって思ってたら先輩がやってたNUMBERSが人手不足で根本から声掛かって。んでナンバーズやることになって。最終的にこの僕がナンバーズを実質的に潰すことになってしまいましたが…。とにかくスクーターが好きで色も何回も塗り替えた。僕らの世代は60'sのオリジナルの雰囲気を大事にしていました。一番近い先輩たちがネオだったから意識的に違うスタイルにしてたのかなと」

FASHION

マナブ「ファッションのお手本はTHE JAMや、SECRET AFFAIRの写真や映画「クアドロフェニア」とかリチャード・バーンズのMODS写真集だった。初めてスーツを作ったのはバンド「THE STEPH」のステージ用を兼ねたゴキとのお揃いのスーツだった。確か神田の生地屋でオーダー・メイドしたな。その後、仮縫い付きのフル・オーダーをそれも神田辺りの仕立て屋だったんだけど、した時は興奮したね。まるで映画の中のシーンみたいに仮縫いのスーツに"ここもうちょっと詰めて"とか"ボタンの位置変えて"とかって、店の奴に喧嘩ごしで注文付けたっけ。ヘア・スタイルはたいてい短めで、スエードヘッドよりは少し長めでその頃、ロンドンのモッズだったら誰でもしてるようなヘア・スタイルだったな。これもロンドンのバンドの写真とか映画とか参考にして、取り敢えずもみあげだけは長かった。でも、イツオはフレンチ・クロップにしてたな。たぶん彼しか居なかったと思うよ、その当時は」

マンジ「成人式の絡みもあって蒲田のタカキューで「さらば青春の光」でモッズで3つボタンで黒って言ったら、礼服にされた!その後も蒲田で年に2着くらい作ってた。おやじとのやりとりが大変だった。82年にはダブルの8コボタンも作った。誰より早く。頭はウェラー風主流で本格的なフレンチ・クロップは、90年代に入って少しヨウジが始めにした」

マボ「今のように並木に行けば誰でも簡単にMOD系スーツが作れたわけではなく、映画のようにテーラーの親父に文句つけながら自分の形にしていきました。最初は失敗作だらけで。当時はPaul Wellerがヒーローなので彼の真似ばかりしてました。基本的にはNEO MODなスタイル。髪型も今のMOD君たちのようなカチッとしたクロップではなくラフなWeller風でした」

サトウ「最初はキャバーンとか、いわゆる「吊るし」を着ていたけど、縫製が悪かったし、「ダサいよ」的な仲間の声で、オーダーするようになった。始めはスカイ・ブルー地の三つボタンとか、ダブルの6つボタンとか、吊るしでは売ってないようなものを作った。丈は短いバムフリーザー(ケツが冷えるようなの意味)、サイドベンツ、チェンジ・ポケット付き、スラックスも最初は細身で短いものから、徐々に長くて幅も広めのものを作るようになった。スクーターにしてもスーツなどの服装にしても、写真集「MODS!」がお手本だった」

タイキ「最初はとにかくネオ・モッズだった。そのうち救世軍のバザーとかで古い服を買い漁って、スーツを作ったのはやっぱり並木でしたね。arch racesをやるときにはもうfrench cropというアタマになってた」

ネモト「最初はやっぱ並木とかで作ってましたけど、いろんな考えに拘りが出てくると、よ

り初期にみたいな感じに俺はなっていきました。94年くらいですかね。その頃ウィスキーに行ったらイチローさんから渋谷のボストン・テイラーでいいスーツ作ってくれるって聞いて行きました。値段は並木の数倍はしたけど本当にいい作りでした。そん時俺は初期に興味があったんで58年から60年位の本や映画を参考にきっと初期モッズはこんな感じだったんじゃないかって思いながらやってましたね。最初作ったのはフランスの生地でピークドラペルの夫婦ボタンで袖口はややフレアー、後ろに長めのボックスプリーツのついたジャケット、股上が浅くないベルトレスでややゆったりしていてモーニングカットのパンツでした。シャツはピンホールかタブカラーの襟の短いヤツをよく着ていましたね。タイは当時もんのデットストックで胸元を膨らましてタイピンで留めていました。ポケットチーフも必ずしていました。靴は先の丸いトリッカーズとか結構いい靴はいてましたよ。髪は短髪の横わけにしていました。アメリカン・フラットトップにしてた時期もありました。まあそん時はウィスキー派だったんで俺は。パーカーなんて全然スタイリッシュじゃねーし、フレンチクロップなんて写真集でしてる奴いねーじゃん。ターゲットなんかチョーダセーみたいな感じでナンバースも否定してました。後に自分もそうなっていったんですけどね」

ナワ「僕はスーツ・スタイル・ファッションより労働階級に多かったスクーター・ボーイズ達のようなジーンズ(LEVIS 501)にクラークス、フレッド・ペリー、ジョンスメドレーのニットっていうカジュアル・スタイルを好んでやってました…。もちろんオーダー・スーツ&シャツはさんざん作りましたが。いまでもライヴ衣装として並木(裏)でスーツ作ってます」

MUSIC

マナブ「シーンではみんなネオ・モッズの新譜を買う事に一生懸命になってたよね。それから、60年代のTHE WHOやSmall Faces、なんかのレコードを買い漁って、それから、俺はモータウンのレコードならなんでも買ってたな、どれが良いかとか分からなかったし、曲名もよく分からなかったから、当時ソウルのレコードは再発のカット盤とかが結構出てたからね。でも気がつかないうちに70年代のレコードとかも混じってたな。そのあとブライトン・ブルー・ビーツみたいなバンドが出て来て、ブルースの曲とかR&Bの曲とか知らない曲やったりして、そんな曲を探したり、それから84年にロンドンに行って、その時にノーザン・ソウルがモッズ・クラブではガンガンかかっててKENTレーベルのコンピ買ったり。そんな、自分が気に入った曲やレコードは全部モッド・ミュージックだと思うよ」

マンジ「やっぱロンドンのシーンとオン・タイムってとこが進んでるってかんじがナウかった。今でも大好きなTHE TIMESやSQUIRE、CHORDS、MOOD SIX、DIRECT HITSなんかも俺のバンド、BROOKSやHIGH STYLEと同じ時間に動いてたんだよなー。なんか俺のMODSに対する気持ちや愛情って変わってねーな!82年頃ミナコんちで聴かせてもらったTIMESやJOHN'S CHILDRENやSQUIREって、はっきり言って俺の生き方かえたよなー。あとはACTIONがやってるようなやつ。ってゆうかやっぱACTIONなんだよね!」

ルイ「モッズの音楽はJAZZであり、スカであり、R&Rであり、カリブ諸島から入ってくる音楽で、それはひとえに最低所得の(魂の叫び)であり、ラブ・ソングであり、ダンス・ナンバーであり、ブルースだ。モッズは労働者階級で最低階級の反逆で、時代への反逆であった!皆、俺の時代はモッズのそこにひかれた。パンク以前のパンクであり、Oiだ。彼らは黒人と共存することを好んだ。そして白人の多くが嫌う、汚いブルースやJAZZからダンスやリズムを吸収したんだ。彼らの生き方を、彼らの「粋」を盗みWORKING CLASS(労働者階級)の物にした「Oi music is WORKING CLASS!!」誰かがいった」

サトウ「好みはそれぞれあると思うけど、俺はボ・ディドリーやハウリン・ウルフのようなR&B、ブルーズ、ヤードバーズやUKバーズのようなUKのR&B、ロック。それから60年前後のモダン・ジャズなんかをよく聴いていた」

タイキ「なんだろう、時代的にかなり原点回帰?R&Bが格好よく聞こえたしORIGINAL MODがカッコよく見えた」

ナワ「60年代当時は当時聴けた全てのジャンルの音楽がモッズの音楽だったとおれは思います。要はアメリカの音楽の自由さとダイナミックさにやられたんじゃないですかね。まあそんなかでもよりレアがいいとかあったと思いますけど。モッズって言葉の通りモダンな考え方の連中だから物をセレクトするセンスが凄くいいと思うんです。そしてその選んだ物をどう使うかっていうセンスも優れていると思うんです。表現する目的の為に必要な物をチョイスする感じです。音楽でもファッションでも全てそうだと思います。音楽もそこから創造していったと思います」

ネモト「最初はやっぱりキンクス、フー、スモール・フェイセズって感じですか。僕の中でMODSの音楽の基本はR&Bだと思ってます。だからストーンズがカヴァーしたストーンズ・クラシックスと呼ばれるチャックベ、ボ、マディーはじめソウルな人たちなんかがMODS音楽代表!と思ってマス。実際、僕のバンドではフリーク・ビートと呼ばれるガレージ・パンクなんかを好んでプレイしてます」

MODS

ミナコ「Make your own standards「独自の行動規範をつくる」」

マナブ「アティチュード」

マンジ「俺は、土曜の夜と日曜の朝のアーサーで、俺こそがMODSだと思ってる。いつまでも大人になれないガキはいやだ!」

マボ「若い時は「ライフスタイル」なんて言っていましたが、「こだわる事」かな?」

サトウ「言葉で言うと臭くなるけど、「自分」「生活」かな……」

タイキ「WORKING CLASS HERO」

ネモト「当時のイギリスのカルチャーじゃないですか。ただ、それが今の自分の価値基準を築き上げてる所があるのは間違いないでしょうね」

ナワ「何でしょう?1つの生き方、って感じで今は受け止めてます。生活の全てに自分が思うモダーン・フィーリングを感じる物だったり人に囲まれて生きていきたい。バリバリにやってた時は1つのムーヴメントに流されていただけで、本当のMODSの楽しさを十分に理解してなかったと思うし。落ち着いた今頃に本当の楽しさが見えてきた」

元BLUE BEAT PLAYERSのGt、現在のソウルクラップのリーダー、タイキ

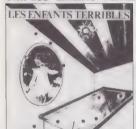
ex.THE HAIR、スカパラのヴォーカル、ルイ

数々のバンドと女を渡り歩いた男、現THE BOSS、マンジ

ALL MOD CONS

～日本のモッズ・ディスク紹介～

TEXT:黒田マナブ

V.A/Les Enfants Terribles

このコンピレイションEPはおそらく東京初、日本初であろうMODSレーベルの1stアクション、スタートを飾った一枚。収録曲はTHE PAGE THREE、THE BROOKS、THE LONDON TIMES、THE STANDARDSの4バンド4曲。そこにはこれから何かが始まりそう予感が詰まっている。

(RADIATE RECORDS)7"EP　84年

THE BIKE/GANBARE G.I.JOE!

THE COLLECTORSの前身になる加藤ヒサシがB&Voで参加しているTHE BIKEの4曲入りソノシート。すでにこの時から加藤ヒサシのソングライティングは彼独特の雰囲気を作り出していた。シンガーとしてもスタイルは完成されている。そして、その荒削りな演奏からは若さが溢れている。

(SOCKS RECORDS)FLEXI 83年

THE BRIGHTON/JUMPING BEAT

彼らを見つけたのは偶然見ていたプレイヤーのメン募コーナーだった。そして、神戸で活動していた彼らは1984年のMODS MAYDAYに出演する。その後リリースされたこの7インチには「JUMPING BEAT」、「HOLD ME TIGHT」、「IN RAINY DAY」、「HART OF CHILD」の4曲が収録されている。

(SMASH RECORDS)85年

THE BIKE/THE SONG FOR MR.DINOSAUR!

THE BIKEの2ndシングルはレディエイトからリリースされる。このソノシートには、THE COLLECTORSでも演奏されていたミディアム・テンポの「僕は恐竜」、当時から人気の高かった「僕は問題児」、「恋のカレイドスコープ」、彼らの初期からのヒット・チューン「TOO MUCH ROMANTIC」を収録。

(RADIATE RECORDS)7"EP 85年

LONDON TIMES & BRIGHTON BLUE BEATS/Split

これはLONDON TIMESとTHE HAIRの前身になるバンドBRIGHTON BLUE BEATSのスプリット・シングル。B.B.B.はアイズレー・ブラザースのタイトル曲とミラクルズの「THE TRACKS OF MY TEARS」をあいさとうがG&Voで演奏。チューニングなんておかまいなしなラウドなサウンドがその後を物語っている。

HIGH STYLE/In The Vacant World

テープのリバースするサウンドで始まるタイトル曲は80年代後半のモッズ・シーンに影響を与えていたサイケデリックでスインギン・ロンドンなフィーリングを持つポップ・チューン。もちろんエンディングもリバース・サウンド。「GIRLFRIEND WILL COME TO MY ROOM」、「ONEDAY BANKHOLIDAY」の3曲収録。

(GALLERY RECORDS)86年

THE WINKS/Privacy

当時、河本ヒロトに紹介されてライヴを観に行ったTHE WINKS。たしか、まだティーンだった彼らの演奏は未完成だったが、そこには次の時代を感じさせるものが存在していた。この4曲入りEPからも、初期のクリエイションレーベルのアーティストたちに通ずるフィーリングが収められている。

(GLOWORM)7"EP　86年

THE LONDON TIMES/Theme Of The London Times

このシングルはバンド・ブーム前夜にリリースされたロンドン・タイムス1stシングルになる。片岡ケンイチの行き場の無い怒りに溢れるサウンドが生々しい。彼らのもつ独特なポップ・フィーリングは既に開花している。

(FLOWER RECORD)7"

V.A/WHY DON'T YOU GET SMART?

杉村ルイの参加していた頃のTHE HAIR、オリジナル・メンバーのTHE I-SPY、THE WINKSの後に吉田カズマロが弟ツグオミと結成したTHE MAYBELS、真島政則のソロ・ユニットになっていた頃のHIGH STYLE、メンバーにその後スカパラのギターとしても活躍するマーク林が参加。

(RADIATE RECORDS)7"EP 88年

THE MAMMYS/London Boy InLONDON BOY IN BLUE

京都で活動をしていたTHE MAMMYS、どこかザ・バッジなどの博多ビート系のバンドを連想させるそのサウンドからは、東京のバンドにはない直球な歌詞が青春。タイトル曲を含む3曲収録。

(HULA-HOOP)7"EP 88年

FREEDOM SUITE/CHASIN'FREEOM SUITE

1990年代初頭いわゆる渋谷系と称されていたシーンの中にもモッズ・バンドは幾つか存在していた。そんな中の一つがこのFREEDOM SUITE。G&Voの山下洋はDJとしても活躍。アシッド・ジャズ以降のソウル・フィーリング溢れるサウンドは時代を象徴している。

(CRUE-L RECORDS)95年

PHELGE/LITTLE RED ROOSTER

1996、7年頃から活動を開始したフェルジ。VoのネモトとGのキャメルはシーンでもFACE的存在だった。まだその演奏は未完成だが初期のストーンズ的解釈によるブルースからはシーンへの敬愛が感じられる。B面はあの「IT's ALL OBER NOW」。

(SURFACE RECORDS)7"EP

THE BOSS/100% BONNAFIDE R&B

94年頃にシーンに登場したTHE BOSS、R&Bのカヴァーを得意とするこのバンドにはシーンの古顔、真島政則とディーズメイトのアキシロが参加している。曲は「She's Gonna Quit Me と Bumble Beeの2曲を収録、勿論ライヴでもモッドたちをダンス・アウトさせている。

(SURFACE RECORDS)7" 88年

BLUE BEAT PLAYERS/A LITTLE CHRISTMAS GIFT

東京スカパラダイス・オーケストラのギターとして活躍していた林雅之がサックス・プレイヤーとして結成したスカバンド。ギターにはシーンでは幾つものバンドに参加していたタイキが参加している。B面はタイトル曲のダブ・バージョン、リトル・マスタがリミックス。

(SURFACE RECORDS)7" 98年

PHELGE/NOBODY COULD CATCH MY HEART

この2ndシングルも1st同様、プロデューサーにロカビリー・ナイト&ロンドンナイトのDJとしても活躍しているコブラを迎え、今回は日本語詩によるオリジナル・ソングに挑戦、サウンドは前作同様かなりレイドバックしていて、GOOOOOD!!!

(SURFACE RECORDS)7" 99年

THE MARQUEE/IGNISION

ミスター・フリーク・ビート5人組によるTHE MARQUEE、そのサウンドはマニアックなまでに60'sガレージ・サウンド。2曲収録されているオリジナル・ソングもまるで当時のバンドが作り出したサウンドそのまま。他4曲を含む全6曲収録。

(BEAT GENERATION RECORDS)7"EP 03年

SIX/SIX

4人組のガールズ・バンド。現在はサポートのドラマーを入れ3人で活動中。Vo&BのChelioはタイガー・リリーにも参加、ガレージ・シーンでもその人気が高い事はこのレコードを聴けば納得。ガールズ・バンドならではのポップな曲が魅力的だ。

(SEEZ RECORDS)7" 04年

THE GARNETS/I'M GOIN'DOWN

大阪が生んだ今一番エキサイティングなバンド、昨年のMOD MAYDAYにも出演、その実力は全てのモッドたちが認める所だろう。デッカ時代のSMALL FACESを感じさせるそのソウルフィーグとさらに絡んで来るオルガンのサウンドは最高です。

(TRANMPOLINE RECORDS)7" 04年

THE COLLECTORS/WELL COME TO THE FLOWER FIELDS AND THE MUSHROOM KINGDOM

これは、メジャー・デビュー直前にコレクターズ初期のオリジナル・メンバーで録音された10インチの1stアルバム。ミントサウンドはストライクスの作品もリリースしていたレーベル。このアルバムには初期の代表作が目白押し、コータローのギターも冴えまくってます。

(MINT SOUND)10" 87年

V.A/DANCE!

オルガンが新たに参加したPAGE THREE。あいさとう、マーク林、真島政則と江口マヌウという珍しい編成のTHE HAIR、HIGH STYLE、THE STANDARDS、THE COLLECTORS、大阪からはMERSEY BEATが参加、6バンド12曲入りのコンピレイション。

(RADIATE RECORDS)LP

THE STANDARDS/RAMBLING ROSE

1986年のMODS MAYDAYでその人気を頂点まで引き上げ最高のステージを見せてくれたTHE STANDARDSのその直後の一番輝いていた頃のサウンドをそのままパッケージングした4曲入り12インチ。TEEN-AGE GANG、COME BACK TO ME BABYなどが収録されている。

(GO BEAT)12" 87年

V.A/GET SMILE! 1988

これは京都のレーベルからリリースされた、当時のネオGSも含めたバンドたちを収録したコンピレイション。THE FAVE RAVESの青山春裕、ヒトミが参加していたTHE MUDDY LUMPSやTHE MOVEMENT、THE MAYBELSらを収録、珍しいところではORIGINAL LOVEも1曲収録。

(MARVELLOUS RECORDS)LP 88年

THE I-SPY/MOVE ON UP

1987年からライヴをスタートしたTHE I-SPYの12インチ。このノーザンソウル・フィーリング溢れる作品は渋谷系のルーツとして90年代に入り再評価を受けたアルバム。今でもクラブプレイされる事がある人気のスティービー・ワンダーのカヴァー「LOVE A GO GO」を含む5曲を収録。

(RADIATE RECORDS)12" 89年

TOKYO SKA PARADISE ORCHESTRA/TOKYO SKA PARADISE ORCHESTRA

青木タツユキもギムラもあさちゃんもそしてマークもまだ健在のスカパラの1st 12インチ。モッド・クラブでの人気の「JUST A LITTLE BIT OF YOUR SOUL」を含む6曲を収録。まだ、大人の世界に染まっていない、何かをやってやるぜ的な姿勢がサウンドにも現れている。

(FILE RECORDS)12" 89年

THE HAIR/THE HAIR SINGS MAXIMUM R&B

杉村ルイが参加していた絶頂期に残された12インチ。全曲カヴァーであるにもかかわらず、そこには既成の音楽からとてつもなく大きくはみ出した、スケールの大きさや姿勢が溢れ出し、彼らにしか作れないサウンドとフィーリングを持ったアルバム。

(RADIATE RECORDS)12" 90年

THE SHAMROCK/THE MODS ARE ALLRIGHT

THE SHAMROCKの81～82年にレコーディングされそのままリリースされなかった未発表音源、THE MODS ARE ALLRIGHT、HELP ME SOMEONE、NO FUTUREなど80年代人気の高かった8曲と、81年に収録されたTAKE OFF 7でのライブ音源をプラスしたアルバム、当時の息吹が感じられる。

(RABBIT RECORDS)CD 04年

V.A/CAFE AU GO GO

90年代に入って直ぐのモッズ・シーンを代表する、CLUB ACES、BACK DOOR MEN、FAVERAVES、THE HAIR、THE GEAR、THE PLANETSなど6バンド15曲入りコンピ。勿論ここでしか聴けないレア音源ばかり、当時のリアル・シーンがここに詰まっている。

(JAPAN RECORD)CD 91年

THE DISMATE/WHO'S THAT GIRL

1991年頃シーンに登場したこのバンドは91年のMODS MAYDAYにも参加。G&VoのアキシロはTHE FAVE RAVES、THE BOSSなどにも参加している。Bの佐々木とアキシロのツインボーカルでコーラスワークもしっかり聴かせてくれる。

(UKP)CD 91年

V.A/LOVIN'CIRCLE

1992年にスタートした新レーベルラヴィン・サークルの1stコンピレイション。COOL SPOON、DROPS、KISSIN' MOSTOLY、FAVE RAVES、HIGH STYLE、THE HAIR、DEBONNAIR、THE I-SPYらの8曲収録。CFEA AU GO GOとは違った視点からとらえた当時のモッズ・シーンが垣間見える。

(LOVIN'CIRCLE)CD 92年

COOL SPOON/ASSEMBLER!

アシッド・ジャズや渋谷系ムーブメントに乗っかる形で人気を集めたCOOL SPOONだが、そのサウンドは時代に流されるのではなく、自分たちのやりかたと限りないアイディアのもと、彼らにしかだせないサウンドとグルーヴを実現。彼らがシーンに登場した事によって何かが大きく揺れ始める。

(LOVIN'CIRCLE)CD 92年

THE HAIR/ELECTRIC CHURCH

杉村ルイが抜け、新たにジュリー田中を迎えてレコーディングをした初めてのアルバム。なにかとルイが居た頃と比べられてしまう、そんな雑音など吹き飛ばす位に、また一つ頭突き抜けた感じのサウンドが魅力。さらにあいさとうのソングライティングも光る。

(LOVIN'CIRCLE)CD 92年

THE FAVE RAVES/THE FAVE RAVES

モッズ・シーンの中で彼が一番ソウルフルだといっても過言ではない青山春裕のシャウト、それに絡むヒトミのエッジの効いた最高なギターリフ、このアルバムにはソウルへの尊敬と敬愛が込められている。名曲バラード「誰も知らない僕の悩」を含む8曲収録。

(LOVIN'CIRCLE)CD 94年

V.A/LOVE & HATE

1995～96年ファッション業界やロンドンを中心にモッズ・リバイバルが再び起こり、メディアがこぞってモッズを取り上げ始めた。そんな中で僕らは流行などとは無縁だって事が示したかった。黒田マナブ&きょうすけプロデュースでレコーディングされた90年代のクワドロフェニア的作品。

(LOVIN' CIRCLE)CD 96年

EMOTION/OM

1996年3度目のモッズ・リバイバルで盛り上がるシーンに登場したこのバンドは当初4人組のバンドとしてスタート、シンガーが抜けG&Voのトリオで活動を続ける。彼らは90年代的なビートサウンドと日本語によるポップスのフィーリングを持っている。
(LOVIN'CIRCLE)CD 96年

ORIENTAL CROMAGNON/ORIENTAL CROMAGNON

その前身のバンドはMONKYとして活動をし、このシーンでは珍しくファンク・ミュージックをルーツに持つサウンドを作っていた。そして、より幅の広い活動を目指し、モンキーが進化しクロマニオンになる。彼らのサウンドは90年代にある全ての音楽を吸収していた。
(LOVIN'CIRCLE)CD 97年

BLUE BEAT PLAYERS/DOWN BEAT AS EVER

彼らは限りなくモッズ・シーンに近い所、いやいやシーンその物から出て来たスカ・バンドだ。BのモウリもGのタイキも、勿論サックスのマークもモッズ・シーンの中で幾つものバンドに参加していた。このアルバムには彼らのヒット・チューンTOKYO MONEYが収録されている。
(2nd CITY)CD 99年

SOUL MISSION/EAT'EM UP!

子供にも喜んで聴いてもらえる作品を作ろうという事がコンセプトになっているこのアルバムは実験的な音作りを沢山使ってとてもポップなサウンドに仕上がっている。しかし、彼らのルーツはしっかりと収められ、90年代の最新型モッド・インストがここで聴く事が出来る。
(LOVIN'CIRCLE)CD 99年

MANABU KURODA/HELLO MODERN

THE I-SPYの黒田マナブのソロ作品。ニール&イライザなどで活躍する堀江博久とオリクロの高橋恭介らも楽曲を提供。また、高木そうた、真島政則、及川ひろし、青芝カズユキ、松田岳二、和田卓造、三橋俊也、国見ともこ等シーンを代表するアーティストが参加している。
(LOVIN'CIRCLE)CD 99年

THE CLOVERS/THE CLOVERS

フォトグラファー、ヒロミックスが参加していた事で話題を呼んだガールズ・バンドTHE CLOVERS。しかし、彼女が抜けた事により新しい可能性を秘めたガールズ・デュオ・バンドとして再生。ガールズ2人によるハーモニーとガレージなサウンドがとてもキュート。
(HEAT WAVE)CD 99年

FREEDOM SUITE/INSTANT SUITE

フリーソウル・アンダーグラウンド等のDJでも注目されている山下洋率いるFREEDOM SUITE。Drにスカフレイムスの志村ヒトシ、Bに島田正史、2ndGに三橋俊也を迎えてのファースト・レコーディング作品。ポール・ウェラー直系のグルーヴィーなサウンドが唸る。
(TRATTORIA)CD 01年

LES CAPPUCCINO/FRENCH MADISON

神戸、大阪を中心に活動をしているモッド・ジャズ・インスト・コンボ。オルガン・インストをメインにフレンチのエッセンスを加えてサウンドはダンスには抜群にはまる。また、毎回スインギン・ロンドンな衣装でバッチリ決めていて、ステージは観ているだけでも楽しい。
(MAD FRENCH)CD 01年

LUI/WHER DOES A BLUEBIRD FLY?

THE HAIRをやめた後、短い間だったがスカパラにシンガーとして参加。その後自宅で録りためていたデモを、いろいろなミュージシャンと共に形にした1stミニ・アルバム。今まで、ルイが接して来た音楽の全てがフレイバーとして鏤められたサウンドに魂の叫びが木霊する。
(BLUEBIRD RECORDS)CD 02年

WACK WACK RHYTHM BAND/WACK WACK RHYTHM BAND

1992年、アシッド・ジャズが注目され始めた頃から活動をスタート。数多くのイヴェントに出演、そのライヴで培ったパーティー・バンド的フィーリングはそのステージで最大限に発揮される。このしばらくぶりにリリースされた2ndアルバムは10年間の集大成的仕上がりになっている。
(FILE RECORDS)CD 03年

BOYCE/THE SOUNDTRACK FOR US

彼らはネオ・モッズやパワーポップのサウンドに多大な影響を受け、21世紀の今にそのサウンドを蘇らせる。さらに80年代のパワーポップバンドがそうだったように良質なメロディーをこのミニ・アルバムの中でも存分に聴かせてくれる。
(REACTOR RECORDS)CD 04年

THE COLLECTORS/THE FUTURE IN THE SHADE OF DAWN

80年代からこのシーンを見据えて来たTHE COLLECTORSの最新アルバム。勿論キャリアの賜物だろう貫禄十分なそのサウンドはどんなにアレンジの手法が変わっても、例えば「恋することのすべて」の様なストリングスやブラス・アレンジでも、その根底にある気持ちは何も変わっていない、そこに脱帽。
(TRIAD)CD 05年

the CHICKEN masters

弱っちい番長

INTERVIEWED: 大越よしはる　[3月30日/江戸川橋キングレコード]

5月25日に2枚目のミニ・アルバム『惑星ROBBER』をリリースするthe CHICKEN masters。先々月号の「NEW FACE」欄と先月号のライヴ・レポートも参照されたし。ジャンル分けしにくい、切れ味鋭いハイテンションR&Rは都内のライヴ・ハウスで確かな存在感を放つ。ステージでのキレっぷりに反して寡黙な3人に話を聞いた。DOLL誌上最も「…」の多いインタヴューか?

▶バンド名が非常にユニークですけど、どういうところから来てるんですか?

小池孝典(以下K)「"チキン"って言葉を使いたい…チキンってのはもちろん、弱っちい意味での…。弱っちい番長。弱っちいけど強えぇ(笑)」

渡部勉(以下W)「泣いた時が一番強い(笑)」

▶キレキャラですか(苦笑)。で、こういうの聴いてきたんだな、みたいなのが見えにくいんですけど、どんなバンドに影響受けました?

K「…いろいろ好きですけどね。DAMNEDとPISTOLSが大好き。BEATLESも大好きだし、ブルーハーツもミッシェルも好きだし、ギョガンも好きだし…」

W「…ピーズと…高校時代は、ニューエストモデル、聴きまくってました」

馬場理一(以下B)「僕はTHE YELLOW MONKEYが好きなんですけど。影響を受けたということでは…ドラムは影響受けてないですね。ステージングとか…」

▶パブ・ロックの影響とかあるのかなあとか、勝手に思ってたんですよ。

K「…好き、ですね…(ボソッと)」

▶じゃあ、ミニ・アルバムの話を。…デビュー作よりも更にテンション上がってる感じですけど、気合入りました?

K「う〜ん…覚えてないな(笑)。1stとは、確実に違う、何かはありましたね」

▶まずタイトル見てびっくりしたんですけど。どこから付けたんですか、このタイトル。

K「いつも(ライターではなく)マッチ使ってて、そこに"ROBBER"って書いてあって。タイトル考えてる時に、それが目に入って。最初、意味わかんなかったんですよ。それで、調べて。"強盗"とかあって。何でマッチに強盗って入ってるのかなあって思って。そこで…"惑星"っていうのは、思い付きなんですね。で、つなげてみたら、カッコいいな、と」

▶曲名もいちいち凄いですね。(作曲の際)曲名が先に来たりするんですか?

W「いや、メロディ」

K「(曲名は)一番最後」

W「リフと、メロディと」

K「リフがあってそれにメロディ付けて、詞は、最後…。スタジオで、録って、家で聴いて…で、その曲を聴いて何を思うかとか」

▶そこから、当てはまる言葉が出てくるみたいな。

K「そんな感じ」

▶1曲目が「Surfin' Johnny」っていう曲ですけど。他のバンドにもあるんですよね、同じタイトルの曲。

K「全く一緒の?」

▶タイトルはまるっきり一緒。…で、やっぱり、サーフィン・ジョニーは、行方不明になっちゃうんですよ(注:ポップ・パンク・バンドTHE STRAWBERRY MUD PIE!にも同名の曲があり、どちらの歌詞でも主人公の"サーフィン・ジョニー"は行方不明に)。

(一同笑)

K「偶然ですね!…それは全く、知らなかったんで」

▶で、行方不明。

K「最終的には行方不明(笑)」

▶「天国バスタイム」っていうのは、1枚目のミニ・アルバムに入ってた「スウィーテストジャンク・ランデヴーフィーバー」の、続編みたいに考えていいんでしょうか?

K「…そういうの、何にも考えてないです(苦笑)」

B「はははははは」

▶…深読みしすぎたかッ!?

K「深読みされても…(苦笑)」

W「なんにもないです(笑)」

▶一人称が女で書かれているっていう共通点があるのと、歌詞の中に"ランデヴー"っていう言葉が出てくるでしょう。

K「ああ、そうだ、使ってる(笑)」

▶主人公は同じ女の子なのかと思ってたんですよ、勝手に。

W「ヴォキャブラリーがねえんだ(苦笑)」

▶関係なし?

K「関係なしです」

W「続きってことにしちゃえばいいんだよ(笑)」

K「じゃあ今日から(笑)」

▶歌詞カードがなかったんで、聞き取りでいろいろ、勝手に解釈してたんですけど…「右脳ダイバー」ってなんですか?

K「(笑)右脳ダイバー…まず…"ダイバー"って言葉に、意味はないです。なんか…右脳な感じの…曲なんです」

(一同爆笑)

▶右脳な感じの曲(笑)。

B「右脳、感覚の方に訴えかける感じの…」

K「左脳ではない(笑)」

B「感じろ!みたいな」

K「そうそうト…それだ!(笑)」

▶それなのか(笑)。

K「ソレに後付けで"ダイバー"って付けただけです(笑)」

▶歌詞からキテるバンド、みたいなイメージを勝手に持ってたんで、歌詞が後っていうのが、意外というか。…ライヴ活動は今、どのくらいのペースですか?

K「平均で月に3〜4くらい」

▶自主企画があって、最初は、無料で始めたとか?

K「…半年くらいか?…なんかね、いっぱいいっぱいだった…どうやったら、客を増やせるのか?…って、考えて。…カネとらねえ方が、お客さんもたくさん来てくれるんじゃねえかっていう、単純な思い付きで…。バンド集めて…赤出たら、かぶりゃいいや、って。…でも、なんか…金がかかったもんで、もう限界だ、次から無料やめよう、と…」

W「別に客増えなかったんだよね(苦笑)」

▶泣ける話だ(笑)。…対バンはどんなバンドとしてますか?

W「自分らの好きなバンド…あんまり似たようなバンドでは固めないようにしてる」

▶CHICKEN mastersっていうのは、何と対バンしても浮きそうな気がするんですけど(笑)。逆に、浮きそうであればあるほど燃える、みたいなのがあるでしょう?

W「燃え上がる!(笑)…全然違う対バンばっかりだと、燃えたりする…(笑)」

K「それはあるかもしれない。…カッコいいバンドがいたら、それはそれで燃える!」

W「そうそう…あんまりカッコよすぎると、今度は自信がなくなる(苦笑)」

K「簡単に(自信)壊れてるな!(笑)」

NIA

余分なことを考えずに まっさらな気持ちでできた

INTERVIEWED:荒金良介　[3月29日/新宿らんぶる]

NIAの1stアルバム『reloaded』を聴いた後、音楽をプレイする喜びに満ち溢れたニュートラルなそのスタンスに微笑ましささえ感じてしまい、こちらの頬も思わず緩んでしまった。まさに新人バンド登場といった音だ。訂正、超大型新人の登場である。現スネイル・ランプのISHIMARU(Vo/Per)と元フルトラップのSHIGE(Dr)を中心に、元ミサイル・ガール・スクートのU-ri(Vo)、元ゴーイング・ステディのTaKeO(G)、元ファンタ・ゼロ・コースターのRui(B)という錚々たるメンツが集まり、プロデューサーには現アグレッシヴ・ドッグスのUZI(Vo)が携わっている。今作は肩肘を張ることなく、奔放な空気感に彩られたフレッシュ作に仕上がった。SHIGE、U-ri、UZIの3人に話を聞いた。

▶今回は元何々という肩書きを持つ個性の強いメンバーが揃いましたね。

SHIGE「ほんとタイミングが良かったという感じで、もともとISHIMARUとは何かやりたいねという話をしてて。でも2人ともドラムだけど何やるの?って。(ISHIMARUが)ドラムじゃないことがやってみたいって、じゃあ、やろうかって。それでU-riとTaKeOを誘って2人とも面白いんで。で、ベースが全然決まらなくて、最初はベースなしでスタジオに入ったりしてて、最後にRuiが来て彼で行こうと」

▶今作はお互いのスキルや経験値をぶつけ合うというよりは、改めて純粋な気持ちで音楽と向き合っているような風通しの良さを感じますけど。

SHIGE「狙ったわけじゃなくて、好きなことをやったらこうなったという」

U-ri「スタジオで曲を作りながら、こういう曲をやりたいねぐらいで始めたんで。まあ、全くいままでやったことをなしにしてというんじゃなくて。SHIGEさんだったら重いのを叩いてたけど、今回はポップだからポップに叩いてよとリクエストしたわけでもなく、SHIGEさんなりのポップの捉え方、ロックの捉え方で叩いてもらって。みんなそういう感じで、それぞれがおいしいところを出しつつ確認しなくてもやれちゃうんで」

▶各々の以前に活動していたバンドはスタイルがわりとカチッと決まってましたからね。

SHIGE「だから、全員が好きなことを好きなようにやったらどうなるのかなと思って」

▶それでよくまとまりましたよね。

SHIGE・U-ri「はははは」

▶それぞれの過去の音楽背景を考えると、ヘヴィなものができても全然おかしくないわけで。

U-ri「そうですね。別に抑えようという気持ちはなかったんですけど、今回はこういう曲でっていう」

▶UZIさんはプロデューサーという立場からどう見てました?

UZI「みんな集まってどんな音になろうと、まとまるだろうなと思ってましたね。女性ヴォーカルだし、こういう感じになるだろうなと。SHIGEちゃんも前にやりよったバキバキな感じじゃないし、ミサイル(・ガール・スクート)も何回かやったことがあるんで、大体想像は付いて」

▶より素直に音と向き合おうという気持ちは強かった?

SHIGE「そうですね。自分の持ってるものを出してこんなの好きなんじゃないの?って、いい意味で相手を読み合ったりしながらできたかなって。1stアルバムだし、できることを全部入れちゃおうかって。普通は発展していくというと、柔らかいところからヘヴィなところへ行くという感じだけど、俺の場合はずっとヘヴィだったんでポップなところに行くと、おお〜!って」

▶それはU-riさんにも当てはまりますよね。

U-ri「自分のスタイルをNIAで変えたつもりはないし、逆に新しいところを引き出してもらった気がするんですよね。それぞれで音を出していく中で、新しい発見ができた部分といままでの自分のスタイルを認めてもらえたから作ってきたという感じがしますね」

▶バンドをやり始めた頃のような初々しさ、清々しさ、瑞々しさに溢れてますよね。

SHIGE「知らないうちになってたんですよ」

U-ri「気付いたら、あれって。狙ってますというのが一切なかったんで、そういう素直さが曲に出てるのではと思います。何も奇をてらってないというか、曲を作る側も音を出す側も今出したい音を出してるんで。だからですかね」

▶改めて気分を一新できた?

SHIGE「まあ、1回生活から音楽がなくなっちゃった人たちばかりなんで、楽しみたいなというのがいちばん先にありましたね」

UZI「ヘンに格好とかじゃないよね。自分がやってきた音楽に行き着いてね、素直になれとんやね」

SHIGE「1回すごいとこ見ちゃったからね、ぶち当たっちゃって(笑)。もう自分たちが楽しんじゃってもいいんじゃないのって。しかもそれが全員だったんで、同じところを見れたというか同じ気持ちになれたんで。もう(音楽を)辞めたくないという気持ちが強かったですね」

▶その気持ちが音や歌詞に表れてますね。

U-ri「うん。みんないままでがあって、NIAでという感じで。そこは話し合わなくても気持ちが通じたところがあったんじゃないかな。逆にもう余分なことを考えずにまっさらな気持ちでできました」

ELECTRIC SUMMER

独自の濃さみたいなものを持ってるバンドが好き

INTERVIEWED: 荒金良介　[3月26日/新宿アマンド]

アメリカ・コロラド州の留学先で知り合ったメンバーでバンドを結成し、大学の卒業と共に活動基盤を日本に移したエレクトリック・サマーは、海外で培ってきた豊かな音楽体験が自己のサウンド形成に大きな影を落としている。少年らしさを残したままの邪気のないヴォーカル、シンプルでありながら妙に耳に引っかかるフレージングの数々、コロコロと表情を変えていく曲展開など、いい意味でツッコミどころ満載の一癖あるパンク・サウンドがこのニュー・アルバム『GOTTA HAVE A DREAM』には詰まっている。YUDA(Vo)、Miky(G)、NAOKI(B)、KIYAMA(Dr)の4人に話を聞いた。

▶前作から約3年経っていますが、その間にメンバー・チェンジやレーベルを移籍したりと動きがありましたけど、そういう意味で今作は再出発的な意味合いも強いんですか?

Miky「そうですね。ドラムが前のアルバムを出した後に抜けて、そいつがリーダー的存在でバンドを引っ張ってきて、主に曲作りとかをしてたんで。すぐにドラムは入ったんですけど、ドラムが替わると音も変わるんですよ。で、自分たちの音を確立するのにライヴを絶やさず入れたり、自分たちの企画も始めたりして力を付けていった部分はありますね。それでFUCK YOU(HEROS)の亮介と知り合って、STEP UP(RECORDS)との繋がりができたんで」

▶本来であれば前作の後にもっとバンドとして活動範囲を広げる予定だったのが、バンドの足場を固めなければいけない局面を迎えたと。

Miky「そういうふうになりましたね。前作は以前にアメリカで出した2枚から半分くらい入れてるんで、そういう意味でも前作はまだ自分たちの音楽的にも固まってないなと思ってて。ね、KIYAMAっちはどう?こいつはミクスチャー・バンドとかやってて、2ビートとか叩いたことなかったんですよ」

▶そうなんですか?

KIYAMA「たまたま入ったバンドがそういう音楽性だったんで。まあ、日々進歩してると思います」

Miky「こいつはすごい練習するんですよ。練習をして自分なりに好きなものを叩いて、ちょっと職人的な感じですね」

▶なるほど。で、今作は基本的にはポップですよね。それは今のポップ・パンクとは違う、70、80年代のロックが放っていた懐かしいポップさを感じます。

YUDA「Mikyだったらボブ・ディランが好きだし、僕はビートルズがすごい好きだし、みんなパンクばっかりじゃないですね」

Miky「NAOKIはコステロ、フィッシュボーン好きだね」

YUDA「トム・ウェイツ、ニック・ケイヴとか昔はそういうのが好きだったり」

Miky「そういうのってできないじゃないですか、人間がバァーッて出ちゃって。やろうとしても絶対マネになっちゃうんで。僕らは僕らのスタイルを。日本に帰ってからもいろんな日本のバンドに影響を受けたし、対バンしていく中で僕らがいいと思うのは独自の濃さみたいなものを持ってるバンドが好きで」

▶うん、類は友を呼ぶ感じで。

Miky「そうですね。僕らもそうなってるんですけど、今回のアルバムを聴いてもらってちょっと聴きやすくなってるんで。メロディも昔はマイナーとか使わなかったんですけど、そういうのも入れつつ作って」

▶今作はほんとに1曲1曲タイプがバラバラな楽曲ばかりで。

YUDA「まとまらなくてすいません」

▶いや、それが面白くて。YUDAさんのヴォーカルも個性的だし。

NAOKI「子供みたいな声ですよね。アルバムの方は最初イメージもなくて土壇場まで練習をしてて、やってみたらなんとなくうまくできた。結果いろんな曲が入ってるからアルバム通しても退屈しないし、自分はそういうアルバムが好きなんで良かったなと」

▶あと、今回7SECONDSのカヴァー(「SATYAGRAHA」)もありますけど、エレサマの音楽性も70、80年代のパンク/ハードコア・バンドのような、音はスカスカだけどやたら熱いヴァイヴに満ち溢れてますよね。

YUDA「そうですね」

Miky「昔、例えばグリーン・デイ風みたいなコンセプトを考えたほうがいいと言われたこともあるけど、そういうの思い付かないし。今回はほんとに何々風とかじゃないし、ラモーンズやクイアーズとかに憧れはあるんですけど同じようにはできないですね。やっぱいろんな音楽を聴いてるんで。あと、僕らがいたコロラドはローカルなバンドばかりで……日本のバンドは全部じゃないけど、アメリカの有名なバンドのコピーというか、そういう感じでやってて。アメリカってそういうのがなくて、自分のアイデンティティを確実に一人ひとりが持ってるから。良くないバンドでもすごい個性があって、ヘンな髭が生えてたりとか(笑)、そういうめちゃくちゃなバンドばかりなんですよ」

YUDA「お客さんもお客さんでそれが良かったら、ロッケンロールと言ってくれるし」

▶それはエレサマの音楽性にも通じますね。

YUDA「そういうシーンを見てきて、ほんとに面白かったし」

Miky「アクの濃いバンドばかり見てきたし、その辺は絶対に変わりたくないんで」

fabulousplanes

色んな世代の人たちに聴いてもらいたい

INTERVIEWED: 大越よしはる

先月インタヴューしたTHE SQUEAKS同様にpiggiesから派生したバンド、fabulousplanes。SQUEAKSとはメンバーもカブっているんだが、その音楽性は微妙に異なるようでその実、大いに異なる。SQUEAKSがpiggiesのポップ・パンク的な側面をそのまま継承しているとすれば、fabulousplanesはpiggiesのギター・ポップ的な側面を…というか、むしろpiggiesにはなかった類のギター・ポップ的側面を新たに掘り起こしたと言ってもいいのかもしれない。fabulousplanes、2003年8月結成。メンバーはKitamun(G,Vo:元piggies)、Tetsu(G:piggies〜現THE SQUEAKS)、Yuka(B:THE SQUEAKS)、Acchann(Ds:元piggies〜元THE SQUEAKS)の4人。Kitamunに話を聞いた。

▶「男の子」を感じさせるバンド名だと思います。実際、飛行機好きですか?

「特に飛行機に興味があったわけではないのですがfabulousっていう単語を使いたいっていうのが前々からあって語尾にplanesを付けたら一番しっくりきたって感じです…(笑)」

▶piggies解散後、fabulousplanes結成までは少し間がありますが、その間は特に活動されていなかったのでしょうか。

「どうしてもソロを創りたくて3年家にこもって1年スタジオでレコーディングしてました。自費で創ったんで流通には乗ってないんですが手売りでこつこつやってました。静かなやつを創りたかったんでジョン・レノンやジェームス・イハのソロみたいなアルバムをその時は目指していて。そんな事をしていました」

▶piggiesからTHE SQUEAKSとfabulousplanesが生まれ、両者の音楽性はかなり違いますが、互いのメンバーはカブりまくっています。piggiesの解散はいわば"発展的解散"というか、THE SQUEAKSとfabulousplanesは兄弟バンド的なものと見ていいのでしょうか。

「piggies解散後もメンバーとは普通に遊んでましたよ〜。SQUEAKSのメンバー全員昔から知り合いやったし兄弟バンドかどうかはわからないですけどお互いベストな状況は考え合ってはいると思いますよ」

▶piggiesのギター・ポップ的な部分を推進したのがfabulousplanesのサウンドだと思いますが、Kitamunさん自身のフェイヴァリット・ミュージシャンというとどの辺りでしょう。

「最近ではKEANE、EMBLACE、JACK JOHNSONのレーベルのやつとか軽めなのを聴いてますね。昔から自分がいるシーンに近いものは影響受けすぎると個性が消えるかな、みたいなところがあってふだんは優しいものばかり聴いてますね…」

▶個人的には、メロディ・ラインなどにはパワー・ポップなどよりもむしろ70年代の王道なポップス/ロックの影響を感じるのですが。

「確かに70、80年代のポップス・ロックもよく聴きましたね。ウチには結構70年代のフォーク・ロックのアルバムが多いですね」

▶ギターのコンビネーションが絶妙で、往年のTEENAGE FANCLUBなんかを思い出したんですが、アレンジはメンバー全員で?

「TEENAGE FANCLUBはめちゃめちゃ好きですよ! piggiesと並行してmoonage funclubっていうバンド組んでたぐらいですから(笑)。アレンジは、基本的な曲作りは僕がやってきてスタジオでみんなで煮詰めていくっていう感じです」

▶アルバムのレコーディングにはどのくらい時間がかかりましたか?

「レコーディングは一月で済んだんですけどミックスで二月ぐらいかかりましたね…個人的にはレコーディング大好きなんでかなり楽しかったんですけど」

▶自分のリーダー・バンドということで、piggies時代とは録音時の心構えなども違いましたか?

「そうですね、今回はミックスは僕に任せてもらったんで色んなアレンジを試みることができましたね。あと大音量で聴いてもらえるいい感じになるように作ったんでそういう風にしてもらえると嬉しいですね」

▶アルバム中、Kitamunさん特にオススメの1曲は?(個人的には「So Many Tears」がとても気に入ってます)

「ありがとうございます〜。自分でいうのも何なんですがどれも本当に気に入ってます。4人の個性もよく出せてると思うし…強いて言えば「Over The Rainbow」とか「Little One」なんかは明らかにpiggiesとは違うけど新しい側面を出せた曲だとは思います」

▶現在、ライヴ活動はどのくらいのペースで?

「今のところSQUEAKSとの兼ね合いもあるんで2、3ヶ月に一度ぐらいです」

▶これまでに、東京でのライヴは? また今後の予定としては?

「fabulousplanesとしてはまだないんですけど6月(18日)に下北沢のシェルターでやりますんでよろしくお願いします」

▶バンドを取り巻く、神戸のシーンの最近の状況はどうですか?

「そうですね、個人的に4〜5年シーンから遠ざかっていたんで今から色々なバンドとやって行きたいという段階です」

▶全然関係ない話で恐縮ですが、Kitamunさんはあの阪神大震災を体験されていますか? 体験されているようでしたら、最近の各地での地震の被害に思うところなどあれば。

「ちょうど僕が大学の時でしたね…震災を経験して命の尊さを本当に実感できたのも事実ですし、各地の被災された方々も本当に色々な悲しみを乗り越えないといけないでしょうし、復興まで時間もかかるとは思いますがいつか微笑みあえる時が来るのを信じてがんばってください!」

▶ありがとうございます。最後に、DOLL読者の皆様に一言お願いします。

「今回のアルバムは色んな世代の人たちに聴いてもらいたいし聴いてもらえるアルバムだと思うので是非聴いて下さい!」

LAUKAUS

ラウカウス

Lasta/子供都市

INTERVIEWED: 山路健二

神戸HARDCORE PUNX、LAUKAUSが2nd 7"EP&CDをPOGO 77よりリリース!"フィンコア"なんて括りとは何万光年も懸け離れた位置に存在する、ポップでカオスなLAUKAUSの衝動的異空間ハードコア。その内側を垣間見るべく、複数回に渡りE-MAILでUUTI(Vo)に話しを聞いた。

▶最近(今作とVA『混沌難聴大虐殺』含めて)、どんどん自由に、ユーモラスに、そして狂気的に変化していると感じたのですが。

「うーん…、最近変わったというのはよく言われます。ベースが変わったこともあると思うし、僕自身内面的にも(周りの影響もあって)最近好転しているので、そういう部分も出てるのかもしれません!音的な変化に対しては、これは正直メンバー内でも意見が分かれるところでもありますねー…。僕が突っ走っちゃってるようなとこもありますし。『混沌〜』の"S.A.S."は"kurt i kuvos的サザンオールスターズ解釈"です。正直…、JASRACの闇に潜む眼に怯える毎日です」

▶内面的に好転して、あの音が出るのは意外でした。ドロドロした精神的闇を下地にしているのかと…。サザンや歌謡曲もお好きなんですか?

「あ…、そうですか(笑)!?自分では屈折してないつもりなんですけど…。こう、人間の暗い部分を感じさせるハードコア・パンクも大好きなんですけど、ことラウカウスにおいてはもっと光や熱をもった、アッパー系な??音やパフォーマンスを目的にしてるんです!何かライヴとかで、見たくてたまらんかったバンドがちょろちょろステージに出てきて、ドラムがドンドンとキックを踏んで、ほんでギターがスイッチいれてぎゃーんとハウった音を聴いた時の押さえきれん興奮ってあるじゃないですか!?あんな感じを音にしたいんです。歌謡曲は人並みですかね?わりかしみんなの共通項みたいなところあるじゃないですか。サザンのあの曲は、メロディーがあまりに渋いので…、好きなんです」

▶"Lasta(子供都市)"の歌詞は、"大人に成りきれていない、無責任で子供っぽい大人"を揶揄していると勝手に受け取ったのですが。

「そうですね——。何か、ことさらに"あの頃はよかった—おもろかった"っていうのが、もうええねん!という感じなんです!20代になれば自分の20代を、30代になれば自分の30代をマキシマムに体感したいな、と…。森脇美貴夫氏の受け売りですけど(笑)。後、昭和過激(KRUW)に借りて一向に返してない諸星大二郎先生の『子供の王国』も下地になってます」

▶懐古主義にはウンザリってことですね。それはパンクに関しても共通ですか?昔のバンドも良いけど、今この瞬間、目の前でライヴをやっているバンドが最高だ!みたいな…。

「いや、純粋に音においては、僕は懐古主義ですよ(笑)。もう、何でなん、という位いいバンドが70年代〜80年代に溢れてますね。勿論今この瞬間においても溢れるほどいいバンドが、有名無名問わず…。こないだ津山にライヴに行って、SKIZOPHRENIAというバンドとSICKというバンドがガッチガチの80年代ヨーロッパ・サウンドで激渋でした。話を戻せば、"LASTA"の歌詞については何というか、もっと毎日を活き活きと生きたいですねということかな!?"いつだってそうさ——今が——最高—なのさ——♪"(フールズ)」

▶"Elaman Rytmi(ラウカウスと世界)"は詩を早口で朗読(宣誓)しているようなヴォーカルですよね。タイトル、歌詞からも"LAUKAUSという存在"を表現しているように感じ取れましたが。

「これは、何かいいライヴとか音源とか立て続けにがんがん来て…、一番のきっかけは東京で初めて見たNADA CAMBIAですね!スタイル的には違いますが、表現する、という部分において強い衝撃を受けました。歌詞は何かこう、言葉にならない感覚を無理矢理言葉にしてみた、という感じです。曲自体はAメロを02が持ってきて、それを膨らました感じです。この曲は、ライヴにしても音源にしても、有機的な相互の干渉というのを目的にしてます」

▶"有機的な相互の干渉"とは、プレイする側が聴く側に、聴く側がプレイする側に直接的な影響を与え合うってことですか?

「うーん、それが理想ですね!只の錯覚やったとしても、そういう空間を作りたいんです。本当にいいライヴを見た時、何か共有してる気分になりません?この曲は、自分にとっても思い入れの深い曲で、この曲が出来て、早くレコーディングしたいなという思いが今作のリリースに繋がったというのが一連の経緯ですので…。今村君(POGO 77)には本当感謝してます!」

▶歌詞に関しても、詩的且つ文学的で独特ですね。"言葉"に於いて影響を受けた詩や小説ってありますか?

「詩や小説は、これ!というのはないですねー。やはり他の歌詞からの影響が強い…、のかな!?やはり歌詞は歌の詩なので、音と一緒に聴いて頂けると言う事ないですね!」

▶フィンランド語詞の中に日本語詞の出てくる割合も増えてきていますが、それはナゼ?

「曲によってはフィンランド語・日本語・英語の多国籍スタイルです(笑)。日本語を混ぜると、純粋に気持ちいいんです!ダイレクトに聴いている人にも入っていくし。フィンランド語を使い出したのは、勿論フィニッシュ・パンクへの憧憬が一番ですが、第二に"何言ってるか分からない言語でやってみたい"というのが大きくありました。純粋に音として感じられるかな、と思ったからです。最近はそういう"音だけで捉える言語"と、"意味を捉える言語"の使い分けをしているんです!だから日本語詞だけになることもないですし、フィンランド語詞だけに戻ることももうないですね」

▶ジャケットにもメッセージは込められていますか?UUTIさん(?)が落書きしている後ろ姿や、工場から出る煙が日本列島だったりしますが。

「これは02の作品です。落書きしてるのは僕ではないですよ(笑)。日本列島気づきました!??僕は言われるまで全く気づきませんでした。ちなみに表の手書きの町並みは、裏の写真の町並みの模写になってます。7"とCDでちょこちょこデザインが違うので、間違い探しして下さい(笑)。メッセージは…、子供都市です!"子供心の表現"とのことです」

ランダムファイル

ランダムファイルでは常にあなたの原稿を募集しています。テーマはロックに絞る必要はなく、幅広い視野からの切り口を期待しています。400字詰め横書き原稿用紙に、1行18字で、またタイトルは10字以内、原稿の枚数上限は3枚（3枚以上の原稿はミキシングで掲載）でお願いします。
住所・氏名・TELを明記の上、編集部ランダムファイル係までどしどし投稿して下さい。

LIFE WITH THE ROCK File 12
HARDCORE KITCHEN/コメット

●このコーナーは、ミュージシャンでなくても、ロックに携わる仕事や活動をしているロックな人にスポットを当ててみたいと思う。そう、ロックと共に生活している方々です。

INTERVIEWED: **樫野 聡** STINGER RECORDS

神戸のHARDCORE発信基地レコード・ストア、HARDCORE KITCHEN。「潰れるぞ!」と言われながらもなんだかんだで8年目!そんな苦節も何のその!今日も夕方から店で飲み始める店長コメット氏。泥酔する前にインタヴューだ!
「ごめ～ん!もうすでに飲んでいたりしてたりして(笑)。ちゅ～か何答えてええんか解らないけど」
▶(笑)じゃ店を始めたきっかけは?
「始めはバイクも好きでバイク屋で働きたいなあとか思ってたんやけど、地震で真っ裸で生き埋めなるわ、収拾つかないようになって神戸をちょっと離れて帰ってきたら、やっぱ神戸ってパンクやハードコアの音源買うにも売ってないし、ライヴもやっていなかったから、ほとんど思いつきちゅうか何やろう?」
▶苦労は?
「ほんま気合いだけで始めたからね。最初は在庫も無かったからレコード増やすのに必死やったね。お金あんま無いし。仕入れしたいけど売れへんから自分のバイク売ったり自分のレコード手放したりで「自分でも何やってるんやろう?」って。借金抱えて引くに引けないっちゅうか。常にあかん!潰れるどうしようっていう不安があって情けないって思ってたわ。貧乏が大変ちゅうか慣れてるような気がするけど(笑)。店に来てた子と喋ってて高校生のバイトの給料の方がええのには一瞬参ったけどね(笑)。ほんま高校生に嫉妬する僕って何?」
▶(笑)なるほど!でも8年目だ。
「ほんま毎日必死やったから色々ありすぎて振り返ったら早かったわ。周りの友達が一番びっくりしているもんね。神戸ってハードコア/パンクなんか扱っているレコード屋が無かったから。何の脈略も無しにいきなりレコード屋するわって感じから始まったから後で聞くと周りのほとんどが絶対すぐ潰れると思ってたみたい。ここまで持つって分かってたら金賭けとったら良かった。でも賭ける金も無かったけどね(笑)。ほんま、ここまで来れたんは昔からの友達やバンドや色んな皆に助けて貰っているお陰ちゅうか。何するにしても助けてもらいっぱなし!多すぎて迷惑かっけぱなしの8年です。ほんま、レコード買いに来てくれている子に店番してもらったり感謝の一言やけどほんま、こんなん言うたら店のイメージ悪なるんちゃう?」
▶かな(笑)。そっちのシーンはどう?
「どうなんやろう?シーンちゅうたら難しい

っちゅうか、そんなに偉そうに言える立場でも無いし、見方によっても違う思うし。個人的に堅苦しいの抜きにまずは自分から楽しんで行く方やから地元のライヴが増えれば嬉しいし。けど地元のバンドが少ない!!ほんま新しいバンドがもっと出て来たらええのにと思うわ」
▶良かったことは?
「行きたいライヴになかなか行けなかったり、バイク欲しい思てもなかなか買えないし乗られへんし…ほんま何やろう?仕事中に酒飲める事かなぁ?でも去年医者に慢性肝炎って言われて節制せなあかんけど、ここにおったら飲んでまうし。周りに手伝ってもらってばっかりやから答えにくいなあ。皆でワイワイ出来る事かなあ?」
▶さあ宣伝!
「ほんま今年はリリース・ラッシュ!今月はNightmareの初期音源集やSWARRRM/IMMORTALITYのSPLITやSPROUTS/YOUNG PENNCYLVANIANSのSPLITと怒涛やったわ。やりすぎで金借りる始末になったけど、ほんま全部名作必聴!新しいので6月くらいには出る思うねんけど滋賀のconstricted!やばいで!もうライヴは是非見て欲しいね。夏頃には昔からの友達の高松の悪魔メタル・クラストEFFIGYの廃盤になっている1st12インチ＋ボーナス・トラックを追加したCDをリリース。他にも予定はあったりするねんけど、お楽しみちゅう事で。ほんま思いついた感じでリリース継続出来たらサイコーヴェリッグッ!派手に行きたいわぁ。レーベルするきっかけちゅうのが神戸発のレーベルをやってみたかったからとほんま最後っぺのつもりで。これでやる事やったちゅうて最後の博打。そやIMMORTALITYがリリース決定した時はまだバンドが結成されて無かってん(笑)。3月末からNightmareのレコ発ツアー同行するねん。ついでに買い付けしながら。毎日ライヴと移動でハードやけどフィンランドからRIISTETYTも来るし、TRAGEDYも一緒に回るし、色んな人と会えるからまたその時にもっと色々吸収してなんか思いつきそう。ほんまゆっくりマイペースでインターナショナル化ちゅうのか輪を広げて行きたいわぁ。海外でこれ読んでる人がいたらトレードなんかもっと教えて下さい」
▶じゃあ最後にやりたいことがあれば。
「ほんま口べたやからうまい事言えないけどほんま周りの手伝っている友達やバンドのメンバーと店に来る子にほんま大感謝やわ。ホーム・ページにしろジャケット・デザインやレーベルのインフォなんかも全部手伝って貰いっぱなしで頭が上がりません。8年分やから溜まりすぎてもう収拾不能っす!今後は少しずつやけど、よりHARDCORE KITCHENな感じにしていきたい。レコードやCDだけじゃ無しに革ジャンやブーツなんかも扱いたいし、色々やればライヴに行く子も増えるかなぁと思ったりするしね。今以上に神戸が面白くなったら最高!ほんまもっと広げて行きたいわ。けど現状はレコード屋だけではほんま給料出ないし家賃1万位の所に住んでいるから近い将来は面白い交流の場所みたいなバーでもと思ってます。ほんま神戸は遊ぶ所が少な過ぎ。なんもせんかったらノー・フューチャーな街やから」
▶えっ!?バーをやる?借金はどうなったのよ?
「御陰様で今年でなんとか何事もなければ完済しそうなんで。でもほんま借金してるって思うと長かったわあ。でもバーするんやったらまた新たな借金生活がはじまるのよね。ほんま神戸って面白い事は自分ら…あれ?」
▶悪り～。終わりだ!
「えっ!!ほんま!?」

karumbldg#304.2-6-2kitanagasa,chuo-ku.kobe.650-0012
tel&fax81-(0)78-332-6266
hxcxk@pf.highway.ne.jp

お店 STMonline

国内、海外のマニアックな音源はもちろんSTMonline!

取り扱い約15,000タイトルを誇る国内最大級エモ～ハードコア専門オンライン・ショップ!巷のCDショップではなかなか手に入りにくい国内外のさまざまな音源を取り扱っております。

充実したレヴューや試聴、さらにリスナーが参加できる「レコ屋」等、いろんな機能が盛り沢山!とにかく値段が安いので知らない人は今すぐチェック!!!

取り扱いジャンルは、NEW SCHOOL、OLD SCHOOL、MELODIC、EMO、CHAOTIC、JAPANESE、GOODS。

パソコン、携帯電話からdoll@zozo.jpまで空メールを送れば折り返しURLの入ったメールが届きます。そこからアクセスしてください。

※メール指定受信をご利用のお客さまは、は、必ず@zozo.jpからのメールを受信できるように設定してください。

E-MAIL:doll@zozo.jp
問い合わせE-MAIL:info@starttoday.jp
〒261-7123
千葉県千葉市美浜区中瀬2-6WBGウエスト23F
HP:http://zozo.jp/shop/stm/

DVD GARAGE ROCKIN' CRAZE

日本のガレージ・シーン～ロックンロール・シーンにおいて確固たる地位を築き上げ、シーンを引率してきたTHE 5678'S。タランティーノの『KILL BILL』出演、レディング・フェステイヴァル・メイン・ステージ出演、ホワイト・ストライプとのヨーロッパ・ツアー、アメリカでのジョーン・ジェットやディック・デイルのオープニング・アクト等、今や世界中のロックンロール・フリークを熱狂させるTHE 5678'S。そんなTHE 5678'Sが毎回リスペクトするバンドをセレクトして行っているシリーズ・ギグ〝GARAGE ROCKIN' CRAZE〞。その企画を丸ごと収めたものがこのDVDで、THE 5678'Sとしては初となるオフィシャル・ライヴ映像である。

今回収録されている共演バンドは、マニアックな選曲でフロアーを沸かす世界的ロックンロールDJ、GO FROM TOKYO率いるロカビリー・バンドTHE RIZRAZ。次世代のガレージ・パンク最終最恐兵器と噂されるSATURNS。

ザラついた映像がアンダーグラウンド特有の雰囲気を醸しだし、生々しく臨場感を与えながらそれぞれのアングルを写し出し、ライヴならではの魅力が伝わる内容となっている。

三者三様のサウンドながら、独自の共通項が感じられるニクいセレクションともいえ、〝GARAGE ROCKIN' CRAZE〞という企画自体への興味をそそられる人も多いであろう。そんな人は是非ライヴにも足を運んでみてはいかがかと思う。

トータル77分、全20曲が収録され、50年代60年代の映画にあるような、センス溢れる予告編も見ものである。他にインタヴュー、ドキュメントも付け加えられ、最初から最後まで、飽きることなく楽しめるロックンロール・ムーヴィーである。

「LIVE AT GARAGE ROCKIN' CRAZE」(RADIO UNDERGROUND RUD-001)

"PUNK AS A FUCK"SHOW 2004
POGO 77 RECORDS FUCKIN' PRESENTS

日本全国に点在するツンツンの皆様、お待たせしました!去年の11月28日に新宿ロフトで開催された、POGO 77 RECORDS 10周年記念企画『〝PUNK AS A FUCK〞SHOW 2004』の模様を収録したDVDが遂に発売されましたよ～。

ナント600人以上もの人々で賑わい、主催者のPOGO 77 RECORDS/TOM&BOOT BOYSのノリ氏がビールではなくコーヒー(!!!)を飲んでいた奇跡の日(笑)を生々しく収めたDVD。当日足を運んだ人の中にも、メイン・ステージとサブ・ステージでの2バンド同時進行&混み混みで移動が困難だった為に、「あのバンドも見たかったのに見られなかった!」ってな人が必ずいるはず。そんなワケで当日、生で見た人もゼヒゼヒという事なんでやんす。

さてさて、内容を駆け足で紹介しましょう。華々しくメイン・ステージの初陣を飾ったのがSIGN OF LIFE。80's UK直下型の渋いハード・パンクをALL FEMALEのメンバーが奏でると、お次はIMPULSIVEが気迫のハードコア・パンクを暴発させ、サブ・ステージを混沌の渦中へと。そしてF.I.N.A.Lが新編成(F.B.B編成?)で登場してビックリ!同時に冷徹なるDIS-ROCK'N'ROLL ATTACKが炸裂。THE DISCLAPTIESも新編成で現れるとキャッチーなPOGO&Oi!サウンドでステージを湧かし、スパイキー・パンクスの拳が突き上げられる!三重のCONTRAST ATTITUDEはDIS-BOMBの嵐を吹き上げ、7"EPをリリースしたばかりの若手注目株NO EVACUATIONSも正確無比にして白熱のライヴを。メンバーの意向により本作に収録されるか微妙だった、東京クラスト代表格LIFEの勇姿もしっかり収録。60'sロック、70'sパンクを昇華させたTHE BASEMENTSがキッチリ・ジックリ聴かせる演奏をすると、神戸のLAUKAUSが独特なる異空間を形成。闇と光が交差して会場を呑み込んだ。この日がラスト・ライヴとなったTHE AVOIDED、やはりこのヴォーカルの歌唱力は圧倒的。染み渡るパンク・ロックだ。後半に突入したところで激重グラインド・クラスト、LITTLE BASTARDSがカオティックな音塊を解き放ち混沌のアジテーター、ABRAHAM CROSSは全てを巻き込んだカオス!カオス!!カオス!!!な時空を作りだす。ここでメイン・ステージのみでのライヴに転換。まずはEXTINCT GOVERNMENT。貫禄を感じさせるリアル・ハードコアが全身の奥深くまで突き刺さり熱気は最高値に。独自の世界を展開させるORdERは、類い希なる楽曲を披露。最早、彼らを既存の枠にカテゴライズする事は不可能だ。そうして有終の美を飾るべく、TOM&BOOT BOYが見参。とりあえずパンツを脱いだノリ氏の姿は唯ひたすらに〝PUNK〞である(笑)。と、こんな感じで各バンド2曲ずつ収録です。プロのカメラマンが撮ったので綺麗な画像&高音質で楽しめる事も付け加えておきますよん。

(山路健二)

「〝PUNK AS A FUCK〞SHOW 2004」
(POGO 77 RECORDS POGO40)DVD

柴山俊之/花田裕之によるアコースティック・デュオ

『菊花賞』4タイトル同時発売!!

福岡の、いや日本が誇るロケンロー・ゴッド2柱、疾風迅雷の関東生音行脚。…それがこの4月20日にCAPTAIN TRIP RECORDSからリリースされたライヴ音源シリーズ、名付けて『菊花賞』!このあまりにもナイスなタイトルのアルバムを、この度一気に4作も(しかもそのうち3作が2枚組!)リリースしたのは、元サンハウス～現Zi:LiE-YAの"菊"こと柴山俊之(Vo)と、元ROOSTERZ～現ROCK 'N' ROLL GYPSIESの花田裕之(G)という、ほとんど説明不要な二人による超強力アコースティック・ユニット。メンツだけ見てもう「俺買う！全部買う!」となった人も多いと思う。内容も興味深いんで、少し紹介しよう。ヴォーカルが柴山俊之ということで、当然多くの人はサンハウスの曲を予想すると思うが、それはもちろん当たっている。「夢みるボロ人形」も「ふるさとのない人達」も「ロックンロールの真っ最中」も聴ける。だが当然のごとく、それだけでは済まない。おなじみの曲に加えて、全然おなじみじゃない曲もどんどん飛び出す。かつて花田裕之が参加していた柴山俊之ソロ・アルバムの曲なんかも登場。ソロ時代の曲はこれまでほとんどまったくライヴで演奏されていなかったんで、このシリーズは柴山ファンには本当に嬉しいリリースとなるはずだ。他にも「雨のエトランゼ」とか「魅惑の宵」とかの、柴山が他のバンドや歌手に歌詞を提供した曲のセルフ・カヴァー、更にKINKSやANIMALSやジョン・レノンやグラム・パーソンズといった60年代ロック、そして「ブルーライトヨコハマ」や「君恋し」なんかの昭和歌謡、更には「ミネソタの卵売り」まで、楽しくも雑多なカヴァー曲の数々も、あのマジカルな声と、花田の変幻自在なギター伴奏(と絶妙のバックコーラス…たまにリードヴォーカルも)で披露されまくる。バンド・サウンドをとっぱらったところにそびえ立つ"歌手・柴山俊之"の魅力(作詞もね)がとにかくギッシリ詰まった音源集(もちろん花田裕之の魅力も)。もうひとつ、このシリーズ、4作ともライヴのスタートからアンコールまで、まったく編集されていない。ライヴ1本ずつ、ノーカット完全収録というコンセプトで制作されている。楽しいMC(ベタベタなダジャレとか…)も全部そのまんま入ってるし、演奏ミスって途中でやめたり(笑)とかも全部収録されていて、素晴らしい臨場感が味わえるのもポイント高い。初回分の特典として、4作一度に買うと特製灰皿がもらえるそうだ(先着順・限定品)。煙草吸わないそこのアナタも、こりゃゲットするしかないでしょう?(でも、何故灰皿?)…ところで6月にはZi:LiE-YAの新作も出るみたいで、そっちも楽しみであります。

(大越よしはる)

「VOLUME ONE」(キャプテントリップCTCD 514)CD

「VOLUME TWO」(キャプテントリップCTCD 515/516)CD

「VOLUME THREE」(キャプテントリップCTCD 517/518)CD

「VOLUME FOUR」(キャプテントリップCTCD 519/520)CD

勝手気ままな私のベスト10

柳川知生

THE TEARDROPS

①新宿ツバキハウス
②第三倉庫(現ワイヤー)
③SONORA
④ピカソ
⑤328
⑥ZOO
⑦オデオン
⑧アティック
⑨BBC
⑩GOLD

僕が好きなクラブベスト10かな…選び切れないけど。もう無いお店がほとんどだけど(笑)。ティアドロップスをやりながら、バンド以外の時間は全てこのクラブだったな(笑)。当時はクラブなんて名前もついてなかったけど…毎晩朝まで遊んで次の日練習遅刻してたな～でもクラブは今も僕のビタミン!そして、今でも大切な僕のオモチャです!!

マサ小柳

合の手NINJAMANZ/BIG RUMBLE PRODUCTIONS

①長島茂雄
②矢沢永吉
③TOKYO BIG RUMBLE
④MAD SIN &COCO,Poodle
⑤沖縄・宮古島
⑥岩手・宮古市
⑦神奈川・湯河原
⑧岡山・すぎ茶屋
⑨カラオケ
⑩BATTLE OF NINJAMANZ

①ミスターベースボール!
②スーパースター! 2回もあっちゃった!
③今年で10周年!
④GREAT! COOL! THANK YOU!
⑤すばらしい! ね、カツシ&ナオヤにぃにぃ!
⑥全裸じゃないと入れないそば屋があるらしい。
⑦家から全裸じゃないと入れない温泉があるらしい。
⑧うどんがうまい! チャッピークェック!
⑨専属リモコン係。でも楽しいんだなこれが。
⑩5/5 恵比寿リキッドルーム、5/28 新宿ロフト、よろしくお願いしまーす!

エナポゥ

PONI-CAMP

①ぽちっとな
②ヤポリタン
③PONI-DRIVE
④ベレッタM1934
⑤ランボルギーニ・ミウラ
⑥おでんくん
⑦麻雀
⑧黒松
⑨しいたけ&なめこ
⑩ミルワーム&コオロギ

①我が家のかわいいライオンロップ(垂れ耳うさぎ)、ポッチ君の本名。②我が家のかわいいニホンヤモリ、ヤポさんの本名。③わじ～大先生(人間椅子)お手製のオリジナルエフェクター!伊東四朗100万人分の極悪サウンドがでる蔵くん。④マイ・ガンです♪中嶋隊長に敬礼!!⑤助手席を空けておいてください。わらすが乗りますからす☆⑥リリーフランキー先生原作。ポニ、声優をやってます!NHK教育で毎週金曜日18時45分位から見てネ☆⑦大・ス・キ!元旦に役満をふりこんで高熱を出した事もあるよ!てへ。ミスター麻雀、小島武夫先生のモノマネができます。⑧盆栽3年目れす。⑨育ててい～る。ゴーヤを育ててお風呂場がジャングルになった事もあるよ!てへ。⑩我が家の冒険者、ヤポさんのご飯。ミルワームは脂肪が多いのでもうあげてないけど捨てる事もできず、家で暮らしている。3世代住宅。

Photo by Harumi AIDA

fOUL

GIG R

3月21日　下北沢シェルター

砂上の楼閣34〜楼閣にとどろいて〜

PEALOUT/fOUL

いつも本当に楽しみにしていたfOULのライヴだが、この日は楽しみ以上に寂しさもあって複雑な気持ちでシェルターに向かう。この日の自身の企画"砂上の楼閣34〜楼閣にとどろいて〜"でfOULは暫しの間活動休止する。超満員に溢れた多くの観客もきっと複雑な気持ちでここに来たと思うが、開演前の高まるテンションの中での雑談でも活動休止を詮索するような声は私には聞こえなかった。普通、聞こえてきそうじゃないか、そんな会話が。だがここに集まっている観客にとってはそんなことどうでもいいのだ。fOULの3人がバンドや音楽を自らの人生と切り離すわけではないだろうし解散ではなく休止なのだし。ただただこの日のライヴをしっかり観よう、多くの観客達はそんな気持ちになっているんじゃないか。そしてそんな気持ちにさせてしまうのが、複雑な感情も全部包み込むような(それは複雑を単純にするのではなく、複雑なままに包み込むような)力がfOULの音楽にはあるのだ。

この日の対バンは今年の夏に解散を決めているPEALOUT。休止と解散とその考えや状況に違いはあるにせよ一つの決断を下したという意味では同じ2バンドだ。更にPEALOUTには以前、BEYONDSとしてfOULの谷口と大地と活動した岡崎も居る。最高の組み合わせだ。まるで初期衝動そのもののような激しく熱いライヴでfOULにバトンを渡す。「私は求めない」でスタートしたライヴはやはり相当な気迫とテンションで体が持っていかれる。そして彼らならではのトリッキーな、いや人間味溢れる音の連なりはトリッキーというのは似合わないのだけれど、彼らならではのユニークでスリリングな音から大きなイメージが広がる。いや生々しい3人の音はイメージというよりは、人が生きていく現実感を豊かな音楽で提示していくようだ。心を込めつつも外側に大きく放たれる音楽。直接的に胸に突っ込んで刺激しつつも大きく胸の中に染み渡り会場をも包み込む。個人でいながらも人と共有している喜びが、fOULのライヴでは感じられる。2回目のアンコールでの「fOULの休憩」の後も鳴り止まない拍手。予想外の拍手に驚いたのはfOULの3人に他ならないようで、あたふたとステージに登場というのも微笑ましい。最後は「ドストエフスキー・グルーヴ」で最高の迫力と最高の笑顔で終了。やっぱfOUL、最高!

彼らは活動を休止するというより、充電期間がスタートするのだと思う。決して終わりはしないはずだ。(遠藤妙子)

4月1日　下北沢SHELTER

21世紀型ロックンロールV.I.P

THE LINERS/C.M.C./RADIO HACKER/SAMURAI

C.M.C.

多角的な活動を続けているRADIO HACKERのTAKEMI主催によるイヴェントが下北沢シェルターで行われた。80年代から現在につながる日本のロックンロールの系譜。その姿を垣間見せてくれるイヴェントだった。

オープニングアクトのTHE LINERSは、シンプルでストレートなパンク・ロックを聴かせてくれる。しかし、あまりにストレート過ぎて物足りなさを感じたのも事実。聞くところによると、彼らの聴いている音楽のバックグラウンドは相当に広いとのこと。それが曲にもっと反映してくれば面白いなと思った。

次はC.M.C.の登場。1曲目のインスト・ナンバーで会場には瞬時に緊張感が走り、ソリッドなビートが聴くものを切りつける。2曲目からはVo.ササキカズヤの独特とも言える高めの声が加わり、曲の切れ味が増強。タイトなガレージで演出される、真実を伝えようとする言葉が痛切に木霊する。MCで「バンドを始めたきっかけは、渋谷屋根裏で観たSAMURAI」と語っていたが、一緒のステージに立てる喜びを体現したようなステージングで、C.M.C.の世界観を存分に見せつけた。

次に現れたRADIO HACKERは、骨太でハードなロックを聴かせたかと思えば、ロカビリー調なナンバーもあり、はたまた哀愁を感じさせるナンバーもありと自分たちの懐を惜しみなく見せる。TAKEMIの通る声から放たれる、様々なことを体験した上でのメッセージが人生の教訓のようにも聴こえた。

そして約20年の時を越え、奇跡の蘇生を遂げた瞬間に生ける伝説と化したSAMURAIが見参!RYUSHINの心根に響く歌声と唸るベース、VISHAのクールで鬼気としたギター、DENの安定したドラム。これらから紡ぎ出される音には天下無双の凄みがある。曲が進むにつれて観客も熱を帯び、会場のテンションはクライマックスに突入。ラスト近くの演奏はRYUSHINのベースラインが狂い、歌も声を出すのが精一杯という感じだったが、最後まで清く貫徹。試行錯誤を繰り返し、浪人時代を耐え忍んだ強さ、時代を斬りつけたメッセージが確かにそこにはあった。

幅広い年齢層が共有したロックンロール。それぞれの時代が交錯したクロスロード。この日はエイプリルフールだったが、嘘になりえない"思い"ってあるんだなと痛感した夜だった。　(中沢　純)

ANTI-NEW SCHOOL　　**Photo by Shinji SATO**

洒落たbarスペースに広い店内と雰囲気が良過ぎなclub lizardで行われたbuzz attitude&too drunk to fuckの合同企画ライヴ。tattooブースではオカモト氏が実演。物販ブースでは、た一坊がTshit&ステッカーを。くらげハーツ&トラホーム(byGoGoTeddy)がナイスなシルバーとキュートなポスト・カード&ステッカー販売と賑やかな店内をDJ☆MACKY☆RAMONEが盛り上げる中ライヴがスタート!TYSON Zが暴走ハードR&Rで横浜の夜に激しい蹴りをぶち込んで場内の温度を一気に熱くする。おっ!最前列に本誌でお馴染みの大越君の姿を発見!初っ端から熱い演奏でヒート・アップ!

続くeven todayがクロスオーバーな大暴れハードコアで客を煽る。しかし演奏はタイト!最近の若いモンは全く生意気だ!演奏もステージングも上手過ぎる。ホント先が楽しみだぜ。客が次第に増えたところでWRECKING CREW登場!VoのKenが交通事故で欠席。しかし残る3人が切れの良いハードコアでVo不在を全く感じさせない。kenが復帰したら奴等を誰も止められないだろう。ここでDJのOSA(よ、R、B)が反則技で場内をゲット・ザ・グローリー!否応なしに場内がヒート・アップ!こりゃタマラン。

そこにMONGOOSE HELL LASERS登場。直球R&Rとハードな演奏に変幻自在なリズムと客が休むことを許さない。それは実に心地良し!そしてラスト前のステージ上では粋なMACKY氏のバースデー・パーティーまで開催と極上のエンターティナーぶりは最後まで圧巻!そしてアメリカからやって来た20歳そこそこのテキサス・キッズ参上!勢い全快の80年代スケートコアで場内は一気にヒート・アップ!そこに謎のマスク軍団がbuzzの旗を持って乱入で場内は最高潮に!「今日出たバンドで一番下手!」と言ってた大越氏まで最前列で大暴れしてたのは笑った。俺も暴れてたけど(笑)。そしてラストはバギングライフ!スタート直後にいきなり絃が切れて一瞬トホホな雰囲気に。しかしギターを持ち替えて叫ぶヒヨシ氏の漢節剝き出しの迫力で暴れ狂う観客!ホント最後までサイコーなパーティーだったぜ!

(樫野 聡)

EVIEWS

3月18日　横浜club LIZARD

BUZZ ATTITUDE/TOO DRUNK TO FUCK合同企画LIVE

TYSON Z/EVEN TODAY/WRECKING CREW/MONGOOSE HELL LASERS/ANTI-NEW SCHOOL/バギングライフ

3月20日川崎クラブチッタ

CINDERELLA 2nd ANNIVERSARY PARTY

OLD FASHION/THE 88/やすしーず/DUKE&THE NICE GUY/THE WANDERERS/THE MACKSHOW/THE CHUPA CHUPS

THE CHUPA CHUPS　　**Photo by Masashi AIHARA/Shinichi NAGABUCHI**

みなさん、「シンデレラ」というDJイヴェントをご存じだろうか?川崎クラブチッタの2階にあるDJ COBRAがプロデュースするお店「アティック」にて、オールドタイムなR&R、R&B、DOO WOPに心酔する者たちが集まって行われているパーティーで、主催者は獅子丸という男。こいつ、若いのにしっかりとオリジナリティーを表現している数少ないDJの一人だ。その獅子丸率いる「シンデレラ」がめでたく2周年を迎え、ゲストDJにDANNY、DADDY-O-NOV、バンドは厳選された7組が集結して、祝いの宴が盛大に催された。

会場をシンデレラDJ陣たちがゴキゲンな選曲であたため、いよいよバンドが出陣。

トップを飾ったOLD FASHIONは、スウィンギンで軽快なナンバーを清涼感たっぷりに聴かせてくれた。

次はTHE 88が登場。鍵盤から弾け出すメロディーは会場を縦横無尽に跳ね返り、観客を早くもヒートアップさせる。

続いて「まいど!」と現れたやすしーずは、メンバー全員が横山やすしの姿をしたアクの濃いバンド。横山やすしにまつわるエピソードを歌詞に盛り込み、ユーモアたっぷりのステージングを繰り広げた。

そして御大、DUKE&THE NICE GUYが降臨!R&R、R&B、歌謡曲など、幅広いフィールドを年期の入った演奏で見事に消化。流石と唸らせるエンターテインメント性を見せつけた。

次のTHE WANDERERSはR&B、SOULなどを独自のフィーリングでクールにキメる。色気のある演奏はムード満点で、観客は思わずうっとり。

続いてTHE MACKSHOWが登場。相変わらずのシンプルでストレートなR&Rを炸裂させてくれる。新曲も披露して、次のアルバムも楽しみな内容だった。

そしてオオトリを飾るのはTHE CHUPA CHUPS。仙台を拠点に活動していて、海外などでも活躍しているR&B、DOO WOPグループだ。めったに東京では見られないとあって、楽しみにしていた観客は圧倒的なパフォーマンスに大興奮。日本でもこれだけ「黒さ」を表現できるグループがいるんだと感嘆。幾度ものアンコールに答えて、イヴェントは幕を閉じた。

本物の「黒さ」を求める者に、夢のような贅沢な時間を見せてくれる魔法、「シンデレラ」。みなさんも体験してみてはいかが?

(中沢 純)

NEW FACE IN JAPAN

カトレナ

'96トモコ(歌)、ナオミ(G)、の2人でスタート。'97にドラムと、ベースにれいか(カラードライスメン、G)が加わりカトレナを結成する。'01フェイマス(G)が加入。ナオミがGからDrに転向し、トモコ(歌)、ナオミ(Dr、THE TRASH)、れいか(B)、フェイマス(G)の形になる。

横浜のBarやCafe、海の家などでのライヴを重ね、現在、東京、横浜のライヴハウス等で活動中。

そして05年、4月20日には自らのレーベル〝タフロックヴァイブ〟からデビューCD「カトレナロック」を発売!!家でも車でも、会社でも学校でもお楽しみあれ!

05年5月18日(水)にファイナルボムズ、トップサルジャ→、やさぐれをゲストに新宿D.O.MでCD発売記念ライヴを敢行。

たわいもない日常の中にある大切な事、大きく小さく、広く狭く、近く遠い…。様々な世界観に強く想うこと。現実の中から感じたままに…。そんなメッセージをストレートに表現している。メンバーそれぞれの強烈なキャラから溢れるキャッチーなロケンロール!を聴けば何かを感じ、そして心に残るはず！ それが「カトレナロック」だ!!

カトレナHP http://bbs.avi.jp/146063/
問い合わせ グッドラビンプロダクション 03-3605-1336
goodlov@eurus.dti.ne.jp

THE LINERS

このバンドを表現するのは非常にムズカシイ…。何せVo/YASUのフェイヴァリット・バンドはLAUGHIN'NOSEとREGISTRATORS。Oi!Oi!Oi!と突っ込みたくもなるが、彼は革ジャン(GERMSのバッチ付)の下にフレッドペリーのポロ・シャツを着て、更にその下には80's US HC LEGEND、ICONOCLASTのTシャツを着ているんだぜぇ!こんな雑食性でしかも激レコード・マニアがヴォーカルをとるバンド、THE LINERS!!!当然、音も危険だ!

70's PUNK、POWER POP、GARAGEを消化したPUNK ROCKを聴かせたら、その次に飛び出すのは80年代を彷彿とさせるド真ん中JAPANESE HARD PUNK!ライヴでこの相反する曲達をどうやって展開させるんだ??って疑問だったが、実際ライヴを観たらMCを挟んで違和感なくフツーにやっていた…。恐るべし!

メンバーは、Vo/YASU、Ba/SHIMOMURA、Gu/YUTAKA、Dr/GUT-Te-O。結成が2003年8月とまだ若いバンドだが、未知なる可能性を秘めていることだけは間違いない。今年の4月にはDEMO CD-Rを2枚同時にリリース(各500円/ライヴ、HPからの通販のみ)したわけだが、果たして奴等はこれからどこへと進むのか?シーンを引っ掻き回すことは確実なTHE LINERS、…やはり甚だ危険な存在である。

メンバーからのメッセージは〝teenage rebel, we're rearlist.〟。

ライヴ日程・5/21下北沢屋根裏、5/27神戸ブルーポート。

HP http://www17.ocn.ne.jp/~liners/index/index.html

魔亜蛾麟

捲し立てるアジテーション、己の主張を宣誓し叫び続けるようなヴォーカル。それを支える楽器隊は激烈なるサウンドを正確無比に奏で、聴く者の魂を熱く揺さ振る。九州より放たれる魔亜蛾麟という名の轟音に、耳を塞ぐことは困難だ。そして耳を傾けたら最後、いてもたってもいられない、体中が疼くような強き衝動に駆られることだろう。

魔亜蛾麟は昨年の6月に結成、その2ヶ月後には小倉WOW!!にて初ライヴを敢行。ステージには溢れんばかりの爆竹、サンダーでのマイク・スタンドの切断など、彼等のライヴは極限にまで過激なパフォーマンスが繰り広げられるとのこと。

Vocal/DAN、Guitar/川口亮、Bass/44、Drums/義紘が弾き出すハードコア。それは4月29日にFRONT MISSION RECORDSよりリリースされた11曲入り1stフル・アルバム『愛國者へ告グ…』で体験できる。

タイトルは勿論のこと、その曲名〝零戦燃ユ〟、〝戦果ヲ収メロ〟、〝大東亜決戦〟などからも彼等のメッセージと熱き想いが伝わってくるはずだ。乾いたハイ・スピードの音塊は聴く者の胸を貫き、ささくれ立ったヴォーカルは貴方の全身を切り刻む。これは紛れもない激情のハードコアである。

強烈にしてセンセーショナルな魔亜蛾麟の叫び、一度体験してみては如何だろう。

TOTAL INFORMATION
FRONT MISSION REECORDS Tel 03-3375-0272

WELCOME DEATH

—— 今月の新譜 ——

北村友浩 ▶ Tomohiro Kitamura

INEPSY/City Wepons

オウ、ファッキン・グレート!カナダ、トロントのHCバンドの2ndアルバム。1stアルバム同様、男臭いソリノリなドライヴィング・ナンバーが炸裂してる、DISCHARGE+MOTÖRHEADサウンドですが、少しポップな部分やギター・ソロのメロディー・ライン等もっとロックっぽくなったかなと感じます。あと、個人的には1stアルバムでみせたSACRILAGE風のメタリック・ギター・リフも聴きたかったけど、まあ内容はスゴク良いので、OKでしょう。メタルのバンドみたいなジャケットも好きです。

(FERAL WARD)LP/CD

LOSS/Life Without Hope...Death Without Reason

アメリカのフューネラル・ドゥーム・メタル、New Band。ジャケットからサタニックな匂いを漂わせていますが、サウンドの方もイントロから邪悪なムードを放っています。悲哀、暗鬱に満ちた感情も描き出していき、聴いているとこちらもそんな気分になってくる。そしてヴォーカルは野獣ヴォイス!音質もスゴク良いし、クオリティーも高いです。また、プロコピーってゆうのもポイント。これからの活動に目が離せません。要注意!!

(WEIRD TRUTH)CASSETTE

THE PROWL/The First Room Left

LAST IN LINEのメンバーが在籍するボストンHCバンドの2nd EP。ボストンと言ってもこのバンドは、熱くて荒々しいスラッシュHCではなくて、ミッドテンポに展開していき、メロディアスで悲壮感もあり、どこか暗い雰囲気のあるムーディーなHCサウンド。けっこうイイ物持ってるとは思うんですが、イマイチ人気がなくシカトされてる感じがします。良いバンドなのですが…。僕は応援します!

(Painkiller 005)7" EP

SEVERED HEAD OF STATE/s/t

アメリカのベテランHCバンドの7"EP2枚と、ライヴが収録されたCD。USクラスト+トラディショナル・ジャパニーズHCをミックスしたHCサウンド。曲が走る中にもメロディーが強調されていて、途中叙情的なギター・ソロが入るメロディアス・ダーティー・クラストがなかなか良い。ライヴのほうも音質良好。でもこうゆうサウンドは、けっこう飽きた!APPENDIXのカヴァーと中のメンバーの写真もあんまイケてないかな。

(Desobediencia)CD

ALLEE DER KOSMONAUTEN/s/t

なんて読んでいいか分からない、ドイツ出身の激情HCバンド。全体的にミッドテンポ主体で進行していくサウンドですが、ただ遅いんじゃなくて、エモーショナル/暗黒メロディーや、複雑なギター・パート等を混ぜて展開していく、激情エモ・バイオレンスHCサウンド。上手く言えないけど、まあジャーマンHC系と言っていいのかな?

(HELLACHE 006/IFMH 002/TF 075/B3 002/BTS 001)LP

DOOM SNAKE CULT/s/t

GOATLORDのヴォーカルが在籍するバンドの、93年にCDとカセットテープで出してた音源が、COOLなレーベルNUCLEAR WAR NOWからレコード化になって登場!サウンドは、GOATLORDの影響もあるドゥーム・ブラックメタルなのですが、GOATLORDほどかっこよくないですし、悪くはないのですが、はっきり言って個人的には1回聴いたら当分針は落とさないと思います(笑)。しかし、重要なのは音じゃなく、昔こんなバンドが存在してたというところに意義があると思います!まさにカルト・バンドなのだ!!

(NUCLEAR WAR NOW!)LP

一言

▶見てきましたよー、SEEIN REDのライヴ。いつかは見たいな、日本に来ないかなと思ってましたが、やっと来日してくれました!やっぱライヴもメチャクチャ速かったー!でも、なんかあまりにも速くて、あっという間に終わってしまった感じがします。MAN LIFFTING BANNERのカヴァーがうれしかったなー。次は、9 SHOCKS TERRORですね。絶対見に行きます!それでは、また来月。

CHEAP NIGHT OUT

—— 今月の新譜 ——

恒遠聖文 ▶ KIYOFUMI TSUNETO

SHADY LADY/Raving Mad

伝説のDJロドニー曰く「LAで最初にして真の意味でのアンダーグラウンドなバンド」、ドールズと同時多発のグラム・パンク・バンド発掘盤。メンバーには後に伝説のSci-Fiグラム・バンド、ZOLAR-XにVoとして参加するZoryがDsとして参加。ストーンズの毒っ気を拡大解釈したような彼らの刺激的なロックンロールは、時代の闇に葬ろうとも、鉄仮面をかぶせて幽閉しようとも抑え切れなかったようだ。

(RAVE-UP RECORDS)

MORRISSEY/Live At Earls Court

MORRISSEY IS BACK!!と高らかに叫びたくなる新作の余韻も冷めぬとこでライヴ盤が登場。このドールズ再結成の仕掛け人は本作で故キラー・ケインに捧げてか「SUBWAY TRAIN」を歌いあげる(中ジャケではメンバー全員がドールズTと、ジョブライアスTを着込んでいる)。その様を聴くにつけ、見るにつけ、この御方をパンクやグラムと切り離しがちな洋楽誌から彼を取り返した気分になれるのだ。まぁ勝手にだけど。

(ATTACK ATKCD 014)CD

JOHNNY OHKURA/4.13 Kawasaki Return Blues

日本一甘い声のロックンローラー、JOHNNY IS BACK!!キャロル解散(4.13)から30年、川崎に戻ってきたロックンローラーの4曲入り新作がこれ。このくらいの年齢になれば、むやみに渋くなったり、大人の貫禄を漂わせがちだったり、へたすりゃ演歌になりがちなとこだが、我らがジョニーはキャロル時代とまったく変わらぬ甘く切ないロックンロールを歌い続けているからご安心あれ。ライヴも最高でした。

(THE GALAXT RECORDS GRCS0501)CD

NEONS/Dotfive...

四日市が産んだ脅威の未来派五人集。1stシングルよりも更にサイバーかつハイパー化したテクノデリックなサウンドは、もはやウェーヴィーっていうのは失礼なくらいニューウェイヴそのものになっている。CD-Rでモノクロ・コピーってとこも逆に新世紀感を増幅させるし、ヴィサージを思いださずにいられないジャケも80年代的に抱いたヨーロピアンへの憧憬を再燃さす。メロディーも素晴らしい。

(NANO NATURAL SOUND WASTE)CD-R

STIV BATORS/L.A Confidential

毎月のように最高のロックンロールの発掘/再発盤を日本盤でリリースするVIVIDだが、そんな中でも解説、ボーナス・トラックがたまらない1枚を。今更いうまでもないが、スティヴが単なる野蛮なジャンキーではなく、素晴らしきメロディー・メイカーであり、60年代のガレージ・パンクを蘇らせる墓堀人の1人であったことが再確認できる作品だ。ボーナスではB・ジェームスとの「NEAT NEAT NEAT」を収録。

(VIVID SOUND VSCD-2997)CD

MARBLE SHEEP/The Gate Of A Heavenly Body

サイケデリックとか言うと今の若者は難解で古臭い音楽だと勘違いし、そっぽを向くかもしれぬが、ハイエナジーでぶっ放しまくりの本作はそういった輩の頭に一撃くらわすにはもってこい。ドロドロ感もなけりゃ、曲の構造やFUZZの機種、録音方法なんかに気をとられる暇は皆無のロックンロールが炸裂脳や意識より先にまず肉体が反応しちまうぜ。星屑の洪水の中で鳴り響いてるようなラスト・ナンバーまで必聴だ!

(CAPTAIN TRIP CTCD-509)CD

追記

▶ビリーさん、大好きでした。安らかに眠ってください。

LASH,SHAKE&DIG!

—— 今月の新譜 ——

大越よしはる ▶ YOTCHIE "LSD" OHKOSHI

THE DIRTBOMBS/Crash Down Day

原盤はジム・ダイアモンド在籍中にコーデュロイのオフィス(メルボルン)でライヴ演奏したのをアセテート盤に直でカッティングしたとか。B面がサンフランシスコのFLIPPERのカヴァー「hahaha」(ヴォーカルはジム)であることに象徴されるような、謎の脱力変態系シングルに仕上がっている。何しろA面曲はコーデュロイの社長の息子(6歳!)が作曲したっていうから絶句。ジャケも強烈。

(CORDUROY CORD158)7"

JEFF DAHL/Cursed, Poisoned, Condemned…

アリゾナのパンク仙人、今回何故かBADFINGERのカヴァーなんぞ演っとるが、当然ながらパワー・ポップ・アルバムになろうはずもなく、いつもどおりDEAD BOYSからヤバさ全部取っ払ったようなジェフ印良品のR&R。この人、バンド編成で演ってる限りはOKだ。コーラスで同じアリゾナのLES HELL ON HEELSが華を添えてるのと、ジェフ自身によるオルガンがなかなかいい味付けになってる。

(STEEL CAGE SCR-043)CD

THE MONSTERS/Hide and Seek

よく買ってるわりには何故かここにはあんまり載らないVOODOO RHYTHMの作品だが、レーベル社長ビートマン(鳥肌実似)率いるバンド(86年結成!)の、95年以降の音源から編集したベストがなんと国内発売。電撃ファズ・サウンド大フィーチュアの強烈にRAWでLOWなトラッシュ・ガレージに、悪魔の社長シャウト。映像も入って初心者にもマニアにもオススメ。しかも5月末に来日だって!

(SAZANAMI SZNM-1010)CD

SWEET APPLE PIE/Between The Lines

ギター兼ヴォーカル(♂)、キーボード兼ヴォーカル(♀)をフィーチュアして変幻自在なアレンジを聴かせるフランス(今じゃこの手のバンドも世界中にいる訳だな)のギター・ポップ/パワー・ポップ・バンド、2作目。フワフワのポップなサウンドかと思って聴き進めれば、根っこの部分はかなりロッキンで、ライヴで評価を高めたというのも納得。FARRAHとか好きな人にはオススメだ。

(WIZZARD IN VINYL WiV-049)CD

V.A./Just Go Destroy Everything In Sight

西海岸のDIONYSUSからリリースされたオムニバスだが、収録されたのは全て日本のバンドであります。ガレージ系中心に、ハードコアまで含む広範なチョイスで楽しめる。COAT TAIL RIDERやBABY MONGOOSEなど、初めて聴くバンドも多いが、面白いネタ多数。PAPPYS、THE FACEFULなど都内ではお馴染みの顔ぶれも。何よりDAS BOOTのクールさ…本当に日本のバンドか?(笑)

(DIONYSUS ID1233114)CD

ライオン/第3世界

吉祥寺の野獣3匹の2ndアルバム。ROMEO BLUEとかthe CHICKEN masters(今月号インタヴュー参照)とか、あるいはインビシブルマンズデスベッドなんかにも通じる、ガレージにもモッズにもパンクにもハマらない、どんなバンドと対バンしても浮きまくりそうな(笑)ギラギラでぶっとい日本語R&R。福生や横須賀で米兵相手に演奏して鍛えたって…昔のGSとか沖縄のバンドみたいだな。

(Would Go WHOR-0009)CD

LAZY SMOKEY DAMN!

▶今月もレヴューから漏れた素敵なネタ多数。THE LOONSの2ndにジョニー・カジノ、AMERICAN DEATHRAY MUSIC新作、柴山俊之&花田裕之による"菊花賞"、THE OTHER KIDSにCHOCOMATES、LESLIE、男のマロンズ、CHINABOISEの発掘音源にHOOKERSの2枚組編集盤…金と時間(と字数)が足りねえ!

KISS THE DISC

—— 今月の新譜 ——

行川和彦 ▶ Kazuhiko NAMEKAWA

A PIECE OF SHIT/RED BLOOD

LOGICAL NONSENSE、HIS HERO IS GONE、80's NEUROSIS、最近のNIGHTMAREのミックスのような、他にないカオティック・ハードコア・パンクだ。暗喩に富む日本語の詞を解き放つ自由形のヴォーカルをはじめ血に宿るいらだちを糧にした激情サウンドで、未完ゆえのスリルと何かをクリエイトせんとするエネルギーに引き込まれた。ポスター状ジャケットの約25分6曲入り。グッド!

(ZERO GRAVITY ZGR002)CD

SWARRRM/IMMORTALITY/SPLIT

刺激的で毒気の強い神戸シーンを象徴する2組の新曲2曲と映像1曲ずつ収録。IMMORTALITYはデス・メタリック・ハードコアと呼びたいサウンドだが、すべて猛烈にハイ・クオリティ。いわゆるニュースクールを完全に越えている。SWARRRMはまたまた新境地の曲を提供。劇的チューンと猛爆走ナンバーだが、欧州のトラッドのような旋律を噛ませたグラインドに痺れまくり。これは買いだ!

(HARDCORE KITCHEN HXCXH-009)CD

THE LOCUST/SAFETY SECOND,BODY LAST

マイク・パットンのレーベルから出した新録。やっぱすごいです。2曲入り表示だがトータル10分9秒の組曲。SLAYER並みのビートを携えたパワー・ヴァイオレンス勢にQUEENやらRESIDENTSやらを動脈注射したごとき、平穏無事なシーンをかき回すフリークス総決起サウンドなのである。ジャケット、2003年のアルバムは元BORN AGAINSTのサムだったが、今回もその元メンバーのニール。

(IPECAC IPC-61)CD

BUCKET FULL OF TEETH/IV

元ORCHIDのメンバーによるバンド。初のアルバム的なボリュームの作品と言える。ファスト・コア、ドゥーム/ストーナー・ロック、デス/スラッシュ・メタル、アンビエント/ノイズが、突発的に立ち現れるサウンド。カオティックな展開だが激烈タイムは長く続かず、ある意味ポップ。キューブリックの映画みたいな匂いがするし、CONVERGEやISISのファンにもアピールしそうだ。◎。

(LEVEL-PLANE LP74)CD

SUNN O)))/The GrimmRobe Demos

2000年にハイドラ・ヘッドのサブ・レーベルから出た98年のライヴ・テイクの新調再発(未発表の1曲をLPのみに追加)。どれも長尺のウルトラ・スロー・ドローン・サウンドだが、グルーミー・ヘヴィ・ロック仕様の"ノイズ・オーケストレイション"だから聴きやすいのではないかと思う。といってもやはり初心者要注意のサウンド薬物でまったり終末へと突入。深遠かつイカレたライナー付。

(SOUTHERN LORD sunn37)2LP

POLITICAL ASYLUM/WINTER-24 TRACK CD

英国スコットランドの名バンドの83～86年のEPやデモ音源編集盤。CRASS周辺の香り漂うサウンドで、UKのTHE MOBや初期JOY DIVISION、「Dis」の頃のROOSTERSまでも勝手に思い出してしまうパンク・ロックである。モロBLACK FLAGのパクリもあったりするが、当時のUKならではの心に痛い旋律をまぶした音と自身の言葉で綴った歌の数々。渋い、しかし泣けてくるのだ。

(PASSING BELLS PB008)CD

追伸

▶3月にRED KRAYOLA来日。元MINUTEMENのジョージ・ハーリィと元SLOVENLYのトム・ワトソンを従えたライヴはもちろん、リーダーのメイヨ・トンプソンの話に感銘。DWARVESがカヴァー経験あり。▶3月26日at西荻窪WATTSの★HISATAKA★のライヴに感動。▶モリッシーのDVD『Who Put The "M" In Manchester』、CONFLICTやEARTH CRISISも顔負けのボーナス映像入り。

I AM THE GAME…

── 今月の新譜 ──

大橋光裕 ▶ Mitch S×E

THE EXPLOSION/Red Tape E.P.

アルバム『Black Tape』からの1stシングル。いつ聴いても耳に心に爪跡を残していく素晴らしいメロディとキャッチーでポップなパンク・ロック・チューン。もう最高、言う事無し!しかもこのEP用のエキストラ・トラックがまた壮絶。WARSAWのカヴァーだ。JOY DIVISIONではないのだ!数種のステッカー、ピン・バッジと共にハンド・シルクスクリーンされた専用ケースでお薦めの逸品。

(TARANTULAS LABORATORIES TAR-010)MCD

SLEEPER CELL/6 Song E.P.

最近何かと底辺での評価が高まりまくっていて、すんごい期待していたSLEEPER CELLフロム・ボストン!こりゃ本物だわ。アーリー・ボストン・ハードコア・ミーツ・80'sジャップコア。この黄金のカップリングでビビッとこないなら、君の感覚が少し鈍っていると言わざるをえない。全6曲、曲間一切無しで襲いくる怒濤のスラッシュ・アタック。血湧き肉踊ること間違いなしの傑作!

(CRIES OF PAIN COP-06)7"EP

SIRENS/Long Distance Calling

ボストンの新鋭、SIRENSの2nd EP。なんというか自分達の受けた影響に物凄く純粋なバンドという感じ。悪く言えばパクリなんだけど(苦笑)。A-①なんか普通にSOCIAL DISTORTION(のパクリ)だし、B-①はCCRっぽいし、B-②はU.S BOMBS調。今一つこのバンドの持ち味みたいな部分が判然としない。初期衝動に忠実な点は凄く良いと思うので次の作品に期待したい。ガンバレ!

(1-2-3-4 GO! RECORDS GO RECS #9) 7"EP

V.A/Socto Scene Report

TKO RECORDSより地域密着型サンプラー、Scene Report第2弾、サクラメント編が届いた。前作ボストン編をも凌ぐ充実の内容だ。PRESSURE POINTの新曲が聴けるだけでも嬉しいのに、WHISKEY REBELS、ROUSTABOUTSの未発表曲、新曲まで収録されている。ガレージ寄りのSECRET IONS、ニュースクール系のKILLING THE DREAMも収録された好盤。

(TKO RECORDS ROUND 132)CD

DEFCON 4/Defcon 4

いやはやとんでもないバンドが居たものである。これだからボストンのパンク/ハードコア・シーンからは目が離せない。全28曲でトータル・タイムは28分、と言ってもファスト・スラッシュではない。初期BLACK FLAG、KRAKDOWNに音楽的に近い。ラウドでフリーキーなギター・リフがこのバンドの持ち味か。聴く者を不安に陥れるようなダークさもあり、今後の活動から目が離せないバンド。

(RODENT POPSICLE RPR-072)CD

MIDNIGHT CREEPS + CAPO REGIME/Split

ボストンのガイキチ系クイーン・ビアーチ、ハリケーン・ジェニー率いるMIDNIGHT CREEPSは以前より整合感もあるヘヴィでアップ・テンポな殆どハードコアな5曲を収録。こういうこともやれたんだと感心した。一方、イギリスのCAPO REGIMEは"これはアメリカのバンドじゃないの?"という程、アメリカン(軽いってこと)なハードコア5曲を披露。他のリリースも聴いてみたい。要注目!

(RODENT POPSICLE RPR-074)CD

NEWS

▶今号のSTREET DOGSインタヴューはいかがだったろう。彼らの経歴や音楽性を考えれば日本でももっと知名度が上がるべきだと思っている。興味を持って音の方も聴いて貰えれば幸いだ。▶ボストンの特集をやってみて改めて昨年買ったCD/レコードの割合を見てみたが、ボストンのバンドだけで半分は占めていた。それだけアツイってことだが、それと比べてNY勢の低迷ぶりが淋しい。一時は8割近くがNYのバンドだったものだが…。

WILD ONE

── 今月の輸入盤 ──

バディー堀井 ▶ ビッグランブル・プロ所属

THE PEPPERMINT JAM/河川敷ブルー

1年半振りのリリースとなる4曲入りマキシ・シングル!よりキャッチーになったメロディー・ライン、日本語によるVoアキヒサの勝手な解釈(笑)。今までの作品のフレーバーを残しつつ、新境地を開拓したってか!?まァレーベルも変わって心機一転、こだわる所はこだわり、ブチやぶる所はブチやぶってる。それがオリヂナルってヤツだぜ!ただしバカにぬる薬は無い(キッパリ!!!)。

(ViViD SOUND TTCD 4056)CD

THE MONSTERS/Hide And Seek

スイスのガレージ・トラッシュ・ビリーの日本デビュー作。チョイ昔このバンド、非常にレアでして、とにかくシングルもアルバムも高かった(アバの「S.O.S」カヴァー)。なんでも日本にツアーでやって来るらしいぞ!?ギターウルフからR&B好き、そしてB級ガレージ・パンクが好物なら即ゲットしてくれ!中ジャケも一見の価値あり。それにしても昔は何であんなに高かったんだろうか!?

(SAZANAMI LABEL SZNM-1010)CD

TEEN KATS/Thierry Le Coz From Teen Kaz To Kaz To Casanova

上海なみ再発ラッシュに沸くビリー系組合ですが、幻のフレンチ・ネオ・ロカビリー・バンドまでやっちゃってくれるとは、さすが天下のBIG BEAT!アリゲーターズしかり、エースキャッツしかり、英国以外のネオ・ロカビリー・サウンドってどこかキラキラしてて好き!!ブラック・キャッツのネタ元ってこんなバンドから持ってってるし、当時にこんなレアなバンド知ってたなんてセンス良すぎですナ。マイッタ!マイッタ!

(BIG BEAT BBR 00053)CD

RETARDS/Retards

アメリカはメンフィス産、きた、きたァハットがツツタトツツタト前のめり系(そんなジャンルが果たしてあるのか?)がしかーし、すでに解散しているらしいのよコレが。3分にも満たない(2分もいってネェなァこれ)発狂ロックンロール!だけど前のめり系のせいか、なんとなくタイトにも聞こえてくる(いったいどっちよ!?)。ギター・リフもカッコイイしネ。現LOST SOUNDS、FINAL SOLUTIONのJayが参加。

(ZAXXON VIRILE ACTION)7"EP

HEAD ACHE CITY/Head Ache City

シカゴ発、SHIT SANDWITCH(ロゴ良し!)のレーベル・オーナー率いるどことなくスペーシー、なんとなく、ドアーズ風なエレクトロニック・パンク・バンドの1st シングル。なんとなく聴いた事あるようなフレーズそのまんまじゃん(笑)。キューブリックとか好きなのかなァ?だろうなァ(笑)。アメリカ人だけど、グラスゴーあたりのアート系学生が"こんなめっけましたァァ"なんて自慢してそうな1枚。力が抜けた!

(SHIT SANDWITCH SS06) 7"EP

NEKROMANTIX/Curse Of The Coffin

祝!国内盤リリース。恐らくネクロの作品の中でも1、2を争う人気盤!しかし本当にここだけの話なんだけど、キム・ネクロマン以外、やめちゃったのよォォ!!!!(つまりサンドロフ・ブラザーズ)キムはそんな事言ってなかったけど(メールだし)、でもピーターは「やめた」って言ってた(こっちは会ったからネ)。みんな絶対内緒にしとこうネ!!それにしてもあれだけのギターと唄えるヤツァ他にいないぜキム!!たのむぜ!!

(ViViD SOUND VSCD-5310)CD

INFO

▶みなさん花見には行ったでしょうか、小生は体を壊し、お酒無しで元旦を迎えました(小生にとっての正月は花見が咲いた頃!)。ハァーダメだこりゃ!▶そんな事のないようウゥってなアナタァァァ!!!5月28日(土)新宿ロフト、トータル・マッドネスバトル・オブ・ニンジャマンズ、フォワード、パイルドライバー、日本脳炎、サイガンテラー、他で盛り上がりましょう!!

Es Gibt Kein Wert

—— 今月の新譜 ——

山路健二 ▶ Kenji YAMAJI

VA/STOP RAPE NOW

レイプ被害者女性の声明から始まる、女性ヴォーカル・ハードコア/パンク・バンドだけを集めたベネフィット・コンピ。アメリカ、フランス、フィンランド、カナダ、イギリス、ポーランドから計19バンドが参加している(LA FRACTION、ANTI PRODUCT、SUBMIT等)。分厚いブックレット付きで、これはフェミニズム、女性の権利問題に興味のない人でも確実に考えさせられる内容。真剣な作品だからこそ、聴く側も真剣に向き合う必要があるのでは。

(OUTCAST RECORDS OR10)LP

ELEKTRODUENDES/SALGO A LA CALLE

こちらはスペインの女性ヴォーカル・ハードコア・バンドの12曲入りアルバム。女性1人+男性2人という編成で、非常にメロディアス&キャッチー。スペイン語ならではの語感に、頭の天辺から出ているような子供っぽいヴォーカルにメロメロ!緻密に作り込んでいる楽曲ではないけど、バックの程良いショボさもツボ。コリャいいバンドです。ここまで聴きやすければメロコア好きもOK。スペイン大注目株。

(GRITAOMUERE RECORDS)CD

NOLLA NOLLA NOLLA/TÄNÄÄN TÄÄLLA, HUOMENNA POISSA

80'sフィンランドの押っ取り刀(?)、NOLLA NOLLA NOLLAの音源集。パッとした派手さこそないがジワジワと効いてくるRAW PUNK/HARDCORE、奇妙奇天烈なNEW WAVE風まで詰め込んだ全25トラック58分42秒。通して聴くのはチト厳しいか…。でも当時からこれだけ色々と試みていたバンドは珍しいし大好きなのデス。大名曲"LEIKIN LOPPU"のEP版とLP版を交互にリピートしている今日この頃。CDって便利だ(笑)。

(BETA BECD 4006)CD

BÜMBKLÄÄTT/CIEGOS

冷徹にして重厚なる地響きが鼓膜を揺さぶり続け、世界の終末を予期させる。メキシコ〜サンディエゴ周辺で活動しているダーク・ヘヴィ・クラスト・バンドの作品。グラインド・コアの流れも感じさせる激烈なる轟音。この音の重圧感がたまりません。時折織り交ぜられるアコースティック・ギターの生音も素晴らしいコントラストに。今年11月辺りに来日予定との噂もチラホラ。実現するなら非常に楽しみだ。

(SLAVES TO DARKNESS STD4 2002-3)CD

SWELLBELLYS+DISHONOUR SQUAD/SPLIT

PURE PUNK RECORDS(イタリア)のALEXから頂きました。THANX!てなわけで、まずはイギリスのSWELLBELLYS。かなり年齢を重ねていそうなメンバーで(元々何かやっていた人達なのかな?)、音は荒々しいPURE UK 80's HC ATTACK!イタリアのDISHONOUR SQUADはUS 90's中期を思わせるストリート・パンク。こっちも小細工一切ナシの真っ向勝負ときたもんだ。まさにPURE PUNK SPLIT!

(PURE PUNK RECORDS PPR 008)7"EP

VA/TOMORROW WILL BE WORSE VOL.4

高い完成度でお馴染みの、ファスト系コンピ最新作が久々にリリースされましたヨ!女性VoのVOETSEKは喧しいファスト・スラッシュの猛爆。NO VALUEもヒロエ嬢の絶叫が耳を劈くが、よりタイトなハードコア。カッコイイ!THE SPROUTSは発狂した高速ガレージ・サウンド、RUNNAMUCKSは正統派なUSスラッシュ・クラッシャー!THREATENERは瞬間的に迫ってくるカオティック・ノイズで、シメのFASTSは展開を持たせた新境地的とも言える仕上がりでスンバラシイ!

(SOUND POLLUTION POLLURE-088)7"EP×3/CD

NEWS

▶オランダ特集は如何でしたでしょうか?執筆&ご協力して頂いた皆さん、ありがとうございました!▶SOUL FLOWER UNIONのライヴに久々行きました。音楽には怒りも必要だけど、同時に笑いも重要かなと。▶角川文庫の横溝正史(緑三〇四)が50冊ほどに。あと約40冊か…。

La Dolce Vita

—— 今月のインディーズ ——

石川浩子 ▶ Hiroko ISHIKAWA

THE NU-NILES/DESTINATION NOW

最近よく聴いているのが、スペインのロカビリー・トリオ、THE NU-NILESのこの新作。もう痺れまくっている!自分達を"オーセンティック50'sパンク"と称しているようだが、パンクやガレージ、カントリー、サーフなどを飲み込んだ様々なテイストが味わえる。なかでも、スペイン出身ならではのラテン色の濃い11曲目(歌詞もスペイン語)はスリリング過ぎる!ロドリゲスやタランティーノ映画のバックに流れていたらと思うと更にゾクゾクするのだ。

(REVEL YELL MUSIC RYCD037)CD

BELTERS★/THIS IS A POSE

いつも自分達の音を追及していたバンドだという印象が強い。ガレージ〜オルタナ・サウンドから始まり、サンプラーやリズムマシンなどを取り入れた、ダンサブルでディスコティックな現在へと辿り着くまで、あの弾けたライヴも含めドキドキさせられっぱなしだった。そして本作。1音1音が美しく、そして強い意志のあるメロディーとヴォーカルに呼応して、トランス感さえ呼び覚ます。活動休止を発表した彼女達…だが、次を期待させる作品だ。

(Rat Red Cat Record PRCR001)CD

V.A./MOUNTAIN BOOK

"愛知県西三河地方在住"の7バンド…nicky's、ROUGHNECK、MAT TUESDAY、ZILLCOHOL、PROLETARIART、黄鬼、きのこ…を収録の25曲入り。7"タイプの紙ジャケット、片面6枚(両面12枚)をつなぎ合わせ、折り畳んだアートワークにもこだわりを感じたし、クラストからサイコビリーまでを1枚に収め、これこそが生のシーンの現実と呼べる濃い内容。岡崎で"満鉄祭"を企画し、nicky'sのメンバーでもある山本が立ち上げたレーベルの第1弾作品。

(MT SOUNDS MTS-001)CD

BLUEIII/ロックンロール24時間

前作『来るべき世界/怪鳥音入り』で圧倒され、本作で完全にノックアウトだ!凄いものを見てしまうと笑うしかないというが、狂ったように1人、笑いが止められない。THE HAVENOT'Sの青木氏をプロデューサーに迎えたと聞き、どう変化するかと思えば、"ロックンロール24時間"とだけ歌い続ける破裂寸前の1曲目からスタートし、目的地の決まっていない"カンフーロケット"(2曲目のタイトル!)に乗せられ、どこかへ飛ばされていくような、強烈な世界にパワーアップしているのだ。最強最高!

(BIG JUMP LABEL DDCZ-1127)CD

the Clicks/Magic of White

なんて透明で瑞々しいことか!疾走感たっぷりのパンキッシュなポップ・サウンドでありつつ、3人の生み出すコーラスがフレッシュでのびやか。どこを切っても"ガールズ・ポップ"って言葉が似合うクリックス・ワールドが堪能できる。SUPERSNAZZのTOMOKO氏が手掛けた前作を聴いて底なしにはまり込んでいる人も多いかと思うが、本作はセルフ・プロデュース。更に加速したキュートなハーモニーとメロディに降参!

(K.O.G.A RECORDS KOGA-179)CD

BUZZ HOUSE/脳天ブギ

前作『真夜中の頭蓋骨』のリリースの際のインタヴュー(本誌No.200)で特に印象深かったのが、"ロックとしか言い様がないものをやりたい"という櫻(Vo&G)の言葉だ。まさにそれはこの2ndミニ・アルバムにも当てはまる。サンハウスやルースターズの"ロック"の流れの上にあって、古くならない王道の気持ちよさ。1曲目の"Be-Bop-A-Lula"をアレンジしたR&Rで一気に加速をきめ、ミドル・テンポの曲やブギィなナンバーで更に熱を帯びる。"脳天"と腰にくる6曲。

(ALL THE WAY Records ATW-1008)CD

NEWS

▶上記のVA.『MOUNTAIN BOOK』の問い合わせはmt_sounds@yahoo.co.jpまで。▶MUSTANG JERXのイヴェント"プレイボーイ☆ナイト 30回記念"が5月14日(土)下北沢屋根裏で、BLUE III、ED WOODSなどを迎えて行われる。▶今これを書いているのは4月4日。THE GRIFFINの東京ラスト・ライヴまで2週間をきった…。7月号にライヴ・レポートを掲載する予定なので、行けなかった人はぜひそこで最後を見届けてください…。

A PORKY PRIME CUT
—— 今月の新譜 ——
佐藤良樹 ▶ Yoshiki SATO

DEMOLITION/Mob Of Wolves
2003年度発表の『SAVAGE ALIVE』に続く4作目の6曲入りアルバムが登場となった。聴くもの全てを地獄に陥れる、じっくりと練り込まれた戦慄の楽曲は残虐かつ冷酷非情なDEMOLITION VIOLENCE WORLDを構築している!重鎮ならではの凄みのあるサウンドは緊張感に溢っており、リスナーは是非とも大音量でDEMOLITION SOUNDに八つ裂きになって頂きたいものである。ファン待望のアルバムである。
(E.A.S.T PEACE EPCD-021)CD

THE STARLITE WRANGLERS/Devil's Wheel
ドイツのCRAZY LOVEから発表されたTHE STARLITE WRANGLERSの新作。毎回毎回聴く度に驚きを隠せない日本人離れしたセンスとテクニックによるサウンドはサスガとしか言いようがなく、彼等の音をサイコビリーの枠でとらえるのを躊躇させるレンジの広さ、それをクール/スマートにまとめ上げるセンスの良さ!とにかくカッコ良い!痺れる!驚愕のハイ・クオリティー・サウンドである!
(CRAZY LOVE CLCD 64217)CD

ECO ME,ASTRONAUT/Looks Like The Cowards Have Won
5月24日から6月5日まで日本縦断ツアーを敢行するらしいフロリダで活動しているE.M.A.のデビュー盤。基本はアコースティック・ギターの弾き語りスタイルのエキセントリックなフォーク・ロック。曲によっては女性ヴォーカルが絡んでいる。歌詞がかなり重要なポイントを占めているようだが、残念ながら英語がよく分からないのとCDに歌詞も載っていなかったので詳細不明。不思議な味わいのあるフォーク・サウンド。
(FLM 0006)CD

WALLS OF JERICHO/All Hail The Dead
スラッシュMの先端部分をHCへと昇華=80年代クロスオーバーHCの切れ味/構成を感じさせながら、今風のヘヴィ系の雰囲気も加味されたエキサイティングなサウンドを聴かせるデトロイト出身バンドの新作である。バックのハードな弾丸的轟音に押され気味ながらも十分健闘している女性ヴォーカルがなかなかカッコ良い(とフォローしておこう)。ゴリゴリの音質と走るサウンドが痛快であった。
(ロードランナージャパン RRCY 29085)CD

MOST PRECIOUS BLOOD/Our Lady Annihilation
(大雑把に言わせて頂くと)NYC SxE系HCのサウンド・ストラクチャーの名残りと(これまた)現代的パーツが上手く組み合わされ、突如としてメロディアス・パートが現れたりする意表を突いた展開が独特。彼等の場合、残虐スタイルで突っ走るというより、ファスト/ミディアムな動きを使い分け、暗く不安な未来へと猪突猛進していくかのようである。こちらも気合いの入った女性メンバー発見!希望の見えない彼等の音を聴いて明日への活力を繋ぎたい。
(ロードランナージャパン RRCY 29084)CD

THE SCRUFFS/Swingin' Singles
アメリカ南部の伝説的パワーポップ・バンド、スクラフスの中心人物、スティーブン・バーンズがイギリスに渡りグラスゴーのミュージシャンと録音し、2003年に発表されたのが本作。(決して大袈裟ではなく)スケールが大きすぎる、そして感動的な壮大なロック・アルバムとなっている。そして大味ではなく、きめ細かいサウンド・メイクも素晴らしく、CDプレイ中は至福の時を過ごすこと請け合いである。ロック・ファン全域にアピールする大作と言っても過言ではないであろう。
(TARGET EARTH TE-013)CD

IN4MATION
早くも4月が終わり、5月へと突入。ボヤッとしていたら、もう半年経っていたということになりかねない。年はとりたくはないが、これは最早抵抗できない自然の摂理のようなものなのだろう。あっという間にまた年末になって正月が来るのだろう。そして宇宙から来訪者が来るであろう。

SOUL SNATCHER!
—— 今月の国内盤 ——
塚本利満 ▶ TOSHIMICHI TSUKAMOTO

SLEATER-KINNEY/THE WOODS
ベースレスの3ピース・ロックンロール・コンボ、スリーター・キニーのサブ・ポップ移籍第1弾で通算7枚目となる3年振りのアルバム。1曲目の凄まじいヘヴィさにまずやられる。イントロだけでかっこいいと思わせる圧倒的なパワーが素晴らしい。ダイナミックでヘヴィなロックンロールにして、ポップ感覚やキャッチーさを失わないバランス感は見事である。縦横無尽にぶった斬るサウンドもヴォーカルも圧巻。
(P-ヴァインPCD-23621)CD

THE REVILOS/REV UP
レジロス〜レヴィロスに移行してリリースされた1stアルバム。50年代、60年代のロックンロールやポップ・センスを詰め込み、80年代的プラスティク感覚で弾き出される、キッチュでコミカルでファンタジックな超ノリノリ・ポップ・パンク。サウンドの弾け具合に上手く噛み合った、パンチの効いた男女ツイン・ヴォーカルもポイント高し。カヴァー曲の選曲やアレンジ・センスもキラリと輝る、グリッター・パンク。
(ヴィヴィッドVSCD2998)CD

GUANABATZ/THE VERY BEST OF
サイコビリー創生期から活動し、クラブフットでのイヴェントなどによって世界中にサイコ・キッズを生み出すムーヴメントに一役も二役も買ったサイコビリー代表選手。暴力的なまでのビートとスピード感、ロカビリーのクールなリズムが重なり、それでいてどこかユーモラスなグアナバッツならではのサイコビリー・サウンドが堪能出来る。やはりかっこいいのである。新旧織り交ぜ全20曲収録のベスト盤。
(ヴィヴィッドVSCD5317)CD

SYSTEM OF A DOWN/MEZMERIZE
全作『TOXICITY』から約3年振りとなるニュー・アルバム。2部構成となっており、その1章が本作で、2章は今秋リリース予定。貧困問題、人種差別などの問題提起を投げかける詞でも伺えるように、怒りに満ちたパワフルでヘヴィなサウンドが基本。とはいえ、ストイックになりすぎない柔軟さとユーモアもたっぷり。クウィーンが悪ふざけで変幻自在のスラッシュ・メタルをやってるようでもある。
(ソニーSICP-682)CD

VA/LONDON NITE 25th ANNIVERSARY EDITION
1980年に新宿ツバキハウスでスタートしたクラブ・イヴェント、ロンドン・ナイト。その25周年記念盤でシリーズ第8弾目。パンク〜ニューウェイヴを中心に、気分は80'sに誘うノリノリのサウンドが目白押し。懐かしくも今でも胸躍る楽曲の数々。アダム・アント、ゴーゴーズ、ネーナ、アラーム、クラッシュ、オンリー・ワンズ、ミリー・スモール等々収録。10代の頃によくツバキハウス行ってたなぁ。
(ソニーSYUM 0280/MHCP-600)LP/CD

LOVER'S ROCK/THE TEARDROPS meets THE BOOT
ポップでキャッチーなロカビリー・サウンドが人気のティアドロップスと、元ゴー・ゴー・3のオノタカコ率いるブーツのスプリット・アルバム。「東京ディスコナイト」のカヴァーで始まり、甘く切ないゴキゲンなロカビリー〜横ノリのラヴァーズもキメるティアドロップスが5曲。やはりポップでキュートなパワーポップ〜モータウン〜スロー・バラードまで胸キュンなブーツが6曲。ラヴリー・サウンド満開。
(ヴィヴィッド・TICK TACK TTCD4058)CD

NEWS
▶4月に来日したナパーム・デスのニュー・アルバム『THE CODE IS RED...LONG LIVE THE CODE』が、トイズファクトリーより4月20日にリリースされた。元カーカスのジェフ・ウォーカー、ジェロ・ビアフラ、ヘイトブリードのジェイミー・ジェスタが参加。日本盤のみガーゼのカヴァー収録。▶BMGからリリースされたリール・ビッグ・フィッシュのニュー・アルバム、ソーシャル・ディストーション、モリッシー、トレイシー・チャップマンのカヴァーが収録。▶やっと暖かくなってきた。

IMPORTED & JAP'S INDIES CHART

Album———ディスク・ユニオン

❶⊖ANTI-SYSTEM/Discography(Pela)
❷⊖SNUFF/Six Of One,Half A Dozen Of The Other 1986-2002 (Fat Wreck)
❸⊖EVENS/Evens(Dischord)
❹⊖DROPKICK MURPHYS/Single Collection Volume 2 (Hellcat)
❺⊖METEORS/In Heaven(Anagram)
❻⊖BLOOD OR WHISKEY/Cashed Out On Culture(Punk Core)
❼⊖NECK/Sod'em & Begorrah!(Hibernian)
❽⊖HULLABALOO/Hullabaloo(Unknown)
❾⊖POINTING FINGER/Best Bruises Collection(Goodwill)
❿⊖INEPSY/City Weapon(Feral World)

Single———ディスク・ユニオン

❶⊖RIISTETYT/Tuomiopavia(Havoc)
❷⊖CUT THROAT/Cut Throat(Partners In Crime)
❸⊖ZEKE + PETER PAN SPEEDROCK/Split (Bitzcore)
❹⊖7 SECONDS + KILL YOUR IDOLS/Split (Side 1 Dummy)
❺⊖GATHER/Total Liberation(New Eden)
❻⊖7 GENERATION/7 Generation(Straight On)
❼②CAREER SUICIDE/Signals(Slasher)
❽⊖WITH HONOR + DISTANCE/Split(Martyr)
❾⊖SEVERED HEAD OF STATE/Fucking Butchery(Hardcore Holocaust)
❿⊖TERROR + PROMISE + PLAN OF ATTACK/Split(Organaized Crime)

渋谷店

Album———タイムボム

❶⊖THE EVENS/The Evens(Dischord)
❷⊖DANNY DIABRO/Street Cd Volume #2 (Stillborn)
❸⊖COMEBACK KID/Wake The Dead (Victory)
❹⊖PAINT IT BLACK/Paradise(Jade Tree)
❺⊖REFUSE 73/Surrounded By Silence(Warp)
❻⊖WRECKING CREW/1987-1991(Brige Nine)
❼⊖NEGATIVE APPROACH/Ready To Fight(Reptilian)
❽⊖GRATITUDE/Gratitude(Atlantic)
❾⊖AGNOSTIC FRONT/To Be Continued The Best Of (Street Justice)
❿⊖CELTIC FROST/Morbid Tails(Earmark)

Single———タイムボム

❶⊖DEATH BEFOR DISHONOR/Friends Family Forever (Brige Nine)
❷⊖HIGH ON FIRE + RUINS/Split (Skin Graft/Relapse)
❸⊖MARS VOLTA/Frances The Mute(GSL)
❹⊖QUEEN OF THE STONE AGE/Little Sister (Interscope)
❺⊖MEDUCATION/Meducation(Catune)
❻①SLAPSHOT/Tear It Down(Thorp)
❼⊖WHEN TIGERS FIGHT/When Tigers Fight(Indecision)
❽⊖SUBTITLE/Young Dangerous Heart(GSL)
❾③ZEKE + DISFEAR/Split(Relapse)
❿⊖DEATH FROM ABOVE/Blood On Our Hands(679)

※パンク・ニューウェイヴ全般による集計となっています

Album———カメレオン・レコード

❶⊖KOZY IWAKAWA/Golden Time(Infinity)
❷⊖V.A/The Bastards Can't Dance A Tribute To Leatherface (Snuffy Smile)
❸⊖夜のストレンジャーズ/Still Crazy(DecRec)
❹②Nightmare/Scatterraw (Hardcore Kitchen)
❺⊖OUTO/Outo(Specialized Fact)
❻⊖V.A/混沌難聴大虐殺(MCR)
❼⑦CHAOS/Why?(Bed Room)
❽⊖SWARRRM + IMMORTALITY/Split(Hardcore Kitchen)
❾⊖V.A/9 Mosh 4(I Am Records)
❿⊖BO PEEP/Times Of Rock(3rd & Stone)

Single———カメレオン・レコード

❶⊖PEACE MAKER/Sunshine Of The Way (Smooth Sound)
❷⊖THE STALIN/スターリニズム (SS Recordings)
❸②CTR狂い咲きサンダーロード/Kuruizaki Attack (H.G Fact)
❹③The Slowmotions/オクセマンコの誘惑(H.G Fact)
❺④THE STALIN/電動コケシ(SS Recordings)
❻⑧THE TURN-TABLES + RADIO CAROLINE/Split(Tiger Hole)
❼⑨悪意/Ain't No Slave(Bloodsucker)
❽⊖藤本修羅 & SWARRRM/玉砕放送(H.G Fact)
❾⑥CAPSULE CORP./Green Mile(自主)
❿⑧DEVIL CHOPPERS/Party Angel…Oh Yeah!!(自主)

Album———BOYレコード

❶⊖V.A/混沌難聴大虐殺(Crust War)
❷③V.A/Ng Bros(Skinny Dip)
❸⊖DEMOLITION/Mob Of Wolves (E.A.S.T PEACE)
❹⊖BLOWBACK/Crazy Attacker (Rolling Shit On)
❺⑦V.A/Crust Night 2005(Tribal War Asia)
❻⑧陽死/Death Of The Sun(Devour)
❼⊖FRAMTID/Under The Ashes(Crust War)
❽⑥GHOUL/1984-1989(SS Recordings)
❾②Nightmare/Scatterraw(Hardcore Kitchen)
❿④OUTO/Outo(Specialized Fact)

Single———BOYレコード

❶⊖MORQUIDO + DEATH CHURCH/Split (Delta Mondo Discos/Weird Truth Production)
❷⊖J.U.U.M/Battle of Life(Restonation)
❸⑨THE STALIN/電動コケシ(SS Recordings)
❹⊖CTR狂い咲きサンダーロード/Kuruizaki Attack (H.G Fact)
❺①FOTITUDE/Fortitude(Guerrilla)
❻⊖WARHEAD + ORdER/Split(H.G Fact)
❼⑥The Slowmotions/マケロベ(H.G Fact)
❽⊖藤本修羅+SWARRRM/玉砕放送(H.G Fact)
❾③The Slowmotions/オクセマンコの誘惑(H.G Fact)
❿⑦ORdER/Sex(H.G Fact)

▶2/21〜3/20売り上げ

GARAGELAND

■**フィンチ**がニュー・アルバム「セイ・ハロー・トゥ・サンシャイン」を完成させた。昨年はドラマーのアレックス・パパスが脱退、新たにマーク・アレンを迎え、新作はよりヘヴィーによりアグレッシヴになっているらしい。メンバーの脱退劇があったにも関わらずバンドは今まで以上によくなっているようだ。ベーシストのデレク・ドハーティー曰く、我々がパパスと分かれることになったのは音楽性の違いからだ。リーダーのネイトはこう語る。幾つか新曲を書こうとしたが、出来なかった。俺達は前進したかったが、壁にブチ当たってしまった。俺達にとって曲を書くということは人を愛する行為と同じ事なのかもしれない。そんな時に現れたのがマークだったんだ。彼はバンド内で素晴らしい仲裁人となった。彼がまたみんなで一緒にやっていこうという調和をもたらした。アレンが加入してすぐにバンド内の関係は著しく改善され、フィンチは2002年発表のアルバムに続く新作の制作に取り掛かる。しかし前途は多難であった。ドハーティーは週に6日スタジオに入って1日10時間スタジオ・ワークに励んだ。最初のスタジオがクソみたいな所だった。ナチが経営しているスタジオでぼったくられたのですぐにスタジオを変えたんだ。ネイトは「でも全て完了した。新作を聴いた人がどう受け取るか興味深いね」。フィンチのニュー・アルバムは6月発売予定で5月にはロンドンでフューネラル・フォー・ア・フレンドのステージにゲストとして出演する。

■ありそうで無かった?アルバート・ムードリア著書の**ブラック・メタル**及びグラインドコアのヒストリー本が海外で出版された。タイトルは「CHOOSING DEATH」。3月にその出版を記念してロンドンのレコード店、ラフ・トレードでイヴェントが行われた。このイヴェントには著者の他、カテドラルのリー・ドリアン、ナパーム・デスのシェイン・エンバリー、カーカスのジェフ・ウォーカーらが登場した。〝デス、グラインドが無ければマストドン、コンバージ、ディリンジャー・エスケイプ・プランは存在しなかったであろう。デス、グラインドは正統に評価を受けるべき〟と著者は言い切る。一方、このイヴェントではロンドンを拠点に活動するメタル・バンド、Ted Maulが狭い店内で40分のライヴ演奏を敢行した!「CHOOSING DEATH」はFERAL HOUSEより発売されている。(注)この本に関してこれ以上の詳細は編集部では分かりかねますのでお近くの洋書取り扱い店でお問い合わせ下さい。

■フガジのイアン・マッケイらによって運営されているアメリカのインディペンデント・レーベル、**ディスコード**が近々、レーベルのバックカタログ全体がwww.downlordpunk.comにてデジタル・ダウンロード出来るようになるとのこと(i tune)。我々は音楽を広く利用させる為の手段として続けていく旨のステイトメントはwww.dischord.comを参照。将来的には自身のサイトより直にダウンロード出来るようにするとのこと。

■**グッド・シャーロット**が昨年発表のアルバム「ザ・クロニクルズ・オブ・ライフ・アンド・デス」に続く新作への意欲を見せているとか。メンバー全員が早くレコードを作りたがっている。ツアー中もツアー・バスの中で曲作りに励んでいる、とリーダーのジョエルは語った。出来れば11月にはスタジオに入りたい。とのこと。

■イギリスのメジャー契約していない無名バンドらによるフェスティヴァル、**TMFROCK FES**がエセックス州の田園地帯で行われる。このイヴェントには熱いバンド達を切望しているエージェント、レーベル関係者、スカウトマン、プロモーターらが多数招かれることになっている。参加希望者はTMF ROCK FESTIVAL PO BOX 35 GRAYS ESSEX RM117 5BE UKまで。となっている。(注)日本から参加したいのですが…等の問い合わせや、これ以上の編集部へのこのフェスについての問い合わせはご遠慮願います。

■写真家、**秋山淳**の写真展、不死身が5月13日から5月29日までアラーキー氏常設のギャラリー、LA CAMERAで行われる。内容は「しゃしん捨身　写真」プラス新作でド迫力のモノクロ・ワールドが展開されているとのこと。時間はPM2:00からPM9:00まで。入場無料。詳しくは03-3413-9422LA CAMERAもしくはwww.akiyamajun.comまで。

■**フリクション**の「79ライヴ」のCD化続き、5月20日には「軋轢」が再リリースされる。また、同日には1979〜81年にかけてPASS RECORDSがリリースしたEP&シングル、そしてアーティスト自らが所有していたスペシャル音源をボーナス・トラックとして加えた2枚組CD「PASS NO PAST〜EP&シングルズ」もリリース。フリクション、グンジョーガクレヨン、Phew+坂本龍一、突然段ボール、BOYS BOYS、恒松正敏らが収録される予定。

■ボリス、グリーンマシーン、チャーチ・オヴ・ミザリー、エタナール・イリジウム、日本を代表するヘヴィ・ロック4バンドのライヴDVD「**WIZARD'S CONVENTION**」(収録時間約106分)がDIWPHALANXより6月6日に発売される。7月9日にはヘヴィ・ロック・オールナイト・イヴェントを新宿ロフトで開催決定。出演は上記4バンド以外にも多数参加予定。そのイヴェントにてボリスが日本では実に約2年振りの復活ライヴを行う。

■**バルザック**主催のイヴェントEVILEGEND13 VOL.4が7月9日クラブチッタ川崎で開催される。出演バンドはバルザック、パーソンズ、メリー、アスフォート、他スペシャル・ゲストを予定。ジャンルの壁を越えた注目の異種格闘的イヴェントとして開催する。

■**ザ・スターリン**の4thアルバム「Fish Inn」がCD化され24bitデジタルリマスタリング&W紙ジャケット仕様でリリースされた。しかも86年にリリースされ、さまざまな評価を巻き起こしたビル・ラズウェル・プロデュースによる新録ヴァージョン(歌詞を変えて新録された)ではなく、84年当時のオリジナル・ヴァージョン。

■**ロッソ**初のDVD「MUDDY DIAMOND SESSIONS」がリリースされた。DIRTY KARAT TOURの前半戦から選ばれたライヴ映像に加え、「1000のタンバリン」「アウトサイダー」「バニラ」のビデオ・クリップ、バック・ステージやレコーディング風景などの映像も収録されている。

■静岡県焼津漁港にて昨年開催され、好評を得たロック・フェス「**ムーチャス・グラシャス・ライブデス**」が、今年も5月15日静岡県焼津漁港旧外港特設ステージにて行われる。SNAIL RAMP、雷 RIZE 図、SCOOBIE DO、KOOLOGI、BIVATTCHEE、CHANGE UP、前頭、安田大サーカス、BillY's and more!の出演が決定している。問い合わせ:054-646-0740(SPEAK EASY)

■**ハイスタンダード**の難波章浩オフィシャル・サイトが誕生。URLはhttp://www.nambaakihiro.com/。ちなみに横山健のオフィシャル・サイトはhttp://www.pizzaofdeath.com/

■昨年10月に「BIG BEAT MIND!!」をリリースした**ザ・ニートビーツ**が、今度はなんと2枚組25曲というボリュームのアルバムを6月9日にリリースする。しかも今回はゲストにザ・ハイロウズの甲本ヒロトと真島昌利が参加。

■現在も北米ツアーの真っ只中の**少年ナイフ**だが、2年ぶりとなるニュー・アルバム「Genki Shock!」を6月3日にリリースする。3ピース&ヴォーカルというロックの基本形となるアンサンブルのみで制作されたという本作のコンセプトはパンク・ポップ。ゲストとして先ごろ解散が発表されたNYのバンド、ルナの中心人物だったディーン・ウェアハムが参加している。

■大槻ケンヂとコールター・オブ・ザ・ディーパーズのNARASAKIらがメンバーとして名を連ねる**特撮**が、2年3ヵ月振りとなるシングル「綿いっぱいの愛を!」を5月25日、またアルバム「綿いっぱいの愛を!」を6月29日にリリースする。

■95年の結成からスカ・パンク・シーンの中心として走り続けてきた**ポットショット**が解散することとなった。5月11日に7枚目のアルバム「POTSHOT BEAT GOES ON」をリリース後、現在決定しているライヴを行い、10年間の活動に終止符を打つ。〝POTSHOT BEAT GOES ON〟ツアーはイヴェント欄参照。

■80年代当時のポップ・カルチャーを大いに刺激し、日本のレイトショー・ブームを作りあげた映画「**フォービデン・ゾーン〜リミテッド・フォー・レイト・ナイト〜**」が帰ってきた!知性と痴性がせめぎあう禁断の世界を堪能あれ!4月23日の吉祥寺バウスシアターを皮切りに、全国で順次レイト・ロードショーされる予定。

MIXING ROOM

◆ミニコミ／サークル会員募集

■瞬間コラージュエレクトロキラーパンクVELOCITYUT/SPECIMEN CDR発売中¥720分の為替(端数切手可)を下記迄、他色々ディストロもやってます。electlo@d2.dion.ne.jp
〒859-0405　長崎県西彼杵郡多良見町中里212-86　LABOURLTD

■nationstate/ воля split CD「軋む世界」発売中!1300円＋送料160円を下記まで。物販詳細→http://pksp.jp/nationstate/new T-shirtsは店頭在庫のみ(Sのみ手持有り)。在庫等問い合わせは→nationstate@pksp.jpまで。
〒546-0035　大阪市東住吉区山坂4-1-30-308
☎080-5336-3925　nationstate/F.T.U.

■猟奇ハンター14曲入りCD-R通販希望の方は住所・氏名を明記の上¥650の定額小為替を下記まで。http://www.geocities.jp/ryoukihunter2/
〒547-0014　大阪府大阪市平野区長吉川辺3-21-1-101
☎080-1452-0949　NEIRO

■アニョハセ!神戸のアナル玄藩です。今月の中旬に某レーベルからアナル玄藩のDVDがでます。2000円です。ぜひぜひよろしく頼みます…ってでるわけねーだろ!!俺は今月もエイプリル気分だ!!バ〜カ!!!あとこんなとこで出逢いを求めてんじゃねぇ!!孤独を愛しろ!!そしてもっと自分を好きになれ!!自慰行為は控えめに♡
☎090-1157-1763　絶対アナル2005

◆手紙ください

■ハノイ、ネガティヴ、プライベートライン等北欧系好き。誰かメル友になって下さい、野郎は三十歳以上でたのむ。気のせいかも知れないが日本はもうじき滅ぶのでは?哲学、宗教、軍事にも興味あり。marukome-55@docomo.ne.jp　アリエテ

■スキンヘッドの女性いますか?超短髪の女性が大好きです。スキンヘッド、坊主、ベリーショート、モヒカンの女性連絡待ってます。趣味の話、悩み事いろいろ語ろう。大切にします。oris382@ezweb.ne.jp　まさかず

■初期パンク〜ハードコア、ロカビリーなど好きです。シドやヒルビリー・バップスの宮城さんが好きな人は、男女問わずメル友になって下さい。同時にメンバーも募集です。又は加入希望です。eメールcatman33@ezweb.ne.jp
〒093-0035　北海道網走市駒場南8-3-2
☎090-3775-3846　宍戸 正

◆売りたし／買いたし

■友部正人、友川カズキ、高田渡、岡林信康、山崎ハコ、遠藤ミチロウの、CD、レコード、カセット、ビデオ、本、雑誌、ポスター、他、何でも買います。ライヴテープダビングしてくれる人も連絡下さい。お礼はちゃんとします。よろしく。
〒193-0803　東京都八王子市楢原町1483-8　高梨健司

■売。新品ドクターマーチン8ホールブーツ(サイズ・UK10インチ、色・白)を9千8百円で。手渡し希望。
〒214-0034　神奈川県川崎市多摩区三田4-9-8-103　吉田憲生

◆メンバー／バンド募集

■Dr急募!H.C PUNK BAND「FINAL」ではDrを大至急募集しています。ライヴ予定多数、レコーディング予定あり。ある程度経験のある方でやる気重視!ディスチャージ、モーターヘッド等好む。音源の欲しい方は送ります。finalbloodbath@t.vodafone.ne.jp
八王子市散田町4-4-1シャトーハイツ101
☎090-9842-0248　佐野修一

■女性Dr急募。当方女性Voバンドです。横浜近郊で練習できる人がいいです。デモあります。気軽に連絡下さい。
〒235-0033　横浜市磯子区杉田6-34-14
☎090-4822-2393　鈴木 淳

■ドラマー募集!!当方Vo、Gu&Baの2人です。パンク、ガレージ、ハードコア等のおいしいとこどりのオリジナル・バンドです。ジョニサン、シャム69、ラモーンズ、MUFFS、JETBOYS、SA、などなど。e-mail w.n.d.0602@ezweb.ne.jp
〒600-8854　京都市下京区綾小路通柳馬場東入ル塩屋町62コーポヤスミ105
☎090-5464-4846　ノグチタカシ

■フラワーフェスティバルですか?ハードコアをやりたいのでワシを探してください!広島駅地下予定5月14・15、6月18・19、7月16・17、8月13・14、9月23・24・25なるべくモヒカン立ててますから。では…。　ケイオス

■スカンジHC万歳。当方Vo(21)、それ以外募集or加入希望です。練習は新宿近辺がいい。まだ未熟者だからなるべく詳しい人お願いします。とりあえずメールください。IN AKE WE TRUST!!travis_bickle.76@ドコモまで。　ジョンソン

■Dr募集。当方G×2、Ba。全員22歳。ストーンズとビートルズを足して、ドクター・フィールグットのビートの感じでやります。18〜24歳くらいの男性募集。
〒168-0073　東京都杉並区下高井戸5-9-21ヤサキハイツ101
☎090-9810-4632　山田智一

■Dr急募!当方「NO GUARD」。パンクを基本にし、ラップ、スカなどを融合させた音です。コンテストでグランプリ受賞、インディーズCD発売!東京ドームでのLIVE経験有り!詳しくは当バンドのホームページ参照。リハは池尻大橋。
〒195-0071　町田市金井町2489-8-A-201
☎090-1704-2527　有岡博和

■ベースの方を募集します。リップクリーム・スライトスラッパーズ・コンヒューズ・ACなど聴いてます。練習は平日に中野でやります。Vo(30)、G(30)、Dr(26)です。一緒にバンドを作っていける方を希望します。(東京)sskl-j@ezweb.ne.jp
☎090-2940-8638　オリイ

■Vo、G、B、Ds募集します。エモ〜スクリーモな感じでいきたい。envy、ゲットアップキッズ、used、

等々好きです。当方Gです。連絡待ってます。rona_may10@ybb.ne.jp
〒166-0015　東京都杉並区成田東2-18-7-101
☎090-6043-4310　クワ

■新規バンド結成のためG、D募集。当方V、Bです。タフガイなNYHCをパーティー・バンドのようなノリでやっていきたいと考えております。練習は週一回、秋葉原か渋谷を予定しています。お気軽にご連絡下さい。
〒111-0042　東京都台東区寿1-6-7-602
☎090-3964-4471　イリノタカユキ

■Ba、メテオス、フレンジー等好きな人。Dr、トッパーヒードンみたいな感じ叩ける人急募します。当方Vo、Gu。エレベでサイコビリー、メロディーのしっかりしたのがやりたい。頭柔らかくてバンド中心に動ける人、気軽に連絡下さい。junkbeat.29th-mar-1985@docomo.ne.jp
〒156-0052　東京都世田谷区経堂1-29-14-101
☎090-7177-1876　ユウスケ

■Gu、Dr急募。当方Vo、Ba。スナッフ、ラフィン、SA、COBRA、セクト等好みます。自分達の曲を作ってライヴをやってみませんか?パンク好きな方待ってます。goise-69s@docomo.ne.jp セイゴ
〒500-8844　岐阜県岐阜市吉野町1-16ラフォーレ吉野205号　69

■女Vo・Ba・民族楽器など。HC、サイケなど好む。練習は横浜です。
☎090-4964-6537　メン募

■英作詞、作曲、編曲が全部出来る、G、シンセK募集。サビの強いメロディ、ラウドなR&R、テクノ、NW、サイケ、ジャズ、ダブ、実験的、重低音、今までに日本に無い、オシャレなユニットをやりましょう!当方、身長183cm、Voです。
〒170-0011　東京都豊島区池袋本町3-9-1-403　井上直人

■Dr募集。ロックンロールは、Made in Englandに限るという方、パワーはあるが見せ所がない方、I'

m not a foolと思ってる方、募集です。当方Vo、B、Gu。学歴年齢不問。(千葉県市川市)
☎090-4430-7990　下田
■Vo以外全募集。当方、ピンクフロイド、エマーソン、レイク&パーマー等のプログレ、80年代日本ロックを好む。いっしょにバンドをやってくれる人がいたら連絡ください。
〒131-0043　東京都墨田区立花3-13-14
武藤彰夫
■ギター募集。メタリックなハードコア・バンドです。ブラストな速い曲からミディアム・スローな曲もあります。メタルもコアもOKな人を希望します。渋谷か横浜で週一で練習してます。battescared@hotmail.com
☎090-3598-5047　メンボ
■当方スキャットでは、Dr急募してます。サポートでも可。初期パンクの衝動鳴り止まぬ奴待ってます。プロ志向ではないので気軽に連絡下さい。オリジナル曲あります。ライヴやりたいのでよろしく!
☎090-7206-3036　メンボ係
■当方Ba&Vo(34)。ロッカーズ、モッズ等。歌心のあるロックンロール。ヨロシク。
〒170-0001　東京都豊島区西巣鴨3-9-14手塚荘7号室
☎070-5595-2952　トヨ
■Gu超急募。当方、OVERTHROW。UK Oi!〜NYハードコア等好む。タフで、シンガロングな曲がメインなので、コーラス取れる奴◎マジでやる気のある奴のみ連絡求む。instep-r_k-z@t.vodafone.ne.jp
〒192-0154　東京都八王子市下恩方町339-9
メンボ係
■アコギとW.Bass募集。アイルランド音楽好きな人、その他パンクやロック色々好きな人、興味ある方、質問/詳細等気軽に連絡下さい。Mail:gunyu_kakkyo@hotmail.com HP(携帯PC共通)http//sound.jp/gunyu/(川崎市多摩区)
Royal SHAMROCK
■リードG・D急募!当方G/Vo・Ba。シンプルでスピーディーな3コードのパンクやりたい!セックスピストルズ・ラモーンズの単純やけど芯の強い音楽に影響受けました!初心者大歓迎!20代前半まで!(E-mail)d27dde32aekgzj@t.vodafone.ne.jp
〒350-1316　埼玉県狭山市南入曽862-2-201
石井啓太
☎090-9103-5822
■ベース募集。パンク〜HCを基盤に幅広くやります。ラフィンノーズ、オウト大好き♥年齢性別不問。マジメに楽しくやれる方。銃ジャンPUNX大歓迎。punk-.-always@ezweb.ne.jpまで。練習は大阪ミナミで週末。尼崎のターボ連絡求む。
☎090-8167-9755　ユウ(30)
■Gu急募。フリクション、デルタピューレ、カラードライスメン、ザ・スターリン、キリヒトなど好き。Sax、DrVo、Guの3ピースで活動します。柔軟で遊び心のある方。よろしくお願いします。
〒166-0002　杉並区高円寺北3-5-7福寿荘102
☎090-8104-6532　松木チカ㊚
■G&Vo、B募集又はDr女で加入希望。70'sパンク、R&R、POWER POP、ラモーンズ、MODERNETTES、ナック、TEENGENERATE等好きな人。年齢性別不問。(神奈川在住)
☎090-4677-3048　メンボ
■Dr・B募集。80'Sスラッシュ HC〜90'NYHCみたいのやります。7セコンズ、B・ブレインズ、ミスフィッツ、S・O・I・A、S・ケイス、シェルター、シーウィード、A・T・D・Iとか好きです。25〜35位の男でUKパンク、エモ、服とかも好きで悪い人希望。(東京都町田市)Chino@x-mail.jp　YOUTH

■★★★★★★★ドラム募集★★★★★★★★★スタークラブ、ライダース、SA、ラモーンズ、クラッシュ… …ストレートな感じの音楽やってます★音源有り★趣味程度でかまいません★★★tomaki.2893@docomo.ne.jp(東京都足立区在住)
☎090-4391-1409　メンバー係
■女性Vo募集。当方Gt×2、Ba、Drです。70s'パンクを中心に色々たのしく行ってます。ハイテンション、プリティーな方、最高です。スタジオは、高円寺です。気軽にどうぞ!!(杉並区高円寺)
☎090-8049-2679　セツ男
■G、B、Dr募集!!パンクを愛していて、熱〜いビートを出せる奴☆俺達で本当のパンクってヤツを見せてやろうぜ!!連絡クレ!kawajan.hankoki@ezweb.ne.jp(長野県)
☎090-9358-9760　Tomo☆
■B、Dr募集。当方G、Voです。ネオロカ、サイコビリー、ガレージ、70'sパンクなどが好きです。これらのエッセンスを吸収した、ロックンロールをやりたいです。気軽に連絡下さい。
〒227-0038　神奈川県横浜市青葉区奈良2-8-2
☎080-5053-7309　イハラ

イヴェント

●BLOC PARTY.
5月4日大阪クアトロ　5日名古屋クアトロ　7日・8日渋谷クアトロ　㊐03-5466-0777クリエイティブマン
●BOB LOG III vs デキシード・ザ・エモンズ
5月23日札幌BESSIE HALL　㊋HOMESTICKS　25日渋谷クアトロ　26日名古屋アポロシアター　27日岡山ペパーランド　28日福岡CB　㊋ソルトリー　29日広島クアトロ　㊋ガール椿　31日京都磔磔　㊋ザ50回転ズ、ノックダウンズ　6月1日神戸バックビート　2日大阪クアトロ　㊋The Bunnies　㊐03-5465-5339UP-RIGHT PRODUCTIONS
●THE BOMJACKS
5月19日名古屋ハックフィン　㊋TOTAL FAT、IRON BABYS、他　20日大阪堺club MASSIVE　㊋TOTAL FAT、BURL(大阪)、GOOD 4 NOTHING(大阪)　22日下北沢club 251　㊋TOTAL FAT、ONE SIZE FITS ALL、他　㊐03-5424-1662PYROPIT RECORDS
●THE CASUALTIES & TOM & BOOTBOYS
「UP THE PUNX! TOUR 2005」→6月18日福島club #9　㊋ROTHMANS、内郷げんこつ会、STRANGE FACTORY、The SWiNdLES　19日新宿ロフト　㊋POGO MACHINE、SHIT-FACED、IMPULSIVE、NADA CAMBIA、LIFE、ABRAHAM CROSS　20日浜松FORCE　㊋DREX、GONE MAD、Qo'noS、AGITATE　22日福岡CB　㊋ANTiFAD、CHAOS、THE SPANKINGS、RABID、刹那主義　23日広島ネオポリスホール　㊋PERSEVERE、ABDUCTED、ERECTiONS、ASPHALT　24日大阪アメリカ村KING COBRA　㊋KRUW、ZOE、EXTINCT GOVERNMENT、LAUKAUS　25日名古屋ハックフィン　㊋EXTINCT GOVERNMENT、REJECT、V.I.M、THE SUBVERTS、NAGOYALTIES(REALITY CRISIS)　26日新宿アンチノック　㊋EXTINCT GOVERNMENT、他　㊐nori@pogo77.com/POGO77RECORDS
●HARD SKIN
「HAVE A BEER WITH HARD SKIN JAPAN TOUR」→5月28日新宿ACBホール　㊋大将、LAST TARGET、EVIL SUBSTITUTE、BOOTed COCKS、Royal SHAMROCK、SIGN OF LIFE、BENKEI　29日新宿ACBホール　㊋HAT TRICKERS、TOM & BOOTBOYS、RAISE A FLAG、UNITED WE STAND、THE ERECTIONS、THE 69 YOBSTERS、ROYAL BUSTER　㊐各会場
●9 SHOCKS TERROR & VIVISICK
「ALOHA FROM BRUTAL MICROPHONE JAPANE TOUR 2005」→5月1日高知FEET　㊋CONGA FURY、DISCLOSE、BLIND SNIPER、CIRCLE FLEX　3日大阪新世界BRIDGE　㊋the futures、ULTIMO RAUSEA、Nightmare　4日名古屋ハックフィン　㊋ROTARY BEGINNERS、ADA+MAX、ZYMOTICS　5日新潟JUNK BOX　㊋DERIDE、BLOW BACK、The Slowmotions、THE BASEMENTS、日本脳炎、AGE　6日仙台バードランド　㊋SPIKE SHOES、ANGER、MAKE MENTION OF SIGHT、TOTAL FURY　7日高円寺20000V　㊋SLIGHT SLAPPERS、HUMONGOUS、FUCK ON THE BEACH、EXCLAIM、ANODE　8日新宿アンチノック　㊋GAUZE、CROSSFACE、LIFE、CRUCIAL SECTION　㊐各会場
●THE OPPRESSED & UNITED WE STAND
「SKINHEAD UNITY TOUR」→8月2日盛岡club CHANGE　3日いわきclub SONIC　5日浜松メスカリンドライブ　6日新宿アンチノック　7日名古屋アポロシアター　9日米子BELIER　10日広島ネオポリスホール　11日福岡CB　13日大阪アメリカ村KING COBRA　14日新宿club DOCTOR　㊐各会場
●YO LA TENGO
5月27日渋谷クアトロ　28日六本木ラフォーレミュージアム　29日大阪クアトロ　㊐03-3444-6751SMASH
●『CONFLICT FOR FREEDOM TOUR』
㊋SICK ON THE BUS/EXTINCT GOVERNMENT/ORdER
5月1日仙台バードランド　㊋ANGER、NAKED YEGGS、STINK GASPERS　3日新宿アンチノック　㊋FORWARD、悪意、PILEDRIVER、PAINT BOX、TOM & BOOTBOYS、POGO MACHINE、FINAL、RAW GAUGE、NO EVACUATIONS　5日富士アニマルハウス　6日名古屋ハックフィン　8日大阪アメリカ村KING COBRA　㊋WARHEAD、R.O.M、悪意、KRUW狂撃、他　㊐各会場
●AGGRESSIVE DOGS
「LYCAON'S DEN TOUR 2005」→5月14日松山サロンキティ　㊐089-945-0020サロンキティ
●ASSAULT
5月28日初台WALL　㊐会場
●ASSFORT
5月3日渋谷サイクロン「LUST FOR LIFE 3」　㊋チャクラ、SOBUT、SUNS OWL、MINOR LEAGUE、コーガニズムオーケストラ、東京ピンサロックス、SURVIVE、ソープランド揉美山、UP HOLD、CULT OF PERSONALITY、NEVERFEAR、サルサガムテープ、地球楽団　11日新宿ロフト「RHYTHM OF FEAR」　㊋SA、THE RYDERS、STANCE PUNKS　13日下北沢シェルター　㊋IDOL PUNCH　㊐各会場
●ANODE
5月3日初台WALL　7日高円寺20000V　㊐各会場
●BALZAC
6月4日郡山#9「JUNK HIPPY SHAKE 11th ANNIVERSARY vol.2」　㊋ASSFORT、他　5日秋田LIVE SPOT 2000「LIVE SPOT 2000 5th ANNIVERSARY」　12日沖縄club mmD　㊋CHAINSOOL、他　㊐03-3511-9920DIWPHALANX
●the band apart
5月15日代官山UNIT　20日福岡DRUM Be-1　21日長崎DRUM Be-7　23日熊本DRUM Be-9　24日鹿児島SR HALL　26日広島ナミキジャンクション　28日松山サロンキティ　29日高知CARAVAN SARY　31日岡山ペパーランド　6月1日米子BERIER　3日神戸STAR CLUB　5日大阪club MASSIVE　7日京都MUSE HALL　8日滋賀Bフラット　10日名古屋ハックフィン　12日金沢AZ　13日富山SOUL POWER　16日高崎FLEEZ　18日宇都宮VOGUE　19日熊谷VOGUE　21日沖縄Human Stage　28日水戸LIGHTHOUSE　30日仙台club JUNK BOX　7月1日秋田LIVE SPOT 2000　3日弘前MAG-NET　5日札幌BESSIE HALL　7日北見夕焼けまつり　10日岩手Lavieen　12日郡山HIP SHOT　13日新潟JUNK BOX　7月17日名古屋クアトロ　19日大阪BIG CAT　23日新木場STUDIO COAST　㊐03-5306-8781K-PLAN,LLC
●Bitter Sweet Generation
5月28日神戸BACK BEAT　30日下北沢シェルター　㊋ROCKET K、DRUNK FUX、BACKDROPS、他　7月9日吉祥寺PLANET K　㊐各会場
●THE BLAST
5月8日大阪アメリカ村KING COBRA「SICK ON THE BUS JAPAN TOUR」　㊋SICK ON THE BUS、EXTINCT GOVERNM

ENT、ORdER、他　21日名古屋車道Z　(共)牙、JACK THE RIPPER、RAID、狼吽、BEAST EMPTY　22日吉祥寺WARP「OUT OF THIS WORLD vol.2」　(共)NO EVACUATIONS、8000、RAW GAUGE、RETORT、OUTSIDER　(問)0743-75-7458BARK BOX

●bloodthirsty butchers
6月2日京都磔磔　9日大阪クアトロ　23日渋谷クアトロ　(問)03-3444-6751SMASH

●BULL HEAD
5月4日仙台バードランド「CLENCH THE FIST vol.151」　(共)ゲンドウミサイル、ザ☆ペラーズ、愚弄、MILK SODA、STINK GASPERS　25日仙台バードランド「CLENCH THE FIST vol.153」　(共)COBRA、FUNGUS、NAKED YEGGS、ラクガキ　27日仙台バードランド「CLENCH THE FIST SPECIAL NAKED YEGGS10周年記念」　(共)NAKED YEGGS、PASSING TRUTH DRIVE、ザ・マンチーズ、他　(問)各会場

●BUZZ DOGS
5月4日渋谷サイクロン　25日下北沢シェルター　6月15日新宿club DOCTOR　7月20日新宿ロフト　(問)各会場

●COLORED RICE MEN
5月11日新宿D.O.M「REBEL LIVE」　(共)ROCKY & THE SWEDEN、KGS、The heck、NAKED YEGGS(仙台)　26日新宿D.O.M「東京沈没」　(共)PIGMEN、IDOL PUNCH、STRUGGLE FOR PRIDE　(問)各会場

●COOL WISE MEN
5月5日渋谷O-NEST　(問)03-5720-9999HOT STUFF

●CUBISMO GRAFICO FIVE
5月20日恵比寿MILK　22日大阪野外音楽堂「RUSH BALL 7」　23日名古屋ハックフィン　(共)NANANINE、COME BACK MY DAUGHTERS　7月3日新宿ロフト　(共)Oi-SKALL MATES　(問)03-3511-9920NIW! RECORDS

●DON FLAMES
5月7日難波ロケッツ「APOCALYPSE VOW vol.3」　(共)BOXED IN、IDOL PUNCH、BLOOD OUT、VIBRATIONS、EVERREADY、EX-C、MASTERPEACE、HC ASSASSIN　(問)会場

●DONUT MAN
「RETURN OF DONUT DUDE TOUR 04」→5月1日横浜club 24 WEST　6日甲府CONVICTION　7日沼津NOIR　8日伊勢QUESTION　10日神戸STARCLUB　11日米子BELIER　13日福岡DRUM SON　14日大分TOP'S　15日宮崎SR-BOX　17日都城LIVE HOUSE MORAL　19日鹿児島SR-HALL　20日熊本DRUM Be-9　21日長崎DRUM Be-7　22日佐賀GEILS　6月11日厚木THUNDER SHAKE　18日酒田MUSIC FACTORY　19日仙台MACANA　20日郡山#9　22日新潟JUNK BOX Mini　23日長野LIVE HOUSE J　7月2日下北沢シェルター　(問)各会場

●eastern youth
5月30日渋谷クアトロ　(共)NOTALIN'S　(問)03-3444-6751SMASH

●EXPLOSION SACK
5月8日大阪アメリカ村KING COBRA　(共)SICK ON THE BUS、EXTINCT GOVERNMENT、ORdER、THE BLAST、他　28日大阪心斎橋新神楽　(共)cries、武羅吸鉄怒、他　6月25日大阪心斎橋新神楽　(共)THE BLAST、SAVAGE、他　(問)各会場

●fabulousplanes
5月14日神戸BACK BEAT　6月18日下北沢シェルター　7月9日大阪ファンダンゴ　(問)各会場

●FLOCK
5月30日盛岡club CHANGE　(共)KEN YOKOYAMA　(問)会場

●the futures
5月3日大阪新世界ブリッジ　(共)9 SHOCKS TERROR、VIVISICK、ULTIMO RAUSEA、Nightmare　28日塚本ELEBATE　(共)idea of a joke、BAAAD NEWS、ANTONIO THREE、ミドリ、BV V-5　6月18日西荻窪WATTS　(共)CRUCIAL SECTION、OUT OF TOUCH、他　25日心斎橋鰻谷サンスイ　(共)URBAN TERROR、ANGEL OD、OUT OF TOUCH、TECHNOCRACY　(問)各会場

●FUCK ON THE BEACH
5月7日高円寺20000V　14日大久保ホットショット　6月18日高円寺GEAR　19日池袋手刀　(問)各会場

●GORILLA ATTACK
5月2日仙台MACANA　3日郡山#9　4日新潟club JUNK BOX mini　5日長野LIVE HOUSE J　28日福岡DRUM SON　29日広島BADLANDS　(問)各会場

●GREENMACHiNE
5月28日金沢香林坊ハーバー「FUTURE DAZE Vol.4」　(共)CORRUPTED、SPIRAL COLLECTIVE、他　29日福井BUTTER　(共)CORRUPTED、SUPER NEGATIVE KING、SPIRAL COLLECTIVE、COLLAPSED STATE　7月17日福井HALL BEE　(共)SPIRAL COLLECTIVE、SUPER NEGATIVE KING、HELLSPEEDBUTCHER、REVOLT、ZENOCIDE　(問)各会場

●GUILLOTINE TERROR
5月7日大阪心斎橋新神楽　(共)殺悪愚、VAGERKE、JACK THE RIPPER、KERBEROS、他　6月11日高円寺20000V　(共)DIE YOU BASTARD!、GRUESOME(大阪)、雷矢、GORE BEYOND NECROPSY　12日新宿URGA「STREET ANARCHISM vol.50 50回記念スペシャル」　(共)AGE(新潟)、鍾馗(大阪)、FRAMTID(大阪)、EFFIGY(香川)、魏延斬馬岱(名古屋)　(問)各会場

●HAVENOT'S
5月1日広島カフェボーダー　3日福岡バタフライ　4日熊本Django　5日鹿児島SRホール　7日松江グループマシーン　14日新宿redcloth　15日横浜元町BAR GIG　(共)ZEROFAST、MAKEWONDER、WELLWELLS、BEERSECT、NOBUO-SOLO　21日三軒茶屋ヘブンスドア　26日横浜club 24 WEST　(共)J CHURCH、HARDSKIN、ZEROFAST　(問)各会場

●JUNIOR
5月5日LIQUIDROOM ebisu「MOSHBOYZ」　(共)BATTLE OF NINJAMANZ、日本脳炎、他　14日足利BBC CLUB　(共)SPIKE、麒麟、他　(問)各会場

●KiM
「WARRIOR TOUR」→5月29日磐田FM STAGE　(共)BRAVE、他　6月4日新潟JUNK BOX mini　(共)DERIDE、ALLEGIANCE、HEART WORK　25日京都WHOOPEE'S　(共)KELBEROS、DERIDE、BRAVE、ALLEGIANCE、クラウドエナジーハート　7月17日池袋マンホール　(共)仁籟、猿臂　(問)各会場

●KINSMEN
5月13日仙台バードランド「CLENCH THE FIST vol.151」　(共)The Slowmotions、日本脳炎、THE BASEMENTS、NAKED YEGGS、ザ・マンチーズ、カマキリブルース　(問)会場

●THE KNOCKERS
5月8日札幌KLUB Counter Action　(共)CTR狂い咲きサンダーロード、The Slowmotions、THE BASEMENTS、他　21日札幌KLUB Counter Action　(共)NO MORE PAIN、他　(問)各会場

●LAST TARGET
5月1日高円寺20000V「BuGRADS! 10周年記念こぶさたトンマ5」　(共)BuGRADS、TAISHO、SPANDEX、BREAKfAST、THE VICKERS　5日新宿club DOCTOR「AWA vol.6」　(共)BUBBLELOVELE、The Croagh Patrick、The HIGH-TIMES、HAPPY TRiGGER、OVER DRIVE　21日初台WALL　(共)ELECTRIC SUMMER、他　27日池袋マンホール　28日新宿ACBホール「HARD SKIN JAPAN TOUR」　(共)HARD SKIN、ROYAL SHAMROCK、大将、EVIL SUBSTITUTE、BOOTed COCKS、SIGN OF LIFE、BENKEI　29日下北沢シェルター「YOUTH ANTHEMレコ発EVERLASTING TRACKS TOUR」　(共)YOUTH ANTHEM、THE VICKERS、THE CHERRY COKES　6月12日大阪ファンダンゴ「YOUTH ANTHEMレコ発EVERLASTING TRACKS TOUR」　(共)YOUTH ANTHEM、他　26日名古屋ハックフィン「YOUTH ANTHEMレコ発EVERLASTING TRACKSTOUR」　(共)YOUTH ANTHEM、NOT REBOUND、他　7月3日池袋手刀「Oi! Oi!Oi!the 2chorus」　(共)AxTxS、ハカイハヤブサ、HAPPY TRiGGER、他　(問)各会場

●LIDLESS TOYBOX
5月2日仙台MACANA　3日郡山#9　4日新潟club JUNK BOX mini　5日長野LIVE HOUSE J　(問)各会場

●LINK 13
5月14日初台WALL　6月25日千葉LOOK　(共)SA、ROBIN、CRACKS、HOT & COOL、他DJ　26日千葉LOOK　(共)LAUGHIN' NOSE、MAD 3、SPIKE、MAD MACHINE、他DJ　(問)各会場

●Lonesome Dove Woodrows
5月14日新宿ロフト「厳しい業界2005谷津薫〜fuckin birth day party〜」　(共)30%LESS FAT、ONE TRACK MIND、ロリータ18号、GELUGUGU、DJ:ISHIKAWA　(問)03-5272-0382ロフト

●LOSALIOS
5月28日日比谷野外音楽堂　(問)03-3444-6751SMASH

●THE MACK SHOW
「爆発!ナナハンTOUR 暴走列島'80」→5月1日長野JUNK BOX　2日大宮HARTS　7日岐阜BRAVO　8日奈良NEVER LAND　10日和歌山OLD TIME　13日高知BAY 5 SQUARE　14日今治ジャムサウンズ　17日神戸STAR CLUB　18日和田山HIGH GAIN　20日佐賀RAG-G　21日福岡CB　22日大分日田SCAR FACE　27日飯塚第三倉庫　28日天草STEP HALL　29日久留米GEILS　30日徳山ブギーハウス　6月3日広島ナミキジャンクション　5日大阪DROP　10日札幌PIGSTY　11日旭川HI JACKS ON　12日北見夕焼け祭り　14日中標津JETZ　15日帯広REST　17日美唄Y's 21　18日室蘭　19日函館FRIDAY NIGHT CLUB　21日青森サンシャイン　22日秋田club SWINDLE　24日仙台enn　25日福島OUT LINE　26日山形SANDINISTA　27日宇都宮VOGUE　7月1日浜松MECALINE DRIVE　2日豊橋LAHAINA　3日山梨フィフティーズ　(問)各会場

●LOW IQ 01
5月20日LIQUIDROOM ebisu「MOBSTYLES 5th ANNIVERSARY EVENT」　(共)湘南乃風、10 FEET、他　6月25日札幌市民会館　(問)各会場

●MAD 3
5月28日八王子RIPS　(共)THE YOUNG MAN PSYCHO BLUES、NYLON、夜のストレンジャーズ、GOLDEN YEARS　6月18日国分寺MORGANA「MAD 3ONE MAN LIVE」　(問)各会場

●MONEY IS GOD
5月6日高円寺20000V「TOKYO DOOM」　(共)BINARY SCALE、REEXAMINE、他　6月19日高円寺20000V「CORETIC PERDITION vol.39」　(問)各会場

●MOTHER MADE CHERRY PIE
5月14日新宿D.O.M「ソウウツ病vol.5」　(問)会場

●MURDER STYLE
5月22日名古屋ハックフィン「IT'S COLD OUTSIDE vol.17」　(共)LIPSTICK KILLERS、JET ROLLERS、MONSTERDRAG、MIRROR BALLS　25日新宿D.O.M　(共)日本脳炎、The Slowmotions、THE BASEMENTS　(問)各会場

●NAKED YEGGS
5月1日仙台バードランド「CLENCH THE FIST vol.150」　(共)SICK ON THE BUS、EXTINCT GOVERNMENT、ORdER、ANGER、STINK GASPERS　11日新宿D.O.M　(共)COLORED RICEMEN、ROCKY & THE SWEDEN、KGS、The heck　13日仙台バードランド「CLENCH THE FIST vol.152」　(共)The Slowmotions、日本脳炎、THE BASEMENTS、KINSMEN、ザ・マンチーズ、カマキリブルース　25日仙台バードランド「CLENCH THE FIST vol.153」　(共)COBRA、FUNGUS、BULL HEAD、ラクガキ　27日仙台バードランド「CLENCH THE FIST SPECIAL NAKED YEGGS 10周年」　(共)PASSING TRUTH DRIVE、ANGER、BULL HEAD、ザ・マンチーズ　(問)各会場

●nationstate
5月3日大阪心斎橋新神楽「REAL RAW ATTACK TOUR 2005」　(共)SOUL CRAFT、VIBRATIONS、ATTEMPT、他　4日難波ベアーズ「臓恚」　(共)8000(静岡)、NAUGHT IN THE MISERY、他　29日大阪花博記念・鶴見緑地公園「共走・共生リレーマラソン」　(問)各会場

●NAUGHT IN THE MISERY
5月4日難波ベアーズ「臓恚」　(共)nationstate、8000(静岡)、HEARTWORK　6月11日難波ベアーズ「A LIBERATED ASPI

RATION」 ㊒EVILSPEAK(東京)、ZOE、殺悪愚SAAG ㊐会場

●NICE VIEW

5月3日名古屋ハックフィン ㊒the futures、他 14日下北沢ERA ㊒ECD、他 20日江ノ島オッパーラ ㊒DISCLOSE、他 21日大阪ファンダンゴ ㊒Suspiria、他 6月18日仙台バードランド ㊐各会場

●NINE

5月5日LIQUIDROOM ebisu「MOSH BOYZ」 ㊒BATTLE OF NINJAMANZ、SA、BRAHMAN、JUNIOR、雷矢、他 ㊐会場

●9 BALL

5月8日新宿ACB 16日渋谷O-WEST ㊐各会場

●Oi-SKALL MATES

7月3日新宿ロフト ㊒CUBISMO GRAFICO FIVE ㊐会場

●OVERALL⑦

5月28日池袋マダムカラス「COCONUT CRUSH vol.58」 ㊒MYSTERY ISLAND、他 ㊐03-5396-0690マダムカラス

●PASSING TRUTH DRIVE

5月17日盛岡club CHANGE 27日仙台バードランド「CLENCH THE FIST SPECIAL NAKED YEGGS 10周年記念」 ㊒NAKED YEGGS、ANGER、BULL HEAD、ザ・マンチーズ、他 ㊐各会場

●PEALOUT

6月11日福岡DRUM SON 18日札幌ペッシーホール 24日名古屋クアトロ 26日大阪クアトロ 7月1日渋谷クアトロ ㊐03-3444-6751SMASH

●POTSHOT

6月15日福岡DRUM SON 16日広島ナミキジャンクション 18日大阪クラブクアトロ 19日名古屋クラブクアトロ 23日仙台JUNK BOX 25日新宿ロフト 26日渋谷O-EAST ㊐各会場

●RAISE A FLAG

5月14日新宿club DOCTOR ㊒ザ☆ペラーズ、秋茜、GLC、他 29日新宿ACBホール ㊒HARD SKIN、HAT TRICKERS、TOM & BOOTBOYS、UNITED WE STAND、THE ERECTIONS、THE 69YOBSTERS、ROYAL BUSTER ㊐各会場

●ROBIN

5月7日さいたま新都心VOGUE「SOUL CRAZE 2005狂騒編」 14日沖縄mail stone「ROCK'N'ROLL DISCO!! 7th DANCE」 20日酒田MUSIC FACTORY 21日盛岡club CHANGE「AMAZING MADNESS 1st ANNIVARSARY SPECIAL!!」 28日新宿アンチノック「JAPANESE PSYCHO vol.3」 6月9日下北沢シェルター「SOUL CRAZE 2005 狂騒編」 24日下北沢club 251「BILLY'S WEEKENDER」 25日千葉LOOK「EXTREAM ATTITUDE vol.30 THANK YOU 30th!!」 7月16日新宿club DOCTOR「SLAP OF CEMETARY」 30日浜松 ㊐各会場

●ROCKY & THE SWEDEN

5月11日新宿D.O.M ㊒COLORED RICEMEN、KGS、The heck、NAKED YEGGS 15日町田PLAYHOUSE ㊒COOLER KING McQUEEN、SOBUT、マイナーリーグ ㊐各会場

●R.O.M

5月3日大阪心斎橋新神楽 ㊒SOUL CRAFT、VIBRATIONS、他 8日大阪アメリカ村KING COBRA ㊒EXTINCT GOVERNMENT、ORdER、他 22日神戸 ㊒NICKY & THE WARRIORS、R.I.P、他 28日尼崎DEEPA ㊒バラケッツ、OVER DRIVE、DAMN STRIP、他 ㊐各会場

●RUDE BONES

5月1日・17日川崎クラブチッタ ㊐03-3511-9920SKA IN THE WORLD

●THE RYDERS

5月11日新宿ロフト 6月4日札幌KLUB Counter Action 12日大阪ベイサイドジェニー ㊐各会場

●SILVERBACK

5月21日新宿D.O.M ㊒TERROR SQUAD、DIE YOU BASTARD!、VACUUM 22日浜松メスカリンドライブ ㊒VACUUM、TERROR SQUAD、DIE YOU BASTARD!、他 28日札幌KLUB Counter Action ㊒DIE YOU BASTARD!、VACUUM、TERROR SQUAD ㊐各会場

●SOUL CRAFT

5月1日姫路BETA 2日伊勢QUESTION 3日大阪心斎橋新神楽 4日広島ネオポリスホール 5日博多KIETH FLACK ㊐各会場

●SPIKE

5月14日足利BBC CLUB ㊐会場

●SPIKE SHOES

5月6日仙台バードランド ㊒9 SHOCKS TERROR(U.S.A)、VIVISICK ㊐会場

●SPIRAL CHORD

5月19日大阪アメリカ村PIPE 69 20日名古屋ハックフィン 21日下北沢シェルター 6月2日札幌KLUB Counter Action ㊐各会場

●THE STAR CLUB

「A BREACH OF THE PEACE TOUR」→5月1日さいたま新都心VOGUE 3日名古屋クアトロ 4日大阪アメリカ村KING COBRA 6日浜松MESCALIN DRIVE 8日新宿ロフト 14日福島OUTLINE 15日秋田club SWINDLE 17日帯広STUDIO REST 18日北見夕焼け祭り 20日旭川CASINO DRIVE 21日札幌PIGSTY 23日八戸ROXX 24日弘前MAG-NET 26日盛岡club CHANGE 27日酒田MUSIC FACTORY 29日新潟LIVE SPACE Z-1 30日仙台club JUNK BOX 6月8日稲毛K's DREAM 9日高崎club FLEEZ 11日京都MUSE HALL 12日岐阜BRAVO 14日松本RIDE OUT 15日豊橋ラハイナ 17日神戸STARCLUB 18日津山STUDIO K2 20日小倉BAGOO 22日鹿児島SR HALL 23日宮崎SR BOX 25日福岡DRUM Be-1 26日大分日田SCARFACE 28日熊本DRUM Be-9 29日久留米GEILS 7月1日広島ナミキジャンクション 2日米子BELIER 4日徳島JITTERBUG 5日姫路BETA 7日金沢AZ HALL 8日福井CHOP 10日富山club MAIRO 11日長野LIVE HOUSE J 17日大阪MUSE HALL 18日名古屋クアトロ 23日沖縄会場未定 24日那覇club mnD 29日渋谷クアトロ(FINAL) ㊐03-3666-6906CLUB THE STAR

●STINK GASPERS

5月1日仙台バードランド「CLENCH THE FIST vol.150」 ㊒SICK ON THE BUS、EXTINCT GOVERNMENT、ORdER、ANGER、NAKED YEGGS 4日仙台バードランド「CLENCH THE FIST vol.151」 ㊒ゲンドウミサイル、ザ☆ペラーズ、愚弄、MILK SODA、BULL HEAD 30日仙台JUNK BOX ㊒THE STAR CLUB、LANDSCAPE ㊐各会場

●THE STUBBORN FATHER

5月8日難波ベアーズ ㊒DIBORCE、GRIDLOCK、FORTITUDE ㊐会場

●STUPID BABIES GO MAD

7月9日三軒茶屋ヘブンスドア ㊒HOWLING GUITAR、DAIOXIN'S、NAKED YEGGS、SARIERI、RANGSTEEN ㊐会場

●SUNS OWL

5月3日渋谷サイクロン「LUST FOR LIFE 3」 ㊒チャクラ、ASSFORT、SOBUT、MINOR LEAGUE、コーガニズムオーケストラ、東京ピンサロックス、SURVIVE、ソープランド揉美山、UP HOLD、CULT OF PERSONALITY、NEVERFEAR、サルサガムテープ、地球楽団、他 6月4日難波ロケッツ ㊐03-3469-1986/1138

●THE TACHOMETERS

5月5日八王子Match Vox 7日大阪アメリカ村PIPE 69 8日愛知幸田ROSE COLOR 14日横浜本牧J & K BAR 20日・28日国分寺MORGANA ㊐070-5597-3152RADIATOR RECORDS

●TECHNOCRACY

5月4日大阪アメリカ村PIPE 69 ㊒EEVEE、CONGA FURY、SHOKI、S.O.B 6月11日難波ロケッツ ㊒BOXED IN、THE HAWKS、B-SIDE APPROACH、バミューダ☆バガボンド、H.C.ASSASSIN、ROUGH ROCK POSSEST ㊐各会場

●TOP SARU-JAH

5月1日新宿D.O.M ㊒ブルースビンボーズ 18日新宿D.O.M ㊒カトレナ ㊐各会場

●YOUNG PARISIAN

5月14日松本RIDE OUT「FUN TIME」 ㊒THE KILLTIMES、ザ・ノウ、3rd Culture Kids、SHANACATS、他 ㊐会場

●YOUTH ANTHEM

5月14日岩国SQUAD(ex.666) 15日広島CAVE BE 29日下北沢シェルター ㊐各会場

●ZERO FAST

5月3日佐賀鳥栖VAPEUR 4日小倉MEGAHERTZ 15日横浜元町BAR GIG 22日新宿D.O.M 26日横浜club 24 WEST ㊐各会場

●牙

5月21日名古屋車道Z ㊒THE BLAST、JACK THE RIPPER、他 ㊐会場

●the原爆オナニーズ

5月3日名古屋クアトロ ㊒THE STAR CLUB、他 21日新宿ロフト「新宿ロフト6th Anniversary RHYTHM OF FEAR」 ㊒DMBQ、MASONNA 6月11日新宿club DOCTOR ㊒SAMURAI、F.O.A.D、ROCKY & THE SWEDEN 18日名古屋ダイアモンドホール ㊒銀杏BOYZ、他 7月9日初台DOORS 8月6日名古屋クアトロ「HARDCORE MATINEE vol.2」 ㊒OUTRAGE、CHURCH OF MISERY、GREENMACHiNE、GARADAMA、TECHNOCRACY、ETERNAL ELYSIUM、他 9月3日下北沢シェルター ㊒FORWARD、スリップヘッドバッド、DELTA PUREE ㊐各会場

●鍾馗

5月4日大阪アメリカ村PIPE 69 ㊐http://www.a-spweb.com/shoki/

●雷一家

5月4日横浜7th AVENUE 5日八王子Match Vox ㊐各会場

●カトレナ

5月18日新宿D.O.M ㊒FINAL BOMBS、TOP SARU-JAH、やさぐれ ㊐会場

●ガンフロンティア

5月15日初台WALL ㊒RAW GAUGE、マシーンアニマル ㊐会場

●屍(しかばね)

5月3日初台WALL「raise hell vol.4」 ㊒MIND TOUCH、ANODE、ARRASTRANDOSE、Lhasa、Proud Of Grace 28日初台WALL「弱肉強食」 憎吸鬼亜、ASSAULT、東京ヤンキース、魏延斬馬岱 ㊐各会場

●ザ・ダラーズ

6月5日京都MOJO 11日名古屋SONSET STRIP ㊐http://www.dollars.jp

●髭楽団

「髭楽団の黒髭大ツアー2005」→5月1日旭川CASINO DRIVE 3日北見SLAG 4日帯広REST 5日釧路club GREEN 7日稚内総合文化センター小ホール 15日札幌KRAPS HALL ㊐各会場

●ニューロティカ

5月21日大阪BIG CAT 22日名古屋DIAMOND HALL 28日渋谷AX ㊐各会場

●バギングライフ

5月5日西荻窪WATTS「NOT LIVE vol.12」 ㊒The★CHARGE、HECTICS、SPIRIT SPIDERS、他 ㊐会場

●ブルースビンボーズ

5月1日新宿D.O.M ㊒TOP SARU-JAH 4日富士アニマルハウス 5日大阪club WATER 15日長野スタジオワン 24日新宿D.O.M ㊐各会場

●マリア観音/東介

5月27日吉祥寺シルバーエレファント ㊐0422-22-3331シルバーエレファント

●夢遊病

6月12日西荻窪WATTS「野望PROPAGANDA vol.2」 ㊒entamoeba、TOP SUICIDE、PEST、中学生棺桶、怒石流卍、マッハドリル、犬まがい 7月18日西荻窪WATTS「野望PROPAGANDA vol.3」 ㊒entamoeba、危児區、他 ㊐会場

●山口冨士夫(フジオ、チコヒゲ&レイ)
5月5日原宿クロコダイル 12日新宿D.O.M ㊐各会場
●雷矢
5月5日LIQUID ROOM ebisu ㊌BATTLE OF NINJAMANZ、BRAHMAN、ABRAHAM CROSS、SA、他 29日札幌KLUB Counter Action ㊌鐵槌、壬生狼、HYENA、スマイル、他 6月11日高円寺20000V ㊌DIE YOU BASTARD!、グルーサム、他 ㊐各会場
●『SET YOU FREE』
5月1日横浜FAD ㊌LINK、テルスター、メガマサヒデ、ワタナベイビー 6日新宿ロフト ㊌ASPARAGUS、locofrank、SLIME BALL 8日釧路club GREEN ㊌銀杏BOYZ、BAZRA 9日北見ONION STUDIO ㊌銀杏BOYZ、BAZRA 10日滋賀ハックルベリー ㊌LINK、陽、メガマサヒデ、ワタナベイビー、NO REGRET LIFE 11日奈良NEVER LAND ㊌LINK、lostage、ワタナベイビー、NO REGRET LIFE、FOUR THE MG 13日神戸STAR CLUB ㊌LINK、メガマサヒデ、ワタナベイビー、NO REGRET LIFE、他 15日広島ナミキジャンクション ㊌LINK、ワタナベイビー、lostage、NO REGRET LIFE、他 17日宮崎SR BOX ㊌フラワーカンパニーズ、LINK、NO REGRET LIFE、ワタナベイビー、サードクラス 18日鹿児島キャパルオホール ㊌フラワーカンパニーズ、LINK、NO REGRET LIFE、ワタナベイビー、サードクラス 20日熊本Django ㊌フラワーカンパニーズ、LINK、NO REGRET LIFE、ワタナベイビー、テルスター 21日佐賀GEILS ㊌LINK、ワタナベイビー、NO REGRET LIFE、テルスター、赤崎コンパ大学 22日長崎STUDIO DO! ㊌LINK、NO REGRET LIFE、赤崎コンパ大学、ワタナベイビー、テルスター、NO REGRET LIFE 24日博多ビブレホール ㊌LINK、NO REGRET LIFE、ワタナベイビー、FOUR THE MG 25日大分TOPS ㊌LINK、ワタナベイビー、NO REGRET LIFE、他 27日松山サロンキティ ㊌LINK、ワタナベイビー、NO REGRET LIFE、他 ㊐090-4451-8679SET YOU FREE
●『PUNK ROCK MAYDAY '05』
5月1日名古屋アポロシアター ㊌SA、SAMURAI、THE PRIVATES、THE ADDICTION、狂撃KRUW、CHAOS CH、MODEL CITIZEN、A.S.K、他 ㊐www3.to/thisistmw
●『いぬ屋敷』
5月3日池袋手刀「愚行三たびの間」 ㊌ゴキブリコンビナート、ビル、竹島蹄山グループ、他 ㊐03-5951-1127手刀
●『臙惹』
5月4日難波ベアーズ ㊌nationstate、8000(静岡)、NAUGHT IN THE MISERY、他 ㊐会場
●『SPIKIE PUNKS NEVER DIE vol.3』
5月4日初台WALL ㊌THE DiSCLAPTIES、SHIT-FACED、STAGNATION、4 SPIKES、BOOBS SHIT、THE EPIDEMIC ※入場者に完全当日限定デモ・テープ配布 ㊐会場
●『DEAD HEAT DISCO '05 TOUR』
㊌The Slowmotions/日本脳炎/THE BASEMENTS
5月5日新潟JUNK BOX ㊌BLOW BACK、VIVISICK、DERIDE、AGE、9 SHOCK TERROR 7日旭川CASINO DRIVE ㊌破廉恥、DEFLEXION、ENGAGE、THE SWANPY DALES 8日札幌KLUB Counter Action ㊌CTR狂い咲きサンダーロード、THE KNOCKERS 10日函館BAYCITY'S STREET ㊌CRUDE、MUSTANG 11日青森SUNSHINE ㊌EXIT、ROCK'in FIVE、TABROID 12日盛岡club CHANGE ㊌FLOCK 13日仙台バードランド ㊌NAKED YEGGS、KINSMEN、THE☆ MUNCHIES 15日神戸108 ㊌JOHNNY ROCKETS、TRAITOR、ティッシュ、LUCY & THE LIPSTIX、LAUKAUS、狂撃-KRUW-、the telepathys、199X 16日京都WOOPEES ㊌WARHEAD、CIDER♡77 18日小倉Dagoo ㊌悪意、FIASCO、PILLBOX、狢 20日和歌山GATE ㊌MILK COFFEE、THE RAINY NIGHTS、DART BOYS、S41、CHIMERA、マサカリ 21日三重QUESTION ㊌CONTRAST ATTITUDE、ACROSTIX、COME ON BABYS 22日豊田駅前公園 ㊌ORdER、ROTARY BEGINERS 24日浜松G-SIDE ㊌the LITTLE MIRRORS、GONE MAD、THE SCOOTERZ 25日新宿D.O.M ㊌MURDER STYLE、the telepathys (日本脳炎は5日11日12日13日20日21日22日25日のみ出演) ㊐各会場
●『PUNK@MIND』
5月5日新潟club JUNK BOX ㊌9 SHOCKS TERROR、The Slowmotions、VIVISICK、日本脳炎、THE BASEMENTS、AGE、BLOWBACK、DERIDE ㊐025-229-1494JUNK BOX
●『RADIATOR RECORDS presents BEAT the MEET 090-092』
5月5日八王子Match Vox ㊌THE TACHOMETERS、雷一家、総裁、SWAY ON、geeks、他 14日横浜本牧J & K BAR ㊌THE TACHOMETERS、サザンクロス、SHAPEEN!、他 28日国分寺MORGANA ㊌THE TACHOMETERS、THE ORIENTAL MOTORS、他 ㊐070-5597-3152RADIATOR RECORDS
●『TOKYO HEAD BATT』
5月7日新宿club DOCTOR(オールナイト) ㊌RISING SUN、葉隠、F.O.A.D、龍神、他 ㊐03-5337-1659DOCTOR
●『GANBAN LIVE POOL vol.1』
5月10日渋谷クアトロ ㊌JUDE、BUFFALO DAUGHTER、ADVENTURE ㊐03-3444-6751SMASH
●『本質追究同盟歌激派』
5月20日池袋ADM ㊌中学生棺桶、ミヤマGt.、拾参病棟、GAJIRO、ビル、他 ㊐会場
●『DEAD ROCK DAY vol.7』
5月22日大分日田SCAR FACE ㊌THE MACK SHOW、ロレッタセコハン、SILENT FLOWER、CALL & RESPONSE、THE BOOGIE MEN、RADIO JACK、他DJ'S ㊐0973-27-6644 DEAD ROCK STREET
●『IT'S COLD OUTSIDE vol.17』
5月22日名古屋ハックフィン ㊌MURDER STYLE、LIPSTICK KILLERS、JET ROLLERS、MONSTERDRAG、MIRROR BALLS ㊐会場
●『KLUB Counter Action 10周年記念WEEK』
5月27日 ㊌bloodthirsty butchers、qodidop 28日 ㊌SILVER BACK、DIE YOU BASTARD!、VACCUM(浜松)、TERROR SQUAD、他 29日 ㊌鐵槌、雷矢、壬生狼、HYENA、smile、他 30日 ㊌SUPERSNAZZ、GIMMIES、他 31日 ㊌PHOBIA OF THUG、YUKIGUNI、ANSWER TO NO ONE、FROM I STEP、他 6月1日 ㊌KENZI & THE TRIPS、他 2日 ㊌SPIRAL CHORD 4日 ㊌THE RYDERS 10日 ㊌仲野 茂、遠藤ミチロウ 11日 ㊌ENVY、THE SUN ㊐会場
●『EROSTIKA and DECKREC RECORDS presents WEEKEND FAN CLUB』
5月28日新宿redcloth ㊌JACKIE AND THE CEDRICS、The 5,6,7,8,s、Oi-SKALL MATES、THE MIGHTY MOGULS ㊐会場
●『中井風徳企画』
6月11日西荻窪WATTS ㊌THE WEEKENDER、THE BASEMENTS、DISEASED KIDS、ROSY CAT BABY、CxPxS、ガジロ ㊐会場
●『ZEPP札幌スペシャル!』
6月12日ZEPP SAPPORO「vol.1」 ㊌eastern youth(東京)、ENVY(東京)、BRAHMAN(東京)、壬生狼、他 ㊐会場
●『STREET ANARCHISM vol.50 ~50回記念スペシャル~』
6月12日新宿URGA ㊌GUILLOTINE TERROR、鍾馗(大阪)、魏延斬馬岱(名古屋)、AGE(新潟)、FRAMTID(大阪)、EFFIGY(香川) ㊐090-8810-7232BATTLE PLANNING
●『日下開山』
6月19日池袋マンホール ㊌CRAWLER、BENKEI、SHORTRANGE、波山(筑波)、ROYAL BUSTER(山梨) ㊐会場
●『EXTREME ATITUDE vol.30 THANK YOU 30th SPECIAL 2 DAYS』
6月25日千葉LOOK ㊌LINK 13、SA、ROBIN、CRACKS、HOT & COOL、Guest DJ 26日千葉LOOK ㊌LINK 13、LAUGHIN' NOSE、MAD 3、SPIKE、MAD MACHINE、Guest DJ ㊐会場
●『STREET ANARCHISM TOUR 2005』
㊌GUILLOTINE TERROR/鍾馗
7月10日新宿URGA「GUILLOTINE TERROR企画」 23日名古屋鶴舞DAYTRIP「魏延斬馬岱企画」 8月6日四日市club CHAOS「ACROSTIX企画」 13日小倉バグー「悪意企画」 14日鹿児島「LIFE CONSUMED企画」 16日広島「ASPHALT企画」 20日大阪「鍾馗企画」 21日姫路「鍾馗企画」 27日前橋ラタン「DIOXIN'S企画」 28日新潟「AGE企画」 9月10日仙台バードランド「DESECT企画」 17日名古屋ハックフィン「九狼吽企画」 19日いわきSONIC「DESECT K.H企画」 20日秋田SWINDLE「錯企画」 22日盛岡club CHANGE「FLOCK企画」 23日札幌KLUB Counter Action「STRAIGHT UP RECORDS企画」 24日旭川カジノドライブ「DEFLECTIONS企画」 25日函館「MUSTANG企画」 10月8日・9日新宿URGA「GUILLOTINE TERROR企画」 ㊐各会場
●『STRAIGHT UP NITE』
7月23日新宿ロフト ㊌壬生狼、雷矢、鐵槌、他 ㊐会場
●『THUG LIVE!!』
6月24日新宿クラブ・ドクター ㊌F.O.A.D、ANTICLOCK WISE、RED ROCK、マングース ㊐03-5337-1659ドクター

次号は6月1日に発売されます。

編集後記

これまでにもフィンランド、スウェーデン、メキシコなど、各国のパンク・シーンを取りあげてきた。ある程度の情報量が確認出来れば、今後もそういったあまり紹介されていない国や地域ごとのシーンを紹介していきたいと思う。今回はオランダのシーン・レッドが来日したことで、それに合わせてオランダのシーンにスポットを当ててみた。

ギターウルフのベーシスト、ビリー氏が亡くなられたのは既にご存じであろう。あまりの急な訃報に大きなショックを受けた。眠るようなその姿を前に目頭が熱くなり胸が詰まる思いだった。最後のお別れを告げて斎場を後にした。「素晴らしいロックンロールをありがとう」。（塚本利満）

■定期購読

6号分　3,300円+　660円(送料)
12号分　6,600円+1,320円(送料)

お申し込み方法

住所、氏名、年齢、職業等の必要事項と何号からの定期購読かを必ず明記の上、（株）ドール／定期購読係宛に郵便為替、又は現金書留にてお申し込み下さい。

■最新号、バックナンバーのご注文は、編集部でもお受け出来ますが、なるべくお近くの書店にてお申し込み下さい。

DOLL6月号（No.214）
2005年6月1日発行　月刊（毎月1回1日）
第26巻第6号通巻第214号
編集長　塚本利満
発行人　相川和義
デザイン　赤塚ラヂヲ/Creative Insect Fakie！
発　行　(株)ドール　東京都杉並区高円寺北3-1-9　青田ビル303　〒166-0002
TEL03-3339-1952(代)　FAX03-3339-1994
印　刷　凸版印刷株式会社
DOLL HP:http://www.doll-mag.co.jp

ミキシングルームの応募について

以下の事項をよく読んで送って下さい。

■必ず下にある「応募用紙」を使うこと。さらに自分の住所を書いた官製ハガキと応募用紙を同封し、宛名にミキシング係と書いて送って下さい。
■読みやすい字で、黒の鉛筆かペンを使ってキチンと書くこと。商売を目的にした内容、規定外や生写真、ダビング・テープを売る・買う等の著作権に反するものは掲載できません。
■郵便番号（都道府県から）、氏名（フルネーム）、希望により電話番号記入。
■採用は先着優先抽選とし、規定人数に達した時点で打ち切ります。競争率が非常に高いので感想等を同封すると掲載の可能性が高くなります。採用された方にはハガキにハンコを押して返送いたします。
■内容の変更、削除、電話による問い合わせは一切応じません。また、掲載内容による当事者間の連絡連絡及びトラブルに関しては、当「ドール」は一切関知せず、また責任も負いかねます。
■〆切は発売月の20日です。

〈記入例〉

■女性Vo.急募。当方、クランプス、レヴィロス、デッド・ビーツ、ランナウェイズ、etcゴチャ混ぜでフッ飛ばしたような、エンジン全開ウルトラハイパートラッシュロッキンパワーポップガールズバンド！ベティペイジばりのVo.連絡ヨコセ！
〒166-1111 東京都杉並区高円寺北3-1-9青田ビル303 ☎03-3339-1952 氏名フジミネコ

■

〒　　－　　住所

☎　　氏名

DOLL6月号（NO.214）

■ミニコミ/サークル会員募集■手紙下さい■メンバー/バンド募集■売りたし/買いたし

DOLL BACK NUMBER!!

●NO.172(2001.12)
★表紙＝オキシモロン／ドイツ・パンク・シーン／マッド３／スーパースナッズ／ハング・オン・ザ・ボックス／キティ／ザ・ストリートビーツ／フルスクラッチ／グレイド／プリング・ティース【僅少】

●NO.178(2002.06)
★表紙＝H2O&ナイン・リヴス／ザ・ブライアン・セッツアー・オーケストラ／リーヴァイ・デクスター／バッド・マナーズ／THE5.6.7.8'S／屍／宇頭巻／サンディエスト／ホット&クール／壬生狼ドイツ・ツアー【僅少】

●NO.181(2002.09)
★表紙＝デッド・ボーイズ／トニー・ジェームス／バンタ／チャイニーズ・パンク・シーン／ジャパニーズ・ガールズ・バンド／D.R.I／ザ・サイドバーンズ／タートル・アイランド／フィフィ&ザ・マッハ3【僅少】

●NO.184(2002.12)
★表紙＝ラット・スキャビーズ～ダムドの歴史を語る／ディスオーダー／コンチネンタル・キッズ／ハスキング・ビー／レベル・イェル・ミュージック／D.S.-13／ロジャー・ミレット&ディザスターズ【僅少】

●NO.185(2003.01)
★表紙＝ホリディ・イン・ザ・ライジング・サン（レポート&コックニー・レジェクツ／アディクツetc）／ブラジル・パンク・シーン／ケムリ／レストレス／ヒカゲ&J.OHNO対談／ショートサーキット【僅少】

●NO.186(2003.02)
★表紙＝デッド・ケネディーズ／スナッフ／ハノイロックス／マーキー・ラモーン&スピード・キングス／九州ハードコア・シーン・レポート／モモヨ／オイ・スカル・メイツ／イエロー・マシンガン【僅少】

●NO.187(2003.03)
★表紙＝ナパーム・デス／特集=グラインドコア／ジョー・ストラマー・デッド／80年代東京・関西パンク再考／レンチ／モーターヘッド／THEビーズ／ジェイミー・レイドVSシェパード・フェイレイ

●NO.189(2003.05)
★表紙＝クロマグスNYC／グラム・ロック特集／マッド・シン・ツアー・レポート／MCRディスコグラフィー#4／ザ・グリフィン／エイト・メン／バズコックス／日本のガレージ検証／リーチ

●NO.191(2003.07)
★表紙＝ターボネグロ／ザ・ライダーズ／パール・ハーバー／ディスクローズ／ザ・ストラマーズ／テキサコ・レザーマン／ドクター・オブ・マッドネス／韓国パンク・シーン完全ガイド／秋田シーン・レポート

●NO.192(2003.08)
★表紙＝ドロップキック・マーフィーズ／アイリッシュ・パンク・ディスク・ガイド／マッド３／宙也（アレルギー～LOOPUS）／ジャーマン・ニューウェイヴ77～83／ロックステディ～オリジナル・スカ

●NO.193(2003.09)
★表紙＝リーバイ・デクスター／初期USネオ・ロカビリー／ロカスト／レトロ・グレッション／東京クラスト・アナーコ・パンク・シーン／ナッシュビル・プッシー／ローズ・ローズ／ケムリ／ジェロニモ

●NO.195(2003.11)
★表紙＝ブロンディ／ザ・リヴィング・エンド／ザ・バッツ／ヒストリー・オブS.O.B／トム&ブートボーイズ／キャンディ／ボットショット／BOXED IN／バンダラズ／ブラッドサースティー・ブッチャーズ

●NO.196(2003.12)
★表紙＝USストリート・パンク／アンチシーン／男道レコード／名古屋サイコビリー・シーン／ボズ（ex.POLECATS）&スティーヴ・フッカー／ザ・スカタライツ／ミスフィッツ／V.A.ゲット・ザ・パンク

●NO.197(2004.01)
★表紙＝ジョーン・ジェット／カオスU.K／オフスプリング／ザ・ディスティラーズ／THE原爆オナニーズ／西日本若手Oi!スキンヘッド・バンド／名古屋パンク・ハードコア／Minato Yokohama Burning Core

●NO.198(2004.02)
★表紙＝ロンドン・パンク77（パンク・イン・ロンドン、D.O.A.監督インタビュー／ミュージシャンズ・セレクション・ベスト5、検証、etc）／ギターウルフ／ザ・コルツ／広島パンク・ハードコア・シーン

●NO.199(2004.03)
★表紙＝ニッキー・コルベッツ／70's 80's USパワーポップ／バルザック／ディスチャージ／マッドボール／K.O.G.A.レコード・ディスコグラフィー／日本のストリート・パンク／ジェット・ボーイズ

●NO.201(2004.05)
★表紙＝G.B.H×ランシド／ザ・マッド・カプセル・マーケッツ／デッド・ケネディーズ／イタリアン・スキンヘッズ・ヒストリー&バンド／柴山俊之ヒストリー／札幌パンク・シーンVol.2／ジョン・フォックス

●NO.202(2004.06)
★表紙＝80年代フィンランド・ハードコア特集／ジョーン・ジェット／アンセイン／ザ・スタークラブ／ザ・ストゥージズ・ライヴ・レポート／仙台パンク・ハードコア・シーン／日本・韓国Oiバンド紹介

●NO.203(2004.07)
★表紙＝ホラーポップス／ネクロマンティックス／タイガーアーミー／バトル・オブ・ニンジャマンズ／ザ・カジュアリティーズ／パティ・スミス／バッド・レリジョン／アスフォート／勝手にしやがれ

●NO.204(2004.08)
★表紙＝80年代スウェーデン・ハードコア特集／MOB47／ギターウルフ／ザ・モッズ／リヴィング・エンド／スティフィーン・レコーズ／あぶらだこ／SA／アボイテッド／BEST PRICE OF PUNK ROCK UK編

●NO.205(2004.09)
★表紙＝ナパーム・デス／グラインド・コアの誕生と流れ／スティッフ・リトル・フィンガーズ／ヘイズン・ストリート／ジゴロ13／ソバット／イースタンユース／THE 5678's EURO TOUR 2004 Part1

●NO.206(2004.10)
★表紙＝ジャームスとLAパンク／ディック・ルード監督が語るジョー・ストラマー／カコフォーニャ／フォワードUSツアー・レポート／リンク13／ファイナル・ボムズ／アグレッシヴ・ドッグス／TORUxxx

●NO.207(2004.11)
★表紙＝オプレスド（インタビュー／ヒストリー／ディスコグラフィー／Oi!レコード）／ケムリ／日本脳炎／ザ・ダムド／大江慎也／クリンゴンズ／ブラック・キャッツ／アルケミー・レコード～非常階段

●NO.208(2004.12)
★表紙＝ディスチャージ／Dビート総括／ニューヨーク・ドールズ／ヘレシー／スラッシュ・メタル検証／サムライ／ジャパニーズ・ガール・ミーツ・パンク2004／ロビン／POGO77レコード／ニコチン

●NO.209(2005.01)
★表紙＝ソーシャル・ディストーション／ポイズン・アイディア／ザ・モッズ／ラーズ・フレデリクセン／バットモービル／クロスオーヴァー検証／ディスクローズUSツアー／関西若手ハードコア系バンド紹介

●NO.210(2005.02)
★表紙＝メキシコ・ハードコア／ストレイ・キャッツ／ドロップキック・マーフィーズ・ツアー・レポート／DWARVES／コオロギ／ナイトメア／福岡パンク・ハードコア・シーン／ロッキンイチロー

●NO.211(2005.03)
★表紙＝60's USガレージ・パンク特集／ザ・ストラマーズ／バルザック／90年代スウェーデン・パンク・ハードコア／三多摩ヘヴィ系バンド／ルーツ・オブ・パンク・ディスク／90年代日本のメロディックコア

●NO.212(2005.04)
★表紙＝コンヴァージ／エクストリーム・ミュージック2005（マストドン／アイシス）／J.J.バーネル／ボストン2005／7セコンズ／ザ・ストリートビーツ／ザ・グリフィン／ヴォリューム・ディーラーズ／リンク

●NO.213(2005.05)
★表紙＝ドワーヴス／PROFANE EXISTENCE／マッドボール／60'sガレージ・パンクPart2／ザ・マックショウ／沖縄パンク・シーン／日本の70's～80'sパンク・ニューウェイヴ再発編集盤／ガールズバンド・ディスク

◆全て定価¥550です。◆B.Nはお近くの書店にてご注文下さい。
◆下記のB.Nも僅かに在庫あります。
●NO.159(00.11)★ナッシュビル・プッシー／マッド３／スネイル・ランプ
●NO.161(01.01)★スローター&ザ・ドッグス／オフスプリング／ザ・モッズ

THRASH ON LIFE RECORDS
ブレックファスト
BREAKfAST
www.geocities.jp/breakfast oneweek/index.html
3rd&ARMY
初回特典有り!!
2005.4.20 ON SALE!!
スケート・ロック界の大名盤から2年5ケ月,14曲入りの2ndアルバム!!
7/2(土)町田プレイハウス
7/3(日)名古屋ハックフィン
7/9(土)札幌カウンターアクション
7/17(日)広島並木ジャンクション
7/18(月)岡山ペパーランド
7/23(土)大阪ファンダンゴ
7/30(土)下北沢シェルター
NOW ON SALE

BLUE III
ロックンロール24時間
絶対見逃してはいけない!BLUE III、2年振のシングル発売だぁ！
05/05/25 OUT!!!
「ロックンロール24時間」レコ発ツアー
6/4 水戸SONIC
6/5 甲府コンビクション
6/12 横浜元町GIG
6/17 神戸VARIT
6/18 大阪難波ロックライダー
6/23 郡山#9
6/28 下北沢シェルター
「ギターウルフ」のセイジ「RADIOCAROLINE」の
ウエノコウジらも絶賛！
DDCZ-1127
税込価格￥1000
税抜価格￥952
2005.05.25
(4543034004942)
BIG JUMP LABEL
HP http://www11.plala.or.jp/blue3/
e-mail b-s-g@beige.plala.or.jp

MAIL ORDER CATALOG
7SECONDS NEW
白/紺、水/紺の2色あり
7SECONDS baseball T P3
7SECONDS
パッチセット ¥525
他7SECONDS商品
●ウィンドブレーカー、パーカー、Tシャツ、CAP、ベルト、PIN SET、バンダナ、ビデオ
！来日公演準備中！
THE UNSEEN 7SECONDS
日程など詳細は広告制作時点でまだ未定です
自分達の企画に呼びたい！という主催者様や、ブッキング担当者様、当社では随時主催者様を募集しています(完全売り興行)。詳しくはサイトをご覧頂くか(携帯版にもご案内しています)、直接お問い合わせ下さい！
ANNIHILATION TIME CRUCIFIX C.O.C. DYS DISCHARGE ENGLISH DOGS EXPLOiTED
ANNT-01 P1 CFT-02 P1 COCT-02 P1 DYST-03 P1 DISCT-06,07 P1 EDOGST-01 P1 EXPT-03 P1
EXCEL FINAL CONFLICT HERESY INFEST MISERY POISON IDEA RIPCORD MOTORHEAD
EXCELT 02 P1 FCT-03 P1 HERESYT 01 P1 INFT-04 P1 MISERYT-01 P1 POISONT-05 P1 RIPCT-01 P1 MHT-03 P1
他デザインあり
他商品あり
MINOR THREAT MESSAGE DESIGN BLACK FLAG CIRCLE JERKS MAD BALL SUICIDAL～
MITHT-08 P1 IPT-02 P2 IPT-01 ベージュ P2 BFT-08,09 P2 CJT-04 P2 MDBT-06 P2 SCTT-04 P2
★ご注文方法★
■価格 P1 ¥3675 P2 ¥3990 P3 ¥4725 この価格は消費税、代引き手数料、送料がすべて込みとなっています。¥5000以上より5%～の割引があります。特に明記の無い場合サイズはS~XLです。お電話かメールでお名前、ご住所、お電話番号、ご希望の商品名、サイズを明記の上在庫の有無を確認して下さい。商品がご用意できる場合はお支払い金額、発送日をお知らせします。在庫切れの場合はご予約となりますのでご了承下さい。
当社ではバンド商品取り扱い小売店様を探しております。DKM, 7SECONDSなどの正規取扱の他様々な商品を輸入卸しております。サイトの卸売案内ページをご覧頂くかお気軽にお問い合わせ下さい
DROPKICK MURPHYSの日本正規取り扱い店です。ツアー商品他様々な商品を取り扱っておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。
左. B4BWT-07 黒 P2 右.MDBWT-07 白 P2
ホラーT 左から. HORRORT-02,03,01 黒 P1
★在庫商品★ ●Tシャツ他；SSD, JERRY'S KIDS, FU'S, DISARM, POGUES, BAD BRAINS, APPENDIX, SIDE BY SIDE, SWORN ENEMY, MISFITS, ANTI SECT, STIFF LITTLE FINGERS, SUB ZERO, CAUSTIC CHRIST, IN MY EYES, STREET DOGS, TIGER ARMY, CRASS, MISFITS, GBH, CASUALTIES, BUSINESS, DKM, RANCID, SOCIAL DISTORTION, HATEBREED, THE CLASH, 他 ●小物類；パッチ、ピンバッジ(大量入荷)、ステッカー、CAP、革小物ベルト、リストバンド、バンダナ他多数あり詳しくはお問合せ下さい!
メールオーダーカタログご希望の方は、¥120切手同封でお名前ご住所をお忘れなくお送り下さい。ストレート・エッジ・プロダクション 〒155-0032 世田谷区代沢2 25 21 202
STRAIGHT EDGE PRODUCTIONS
☎ 03-3414-0779(13:00~20:00不定休) ✉ sxepro@olive.livedoor.com
PC☆ http://sxepro.ld.infoseek.co.jp/ 携帯☆ http://sxepro.ld.infoseek.co.jp/i
XXX

STILL HOT !!!
GHOST OF THE PAST
Dirty Power Game
Reduction
ignitions
BUZZ EMOTION
RUIN "GHOST OF THE PAST" 12songs CD··········¥1890
REDUCTION same 7songs CD··········¥1470
IGNITIONS "LINE ON FREE" 7songs CD··········¥1575
NOPAIN "BLACK JACK" 5songs CD··········¥1050
CLASHDOGS "BUZZ EMOTION" 12songs CD··········¥2100
V.A./ALL CRUSTIES SPENDING LOUD NIGHT 2002 DVD 88min. / NTSC··········¥2415
ZOE / DECONSTRUCTION / DISCLOSE / ABRAHAM CROSS / FRAMITED / EFFIGY / POIKKEUS / REALITY CRISIS / DEFECTOR / LIFE
CATTY WITCH / DEADLINE split 10songs CD (+ 2 VIDEO CLIP)··········¥1890
HATE no.3 "THE VOICE FULL OF HATE FROM FAR EAST.CO.JP" 3songs CD··········¥1050
BANJAX "腰抜け共に捧ぐ" 5songs CD··········¥1050
屍 "人のために生きるか 自分のために生きるか"8songs CD··········¥1575
CONTRAST ATTITUDE "SICK BRAIN EXTREME ADDICT"4songs EP··········¥840
↓ DISTRIBUTED by MCR ↓
RUIN "GHOST OF THE PAST" 12songs LP(ヨーロッパ・プレス)··········¥1280
DIRTY POWER GAME "FIGLI DELLA VOSTRA CATASTROFE" 13songs CD / LP··········LP ¥1280 CD ¥1380
DISSCIORDA "ALIENATION BREEDERS" 10songs LP(OLD ITALIAN STYLE D-BEAT)··········¥1280
ZOE "THE LAST AXE BEAT" 7songs LP SLAUGHTER PUNX FROM HELL!!!!··········¥1680
MAD MACHINE "FIRST DAMAGED" 3songs EP 東京暴走ブルドーザーPUNK / HARDCORE!!!··········¥1000
FINAL "GROW STRONG / EMPTY" 2songs EP KAMIKAZEメタルGRAVEコアBONESアタック!!!··········¥840
REALITY CRISIS "WHO IS YOUR MESSIAH?" 3songs EP 名古屋最重鎮CRUST CORE··········¥840
THE GRIFFIN "NUFFIN' BUT THE GRIFFIN" 10songs CD··········¥2100
NIHILIST "THE 2nd SHEET WITCH...." 11songs CD··········¥2415
NOSE ATTACK "HARDCORE DEATH TRIP" 5songs CD 飯塚CITY HARDCORE··········¥1000
CONTRAST ATTITUDE / ACROSTIX split 7songs LP 三重CITY HARDCORE!!!··········¥1680
↓ SOUND POLLUTION ↓
V/A TOMORROW WILL BE WORSE VOL.4··········6bands/28songs 3EP's ¥1440 / CD ¥ 1500
VOETSEK / NO VALUE / THE SPROUTS / RUNNAMUCKS / THREATENER / FASTS
MASSGRAV "NAPALM OVER STUREPLAN" 27songs CD(SCANDI-THRASHER FAST CORE)··········¥1380
SAYYADINA "FEAR GAVE US WINGS" 19songs CD(GERMAN SKULL SHATTERING GRIND CORE)··········¥1380
CYNESS "LOONY PLANET / INDUSTREALITY" 22songs CD(SWEDISH INSANE CHAOTIC METALLIC GRIND)¥1380
UNDER PRESSURE "HABITS" 6songs EP(HARD DRIVING HARDCORE ROCK'N'ROLL)··········¥480
I ACCUSE s/t 8songs EP(AMERICAN FAST HARDCORE THRASHER!)··········¥480
VIVISICK / MUKEKA DI RATO split··········LP ¥1080 / CD ¥1380
DANMUSH "FROM HERE..." 7songs CD(TOKYO's GIRLS 100mps THRASH HARDCORE / PUNK BAND··········¥980
BRODY'S MILITIA / WINDESPREAD BLOODSHED(FAST THRASH H.C. USA/SWEDEN)··········LP ¥1080 / CD ¥1380
通販はMCRの商品を含んでいれば何枚でも郵便代金引換で 一律¥500の送料・手数料で発送します。
http://www.dance.ne.jp/~mcr/ i-MODE http://vanilla.vis.ne.jp/mcr/i/
MCR company
RIVER STYX
ONE-WAY TICKET TO THE WORLD OF MANIACS!
〒624-0913 京都府舞鶴市上安久157 TEL 0773-76-5836 FAX 0773-76-9111
Distributed in U.S.A. by SOUND POLLUTION Distributed in EUROPE by AGIPUNK

ORDER HOTLINE 052-242-8786
ELECTRIC Catalog
2005 summer
CATALOG 2005summer OUT NOW
T-SHIRTS OVER 50 KINDS
STUDED GEAR
WENDYS,TOCCATA
BADGE
GLASSES ¥1050～
BODY PIER
カタログは¥290分の切手を同封して郵便で請求してください
GLASSES RAZOR ¥1995
GLASSES GABBA-2 ¥1995
GLASSES CYBERWRAP ¥1995
JACKET BIKERGIRL ¥13440
NET SHIRTS ¥8295
LIP SERVICE CUTOFF FISHNET SHIRTS ¥4095
STUDED FINGERLESS GLOVES ¥2100
BIG COBWEB NET TIGHTS ¥2310
MESH FINGERLESS GLOVES ¥2100
T-SHIRTS¥2625(2500)&BACKPATCH¥1050(1000)
MOTORCYCLEJACKETS
¥19845
NEW
(¥18900+tax)
CRASS
Discharge
TS385 TS386 TS387 TS408
反戦
TS409 TS410 TS411
SIZE 32, 34, 36inch
BLACK or ROYALBLUE
tel&fax 052-242-8786 水曜定休
エレクトリック 〒460-0008 名古屋市 中区 栄3-31-8 モリダイヤハイツ307 パルコ東館の北隣

RAMONES,DUANE PETERS,スニーカー,,Social Distorsion時計等、他グッズ系入荷
RANCID
CLASH
METEORS
SOCIAL DISTORTION
US BOMBS
THROW RAG
7 SECONDS
BAD RELIGION
VIRUS
LOWER CLASS BRATS
BRIEFS
GOOD CHARLOTTE
NEWバックル入荷
RUN DMC
CYPLESS HILL
JOAN JETT
MAD SIN
DWARVES
最新通販カタログVol.8間もなく発送致します。
HPには最新入荷アイテムを随時アップしております。CHECK!!
通販カタログ希望の方は80円切手4枚をお送りください。携帯サイトwww.dragtrain.com/hpn
DRAGTRAIN/ドラッグトレイン
〒166-0003 東京都 杉並区 高円寺 南 4-23-5 ACPビル 2F
TEL 03-3311-9030 FAX 03-3311-8775 e-mail info@dragtrain.com
http://www.dragtrain.com

INFORMATION

読者の個人広告スペース

本文1/8頁 -縦56ミリ×横78ミリ-

料金36,750円 -税込み-

ドール誌では読者やバンドの方々の為に、一般広告とは別に個人のスペースをご用意しております。読者同士のコミュニケーションの場として設けたものですので、業者の皆様は申し訳ありませんがご利用できません。
広告掲載に関するお問い合わせや、上記以外のサイズ・料金等についてお知りになりたい方は、株式会社ドールまでご連絡下さい。

株式会社ドール
TEL 03-3339-1952(代)
FAX 03-3339-1994
E-MAIL hensyu@doll-mag.co.jp

SEEK&DESTROY Renewal 3rd Anniversary

SEEK&DESTROY 3rd ANNIVERSARY × Pizza of Death RECORDS

FRONT / BACK

SEEK & DESTROY x Pizza of Death Limited Pack
designed by HONGOLIAN

PRICE : ¥6,090(¥5,800+TAX 5%)
COLOR : WHITE, IVY GREEN
SIZE : S.M.L.XL

PACKAGEINCLUDE
POD x S&D W name T-sh x 1
S&D x POD W name T-sh x1
Key chain x1
Sticker x1

こちらのアドレス<order@seek-destroy.com>から掲載商品、その他の商品は全て通信販売が出来ます。
（※Pizza of Death x SEEK&DESTROY Limited Packのみ2005.5.14(SAT)　12:00pm～の販売となります。）
代金引換で即日発送致します。詳しくは情報満載の当店HP アドレス<http://www.seek-destroy.com>までアクセスの方、よろしくお願い致します。

Map

SEEK&DESTROY
東京都町田市原町田3-3-28
オリンピアビル2F
TEL/FAX 042(728)4685
open:12:00pm～9:00pm
www.seek-destroy.com

"YOU'VE GOT TO HAVE FREEDOM"

NOW ON SALE

7.2@WATTS ONE-MAN LIVE !!!!!!

1997年に結成されたDASH BOARD。その音楽性は紆余曲折を経て、鋭く、尖ったサウンドに集約されました！ホットでクールなNEW WAVE FUNKサウンドにハードコアサウンドを加えて踊りだすステージ上の5人。シャウトするグルーヴに正直ビビりました。「！！！」や「Numbers」「RADIO4」あたりのサウンドを彷彿させながらも、よりタイトでシャープな楽曲は驚くほどカッコイイ！彼らに備わっているメロディックな感覚がシンガロングフレーズをも生み出し、胸とフロアをググッと熱くするのであります。絶妙なバランス感覚。爆裂するサウンドで腰を砕くく激ハードコアダンスクラッシュサウンド！最高！

■5.7@下北沢 Rinky Dink Studio ■ 5.15@下北沢 BASEMENTBAR
■5.27@小岩 em 7 ■5.29@下北沢 ERA ■八王子 Rinky Dink Studio
■6.17@KABOCHA-YA Yokosuka ■6.18@JETS Osaka
■6.19@ART HOUSE Koube

東京都渋谷区上原2-29-13 NO.12 BLDG 2F TEL/FAX 03-3466-1380
email : info@stiffeen.com http://www.kakubarhythm.com つづく！

stiffeen records

収録曲：表現者よ武器を取れ, 親愛なるニーチェ殿 言論兵器

7"EP HG-188 ¥1000 now on sale
SWARRRM Live予定
[illegible] 大阪・難波bears with corrupted, red. zone direction

El mundo frio

new CD 1曲1時間 HG 177 ¥2500
2005年今春??????????発売予定
LIVE 予定 5/3 名古屋ハックフィン, 5/14 大阪・難波ベアーズ, 5/28 金沢KOHRINBO HARBOR, 5/29福井chop BUTTER

BURNING SPIRITS 2005 SUMMER TOUR
FORWARD [illegible] 7/24sun 名古屋 OYS, 7/26tue [illegible] 函館 BAYCITY'S STREET, 8/1mon [illegible] 8/5fri 東京 [illegible] FORWARD and MORE. FORWARD [illegible] 8/7sun 大阪難波 BEARS, 8/8mon 高松 [illegible] 8/14sun 東京 [illegible]
7/22～8/5まで [illegible] 8/5のみ全BAND出演。

the slowmotions

Complete CD!! ダイヤルを回せ!!
HG-189 ¥1800 now on sale 通販特典限定ステッカー付き
1.お前に夢中, 2.Target, 3. オダセンマンコの誘惑, 4. マケロへ, 5. Yes, future
6. No-R, 7. Plastic lover, 8. Da ka ra, 9. Endlessy endlessy, 10. Serve your right, 11. Apartment blue

DEAD HEAT DISCO '05 tour

THE BASEMENT & 日本脳炎 & The slowmotions

日本脳炎は5/5, 11, 12, 13, 20, 21, [illegible] の出演になります
5/5 新潟JUNKBOX with BLOW BACK, 9 SHOCKS TERROR, VIVISICK, DERIDE
5/7 旭川カジノドライブ with 破瓜恥, [illegible], DEFLEXION, THE SWANPY DALES
5/8 札幌カウンターアクション with [illegible] サンダーロード, THE KNOCKERS, etc
5/10 函館BAY CITYS STREET with CRUDE, MUSTANG
5/11 青森SUNSHINE with EXIT, ROCK'IN FIVE, TABROID
5/12 盛岡 クラブチェンジ with FLOCK
5/13 仙台バードランド with NAKED YEGGS, KINSMEN, THE MUNCHIES
5/15 神戸108 with JOHNNY ROCKETS, KRUW, LUCY & THE LIPSTIX, ティッシュ, 199X, [illegible], THE TELEPHATYS
5/16 京都ウィーピーズ with WARHEAD, etc
5/18 黒崎マーカス with 悪意, etc
5/20 和歌山GATE with MILK COFFEE, S41, THE RAINY NIGHTS, マサカリ, DART BOYS, CHIMERA
5/21 三重 QUSTION with CONTRAST ATTITUDE, ACROSTIX, etc
5/22 豊田駅前"炎天下GIG" with ORDER, etc
5/24 浜松G SIDE with THE LITTLE MIRRORS, GONE MAD, THE スクーターズ, 902, etc
5/25 新宿D.O.M with MURDER STYLE, THE TELEPATHYS

HGfact distribution

MELT-BANANA

13 hedgehogs
(MxBx singles1994-1999) CD
¥1480 from A ZAP rec AZCD-006 5月入荷

.:.MAGUS STAR.:. Crystalising desire
5/6 新宿D.O.M 出演=JOJO広重, RAPES, [illegible]

HGfact distribution

DISCORDANCE AXIS

"Our last days"

CD from HYDRA HEAD 価格¥1500 5月上旬入荷予定
[illegible]

http://www.interq.or.jp/japan/hgfact

. next release : PAINTBOX 3rd album, [illegible] 7"EP, etc

HG Fact
■通信販売希望の方は、現金書留、無記名郵便為替、郵便振替［00110-8-713312／HGファクト］で商品代金＋送料¥300（何枚でも）[illegible] で下さい。振替用紙の通信欄には必ず希望商品名を明記して下さい。複数の商品の注文のうち、NEWリリース作品を希望の方は発売日が前後する場合があり [illegible] して下さい。輸入盤リスト&HGリスト希望の方は [illegible] 明記して80円切手を同封して送ってください。
(問)HGファクト 〒164-0013 東京都中野区弥生町2-7-15中野新橋マンション105 TEL/FAX 03-53[illegible] e-mail [illegible]

NAT records

www.natrecords.com

通販／代引はお電話／メールにてお気軽にお問い合せください！
御連絡お待ちしております！ホームページも連日アップしております！
¥5000以上お買上のお客様は通販送料無料！
中古強化買取中！（詳しくはお電話もしくはe-mailにて

e-mail:tokyonat@hotmail.com 12:00/close 9:00
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-7-33 新銘ビル2F
TEL:03-3368-8262/FAX:03-3368-8245

HARDCORE+α!!

●BALLAST-sound asleep LP/CD (US female vo.ドラマチックcrust!)
●BASTARDS-Siberian hercore,demo 各LP
●**BROKEN BONES**-time for anger not justice LP/CD (new!!)
●BURIAL-new 12",1st.7"
●CAREER SUICIDE-new 7",編集盤CD
●CELTIC FROST-morbid tales LP (1st.再発!)
●CRASH BOX-finale CD (80's italian編集盤!)
●CUT THROAT-S/T 片面12" (ポートランドcrust,1st!)
●**DISCORDANCE AXIS**-our last day CD
(新曲2曲+J.Chang/M.BANANA/MORTALIZEDメンバーによるバンド"GRINDLINK"の初音源+M.BANANA他によるD.AXIS cover + MERZBOWとのコラボレーション曲!)
●EARTH-living in. ,legacy of dissolution 各CD
●EVENS-S/T LP/CD (Ian Mackaye newバンド!)
●**FANTOMAS**-suspended animation CD
(Mike Patton+Buzz/MELVINS+Dave/SLAYER+Trevor/MR.BUNGLE, mega-変態バーストサウンド,最高傑作4th !!!)
●FRENCH TOAST-in a cave LP/CD (ex.MAKE UP etc)
●GARGANTULA -CD (ex BLAST/SPACEBOY,US doom,1st アルバム!!)
●HATEMAIL KILLERZ-pipe bombs LP (USギャルvo cazy HC!)
●HEAD HITS CONCRETE-tour 7",編集盤CD (狂ッコンクリートHC!!)
●HIGH ON FIRE-new LP/CD,split 7"(w/RUINS)
●INEPSY-city weapons LP/CD
●**KYLESA**-to walk a middle...CD
(ex.DAMAD,USドラマチックbrutal HC,2nd !!)
●LACK OF INTEREST-new LP
●**LOCUST**-safety second.... CD (new!)
●MASSACRE-sacro CD (95年作,再発!)
●M.E.L.L.-工場にて死す CD
●MISERY-1st.,2nd.再発各CD 他各種!
●MISHAP-S/T 7" (BostonのtotalENGLISH BONESバンド!!)
●NEGATIVE APPROACH-ready to fight 2LP/CD
●NEGATIVE FX-government..LP (初期demo!)
●NOLA NOLA NOLA-CD
●OFFENDERS-2nd. LP, I hate myself 7",discography CD
●OM-variations on a theme LTD.LP/CD
(ex.SLEEP,el topo doom sludge! SLEEP各種有ります!)
●ORANGE SUNSHINE-love=acid,space=hell CD ('04/3rd !)
-homo erectus LP/CD ('01/1st.!)
(totalブルーチアーなオランダ轟音・時代錯誤へヴィサイケ!)
●PARASITIC-1st.7" (ex LOCUST/CATTLE DECAPITATION,強烈grind!!)
●PHOBIA-get up and kill LP/CD他各種
●RAMESSES-CD (ex ELECTRIC WIZARD!)
●RAW POWER-fuck authority CD
●RED SPAROWES-LTD.LP/CD (NEUROSIS+ISIS合体!)
●RISTETYT-再発7",new 7",編集盤CD
●**RIPCORD**-discography pt.3 LP
(peel session,comp.他etc レア音源集!!)
in search of ....LP (demo)
●RUIN-ghost of the past LP/CD
●SEEIN RED-discography pt.1 CD
●SELFISH-cause pain CD (new!!)
●7 MINUTES OF NAUSEA-T SHIRT他
●SEVERED HEAD OF STATE-編集盤CD,7"各種
●SS DECONTROL-the kids...get it away 各LP
●SUNN O)))-grimmrobe..LTD.LP/CD 他各種
●VOIVOD-rrroooaarrr LP (2nd '86再発!)
●WRETCHED-libero.. CDR, vivi..CD
●IRON LUNG+SHANK-split LP
●VA-California thrash demolition CD
●VA-dedication from inspiration LP (HERESY cover集)
●VA-**louder than hell** 7"/CD
(w/ACCUSED!!,HIRAX,MUNICIPAL WASTE,VOETSEK,T.NARCOTIC)
............and many more!!

80'sフィンランドHC DVDR各種入荷予定!

9 SHOCKS TERROR , CASUALTIES 前売り発売中!!

JAPANESEEEE!!

●A PIECE OF SHIT-red blood CD (広島HC!)
●ASBESTOS-to the memory...2LP (ディスコグラフィー!)
●ASPHALT-midnight pain CD (1st +2nd.EP!)
●あざらし-new TAPE,CDR (北海道昭和ギャルpunx!)
●**BREAKfAST**-3rd.&array CD (new!!)
●CAPTION-wonderful CD (関西power pop,2曲入りCD!)
●CHARM-shikami 7"他
●CHAOS-why? CD (大分punx!)
●CONGA FURY-new 7" (on 殺しのレコーズ!)他各種あり
●**CORRUPTED**-new CD!!! (時期不明!!)
●**CRUCIAL SECTION**-catch the future CD (2nd.!!)
●DEMOLITION-mob of wolves CD (名古屋HC!)
●どろたぼう-CDR (神戸のgreat raw punx!)
●EXIT HIPPIES-acid rain FLEXI (mega-armagedon noisecore!!)
●**FRICTION**-live'79 CD+DVD
●**IT'S YOU**-7" (東京raging HC,待望の1st.EP!!)
●G.A.T.E.S.-total death CD
●GUDON-1984～2000 2LP (アナログ化!),CD
●HISATAKA-S/T CD (快速thrashcore!)
●藤本修羅&SWARRRM-玉砕放送 7" (アジテートextreme HC!)
●**JOY**-JOYは危険予知 CD (ex.MAN FRIDAY,最高に雑暴でハードコアなpunkrock!!!)
●**クッダチクレロ**-雑餘 CD (関西発狂気の変拍子ベースレスHCジャンクトリオ!!)
●LAUKAUS-new 7"/CDS on POGO 77!
●**LSD**-ディスコグラフィーCD!!!,T SHIRT2種
●MAN FRIDAY -discography CD (90's rockin' raging HC!)
●**MELT BANANA**-編集盤CD (7"リリース全部入り!!)
●MOTHRA-doom engine CD (ARMENIAメンバー,industrial noise,2nd.!)
●MUTANT-S/T 7" (東京fastcore thrash!)
●夢遊病-CD (埼玉強烈日本語punk!!)
●**NICE VIEW**-thirteen views with.. CD
●NO EVACUATIONS-silence of war . 7"
●**NIGHTMARE**-編集盤CD2種他!!!
●**POGO MACHINE**-new CD!!
●**REALIZED**-21st century CD
(超強力東京grind,1st.しんスイセン!!)
●SACRIFICE S/T CD (仙台HC,1st アルバム!)
●SIDE IMPACT CD (茨城HC!)
●SPIRAL CHORD-脳内フリクション CD
●UG MAN-new CD
●UNHOLY GRAVE
UK discharge LP (live) ,CD各種
●VELOCITYT-specimen CDR (長崎freaky HC!)
●VIVISICK-DVD ,2nd 7"再発
●臓死-the death of the sun CD
●MELT BANANA+NARCOSIS-split 7"
●QUILL+I DON'T CARE-split CD
●SPROUTS+YOUNG PENNSYLVANIANS-split CD
●SWARRRM+IMMORTALITY-split CD
●VA-bad smell gradation 2CD
(A.CROSS,EXIT HIPPIESメンバーetcのDJ mix CD!)
●VA-crust nights 2005 CD
(w/ASBESTOS,NATIONSTATE,UNKIND,OUT OF TOUCH他!)
●VA-kill you CDR (GALLHAMMER,DEATH COUNT etc)
●VA-**punk as fuck show** 2004 DVD
(w/TOMBOOT BOYS,AVOIDED,EXTINCT GOVERNMENT,ORdER,FINAL,ABRAHAM CROSS他!)
●VA-skate all day drink all night CD
(w/VIVISICK,ABRAHAM CROSS,TAIGAN,FIDO'S BRUNCH,SKB9NIKS etc)
●VA-warrior CD (HC/Oi skins/PSYCHOBILLY comp.!
(w/DERIDE,ALLEGIANCE,KIM,仁義,KELBEROS,BRAVE)

西新宿 LIVE HOUSE D.O.M. 前売り各種 発売中!!

●the SLOWMOTIONS -complete CD!!

.............●**ACCUSED**-oh martha!CD.............
92年の"splatter rock"以来,12年振り快心のnew album発表!!!!! (5月上旬入荷予定)
髪を短くして,vo/Blaineもやる気満々,全国のsplatter rockers絶対必聴でお願いします!!

.............●**HERESY**-face up to it! CD......
5月上旬SPEEDSTATEより,1st.アルバムがリマスタリング&ボーナス入りで奇跡の再発!!!
リマスタリングにより,当時メンバーが納得いっていなかったアルバムが強烈に再生!!!

.............●**DISCLOSE**-4 tracks EP 2004 7".............
.............●**SHADOW OF FEAR**-s/T 7" ....
OVERTHROW rec ニューリリース2タイトル!! 高知D 職人はFADAR WAR cover含む4曲!!
Kawakami(DISCLOSE)+Bear Bomb(FINAL BOMBS)によるスペシャルユニットは超限定

.............●**MAD CONFLUX**-crazy action CD.............
80's横須賀HCレジェンドのコンプリートディスコグラフィーCD!!!「get back the discharged arrow」comp.LP,「hang the sucker vol.2」comp.LP,JANKYとのsplit FLEXI,「tripple cross counter」comp.7",「病原体」comp.LP,「enjoy your youth」comp.LP,demo音源,live(消毒gig他)全43曲入り!! Vo.KAZUMA氏が往ってから15年目にあたる今度の5月5日の命日に墓前にこのアルバムを捧げようというO川氏(ex.MAD CONFLUX/現PILE DRIVER)&FADE IN recによる自主制作リリース!! マドコンを全く知らない若い人も絶対に聴いて欲しい,独特の横浜スタイルrockin HCが最高にカッコ良かったgreatバンドです!! 買って下さい!

70's PUNK/POWER POP

～Still hot!!!～
●RAMONES-End of the century DVD
評判だったラモーンズドキュメンタリーの日本盤DVD!!!
●SATAN'S RATS -What a bunch of rodents CD
KILLER UK'77 PUNK ROCK!!! 3枚のシングルを残しその後PHOTOSへと移行した最高のパンクバンド!数年前にリリースされすぐに廃盤となってしまったCD編集盤がうれしい再発!!!! 3枚のシングル全曲+'77/'78/'79年の未発表スタジオデモを収録!どことなくクールでセンス光るメチャメチャカッコイイバンドです!!!
●SHIT DOGS-World war three LP
EPICYCLEに続いてのRAVE UPリリース!本国アメリカ以外でもかなり評価をうけている"KILLED BY DEATH"モンスター!超レア大名作シングルも完全収録!かなり荒っぽくROCKしてる不良PUNK!!! 良い!
●STIMULATORS-Loud fast rules 7"
説明不要のKILLER NYC PUNK ROCK!!! 再発!超LTD!!!
●TOT ROCKET & THE TWINS-Television Rules LP
GREAT US POP PUNK!!! これもEPICYCLEのリリースでお馴染みのRAVE UPより!!!
どのシングルもPOPでカッコイイバンドの編集盤!"BTF"comp収録バンド!
●VIOLATORS-NY Ripper + two CD
KILLED BY DEATH CLASSICS!!! DEADBOYS/STIMULATORSの前座等をしていたNY PUNK!唯一のリリースの大名作シングル"NY RIPPER"2曲+なんと未発表のセカンド音源!
●VA-Stortbeat collection 2CD
あの"BEST FRIEND"7インチで知られるGANGSTERSの2枚の7"収録!そのGANGSTERSリリース元のSTORTBEAT/ESSEX周辺のバンド達を集めた'77年から'80年録音のUK PUNK comp!!! 他にもSODS, NEWTOWN NEUROTICS, GROOVE, SPELLING MISTEAKS他最高にド級名バンド/未発表曲もどっさり!全47曲!w/インサート,限定ナンバリング入り,2枚組CD!!! 7インチサイズでの見開きジャケット!発売中!

●ABH/SUBCULTURE Split CD GREAT UK '82 PUNK!!!
●ADOLESCENTS-The complete demos 1980-1986 LP/CD
●BLOOD-False gestures for a devious public CD 再発!
●BURIAL/SKIN DEEP-2 original LPs ON 1 CD POPでオススメ!
●CLASH-1st～3rd, 5th LP各種 LP 正規アルバムLP
●CRIME-San Francisco's still doomed LP/CD STILL HOT!
●CRISIS-The guilty have ～ & demos 1977-1979 LP
●CRUX/SAMPLES-Split CD GREAT UK '82 PUNK!!!
●DAVID PEEL & THE DEATH-O-LETTES/PP 7 GAFTZEB-Split 7"
●EPICYCLE-Teenage suicide LP GREATシカゴ'79-'81 POP PUNK!!!
●EXTERNAL MENACE-Pure punk rock CD GREAT UK '82 PUNK!!!
●GAY COWBOYS IN BONDAGE CD
●GG ALLIN & THE MURDER JUNKIES-DVD各種 お問い合せください!
●GO-Live CDR "POWER PEARLS"収録の人気USバンドの正規LIVE CDRリリース!
●INSANE/BLITZKRIEG Split CD GREAT UK '82 PUNK!!!
●INSTANT AGONY-Out of the eighties CD GREAT UK '82 PUNK!!!
●KARANTEENI-Ano palaa frank! CD GREAT FIN PUNK!
●KOLLA KESTAA-Jaahyvaiset aseille CD
●LOOSE PRICK-Likaisia enkeleita, vaikoisia ～ CD
●MANUAL SCAN-All night stand CD GREAT US NEO MOD!!!
●MIKE READ-The 70's and 80's～ CD TRAINSPOTTERS/GHOSTS!
●MODERN MINDS-Canada powerpop CDR
●MODERNS-Got to have pop CD
●NOLLA NOLLA NOLLA-Tanaan taala ～ CD GREAT FIN PUNK!
●NOW-Into the 80's demo 1978 LP 強力UK PUNK未発表デモ!
●NEWYORK DOLLS-Same LP,2nd LP ジョニサン在籍!
●NOTSENSIBLES-Live 1979 CDR メンバー所蔵の1枚!
●NOW-Here comes the now CD CD化!+ボーナス!
●PELLE MILJOONA & 1980-Pelko ja viha CD
●VA-Vancouver complication CD
名作!inc, DILS, DISHRAGS, POINTED STICKS etc, RUDE NORTON 7"収録
●PROBLEMS?-Punk house CD GREAT FIN PUNK!
●PROBLEMS?-Katupolkia CD GREAT FIN PUNK!
●RAMONES-1st～5th 各種 LP 正規再発アルバム!
●RUDI-The radio sessions 1979-1981 CD
●RUTS-Stepping bondage LP 強力UK PUNK ROCK LP!!!
●SAINTS-Prehistoric songs LP 強力初期ベスト!!!
●SEX PISTOLS-No fucking way LP HAWKWINDのカバー入り!
●SHAM 69-1st～4th 各CD ボーナス曲収録で正規再発!!!
●STIV BATORS-LA confidential LP/CD
●STOOGES-Down on the street 7",1969 7" MUST!
●STOOGES(IGGY & THE STOOGES)-Raw power LP
●STRAPS-The punk collection CD CAPTAIN Oi!からの編集盤!
●UPROAR-And the lord said CD 強力UK '82 HARDPUNK/HARDCORE!!!
●VAAVI-Tytot hymyilee CD
●VIBRATORS-Pure mania LP GREAT 1st LP!!! "BABY BABY"
●VICTIMIZE-Fuck pistols, I've～LP 強力UK PUNK未発表デモ!
●VIOLATORS-The no future years CD CAPTAIN Oi!からの編集盤!
●WARSAW-An ideal for killing LP
●WIDOWS-Complete Widows CD GREAT FIN '79/'80 POP PUNK!
●X-Los Angeles LP LEGENDARY LA PUNK!!! 1st LP!
●YPO-VIIS-Karhulan polkii ～ CD
●VA-Hilselp CD GREAT FINNISH PUNK comp in '79!!!

CAPTAIN Oi!/ANAGRAM/STEP-1他CD各種定番も入荷中!

SEX PISTOLS, DAMNED, CLASH, GENERATION X, JAM, SLF, DEAD BOYS, ADICTS, AUTOMATICS, BLONDIE, RAMONES, BOYS, BUSINESS, CARPETTES, CHELSEA, COCKNEY REJECTS, DICKIES, EATER, LURKERS, RUTS, STOOGES, MENACE, STRANGLERS, TOY DOLLS, XTC, ELVIS COSTELLO, EDDIE & THE HOTRODS etcetc 有名バンドからKBD系バンド/激レアPOWER POPバンド等色々いろいろありです! ——and many more!!

PUNK/POWER POP系中古放出!
中古レコード 5/7(土)より!

●A'S-Same LP●ADVERTISING-Stolen love 7"●ALBERTO Y LOST TRIOS PARANOIAS-Heads down 7"inc, "Fuck you"●AUTOGRAPHS-While I'm still ～7"●BARRACUDAS-1965 again 7"●BLUNT INSTRUMENT-No excuse 7"●BRAKES-The way I see it 7"●BUZZCOCKS-Promises 7", Spiral scratch 7"●CHELSEA-Right to work 7"●CHICANES-Cry a little 7"●CLERKS/HAZARD-Split 7"●COCK SPARRER-We love you 7"●COLLECTORS-Different world 7"●CONTROLLERS-Neutron bomb 7"●COVERS-Too hot to handle 7"●CROOKS-All the time in the world 7"●DAZZLERS-Phones 7"●DISTRACTIONS-Boys cry 7"●DOUBT-Contrast disorder 7"●EXILE-Real people 7"●GAS-The finger 7"●GENERATION X-Wild youth 7"●GENTS-Stay with me 7"●JED DMOCHOWSKI-Sha la la 7" V.I.P'SのVo!!!●JERKS-Get your woofing～7"●JOHNNY THUNDERS-Dead or alive 7"●KILLJOYS-Johnny won't get to heaven 7"●LUCY-You really～7"●MAD-Fried egg 7"●NASTY FACTS-Drive my car 7"●NEW MUSIK-Living by numbers 7"●NOW-Development 7"●PEZ BAND-Same LP●PLASTICHKE-Ca gaze pour moi 7" on "BLOODSTAINS"!●PLASTIC BERTRAND-Le monde est～7"●PEER PRESSURE-Eve of destruction 7"●POP-Waiting for the～7"●PRODUCERS-Same LP, You make the heat LP●RAMONES-Swallow my pride 7", Don't come close 7"●REELS-Prefab hearts 7"●RINGS-Same LP●RINGS-Third generation 7"●RIVALS-Here comes the night 7"●SEARCHERS-Love's melodies LP●SINGLES-Fools gold 7"●SMIRKS-OK UK 7"●STEVE ROBERTS-As tears go by 7" inc"Yeah Yeah"●T-BOYS-The bus song 7"●TOYTOWN GAMBLERS-Surf city 7"●TWISTERS-All night LP●UNKNOWN-Look for me babe 7"●V.I.P.'S-Causing complications 7"●WARM JETS-Big city boys 7"●VA-415 Music LP Great Power pop/punk comp!!!
——————& many more!!!

全国の真友達へ

当初の予定では、商品（一昨年発売のCD「生死即涅槃煩悩即菩提」と今年２月発売のDVD「生死即涅槃煩悩即菩提」）の発売中止となった原因説明と共に、その責任者及び関係者らの謝罪文を、この場に載せてつるし上げ（悪い言い方かもしれないが）ようかと思ってましたが、今３月１６日の段階では少し気が変わってきました。なぜなら全国の数少ない真友達へ早く、俺達の魂の唄を聞いてもらうのが最優先だと考え始めたからです。また、その責任者に対してオレ自身心底きらいになれない自分がいる為もあるからです。なぜなら、そいつ（その人）とはもう２０年近くの付き合いがあるから、ちなみにオレは３８才だ！オレのいい所も悪い所も、そしていい時も悪い時も全部を知っている数少ない友達だからです。そいつ（その人）の一度や二度の失敗に（一度や二度じゃないかも、オレもそいつに昔だけどすげ～迷惑かけてたけど）オレが心底きらいになれないのはそこに有ります。オレ自身バンド活動は訳あって１０年くらいは離れていました。でも、どんな時でもオレの近くにいてくれた、ひつこい様ですが数少ないマイフレンドです。それが理由です。
結論として全てはこれからです。全国の数少ないマイフレンド達と、生きてるオレ達の唄を、生きてる間に一緒に唄いたいだけです。
なるべく早くこの問題を解決して、それが実現出来る様努力してゆきます。

生きてる間に（地獄で）また会おうぜ！
あ、そうだ、そろそろ復活するかもね！？

POISON、POISON ARTS、HUMAN ARTS、リーダー
平岡芳寛

PS.平岡は１０分以上書き物は出来ません。
指がつって頭もバカになるそうです。三浦（談）

COMING SOON!!

POISON+POISON ARTS
生死即涅槃煩悩即菩提

POISON ARTS
生死即涅槃煩悩即菩提
DVD

POISON ARTS
POISON ARTS BEST

HUMAN ARTS
小我から大我へ

HUMAN ARTS
EPCD

NEW ALBUM

NEW LIVE DVD

♥昔のPOISON、POISON ARTS、HUMAN ARTSのビデオ、又カセットテープ、らんちきオムニバス、写真、空手、キックボクシング（練習でもよい）ビデオ、etcそれを持ってる方連絡待ってます♥

ライジングサンレコード再活動の為デモテープ募集中!!

ライジングサンレコード代表　三浦よしかず
受付　９時～２０時（出ない時のが多いかも）
〒150-0033東京都渋谷区猿楽町2-13メッツ代官山2F
０９０－９９７３－７０８２

Everybody Gets Hurt

"Demo Daze"CD

2005.5.25.ON SALE!!

RLCY-1070 ¥1,850(in tax) INCL 21 SONGS

2004年来日時、ハードコアファンを大いに賑わせたニューヨークハードコアE.G.H.の新作。本作は1997年にリリースしたDEMOに、入手困難だった7"音源や未発表曲、さらには地元ニューヨーク「コンチネンタル」と「ジャパンツアー」時のライブ音源を収録した贅沢な一枚。ニューアルバムの発売が待ち遠しい彼等の全貌が明らかになる貴重な作品と仕上がっている。

NEW DAWN

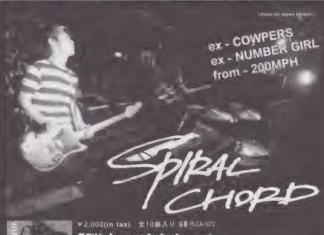
1st ALBUM "黎明ヲ告ゲル鐘" 2005.6.22. ON SALE!!

1997年春、vocal.Yujiとguitar.Yoshinari(CANNONS→AGGROKNUCKLE→STRONGSTYLE)を中心に結成。"名古屋スキン"と称されるメタリックなskinheadrockに抒情的な詩、和の匂いすら感じさせるメロディラインというND独自のスタイルと圧倒的なステージングで地元名古屋だけにとどまらず全国で高い評価を得ている。これまでに3本のデモテープ、4本のオムニバスに参加。名古屋でのライブ活動を中心に全国各地数々のイベント[illegible]STRONGSTYLE)、Drums.Takuma(SHORTLENGTH→STRONGSTYLE)を迎え、より鋭く研ぎ澄まされた唯一無二のサウンドを聴かせる。

RLCA-1074 INCL 9 SONGS ¥2,100(w/o tax)

COMING SOON!! STRAIGHT UP REC DVD ~ smile, YUKIGUNI, 狂い咲サンダーロード ,etc...

ROCKY&THE SWEDEN / HYENA / MUSTANG / 壬生狼 / 鐵槌 DVD /...

¥2,000(in tax) 全10曲入り 品番:RLCA-1072

「脳内フリクション」
NOW ON SALE!!

TOUR日程 5/19 心斎橋 PIPE 69 5/20 名古屋 HUCK FINN 5/21 下北沢 SHELTER 6/2 札幌 KLUB COUNTER ACTION

※WEBにて収録曲"new truth"のサンプル試聴、PVも配信中!!

the slanG : chaotic disorder 1988 / CD+DVD

本作はLPのみでリリースされ、CD化されていなかった"10th ANNIVERSARY LP"に"1st,2ndDEMO TAPE""ライブ音源""88年～90年代前半の映像"を追加した初期SLANGドキュメンタリー作品的役割を担う目的を持って製作された。～ライナーノートより。1998年結成以来、常に札幌のハードコアシーンをリードしてきた「SLANG」の貴重な初期音[illegible]語り綴られた長篇ライナーノーツ付き。まさに札幌ハードコアの歴史的作品となる一枚。
(以下ライナーノーツより抜粋)

ついでに言っておくが「SAPPORO CITY HARD CORE」とは何か特別なものを差した名称でも団体名でもない。俺にとってはこだわりであって、俺だけのものってことでもない。俺の中では唯一、心の支えになるような言葉だった。既成の概念には囚われたくなかったからこの道を選んだのに、ライターやレ[illegible]ったシーンとやらで、胡座かいてるようなのも嫌いだ。自分が嫌な思いしたからって他人に同じような事をするなよ。音楽に優いもクソもあったもんじゃない。あんた等がどうしても型にはめたいって言うんだから、俺は自己防衛として自分達を名乗らせてもらう。ただそれだけだった。誰かのカテゴリーに納まるなんて嫌なんだよ。解るだろ。あんたの音楽的価値観なんか知ったこっちゃないんだ。俺は単純に札幌在住でハードコアなパンクロック好きな男ってだけの話し[illegible]自主製作に込められた「価値」ってやつは千差万別だが、少なくとも俺は、お前が書いたそのレビューの内側にこだわりを持つタイプの人間だ。札幌を扱う時は言葉に気をつける。「真剣」ってやつは意外と根の深い人生だ。 by KO

the slanG

"chaotic disorder 1988"

CD+DVD

2005.6.29 ON SALE!!!

¥2,500(in tax) 全23曲入り 品番:RLCA-1076

真髄!!ハードコアボール再発!!

収録アーティスト
■SLANG ■COWPERS ■PLUG
■BARRICADE ■FACE OF CHANGE
■BONESCRATCH ■BAD OF NAILS
■GOMNUPERS ■NEXT STYLE
■KNUCKLE HEAD ■GUMBOIL
■SWEAT ■RAIL WAY ■SHOT GUN
■CLIFF SIDE ■DIGNITY FOR ALL

新デザイン仕様!!!
Reマスタリング盤!!!
2005.5.25.ON SALE!!

RLCA-1075 ¥2,000(in tax) INCL 26 SONGS

THE PUNK ROCKERS監修 SELFISH PARTY / ¥1,600(w/o tax) INCL 16 SONGS

2005.5.25 ON SALE!!!

V.A. SELFISH PARTY

札幌若手PUNK BANDコンピレーション第一弾!!

収録BAND / THE PUNK ROCKERS , GYPSY 3 , THE OUTBREAKERS, B.B JUNKIE, SKILL RUSH, THE CHINESE, EXCREMENT, 全7バンド 16曲収録

カウンターアクション創業10周年記念イベント 会場:カウンターアクション

5/27 B.T.BUTCHERS (TOKYO) w/ qodidop **5/28** SILVERBACK, DIE YOU BASTARD(TOKYO), VACCUM(HAMAMATSU), TERROR SQUAD(TOKYO), FATIMA HILL, EMPHASIS, BUTTERFLY **5/29** 鐵槌 (TOKYO), 雷矢 (TOKYO), 壬生狼, HYENA, smile, etc... **5/30** SUPER SNAZZ (TOKYO), THE GIMMIES(TOKYO), JET66, THE GAINZ, etc... **5/31** PHOBIA OF THUG (NAGOYA), YUKIGUNI, ANSWER TO NO ONE, FROM 1 STEP, MIC JACK PRODUCTION, etc... **6/1** KENZI & THE TRIPS (TOKYO), THE PUNK ROCKERS, ジプシー3, etc... **6/2** SPIRAL CHORD～CD発売記念 w/NAHT(TOKYO), THE DISCHERMING MAN **6/4** THE RYDERS (TOKYO), THE JOHNNY BOYS, THE FLAPPER etc... **6/8** ジャバハリネット(MATSUYAMA)
6/9 CREAM SODA NITE ～札幌クリームソーダ主催 **6/10** 中野茂 (from 亜無亜危異), M.J.Q ～遠藤ミチロウ (ex THE STALIN)、クハラ カズユキ (ex ミッシェルガンエレファント),
6/11 ENVY (TOKYO) w/ THE SUN **6/19** RAZORS EDGE (OSAKA), NO HITTER etc. **6/24** 日本脳炎 (TOKYO), 狂い咲きサンダーロード ほか続々ブッキング中!

ZEPP札幌スペシャル!!

迷惑コラム～「オレの居場所は此処なのか?」 チャース!KOです。みんな元気?なに?元気じゃない?俺も!!まあそんなわけで話す事も何もないんですが、一つだけ言いたい事ありました、一つだけ!おれ先月、下記のホムペ見てって言いましたよね?確かに言ったはずなんスよ... そしてキミ見た???って話しなんスけどね、ぶっちゃけ見てネエヘ??なっ???見てネエベ??なっ?なっ?ナニ見た??ホント??　まあいいか。話しは変わりますけど、悪い出来事って頼んでもいないのにやって来ますよね。それに比べ、楽しい事って向こうからは来てくれることが少ないです。これが人生ってやつですか? なんかムカつきますね。春のヤロウが雪のヤロウを溶かしやがって、オレの車なんかドロドロですよ!ホントムカつきますわ。まあいいっか!そんじゃ失礼!アザース!

6/12 ZEPP SAPPORO SPECIAL VOL-1 OPEN16:30 START17:00 ADV3,000YEN DOOR3,500YEN(DRINK別) 会場:ゼップ札幌
出演:EASTERN YOUTH, ENVY , BRAHMAN, 壬生狼, etc... TICKET... LAWSON TICKET(L-CODE:15155), 大丸PG, 4プラPG, AIT, 病院屋
各公演の詳細は、S.U.Rホームページか「http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=reallife2005」にてご確認下さい。 ZEPP SAPPORO SPECIAL VOL-2 9月18日予定

WEB : www.straightup-rec.com E-MAIL : reallife@straightup-rec.com

RECORD SHOP VINYL

www2.odn.ne.jp/vinyl-japan/

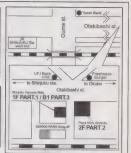
今月発売分のRARE STUFF本誌未掲載タイトルを含む全発売タイトルリストを御覧いただけます。他にも当レーベルのリリース情報や、セール、イベント情報も掲載! もちろんPCでも閲覧可能です。

〔仙台〕"店内セール"
4月29日(金)~5月8日(日)
パラダイスレコードE-BEANS店内
問:パラダイスレコード022-713-2331

〔大阪〕"合同セール"
6月4日(土)~6月5日(日)
梅田アクトスリーホール
問:VINYL PART.1 03-3365-0910

Pt.2は4月1日にPt.1に合併致しました

Pt.2で取扱いのPUNK (NEW STUFF)、GUITAR POP、HIPHOPはPt.1に移動、合併致しました。先月のPART.3の移転でできたPt.1の空きスペースに移動したものでPt.1、Pt.2ともにタイトル数は全く変わらない合併です。これによりPt.1はPUNK、GARAGE、ROCKABILLY、GUITAR POP、ALTERNATIVE、REGGAE、SOUL、HIPHOPを取扱う店舗となりました。また中古アナログのバーゲン店旧Pt.4が新Pt.2に変更となりました。

GOLDEN WEEK SALE

VOL.1 04.29 (Fri) to 05.08 (Sun) @ Pt.1 & 3
NEW STUFF 10%, USED STUFF 20% OFF!!

VOL.2 05.04 (Wed) & 05 (Thu) 2DAYS!!
@ SANKO PARK Bldg.4F
NEW STUFF 20%, USED STUFF 40% OFF!!

店舗とは別会場(三光パークビル4F 特設会場:右記地図参照)のセールです。割引券は不要です。また当会場ではクレジットカードは御利用になれません。

以下に掲載のRARE STUFFは5月7日(土)よりVINYL Pt.1にて販売開始!! 未掲載タイトルも含む約1,000枚一挙放出!

RARE STUFF - 7inch E.P.

- ●A. BERT Y LOST TRIOS PARANOIAS / HEADS DOWN ..(UK:LOGO) '78 ORIG. 7'S×2 "FUCK YOU"
- ●THE ATRIX / TREASURE ON THE WASTELAND (UK:DOUBKLE D)'80 ORIG. PROD.BY MIDGE URE
- ●AUTOMATICS / WHEN THE TANKS ROLL OVER POLAND AGAIN (UK:ISLAND) '78 ORIGINAL
- ●THE BOLLOCKS / ALL ROCK STAR SHOULD BE DRAFTED (US:FETAL) '82 US ORIG.10 SONGS EP W/INSERT
- ●THE BOOMTOWN RATS / SOMEONE'S LOOKING AT YOU (SWE: MERCURY) '79 SWEDISH PRESS
- ●BUDDY CURTESS & THE GRASSHOPPERS / SHOUT (UK:MERCURY) '86 ORIGINAL
- ●THE CHAPS / RAWHIDE (UK:COWPAT) '82 ORIGINAL
- ●CHUMBAWAMBA / WE ARE THE WORLD ? (UK:AGIT-MATTER) ORIGINAL W/BOOKLET SLEEVE
- ●THE CLASH / WHITE RIOT (UK:CBS) '77 ORIGINAL
- / CLASH CITY ROCKERS (UK:CBS) '78 ORIGINAL
- / STRAIGHT TO HELL (UK:CBS) '82 ORIGINAL
- /T OMMY GUN (UK:CBS)'78 ORIGINAL
- ●COAST TO COAST / BIM-BAM (UK:ORBIT) '85 ORIGINAL
- / DO THE HUCKLEBUCK (UK:POLYDOR) '80 ORIGINAL PAPER LABEL
- ●CRAMPS / VOODOO IDOLS (???:AN ENTERTAINING) W/POSTER SLEEVE,RED VINYL
- ●THE CROOKS / ALL THE TIME IN THE WORLD (UK:BLUE PRINT) '80 ORIGINAL
- ●THE DEMONS / ACTION BY EXAMPLE (UK:CRYPT) '80 ORIGINAL
- ●DENIZENS / PEOPLE OF THE NIGHT (UK:BIG) '79 ORIGINAL
- ●EXPLOITED / RIVAL LEADERS EP (UK:FUTURE EARTH) '83 ORIGINAL
- ●GENERATION X / YOUR GENERATION (UK:CHRYSALIS) '77 ORIGINAL W/ AUTOGRAPHED
- ●HERESY / WHOSE GENERATION (UK:IN YOUR FACE) ORIGINAL
- ●THE JAM / TALES FROM THE RIVER BANK (UK:POLYDOR) '82 FREEBIE FLEXI
- / Y.M.C.A (UK:POLYDOR) '80 MISS PRESS SHOULD BE "START" RARE!!
- ●JETS / PARTY DOLL (UK:PRECISION) '84 ORIGINAL
- ●THE KICKS / GET OFF THE TELEPHONE (UK:CARRERE) '80 ORIGINAL
- ●THE KREWMEN / RAMBLIN (UK:LOST MOMENT) ORIGINAL
- ●THE LATE SHOW / BRISTOL STOMP (UK:DECCA) '79 ORIGINAL PAPER LABEL NO P.S
- ●LEVI DEXTER & THE RIPCHORDS / IN THE BEGINNING (UK:MISTRAL) '80 ORIGINAL
- / I GET SO EXCITED (UK:FRESH) ORIGINAL
- ●THE LURKERS / DRAG YOU OUT (UK:CLAY) '82 LTD PICTURE DISC
- ●MAJOR ACCIDENT / MR.NOBODY (UK:A STEP-FORWARD) '83 ORIGINAL 2ND SINGLE
- ●MAKIN' TIME /HERE IS MY NUMBER (UK:COUNT DOWN) '85 ORIGINAL
- ●THE MEMBERS / OFFSHORE BANKING BUSINESS (UK:VIRGIN) '79 ORIGINAL
- ●METAL BOYS / SWEET MARYLIN (UK:ROUGH TRADE) '79 ORIGINAL, FRENCH PUNK
- ●THE MILKSHAKES / SOLDIERS OF LOVE (UK:UPRIGHT) '83 ORIGINAL
- ●THE MOONDOGS / TALKING IN THE CANTEEN (UK:REAL) '81 ORIGINAL
- ●MORRIS AND MINORS / MORRIS MINOR (UK:PACIFIC) '89 ORIGINAL
- ●NICK LOWE / CRUEL TO BE KIND (UK:RADARSCOPE) '79 ORIGINAL
- ●THE ONLOOKERS / YOU AND I (UK:DEMON) '82 ORIGINAL
- ●THE OSCILLATORS / MARILYN BROWN (UK:YAWN PRODUCTS) '80 ORIGINAL
- / SINGLE (UK.WARREN) ORIGINAL
- ●THE OUTCASTS /JUST ANOTHER TEENAGE REBEL(UK:GOOD VIBRATIONS)'78 1ST ISSUE BLUE S.V
- ●PATTI SMITH GROUP /ASK THE ANGEL (FRA:ARISTA) '77 FRENCH ORIGINAL
- / BECAUSE THE NIGHT (UK: ARISTA) '78 ORIGINAL
- ●PILSNER / I REFUSE (DUT 2 B) '83 DUTCH ORIGINAL
- ●PIRANHAS /EASY COME, EASY GO (UK:DAKOTA) '83 ORIGINAL
- ●THE POGUES / HONKY TONK WOMAN (UK WARNER) '92 ISSUE
- ●POINTED STICKS / OUT OF LUCK (UK:STIFF) '79 ORIGINAL-PROD. BY.BRINSLEY SCHWARZ
- ●PURPLE HEARTS / JIMMY (UK: FICTION) '80 ORIGINAL
- ●THE ROWDIES /A.C.A.B (UK:BIRDS NEST) ORIGINAL 3TRACKS EP
- ●SATAN'S RATS /YEAR OF THE RATS (UK:DJM) '78 ORIGINAL,2ND SINGLE
- / IN MY LOVE FOR YOU (UK:OVERGROUND) LTD 1000 COPIES REISSUE
- ●SEX PISTOLS / SINGLE PACK (UK:VIRGIN) LTD 7'S×6 W/OUTER BAG
- ●THE SLITS / ANIMAL SPACE (UK HUMAN) '80 ORIGINAL
- ●SMALL ADS / HP MAN (UK:BRONZE
- ●SMALL HOURS / THE KID (UK:AUTOMATIC) '80 ORIGINAL
- ●THE SPECIAL A.K.A / TOO MUCH TOO YOUNG (UK 2 TONE) '80 UK REAL ORIGINAL PAPER LABEL
- ●SPLODGE NESSABOUNDS /COWPUNK MEDLUM (UK:DERAM) '81 ORIGINAL GATEFOLD S.V W/FLEXI
- ●THE SQUARES / STOP BEING A BOY (UK;SIRE) '79 ORIGINAL
- / BUDDY HOLLY (UK:AIREBEAT) '80 ORIGINAL
- ●STEVE ROBERTS / AS TEARS GO BY (UK EXPLOITED) '82 ORIGINAL c/w "YEAH YEAH"
- ●STIFF LITTLE FINGERS / JUST FADE AWAY (UK CHRYSALIS) '81 ORIGINAL
- ●SUICIDE / DREAM BABY DREAM (UK ZE) '79 ORIGINAL W/ISLAND LABEL BAG
- ●TEENAGE FILM STARS / THE ODD MAN OUT (UK BLUE PRINT) '80 ORIGINAL
- ●THIEVES LIKE US / STICK UP FOR (UK ???) ORIGINAL
- ●WAYNE KRAMER / RAMBLIN'ROSE (UK:STIFF) ORIGINAL
- ●V.A / GIRLS IN THE GARAGE VOLUME 6 1/2 (USS:ROMULAN) NOW DELETED 6 TRACKS EP

RARE STUFF - LP/12inch E.P.

- ●ADVERTS / CROSSING THE RED SEA WITH ...(UK:BRIGHT) '77 ORIGINAL
- ●ANGELIC UPSTARS / BLOOD ON THE TERRACES (UK:LINK) '87 ORIGINAL
- ●A & P / S.T (GER: JUPITER) GERMAN ORIGINAL W/GATEFOLD SLEEVE
- ●THE BELL HOPS / AIN'T GONNA TAKE IT NOMORE (DUT:ROCKHOUSE) '92 DUTCH ORIGINAL
- ●BIG SANDY & THE FLY-RITYE TRIO (UK:NO HIT) NOW DELETED LP
- ●THE BISHOPS / CROSSCUTS (UK:CHISWICK) '79 ORIGINAL
- ●BLONDIE /PLASTIC LETTERS (UK:CHRYSALIS) '78 ORIGINAL
- / CALL ME (UK:CHRYSALIS) '81 ORIGINAL 12'S
- ●THE BOOTHILL FOOT-TAPPERS / AIN'T THAT FAR FROM BOOTHILL (UK:MERCURY) '85 ORIG W/INNER
- ●BOW WOW WOW / I WANT CANDY (UK:RCA) '82 ORIGINAL 12'S
- ●BRAIN BRAIN / CULTURE (UK:SECRET) '80 ORIGINAL 12'S
- ●THE BUREAU / S.T (CAN: WEA) '81 CANADA PRESS
- ●BUTTHOLE SURFERS / LOCUST ABORTION TECHINICIAN (UK:BLAST FIRST) '87 ORIGINAL
- ●CHAOS UK / SHORT SHARP SHOCK (UK:C.O.R) ORIGINAL
- ●CHELSEA / JUST FOR THE RECORD (UK:A STEP-FORWARD) ORIGINAL
- / ALTERNATIVE HITS (UK:A STEP-FORWARD) ORIGINAL
- ●CHEQUERED PAST / S.T (UK: EMI AMERICA) '84 ORIGINAL
- ●CHEVALIER BROTHERS / LIVE AND JUMPING (UK:DISQUES CHEVAL) '85 ORIGINAL
- ●CHRIS EVANS / ORIGINAL ROCKABILLY (FRA:BIG BEAT) '80 FRENCH LTD10'S
- ●THE CLASH / S.T (UK:CBS) '77 ORIGINAL
- / S.T (UK:CBS) '77 ORIGINAL W/ AUTOGRAPHED
- / LONDON CALLING (UK:CBS) '79 ORIGINAL 2LP W/INNER
- / SANDINISTA ! (UK:CBS) '80 ORIGINAL 3LP W/INSERT
- / LONDON CALLING AND ARMAGIDEON TIME (UK CBS) '79 ORIGINAL 12'S
- ●THE CRAMPS / OFF THE BONE (UK ILLEGAL) '83 LTD EDITION FREE 3-D GLASSES INSIDE W/ AUTOGRAPHED
- ●THE CRICKETS / THE COMPLETE CRICKETS (UK:CHARLY) '84 ORIGINAL COMPILATION LP
- ●THE CROPDUSTERS / IF THE SOBER GO TO HEAVEN ...(UK:LINK) '89 ORIGINAL
- ●THE DAMNED / BEST OF VOL.1 (GER BIG BEAT) '88 GERMAN PRESS COMPILATION LP
- ●DARTS / DART ATTACK (UK:MAGNET) '79 ORIGINAL W/INNER
- / EVERYONE PLAYS DARTS (UK:MAGNET) '78 ORIGINAL
- ●THE DEAD BOYS /WE HAVE COME FOR YOUR CHILDREN (UK:SIRE) '78 ORIGINAL W/INNER
- ●THE DELTAS / MAD FOR IT (UK:ID) '86 ORIGINAL
- / BOOGIE DISEASE (UK:NERVOUS) '81 ORIGINAL
- ●DEVILS IN DISGUISE (UK:GET MOVING!) '88 ORIGINAL
- ●THE DICKIES / PARANOID (US:A&M) US PRESS 3TRACKS 10'S EP WHITE VINYL
- ●DISCHARGE / WHY (UK:CLAY) ORIGINAL
- ●THE DUROCS / S.T (US CAPITAL) US ORIGINAL W/INNER
- ●EARTH QUAKE / ROCKING THE WORLD (UK BESERKLEY) '75 ORIGINAL
- ●EDDIE AND THE HOTRODS / TEENAGE DEPRESSION (UK:ISLAND) '76 ORIGINAL 1ST ALBUM
- ●FRENZY / CLOCKWORK TOY (UK:ID) '86 ORIGINAL W/INNER
- / I SEE RED (UK:ID) '85 ORIGINAL 3 TRACKS 12'S
- / NOBODY'S BUSINESS (DUT:CAT-MACHINE) '86 DUTCH ORIGINAL 4TRACKS MINI LP
- ●GANG OF FOUR / SONGS OF THE FREE (UK:EMI) '82 ORIGINAL W/INNER
- ●THE GANGSTERS / S.T (UK:STORTBEAT) '79 ORIGINAL
- ●GO-GO'S / VACATION (US:I.R.S) '82 US ORIGINAL W/INNER
- / TALK SHOW (DUT:I.R.S) '84 DUTCH PRESS W/INNER
- ●GUANABATZ / HELD DOWN... AT LAST ! (UK:ID) '85 ORIGINAL W/INNER
- / LIVE OVER LONDON (UK:ID) ORIGINAL W/GATEFOLD SLEEVE
- ●HEARTBREAKERS / L.A.F.M (UK:TRACK) '78 ORIGINAL
- ●THE HIGHLINERS / THE BENNY HILL BOOGIE (UK:RAZOR) '89 ORIGINAL 3TRACKS 12'S
- /DOUBLE SHOT (UK:ABC) '88 ORIGINAL 3TRACKS 12'S
- ●THE HOT ROD GANG / GO AHEAD (GER:RUMBLE) '91 GERMAN ORIGINAL
- ●HOWLIN'WILF AND HIS BAND / SIX BY SIX (UK:HOUND DOG) '90 ORIGINAL
- ●HOWLIN'WILF AND THE VEE-JAYS / S.T (UK:UNAMERICAN ACTIVITIES) '88 ORIGINAL
- / CRY WILF ! (EU:BIG BEAT) '86 EU ORIGINAL
- ●JACKIE WILSON / REET PETITE (UK:ACE) UK PRESS COMPILATION LP
- ●THE JAM / SETTING SONS (UK:POLYDOR) '79 ORIGINAL 凹凸SLEEVE W/INNER
- / LIVE AT THE ROXY CLUB (UK:RECEIVER) LTD REPRO LP
- ●JETS / S.T (UK:EMI) UK "FAME" REISSUE
- / COTTON PICKIN (GER:PART) '94 GERMAN ISSUE LP
- ●JEZEBEL ROCK / ROCKABILLY STRESS (FRA:BIG BEAT) '82 FRENCH LTD 10'S
- ●JOBOXERS / LIKE GANGBUSTERS (EU:RCA) '83 EU ORIGINAL
- ●JOHNNY & THE ROCCOS / TEARIN ' UP THE BORDER (EU:OFF BEAT) '85 EU ORIGINAL
- ●JOHNNY THUNDERS & HEARTBREAKERS / GET OFF THE PHONE (UK JUNGLE) '84 ORIG 12'S
- ●THE KEYTONES / SPEAK AFTER THE TONES.. (GER:KEYTONES) '87 GERMAN ORIG W/GATEFOLD SLEEVE
- ●KING KURT / OOH WALLAH WALLAH (UK:STIFF) '83 ORIGINAL
- ●KING PLEASURE & THE BISCUIT BOYS / THIS IS IT! (UK:BIG BEAR) '90 ORIGINAL
- / S.T (UK:BIG BEAR) '88 ORIGINAL
- ●THE KREWMEN / S.T (UK:LOST MOMENT) ORIGINAL 4TRACKS EP
- ●THE LAMBRETTAS / KICK START (UK:RAZOR) '85 ORIGINAL
- ●LASH LARIAT & THE LONGRIDERS / BITTER TEARS (EU:BIG BEAT) EU ORIGINAL
- ●THE LAST / FADE TO BLACK (US:BOMP!) '81 US PRESS 4TRACKS EP
- ●THE LATE SHOW / SNAP ! (UK:DECCA) '78 ORIGINAL W/INSERT
- ●LEVI & THE ROCKATS / LOUISIANA HAYRIDE (DUT:ROCKHOUSE) '82 DUTCH ORIGINAL
- ●LITTLE EVA / THE LOCO-MOTION (UK:LONDON) UK PRESS 12'S EXTENDED VERSION
- ●LONDON / SUMMER OF LOVE (UK MCA) '77 4TRACKS EP
- ●LULU / THE WORLD OF .. (UK:DECCA) '69 ORIGINAL -STEREO .inc "SHOUT"
- ●MAD COW DISEASE / GOAT LUNG (UK:CATALINA) '93 ORIGINAL W/INNER
- ●MADNESS / ONE STEP BEYOND (UK:STIFF) '79 ORIGINAL W/INNER
- ●MATCHBOX /THOSE ROCKABILLY REBELS (UK:MFP) UK "MFP" ISSUE LP
- ●MELODY MASSACRE / SCREAMIN' IN VAIN (BEL:SOUNDWORK) BELGIUM ORIGINAL 6TRACKS EP
- ●THE MEN THEY COULDN'T HANG / NIGHT OF A THOUSAND CANDLES (UK:DEMON) '85 ORIGINAL
- ●THE MILKSHAKES / NOTHING CAN STOP THESE MEN (UK:MILKSHAKES!) '84 ORIGINAL
- ●MINOR THREAT / OUT OF STEP ... BACK PRINTED MEMBER PHOTO SLEEVE W/INSERT
- ●THE MODERN LOVERS / S.T (UK:BESERKLEY) UK REISSUE 1ST ALBUM
- ●MOOD SIX / PLASTIC FLOWERS (UK:PSYCHO) '85 ORIGINAL 5TRACKS 12'S EP
- ●MUCKY PUP / ACT OF FAITH (EU:CENTURY MEDIA) '92 EU ORIGINAL W/INNER
- ●NEW YORK NEW YORK / I WANNA BE LIKE YOU (UK:BEACH CULTURE) '85 ORIGINAL 4TRACKS EP
- ●THE NUNS / S.T (UK:BUTT) '81 ORIGINAL W/INNER
- ●OHL / HEMATFRONT (GER:ROCK-O-RAMA) '81 GERMAN ORIGINAL
- ●THE ONLY ONES / REMAINS (FRA:CLOSER) '84 FRENCH PRESS
- ●OYSTER BAND / LITTLE ROCK TO LEIPZIG (UK:COOKING VINYL) '90 ORIGINAL
- ●PATTI SMITH / TO THE ONES SHE LOVES (UK:???) LTD LP
- ●PIG BAG / GETTING UP (UK:Y) '82 ORIGINAL 12'S
- ●THE POGUES / RED ROSES FOR ME (UK:STIFF) '84 ORIGINAL
- / RUM SODOMY & THE LASH (UK:STIFF) '85 ORIGINAL
- / IF I SHOULD FALL FROM GRACE WITH GOD (UK:STIFF) '88 ORIGINAL W/INNER
- ●POINTED STICKS / OUT OF LUCK (UK:STIFF) '79 ORIGINAL 12'S W/LABEL BAG
- ●POLECATS / MAKE A CIRCUIT (UK.PHONOGRAM) '82 ORIGINAL 12'S
- ●PURPLE HEARTS / BEAT THAT ! (UK:FICTION) '80 ORIGINAL
- ●RAMONES / SHEENA IS A PUNK ROCKER (UK:SIRE) ORIGINAL 12'S
- ●RAY CAMPI / ROLLING ROCK SINGLE COLLECTION '71 8 (UK RONDELET MUSIC) '81 ORIGINAL
- ●RED ROCKERS / GOOD AS GOLD (US:COLUMBIA) '8 US PRESS
- ●THE REVILLOS / REV UP (UK VIRGIN) UK VIRGIN REISSUE
- ●RICH KIDS / GHOST OF PRINCES IN TOWERS (UK EMI) '78 ORIGINAL W/INNER
- ●RICHARD HELL & THE VOIDOIDS (BEL:SIRE) '77 BELGIUM PRESS 12'S
- ●ROBERT GORDON / ROCK BILLY BOOGIE (UK:RCA) '79 ORIGINAL W/INSERT
- ●THE ROCKATS / MAKE THAT MOVE (US:RCA) '83 US PRESS
- ●ROCKY SHARPE & THE REPLAYS / RAMA LAMA (UK:CHISWICK) '79 ORIGINAL W/INNER
- / ROCK-IT-TO MARS (UK:CHISWICK) '80 ORIGINAL W/INNER
- / SHOUT ! SHOUT ! (UK:CHISWICK) '81 ORIGINAL
- ●ROMAN HOLIDAY / STAND BY (UK:JIVE) '83 ORIGINAL 12'S
- / MOTOR MANIA (UK.JIVE) '83 ORIGINAL 12'S
- ●THE ROUSERS / TOUCHED (EU:ARIOLA) '80 EU ORIGINAL W/INNER + FREE 7'S
- ●THE RUBETTES / S. T (FRA:IMPACT) FRENCH PRESS COMPILATION LP
- ●THR RUBINOOS / BACK TO THE DRAWING BOARD (DUT:BESERKLEY) '79 DUTCH PRESS 2ND ALBUM W/INNER INC "I WANNA BE YOUR BOYFRIEND"
- ●SANDY NELSON / THE VERY BEST OF (UK:SUNSET) '70S ISSUE BEST ALBUM
- ●SECRET HEARTS / S.T (US:MCA) '84 US PRESS
- ●SEX PISTOLS / NEVER MIND THE BOLLOCKS (UK:VIRGIN) '77 ORIG LABEL 12TRACKS
- / GOD SAVE THE QUEEN (UK:SEX PISTOLS RESIDUALS) '02 ISSUE PROMO ONLY 12'S W/PRESS SHEET
- ●SHOTGUN EDDIE & THE RAVERS / DRIVE IN (EU:EMI) '83 EU PRESS W/GATEFOLD SLEEVE
- ●SKIDS / SCARED TO DANCE (UK.VIRGIN) '79 ORIGINAL W/INNER
- ●THE SKIPRATS / MOVE OVER ROVER (GER:RUNDELL) '94 NOW DELETED LP
- ●SKREW DRIVER / ROCK ANTI COMMUNISM (???:BRITISH OI LEGEND) NOW DELETED LTD LP
- ●SPECIALS / S. T (UK.2 TONE) '79 ORIGINAL 1ST ALBUM
- / SINGLES (UK.2 TONE) '91 ISSUE LP
- ●SMALL HOURS / THE KID (UK:WEA) '80 ORIGINAL LTD 10'S EP
- ●STAGE FRITE / ISLAND OF LOST SOULS (UK:LINK) '89 ORIGINAL
- ●STRAY CATS / S.T (UK:ARISTA) '81 ORIGINAL 1ST ALBUM W/INNER
- / BLAST OFF (UK:EMI) '89 UK PRESS
- / STRAY CAT STRUT (UK:ARISTA) '83 ORIGINAL 12'S
- ●THE SURF RATS / STRAIGHT BETWEEN THE EYES...(UK:LOST MOMENT) '89 ORIGINAL
- ●THE TEARDROPS / FINAL VINYL (UK:ILLUMINATED) '80 ORIGINAL
- ●TERRY & GERRY / CLOTHES SHOP (FRA:IN TAPE) FRENCH PRESS 12'S
- ●3 MUSTAPHAS 3 / BAM MUSTAPHA PLAYS STEREO (UK:GLOBE STYLE) ORIGINAL
- ●TOPPER HEADON / WAKE UP (UK MERCURY) '86 ORIGINAL W/INNER
- DRUMMING MAN (UK MERCURY) '85 ORIGINAL 12'S
- ●TOP SECRET / ANOTHER CRAZY DAY (UK CHEAPSKATE) '81 ORIGINAL
- ●TRACEY ULLMAN / YOU BROKE MY HEART IN 17 PLACES (UK STIFF) '83 ORIGINAL W/INNER
- ●THE TROJANS / SAVE THE WORLD (UK GAZ'S) '89 ORIGINAL
- ●THE UNDERTONES / TEENAGE KICKS (UK ARDECK) UK PRESS 12'S
- ●THE VIBRATORS / PURE MANIA (CAN COLUMBIA) CANADA PRESS
- ●V.A / A FISHFUL OF PUSSIES (UK:ANAGRAM) '88 ORIGINAL inc. THE METEORS, BATMOBILE...
- / THE AUSTRALIAN COUNT DOWN ALBUM (UK:54321 COUNTDOWN) '86 ORIG inc.THE SAINTS
- / BLOOD ON THE CATS (UK:ANAGRAM) '83 ORIG inc.THE METEORS, GUANA BATZ...
- / HAVE A ROTTEN CHRISTMAS (UK:ROT) LTD PUNK COMPILATION inc.VARUKERS, RIOT SQUAD...
- / L.A.ROCKABILLY (DUT:ROCK HOUSE) '87 DUTCH ORIGINAL
- / LE ROCK D'ICI A L'OLYMPIA (FRA:PATHE) '78 FRENCH PRESS inc.BIJOU ...FRENCH PUNK COMPI
- / PLATINUM HIGH SCHOOL (UK:MAGNUM FORCE) '82 ORIGINAL inc.SHAKIN'STEVENS, JETS....
- / THE SIRE STORY (UK:SIRE) PROMO ONLY GREEN VINYL W/OUTER BAG
- / SKINS 'N' PUNKS VOLUME 3 (UK:OI) '87 ORIGINAL
- / STRAIGHT TO HELL (FRA:UPFRONTE) FRENCH PRESS inc.THE POGUES, JOE STRUMMER ....
- / TAMLA MOTOWN PRESENTS 20 MOD CLASSICS (UK:TAMLA MOTOWN) 70'S ISSUE LP inc.STEVIE WONDER, DIANA ROSS.....

NEW RELEASE & NOW IN STOCK

ROCKABILLY / PSYCHOBILLY

…の"恋のバカンス"のロシア語ロッキンカバー!!! 必聴の 定番クラブHITナンバーです!

- ●THE BOOTHILL FOOT TAPPERS / AIN'T THAT FAR FROM BOOTHILL (UK) BIG TOWN (CD) 唯一のアルバムが遂にCD化!! 定番KLUB HITナンバー"JEALOUSY", "LOVE & AFFECTION"他人気曲満載!アナログだとかなり値が張ります! この機会を見のがすな!!
- ●BOPPIN' B / WE CAN LEAVE THE WORLD (GER) POLYDOR (CDS) GERMAN人気のNEO-ROCKABILLY BAND。DICK DRAVEと共同作成されれたアルバムからのシングルカット!! VIDEO TRACK他、DICK BRAVEのインタビューなんかも収録されています。
- ●COAST TO COAST / COASTIN' (UK) BIG TOWN (CD) "DO THE HUCKLEBACK"でお馴染みのPARTY R&R ALBUM遂にCD化! さらにBONUSとして"DO THE HUCKLEBACK"のSINGLE MIX (KLUB HIT!!)とYORKIE LABELからリリースされた7"のVERSIONも収録!
- ●CRUISERS / REAL GONE GIRL (GER) PIN UP (LP, CD) ROCKABILLY TRIO!! 本作は'93年に発表したものでDEADSTOCK限定入荷!! アナログはそこそこ高値のつく代物です。
- ●THE DELTONES / NANA CHOC CHOC IN PARIS (UK) BIG GIRLS (CD) 89年リリース。フレンチガールズSKAバンドの名盤がCD復活!! 2大KLUB HITナンバー"MAKE ME SMILE", "STAY WHERE YOU ARE"含む傑作SKA - POP!!!
- ●THE HIGHLINERS / BOUND FOR GLORY (UK) BIG TOWN (CD) KING KURT, TEXANSと並ぶPSYCHO STOMPIN' BANDの1st ALBUM CD復活!!! w/ 7 BONUS TRACKS
- ●KING KURT / OOH WALLAH WALLAH (UK) BIG TOWN (CD) 83年リリースの名盤が遂に再発!!シングルトラックも追加収録!! "GHOST RIDERS IN THE SKY","BANANA BANANA BANANA BANANA", "DESTINATION ZULULAND"等収録!!!のVERSIONも収録!!
- ●THE LARKS / S.T. (EU) BIG TOWN (CD) 永遠のKLUB HITナンバー"MAGGIE MAGGIE MAGGIE"収録のCD REISSUE盤!
- ●THE LEATHERCOATED MINDS / A TRIP DOWN THE SUNSET STRIP (UK) SMALL TOWN (CD) 67年発表の幻のガレージサイケALBUM REISSUE!! "PSYCHOTIC REACTION", "SUNSHINE SUPERMAN", "PUFF", "MR. TAMBOURINE MAN" etc. をエグイGUITARでカバーする名作!!
- ●MACKSHOW / 爆発ナナハン小僧 (JPN) B.A.D. (CD) COLTSの元メンバー2人在籍のゴキゲンR'N'R TRIO、約1年振りのリリースとなる3rs ALBUM!! 初回盤はDVD付 と聴盤!!
- ●MAD SIN / BABYLON RELOADED (GER) PEOPLE LIKE YOU (CD) 前作から約2年半ぶり待ちにまった待望のNEW ALBUM!!! リリースが伸び伸びでしたがようやく解禁!!!
- ●MEANTRAITORS / TITANIC MUSIC (RUS) MOROZ (LP) 極寒の地ロシアの代表選手的なPSYCHOBILLY TRIO!! オリジナルリリースである'93年作の本作が廃盤限定入荷!!!
- ●METEORS / IN HEAVEN (UK) ANAGRAM (CD) 説明不要の1st ALBUM CD再発!!
- / THESE EVIL THINGS (GER) PEOPLE LIKE YOU (CD) 再結成第2弾のNEW ALBUM!!
- ●ROCKABILLY REBS / S.T. (EU) BIG TOWN (CD) 81年リリースの1st ALBUM CD REISSUE!! BLACK CATSのモトネタとなった"ROCKABILLY ROMEO"収録。
- ●ROCKY SHARP & THE REPLAYS / STOP PLEASE STOP (UK) BIG TOWN (CD) 83年作の名盤遂にCD化! "LET'S TWIST AGAIN"他名曲揃いの人気作!!!
- ●SCUM RATS / GO OUT IN SCUM DREAM (GER) RUMBLE (LP) 大人気1st ALBUM遂に再発!! 勿論あの"I LOVE ROCK & ROLL"収録!! 間違いなくMUST!!!!
- / DEMONS OF THE DARK (GER) RUMBLE (LP) そしてこちら2nd ALBUMもめでたく再発! 1st、2nd共にどちらも人気盤です。よろしくどうぞ。
- ●SHILLELAGH SISTERS / SHAM ROCK & ROLL (UK) ALMAFAME (CD) POLECATSのBOBとBANANARAMAにも在籍してた奥さんからなるNEO - ROCKABILLY BAND!! LULUでお馴染みの名曲"SHOUT"を始め、"THESE BOOTS ARE MADE FOR WALKING"カバーも収録!!

BRAND NEW ALBUM, NOW ON SALE!!

HOT BOOGIE CHILLUN

"15 REASON TO ROCK&ROLL"

A Collection of Girlie Group Smash Hits

Girls ON TOP

THE METHOD OF **KLUB DANCING Vol.21**

KLUB RECORDS (LTD.LP) NOW ON SALE!

…のカバーバージョンというコンセプトで選曲されたA面原曲/B面カバーなアルバム!! 必買の大推薦盤です!

5. I LOVE ROCK'N'ROLL : KATHY X 6. ACE OF SPADES : BATMOBILE 7. HEY MICKEY : THE RIPLETS 8. VIDEO KILLED THE RADIO STAR : BUGGLES ※歌詞カード付き!!

PUNK etc. NEW RELEASE

- ●BLOOD OR WHISKEY / CASHED OUT ON CULTURE (LP, CD) 3rd ALBUM!!! もはや大人気となった説明不要バンド!! DROPKICK MURPHYS, FLOGGING MOLLYファン即買!!!
- ●CAESARS / JERK IT OUT (UK) VIRGIN (7") STERIOGRAMに続く、i-PODのCMに選ばれた彼等。3rd ALBUM収録のGOODナンバーがシングルカット!! GUITAR POPイベントなどで密かにプレイされてた名ナンバーが大ブレイクです。必買!!!
- ●CARDINAL SIN / OIL & WATER (US) GREY FLIGHT (CD) CADILLACK BLINDSIDEの元メンバー在籍の、ALKALINE TRIO, JAWBREAKERタイプなサウンドだそうです。
- ●CHIXDIGGIT / PINK RAZORS (US) FAT (LP, CD) 待望5th ALBUM遂に。きたきた~!!!! POP! POP!! 超POP!!! ハジけまくりなPOP PUNKサウンド炸裂です。昇天!
- ●DECIBULLY / SING OUT AMERICA! (US) POLY VINYL (LP, CD) PROMISE RINGのメンバーが解散後に結成した、EMOTIONAL / INDIE ROCKバンドの2nd ALBUM!!
- ●DEVILS BRIGADE / VAMPIRE GIRL (US) RANCID (12") RANCIDのベースMATT率いるSTREET PUNK / PSYCHOBILLYバンド!! 前作が発売即完売となった彼等の最新作。今作でも即完売必至です。PSYCHOBILLY~RANCID / STREET PUNKファンはお早めに。
- ●EVERYBODY GETS HURT / THE DEMO DAZE (US) REALITY (CD) SETBACK, 25 TA LIFE, DIMIZE, FULLCONTACT, OUTBURST, FIT OF ANGER, SWORN ENEMYといったHC界の豪華面々で構成されたE.G.H.!!! 1stもバカ売れでした。今作は7inchやSPLIT、DEMO音源等をまとめたRARE TRACK集です。品切れ必至のMOSH ITEM!!!!!
- ●FLOGGING MOLLY / WITHIN A MILE FROM HOME (US) SIDE ONE DUMMY (PIC, LP) 3rd ALBUMが限定ピクチャー盤でリリース!! IRISH PUNKファンは持って無きゃ反則だ。
- ●HANKSHAW / KING KANDY (US) BERKELY PARK (CD) JESUNEやRAINER MARIAにもリンクする'95年結成のEMOバンド。久々のアルバムリリース。相変わらず油絵か?
- ●LARS FREDERIKSEN & THE BASTARDS / SWITCHBLADE (US) RANCID (12") RANCID運営のレーベルから。RANCIDのギタリストLARSのバンドです。NEW!!!!!
- ●LES SEXAREENOS / 28 PARTY DANCERS FROM MONTREAL'S (US) SYMPATHY (CD) 5年掛かりで製作された編集盤。SINGLE, OUTTAKE, LIVEと厳選された曲を収録。
- ●MANIC HISPANIC / GRUPO SEXO (US) BYO (CD) 4th ALBUM!!!! またまたオチャラケたカバーバンド、アミーゴ達がCOMEBACK!!! PUNKの名曲をオモシロおかしく、いや好き放題にアレンジしちゃってます。ふざけてるのにうまいんだこれが。お試しあれ。
- ●MILLENCOLIN / KINGWOOD (SWE) BURNING HEART (CD)
- ●101 / GREEN STREET (EU) LIMEKILN (CD) 去年末アナログ入荷で個人的にもお気に入りとなったこのバンド。CHRISTIE FRONT DRIVEというバンドのメンバーが在籍するEMOTIONALバンドで、JIMMY EAT WORLDなんかとも交流が深いらしく、彼等のアルバムにも参加をしていました。サウンドは、EMOの王道的なEMO POP / EMO ROCKサウンドな感じでJIMMY EAT WORLD, GET UP KIDSなんかを彷彿とさせます。清涼感というか透明度のある湿り気具合がなんとも堪らない逸品です。是非一聴を。
- ●PAINT IT BLACK / PARADISE (US) JADE TREE (LP, CD) LIFETIME, KID DYNAMITE, GOOD RIDDANCE, NONE MORE BLACKのメンバー在籍のHC PUNK BAND!!
- ●RANCID / WHITE KNUCKLE RIDE (US) RANCID (12") NEW!! 自身らのレーベルから。限定盤ですのでもう早い者勝ちです。一人2枚買っちゃってください。
- ●SPUNGE / ONE MORE GO (UK) DENT' ALL (CDS) SKAAAAAA - PUNK!!! アルバムでも魅せた、盛り上がり感バッチリのSTYLEは今だ健在です。しかもカバーメドレーも収録!?
- ●TORPEDO / ANTICLOCKWISE (UK) STRANGE FRUIT (MCD) STARMARKETのメンバー在籍のSWEDISH EMOTIONAL BAND!! STARMAKETファン絶対必聴。
- ●25 TA LIFE / HELLBOUND MISERY TORMENT (US) BACK TA BASICS (CD) NEW!!
- ●UNSEEN / STATE OF DISCONTENT (US) HELLCAT (LP, CD) NEW!!
- ●VOLCANO / S.T (US) LONG BEACH (CD) SUBLIME / LONG BEACH DUB ALLSTARSからBUD, MIGUEL, JONの3人とMEAT PUPPETSからCURTが参加したスーパーバンドのデビューアルバム!!! 音は詳細不明ですがその手のファンには素通り出来ない作品でしょう。
- ●WEEZER / MAKE BELIEVE (US) UNIVERSAL (LP) 前作から約3年振りの新作!!!!!!!
- ●WHOLE WHEAT BREAD / MINORITY RULES (JPN) AMBLENCE (CD) 前代未聞!? 黒人MELODIC PUNKバンドのデビューアルバム!!! B - BOYで着固めた服装で奏でるサウンドは底抜けポップでキャッチーな疾走感抜群なPUNK ROCK!!! プロデュースを手掛けるのはPENNYWISE, YELLOWCARD等でお馴染みDARIANが担当。POP, FAST, IRISH要素もあるとか
- ●ZERO MIND / GROUND ZERO EP + 3 (US) POWER SLAVE (CD) サンフランシスコ発の6ピースMIXTURE/NU METALバンド!! デビューEPに新曲を追加収録してのCD化!! PRO.を手掛けるのはTOOL, SYSTEM OF A DOWNでお馴染みシルヴァ!!!! 高速RAPとEMOTIONALボーカルが絡み、スクラッチも多様したMIXTURE / RAP CORE / NU METALなサウンド!!

PUNK etc. STOCK

LONDON NITE 03

VARIOUS ARTISTS (JPN) KEN ROCKS (Ltd.LP / CD)

…はCLASH "I FOUGHT THE LAW", NENA "99 RED BALLONS", GO GO'S"VACATION", PRIMITIVES "CRASH", BOO RADLEYS "WAKE UP BOO!", MILLIE "MY BOY LOLLIPOP"等の定番ナンバー満載!!!! もちろんアナログは今回も限定です。お早めに!

- ●ADOLESCENTS / THE COMPLATE DEMOS 1980-1986 (US) FRONTIER (LP, CD) 本誌の増刊"PUNK天国VOL.2"でも取り上げられたUS 80'S HCシーン、オレンジカウンティー代表選手!! 本作はリハーサル音源等も収録されたRARE TRACK集です。
- ● ..AND YOU WILL KNOW US BY THE TRAIL OF DEAD / AND THE REST WILL FOLLOW (EU) INTERSCOPE (PIC, 10") SUMMERSONIC出演のきっかけで超話題&人気爆発ブレイクを果たした彼等。待望NEW ALBUMから限定ピクチャー盤でのシングルカット!!!
- ●BIG RAW / ALL NITE RAVE (JPN) MAJESTIC SOUND (CD) KING BROTHERSのマーヤやNEATBEATS / MR.PANも絶賛!! 結成は'02年春とまだ3年たらずで日も浅いが懐は深い!!! 60'Sリバプールサウンドを基とした広島発のGARAGE ROCK'N'ROLL BAND!! ハイテンポなR&Rナンバーから、胸キュンPOPチューンまでそつなくこなしています。注目1stアルバム!
- ●BLOOD / FALSE GESTURES FOR DEVIOUS PUBLIC (UK) CAPTAIN OI! (CD) '82年LINK recからリリースされたアルバムが再発!! 曲によってはキーボードやサックス、ブルース・ハープも入ったバラエティーに富んだ作品。OI! PUNKファンにウケた作品です。
- ●CHAOS UK / THE RIOT CITY YEARS (UK) STEP - 1 (CD) RIOT CITY時代の音源集!!
- ●CRUISERWEIGHT / SWEET WEAPONRY (US) HEINOUS (CD) 名門DOGHOUSEが新たに設立したNEW LABELからの期待の新人バンドデビュー!!! メンバー構成はCUTEな女性ボーカルと男2人の3ピースなEMO POP BAND!! キャッチーなメロディーの中に絶妙な哀愁/EMO加減な混じりあい、ハーモニーやコーラス、フックなんか等もうかなりイケてますよ。流石はDOGHOUSE参加レーベルだ。POP PUNKファンにも十分アピールできる好作品。
- ●DA WHOLE THING / @VERSION CITY (US) STUBBORN (CD) '97年結成のSLACKERS STYLEなN.Y. SKAバンドのDEBUT ALBUM!! こりゃ事件です。CHRIS MURRAY, VICTOR RICE, ROCKER T, DAVE HILLYARDなどなど超豪華面々が参加!! これで悪い仕上がりになるなんて事はまずあり得ないでしょ。
- ●DEADLINE / GETTING SERIOUS (GER) PEOPLE LIKE YOU (LP, CD) 3rd ALBUM!! KNUCKLEHEAD, GUNDOGのメンバー在籍のGIRL VO.によるBRITISH OI! / STREET PUNKバンド!! ここ最近人気もウナギのぼりで絶好調ですね。アナログは限定盤です。
- ●DISORDER / THE RIOT CITY YEARS (UK) STEP - 1 (CD) RIOT CITY時代の音源集!!
- ●DMBQ / THE ESSENTIAL SOUNDS FROM THE FAR EAST (US) ESTRUS! (LP, CD) 日本が世界に誇るPSYCHE GARAGE MAYHEM!! 人気のGARAGE専門レーベルESTRUS!から。
- ●DROPKICK MURPHYS / SINGLES COLLECTION VOL.2 (US) HELLCAT (CD) '98~'04までにレコーディングされたシングル音源を始め、SPLIT, コンピ提供曲など全23曲収録!! カバーもモチ入っています。MISFITSやAC / DC等のカバー収録。
- ●EVENS / S.T (UK) DISCHORD (LP) FUGAZIのイアン・マッケイによるNEW BAND!!
- ●FILAMENTS / WHUAT'T NEXT (UK) HOUSEHOLD NAME (LP) メンバーの見た目がCASUALTIESや入れ墨全開のRANCIDのLARSみたいなメンバーからなるSKA - STREET PUNKバンド!! SKAとSTREET PUNKのイイ所だけを抽出したPOLITICALサウンドを聴かせてくれます。コーラスもバッチリ。これはゴキゲンだ。RANCID / CATCH 22等のファンに。
- ●GIZMOS / ROCK & ROLL DON'T COME FROM NEW YORK! (US) GULCHER (CD) US UNDERGROUND PUNK BAND。本作は未発表やSPLIT音源、LIVE等を収録した編集盤!!
- ●GUITAR GANGSTERS / LET 'EM HAVE IT (UK) CAPTAIN OI! (CD) COMEBACK!!
- ●JEBEDIAH / BRAXTON HICKS (JPN) FABTONE (CD) 5th ALBUM!! 文句無し!!!!!!
- ●JIMMY EAT WORLD / WORK (EU) INTERSCOPE (7") ヨーロッパ限定シングル!!
- ●MARS VOLTA / THE WIDOW (UK) UNIVERSAL (PIC, 12") シングルカット!!!
- ●NEATBEATS / ATTENTION PLEASE!! (JPN) MAJESTIC SOUND (2LP) 通算8枚目!! アナログのみのBONUS TRACK"HARRICANE"も収録した帯付き限定盤!!
- ●NEGATIVE FX / GOVERMENT WAR PLANS (US) DISTORTIONS (LP) SSD, GANG GREEN, JERRY KIDSと並び'80年代東海岸SxExシーンを語る上で絶対外せない、BOSTON HCの重鎮NEGATIVE FXのデビューアルバム前にレコーディングされたDEMO音源集!!
- ●NOW / INTO THE 80'S! - THE 1978 DEMOS (GER) LAST YEAR'S YOUTH (LP) RARE音源が発掘され、晴れて再発専門レーベルからのリリースです。A面はTAPE音源、B面はTRUNK SESSIONの全10曲を収録。1st SINGLE"WHY"や2nd SINGLE"INTO THE 80'S", "9 O'CLOCK"を始め、YARDBIRDS "SHAPE OF THING TO COME"カバーも収録。限定461枚のハンドナンバリング入り。
- ●PEEPING TOMS / MAXIMUM & REGGAE (SPA) LIQUIDATOR (LP) AGGRONAUTS, PSICO RUDE BOYS DEL ESPACIO EXTERIOに続くSPANISH TRADITIONAL SKA / REGGAE BAND!! と記記載のバンドが好みの方に是非。
- ●ROGER MIRET & THE DISASTERS / 1984 (US) HELLCAT (CD) AGNOSTIC FRONTのフロントマン"ROGER MIRET"のソロプロジェクトよにる2ndアルバム!! 前作同様熱く硬派なSTREET PUNKサウンド!!!! もう言う事無いです。必聴あるのみ。
- ●SMOKE OR FIRE / AVOVE THE CITY (US) FAT (LP, CD) いかにもFATなエネルギッシュかつメロディックで荒々しいほどに熱くパワフルな男気あふれるPUNKサウンドを披露!! AVAIL, STRIKE ANYWHERE, DILLINGER FOUR, AMERICAN STEEL, KID DYNAMITE等のファンにアピールできる作品です。
- ●SQUEKS / S.T. (JPN) K.O.G.A. (CD) 残念ながら人気絶頂で解散してしまったPIGGIESのデツ氏率いる4ピースPOWER POP / R'N'Rバンドの1stアルバム!!! POPかつハイクオリティーな楽曲とハードドライヴィンサウンドの波状攻撃!! そして今作には彼等のフェイバリットであるSLAUGHTER & THE DOGSの"SITUATION"カバーも収録。
- ●STALIN / スターリニズム (JPN) POLITICAL (7") 2nd SINGLE限定再発!!!
- ●STREET DOGS / BACK TO THE WORLD (US) BRASS TACKS (CD) DROPKICK MURPHYSの初代ボーカリストMIKE率いるSTREET PUNK BANDの2nd ALBUM!!!!!!!
- ●SUZY & LOS QUATTRO / READY TO GO! (JPN) WIZZARD IN VINYL (CD) 1st ALBUM遂にCD化!!!!! 多くのファンがこの時をどれだけ待ちわびたか。これまでリリースしてきたシングル路線同様、SUZY嬢のCUTEでラブリーなボーカルと極上POWER POPサウンドが目一杯詰っており昇天間違いなし!!!! BEST POWER POPでしょう。しかもそれだけでは終わりません。GO-GO'Sの名曲"VACATION"カバー, HULLBALOOS"DID YOU EVER"までも収録しております!!! 更にはCDのみの特典としてDEMO FREE CDS付。全GIRLS, POWER POP, POP PUNKファン必買の大推薦盤!!! アナログも好評発売中!!!!
- ●VARUKERS / THE RIOT CITY YEARS 1983 - 1984 (UK) STEP - 1 (CD) RIOT CITY時代の音源をまとめた編集盤!!
- ●VICTIMIZE / FUCK THE PISTOLS...I'VE BEEN VICTIMISED! (GER) LAST YEAR'S YOUTH (LP) 全てオリジナルマスターテープからの音源で、シングルの曲とは別のバージョンが収録の他、未発表や80年ラストレコーディングの映画音源まで、片面仕様による全6曲収録!! 限定459枚ハンドナンバリング入り。
- ●V.A. / YOUNG RAW SOUNDS (EU) ZEUS (LP) オリジナルは'78年にLIGHTNINGからリリースされたUK PUNK / POWER POPコンピの再発盤!! ft.-NERVES, JERKS, BLITZKRIEG POP, ELTON MOTELLO, MIRRORS, TOO MACH, DIRTY DOG, JET BRONX&THE FORBIDDEN, FRUIT EATING BEARS, CANE, MARTIN&THE BROWNSHIRTS!!

◎通信販売受付中

お問い合せは各取扱い店までお電話でお願い致します。

VINYL JAPAN Co.

VINYL JAPAN STORES

OPEN SEVEN DAYS A WEEK 12:00 - 21:00

Pt.1 / 〒160-0023新宿区西新宿7-4-7新宿浜田ビル1F 03-3365-0910
Pt.2 / 〒160-0023新宿区西新宿7-5-5プラザ西新宿2F 03-5330-9141
Pt.3 / 〒160-0023新宿区西新宿7-4-7新宿浜田ビルB1 03-3371-5961

RECORD SHOP BASE

TOKYO ← 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-23-5 ACPビル3F
TEL. 03-3318-6145 FAX. 03-3318-6150
E-MAIL. base@recordshopbase.com OPEN 12:00～21:00

〒604-8062 京都市中京区蛸屋町152-1 →
三カラットビル 3F
TEL/FAX. 075-213-6060
OPEN 12:00～21:00

KYOTO

両店とも通販歓迎！代引OK TELにてお気軽にお問い合わせください。

NIKKI CORVETTE
"WILD RECORD PARTY Vol.2"
6月29日発売！！ (CD)

大好評完売だった前作に続き
第２弾登場！！ そして７月再来日！

収録曲
WILD RECORD PARTY(新曲)
NEAT NEAT NEAT(DAMNED)
X OFFENDER(BLONDIE)
NOTHING GOIN DOWN(PETE JAMES)
KICKS(PAUL REVER & THE RAIDERS)
48 CRASH (SUZI QUATRO)
TRASH (NEW YORK DOLLS)
OOH MY SOUL (LITTLE RICHARD)
ROCK'N'ROLL RADIO (RAMONES)

7/15 横浜クラブ リザード
/16 名古屋サンセットストリップ
/17 京都ウーピーズ
/18 福岡キースフラック
/20 宮崎ウェザーキング
/22 大阪 PIPE69
/23 東京下北沢シェルター
/24 東京下北沢シェルター

"WILD RECORD PARTY VOL.1"も同時再発！
お待たせのT-SHIRTSも入荷します！

joy
"ジョイは危険予知"
発売中！ (CD)
オリジナリティ溢れるサウンドを吐き出す新潟 PUNK ROCK バンド1ST アルバム！

-LIVE-
5/28京都木屋町EAST
6/4 新潟JUNK BOX MINI
6/25東京高円寺20000V
レコ発ライブ！！

MAN★FRIDAY
"DISCO-GRAPHY" (CD)
1999-2001の２年間を駆け抜けた東京HARDCOREバンド！DEMO TAPEを含む全既発音源にRE-MIX、未発表音源を追加した全２０曲+ラストライブの音源を収録！ 発売中！

RECORD SHOP BASE ホームページ！！
http://www.recordshopbase.com
中古盤USEDセクション新設！！要チェック！！

PUNK, HARD CORE レコード高価買い取りいたします！
日本盤、日本のハードコア特に歓迎！

おかげさまで **京都店３周年!!**
記念SALE 4/29～5/8 中古盤30%OFF
5/28～5/29新品輸入盤15%OFF
京都企画"HOW WE FEEL /FEEL : 3" 5/28(土)京都木屋町EAST
出演 JOY/ZYMOTICS/ONE RIVER/LIQUID SCREEN/OUTNAUTS

☆JAPANESE INDEPENDENT☆ ☆IMPORT☆

The slowmotions / ダイヤルを回せ！(CD)
即完売を続けた５枚のEPの曲に未発表1曲を収録！

ASBESTOS , TO THE MEMORY OF THE WAR VICTIM.(2LP)
東京HARD CORE 初期メンバーの音源を２７曲収録！

SHADOW OF FEAR / PAINFUL CTY E.P. (7")
DISCLOSE/FINAL BOMBSのメンバーによるスペシャルユニット

UG MAN / without UG (CD)
東京ポンコツHARD CORE 3RD アルバム！！

LAUKAUS / S-T(7")(CDS)
80s 欧州/日本の影響大の神戸CHAOTIC PUNK 新作！

どろたぼう / 虚無の空間 (CDR)
神戸ハードパンク！初期日本PUNKテイストを毒々しく吐き出す！

D.S.B. / US TOUR 2003 (DVD)
大盛況だったUS TOURの模様を収録！

GASMASK TERROR /S-T (7")
フランスD-BEAT/スカンジサウンド！

ANNIHILATION TIME /II (CD)
US HARD CORE 2ND アルバム！

WE ARE / BIG SUMMER (7")(CD)
東京ギターパンクトリオ！FINE TUNING!からの３曲入り！

?NEONS / DOTFIVE...(CD)
三重/四日市NEW WAVE PUNK！80s臭プンプン!

THE CLICKS / MAGIC OF WHITE (CD)
東京超キュートポップパンク待望のフルアルバム！

渡山 / 打ち寄せる波 聳え立つ山(CD)
茨城Oi/SKINS 日本語詩が熱い！

NAKED YEGGS / 三枚目 (CD)
仙台ハードR'N'Rバンド 2NDアルバム！最高！！

REALIZED / 21ST CENTURY TERMINAL WORLD (CD)
関東を中心に活動するツインVo GRIND 1STアルバム

boris / dronevil (2LP)
２枚を別々に同時にプレイし、あなたの部屋で空気ごとMIX!

CELTIC FROST / MORBID TALES (LP)
スイスの伝説 THRASH BLACK METAL 1ST 再発！

HERESY / FACE UP TO IT ! (CD)
1ST アルバムリミックス再発！ボーナストラック入り！

CONGA FURY / LOVE NOISE EP (7")
高知C-BEAT！3RD シングル！限定５００枚！

BEYOND DESCRIPTION //JILTED / SPLIT (CDS)
日本//イタリア HARD CORE スプリット！

BEYOND DESCRIPTION
ASBESTOS
突撃戦車
DESTRUCTION
収録

V.A. / THE PATH TO TRUE INDEPENDENCE (CD)
関東THRASHIN CRUST 4 BAND 収録！！

NO VALUE//BRODY'S MILITIA / SPLIT (7")
東京//オハイオHARDCORE SPLIT!

EFFECT / EFECTIVE DISASTER (CD)
東京CRUSTIE PUNK！８曲入り1STアルバム！

A PIECE OF SHIT / RED BLOOD (CD)
広島HARD CORE ６曲入りミニアルバム！

TIP TOPPERS / SUBTERRANEAN JUNGLE(CD)
ノルウェーPOWER POP/POP PUNK RAMONESカバーアルバム！

APERS / SKIES ARE TURNING BLUE (CD)
オランダPOP PUNK3RD アルバム！

MAD CONFLUX
"CRAZY ACTION PARTY" (CD)
８０年代後半に活動していた横浜HARDCORE バンド、未発表曲/音源も含むDISCOGRAPHY！
GET BACK THE DISCHARGED ARROW
TRIPLE CROSS COUNTER/病原体
HANG THE SUCKER/ENJOY YOUR YOUTH
SPLIT W/JUNKY/DIRTY PARTY TAPE+MORE

L.S.D
"HATE WAR 2005" (CD+DVD)
80'sJAPANESE HARD CORE DISCOGRAPHY CD!
現在入手困難なシングル等の音源に未発表曲も含むライブ音源収録。さらにDVD付！！

POINTED STICKS
"PERFECT YOUTH"
オフィシャル(LP)(CD)
お待たせ！あのカンディアンパンクの1STアルバムがオフィシャル再発！！
CDはボーナストラック収録！

V.A/VANCOUVER COMPLICATION
カナディアンパンクの重要作
ブックレットも再現、帳翻付！！
ボーナストラック収録！

PUNK AS A FUCK SHOW 2004 (DVD)
昨年１１月に行われたFOLO IT会場の模様を収録！
各バンド２曲＋当日の会場風景を収録！

収録バンド
TOM & THE BOATMEN
THE AVOIDED
EXTINCT GOVERNMENT
THE BASEMENTS
NO EVACUATIONS
SIGN OF LIFE
FERAL
CONTRAST ATTITUDE
ABRAHAM CROSS
IMPULSIVE
LAUKAUS
LITTLE BASTARD
THE DISCLAPTER
LIFE

SKATE ALL DAY DRINK ALL NIGHT
好評HARD COREオムニバス第３弾！(CD)
FAST / SK8NIKS
VIVISICK / FIDO'S BRUNCH
POST CROWN / JACKSONS
EL NUDE / DEEP SLAUTER
TAIGAN / ABRAHAM CROSS

FRICTION
-'79 LIVE (CD+DVD)-
79年、張り詰めた空気、テンションを放つ最高のPUNK LIVE アルバム！DVD付！
さらにオフィシャルバッチ付
-軋轢 CD-
79年作 日本ROCK PUNKの重要作 1STアルバム！
-V.A./PASS NO PAST EP & シングルズ CD-
FRICTION、Phew+坂本龍一、恒松正敏 BOYS BOYS 突然ダンボール、グンジョーガクレヨン収録

BLANK GENERATION (DVD)
76年NY PUNKを記録したドキュメント映像がDVD日本発売！
R.HELL在籍時のTELEVISION始め、RAMONES/HEARTBREAKERS
PATTI SMITH等１３バンド収録！
さらにもう一つのドキュメンタリー"DANCING BAREFOOT"も同時収録！
字幕付き

CORRUPTED / EL MUNDO FRIO (CD) 遂に発売！！１曲１時間！！！
PEACEFUL PROTEST / A NOISE BARRAGE AGAINST AUTHORITY (7")90's 東京CRUST HC!
DISCLOSE / 4TRACKS EP 2004 (7") 高知D-BEATマスター！FADER WARのカバーあり！
NICE VIEW / THIRTEEN VIEWS WITH NICE VIEW (CD) 待望の1STアルバム！
MELT-BANANA / 13 HEDGEHOGS (CD) SINGLES COMPILATION'94～'99
CRUCIAL SECTION / CATCH THE FUTURE (12")(CD) 東京ハードコア2ND アルバム登場！１２曲入り！
STRUGGLE FOR PRIDE // SCREWITHIN / SPLIT (CD) なんと再発！LESS THAN TVから！
SLANG / CHAOTIC DISORDER 1988 (CD+DVD) 初期音源+映像！６月発売！
PERSEVERE / SEX TRACKS (7") 広島HARD CORE 1ST シングル！
BREAKFAST / 3RD & ARMY (CD) 東京スケートハードコア2ND アルバム！
SIDE IMPACT / THE COUNTRY HARDCORE PRIDE (CD) 茨城ハードコア！7曲入り！
愚鈍 / S-T (2LP)(CD) 広島ハードコアディスコグラフィー！USからLP２枚組でリリース！！
V.A. / TOMORROW WILL BE WORSE VOL.4 (7"X3)(CD) お馴染みのハードコアオムニバス第４弾！

STALIN / FISH INN (CD) オリジナルヴァージョンで初CD化！/スターリニズムコンピ(CD) アルバム未収録曲集CD化！
RAZORS EDGE / MAGICAL JET LIGHT (CD) 約２年振りとなる3rdアルバム！
RAZORS EDGE /タイトル未定 (CD+ART BOOK) 未発表曲+ライブフライヤー集！６月発売！
YAS OIL THE WELLCARS / FIVE ROCKS (CD) 自身のレーベルからの５曲入り！６月発売！
YOUTH ANTHEM / 永遠の軌跡 (CD) ６年振りのアルバム！男気溢れるキャッチーなサウンド！
FUCK YOU HEROES / I'M NOTHING MORE THAN MYSELF (CD) 2ndアルバム全１４曲入り！
発信テレパシーズ / タイトル未定 (CD) テクノポップにPUNKをぶち込んだ怪電波！1stアルバム！
赤い疑惑 / 東京フリーターブリーダー (CD) 遂に発売！四畳半のMINUTEMEN！全１０曲入りの1stアルバム！
NANO MACHINE / GEMINI (CD) エクスペリメンタルINDIE ROCK!1stアルバムがCATUNEから！！
CAPTION / WONDERFUL (CD) 大阪POWER POP！２曲入りシングル！
GIMMIES / PHONIC SOULS (CD) 東京パンクバンド！US/DIONYSUSからのNEW ALBUM！
FABULOUSPLANES / LITTLE ONE (CD) exPIGGIES!!全９曲入りの1stアルバム！
ZERO FAST / S-T (CD) 横浜EAST BAY MELODIC！２曲入りシングル！限定５００枚！
BECAUSE // DAUNTLESS ELITE / SPLIT (7") 日英期待の２バンドSPLIT！SNUFFEY SMILEから！
BLOTTO // ALTAIRA / SPLIT (7") 東京/横浜 VS US/サンディエゴ メロディックSPLIT!

LEBENDEN TOTEN / (LP) exATROCIOUS MADNESS!待望のアルバム！
BROKEN BONES / TIME FOR ANGER,NOT JUSTICE (LP)(CD) NEW ALBUM!!!
ACCUSED / OFFICIAL VIDEO ARCHIVES VOL.1(DVD) 86～91年のライブ等収録！
V.A. / PROPAGANDA LIVE (LP) 83年リリース80's FINNISH HC/PUNK LIVE盤が再発！
CRASH BOX / VELENO PER VOI (2CD) 80's イタリアンHC!DISCOGRAPHY!
BLUTTAT /LIBERTE (LP) NKULULEKO (LP) 80's GERMAN ANARCHO HC PUNK! 1st&2nd再発！
GOVERNMENT ISSUE / LIVE 1985 (DVD) DCHC!85年のカリフォルニアツアーの映像！
BIG BOYS / オフィシャルT SHIRT ,SKATE BORD入荷中！！
RAMONES / END OF THE CENTURY (DVD) 日本盤！字幕付き！
013 / TAIKAISIN TODELLISUUTEEN (LP) 80's FINNISH PUNK！83年作アルバムが再発！
ARRIGT ANTRAEK / S T (7") 何から何までUS 80'sな現在進行形デンマークHC！大スイセン！
V.A. / LOUDER THAN HELL (7")(CD) HIRAXのメンバー編集のCROSSOVER COMP！
CAREER SUICIDE / INVISIBLE EYES (12") カナディアンHC！NEW！！
ACCIDENTS , ALL TIME HIGH (LP)(CD) GENOCIDE SS,VOICE OF GENERATIONのメンバー在！HILLBILLY PUNK R'N'R！
DRIVEWAY SPEEDING , REASONS ARE NOT ANSWERS (CD) UK MELODIC！exSERVO！
MILES APART / B-SIDES AND RARITIES (CD)ベテランイタリアンメロディック！レアトラック！

IMPORT PUNK/INDIE ROCK
○AMBER JETS SWIMMING LAKE SUPERIOR (CD) exSERPICO US MELODIC 1stアルバム！
○CASUALTIES / ON THE FRONT SPANISH VERSIO (CD) スペイン語バージョン！
○CHILLERTON / S-T (7")(CD) UKメロディックニューカマー！CDも入荷！
○CLIT 45 / SELF-HATE CRIMES (CD) LA SPIKY HC PUNK! NEW ALBUM!!
○DEVILS BRIGADE / VAMPIRE GIRL (12") RANCID Rec限定１２インチシリーズ！
○ENABLERS / SWEET FUCK ALL (CD)exFAY WRAY、DASHBOARD CONFESSIONAL！
○GUITAR GANGSTERS / LET'EM HAVE IT (CD) UK PUNK/POWER POP NEW ALBUM !!
○HARD SKIN / SAME MEAT DIFFERENT GRAVY (CD) SEAN在籍UK Oi バンド2NDアルバム！
○HIGH TENSION WIRES SEND A MESSAGE (CD) MARKED MEN、REDSのメンバー在！
○HOT SNAKES / PEEL SESSION (CD) 2004年のPEEL SESSION収録!
○LARS FREDERIKSEN & THE BASTARDS / SWITCHBLADE (12") RANCID Rec限定１２インチシリーズ！
○MONSTER SQUAD / STRENGTH THROUGH PAIN (LP)(CD) LIKE CASUALTIES!
○NEW YORK REL-X / SOLD OUT OF LOVE (CD) NYの女性Vo.STREETPUNK！
○RANCID / WHITE KNUCLE RIDE (12") RANCID Rec限定１２インチシリーズ！
○TEENAGE BOTTLEROCKET / TOTAL (CD) LILLINGTONSのメンバー在籍RAMONE PUNK!
○UNSEEN / LEFT THAT WORLD BEHIND (12") RANCID Rec限定１２インチシリーズ！
○V.A. / TEENAGE CRIME WAVE (7") BOONARAAAS,BAZOOKA BOPPERS他！

77 PUNK,OBSCURE PUNK etc
○EPICYCLE / TEENAGE SUICIDE (LP) LATE 70's シカゴTEENAGE PUNK!
○OH87 / S T (2LP) 70's GERMAN PUNK！FALL辺りを思わせるサウンド！
○OTHER KIDS / S-T (CD) 80's US POWER POP！編集盤CD！！
○RADIATORS FROM SPACE / TV TUBE HEART (CD) 紙ジャケCD再発!2ndもあり！
○SAINTS / NOTHING IS STRAIGHT IN MY HOUSE (CD)KING OF AUSSIE PUNK!NEW!
○SHADY LADY / RAVING MAD (LP) LA初のグラムロック！RAVE UPから！
○STANS RATS / WHAT A BITCH OF RODENTS (CD) 70's UK PUNK!全シングル+未発表！
○V.A. / GO AND DO IT (2CD) AUSSIE OBSCURE PUNK 77 85!デッドストック入荷！ROCKS他
○VAGRA RAGGARNA BENZIN (CD) SWEDISH PUNK '78-'82！VOL1&2の２種類あり！

IMPORT HARDCORE
○AGATHOCLES DIOS HASTIO / SPLIT (CD) ベルギーVSペルー異色SPLIT！
○ANTI-SYSTEM / DISCOGRAPHY (CD) 80's UK HARDCORE レジェンド！
○BASTARDS / SIBERIAN HARDCORE (LP) 80's FINNISH HC!84年作アナログ再発！
○BUCKET FULL OF TEETH / IV (CD) exORCHID！激/FAST/カオティック！
○CAREER SUICIDE SIGNALS EP (PIC 7") CANADIAN HC!ピクチャー７インチ！
○CEPHALIC CARNAGE / ANOMALIES (LP)(CD) ベテランGRINDCORE!4thアルバム！
○COMBAT WOUNDED VETERAN / THIS IS NOT AN ERECT～ (CD)フロリダカオティックHC 編集盤！
○CORROSION OF CONFORMITY / IN THE ARMS OF GOD (CD) 何とNEW ALBUM！
○DOG SOLDIER / BARKING OF THE DOGS OF WAR (LP)(CD)アナログ化！exDEFIANCE!!
○EARTHLESS , SONIC PRAYER (LP)(CD) HOT SNAKES,CLIKATAT IKATOWI,NEBULA!
○FLEAS AND LICE / EARLY YEARS (CD) DUTCH CRUST HC!初期音源編集盤！
○FUCKED UP / GENERATION (7") CANADIAN HC！N.APPROACH meets GERMS!?
○HIGH ON CRIME POUR SOME SEWAGE ON ME (7") ARTIMUS PYLEのメンバー在！RAW&ダウンチューン
○HUMAN BASTARD , WAR OF THE LORDS (7") スペインD-BEAT HC！4thシングル！
○I OBJECT / FIRST TWO YEARS (CD)NY州産女性VoTHRASH HC!編集盤！
○KINA / 各種 (LP)(CD) ベテランイタリアンハードコア強力入荷中！！
○KYLESA / TO WALK A MIDDLE COURSE (CD) exDAMAD！DARK & METALIC!
○LOCUST / SAFETY SECOND、BODY LAST (CD) SAN DIEGOイナゴ軍団！NEW！
○**MAXIMUM ROCK'N'ROLL (ZINE) 毎号入荷中！！**
○MIGRA VIOLENTA , HOLOCAUSTO CAPITALISTA (CD) ラテン語voが熱いアルゼンチンHC！
○MUKEKA DI RATO / MAQUINA DE FAZER (CD) BRAZIL HC! 4THアルバム！
○NECROS / TANGLED UP/LIVE OR ELSE (CD) 80's OHIO HC！2ndアルバム+LIVEで再発！
○NEGATIVE APPROACH READY TO FIGHT (LP)(CD) 80s DETROIT HC！アナログ入荷！
○NO LESS / LESSONS 93 98 (CD) 90's FAST/POWER VIOLENCE!ディスコグラフィー！
○ORANGE SUNSHINE / HOME ERECTUS (CD) オランダのブルーチアー！日本盤！
○OUT COLD / GOODBYE CRUEL WORLD (CD) MA州産ベテランハードコア！NEW ALBUM！
○PARASITIC / INFESTED WITHIN (7") LOCUSTのメンバー在、激重BRUTAL DEATH/GRIND！
○QUEENS OF THE STONE AGE / S-T (CD) exKYUSS！1stアルバム再発！
○RISTETYT / 2000 TO 2005 (CD) 再結成後の音源を集めた編集盤！
○SEEIN'RED / DISCOGRAPHY PART 1 (CD) 再プレス！！
○SEE YOU IN HELL MARKET YOUR SELF (CD) チェコHC！ボーナストラック付！
○SEVERED HEAD OF STATE / FUCK BUTCHERY (7") 4thシングル！
○SOME GIRLS / THE DNA WILL HAVE ～ (7") LOCUST,UNBROKENのメンバー在籍！
○STRAPS PUNK COLLECTION (CD) PiLのDrも在籍のEARLY 80's LONDON HC/PUNK！
○TORRINGTON / S T (7") ex ORCHIDのメンバー在男女ツインVo HC!
○TO WHAT END? CONCEALED BELOW ～ (CD) exWOLFPACK!男女ツインVO HC!
○TOXIC AVENGER / S-T (7") GERMAN HC!LIKE NEGATIVE APPROACH!
○WRECKING CREW , 1987 1999 (CD) LATE 80's BOSTON HC！ディスコグラフィー！
○LET'S START A RIOT IN SWEDEN! (CD) SWEDISH HC PUNK 82-85!

JAPANESE PUNK
○石頭地蔵 / SHIATAMA ZIZO (CD) 熊本NO WAVE PUNK 1STアルバム！
○DRIFTAGE , PAINT IT BLACK(7") 愛媛３ピースギターパンク！単独シングル！
○MOD LUNG / DIRTY EARTH EP (7")(CD) 東京EMO MELODIC！7inchはLTD 300！
○日本脳炎 / 狂い咲きサタデーナイト(CD) ハードヒットウイルス+１ (CD)ヨロシク！
○PEACE OF BREAD // DIRT BIKE ANNIE / SPLIT(7") 男女ツインVOメロディックSPLIT！
○SETSCREW / EXPLODE THE ～ (CD) 山梨産メロディック！1stミニアルバム！
○SPIRAL CHORD / 脳内フリクション (CD) 1stアルバム！
○SQUAKES / S T (CD) 神戸POP PUNK!exPIGGIES!!1stフルアルバム！
○SEQUENCE PULSE / RAILROAD ～ (CD) 横浜インストロック！3rdアルバム！
○VELOCITYUT / SPECIMEN (CDR) 長崎NO WAVE/SHORT/FAST/奇怪/変態サウンド！
○WATER CLOSET / PAST 1965 (7") 新品デッドストック入荷！
○V.A. / 日本のロック名鑑 第５巻 (DVD) COMEBACK MY DAUGHTERS HOLSTEIN,JOURNAL SPY EFFORT,残像カフェの４バンド！！
○V.A. / THE BASTARDS CAN'T DANCE (CD) LEATHERFACEトリビュート！

JAPANESE HARDCORE
○ASSAULT / EARLY DAYS CLEARLANCE(DVD-R) 東京HC!映像作品！
○あざらし 白痴 (CASS) 札幌女性ボーカルHC/PUNK４人組！２曲入りカセット！
○BIRTHPLACE / AMELIORATE (CD) 東京NEW SCHOOL HC!2ndアルバム！
○BORIS WITH MERZBOW 04092001(LP) 恵比寿milkでのライブ！LTD 500！
○DEMOLITION / MOB OF WOLVES (CD) 名古屋HC！限定ミニアルバム！
○DIE YOU BASTARD! UNDERGROUND IS A ONLY TRUTH!! (CDR) 01年デモが再入荷中！
○8bed ZINE STRUGGLE FOR PRIDE SSUE (ZINE+DVD-R)東京ノイズコアLIVE DVD+バッチ付き！
○EVERYBODY'S ENEMY / ENTER THE ENEMY (LP)(CD) アナログ盤入荷！
○EXACTLY VIOLENT STYLE (EVS) S T (CD) 東京GRIND！1stアルバム、マスタリング再発！
○EXIT HIPPIES ACID RAIN IV (FLEXI) 名仙台ノイズコア！これが本当最後のソノシート！
○藤本修羅&SWARRRM / 玉砕放送 (7") 壮烈な言論と暴力的なサウンドがコラボレート！
○FUN FREAKS / CODE 21 (CD) 秋田ハードコア！1stアルバム！FAST & SHORT!
○IT'S YOU / S T (7") 東京アナーコハードコア1STシングル！TOO CIRCLEから！
○NIGHTMARE EARLY YEARS (CD) BLOODSUCKER YEARS (CD) 大阪HC！過去音源がCD化！
○NO EVACUATIONS / SILENCE OF WAR... (7") 東京PUNKバンド１STシングル！
○OUTO / S T (CD)80年代大阪ハードコア!ベスト盤待望の再発！
○**PRATFALL / SECOND PUKE (CASS) 東京HC!2nd DEMO!!**
○RAISE A FLAG // CRAWLER / SPLIT (CD) 東京Oi/SKINS系ロックBAND朋友SPLIT！
○REALITY CRISIS / OPEN THE DOOR AND... (LP)(CD) USよりアナログ再発！
○SACRIFICE S-T (CD) 仙台CRUST 1ST CD！12インチサイズハンドメイドスリーブ！
○SPROUTS // YOUNG PENNSYLVANIANS / SPLIT (CD) 兵庫ハイパーロッキンSPLIT!
○SQUARE THE CIRCLE / S-T (7") 東京ハードコア１STシングル！
○STALIN / 電動コケシ (FLEXI) / スターリニズム (7")(CD) 残少！急げ！
○UNDERAGE / SOMETHING OVER THE SORROW (CD) 岡山エナジェティックHC！５曲入り！
○UNHOLY GRAVE / UK DISCHARGE (LP) 名古屋GRIND GOD 2003年UKツアー音源！
○V.A./ BAD SMELL GRADATION (2CD) ハウス/テクノ/ハードコア等が混ざりあった５人によるコンピ！
○WARRIOR (CD) KELBEROS, 仁義 ,KIM,DERIDE,BRAVE,ALLEGIANCE！

The slowmotions
タイヤルを回せ!
(CD)

MELT-BANANA
13 HEDGEHOGS (MxBx singles 1994 - 1999) (CD)

METAL SKULL
Death gutter the guillotine (Picture flexi)

PUNK, HARD CORE, ALTERNATIVE, JAPANESE INDIES, NEW & USED

ALLMAN

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-2-4 新宿MSビル2F

TEL 03-3360-5166 FAX 03-3360-5177 E-Mail allman@po.jah.ne.jp

OPEN 12:00 - CLOSE 21:00

DxSxB
D.S.B. US TOUR
(DVD)

MAD CONFLUX
Crazy action party
(CD)

REALIZED
21th century terminal world (CD)

BORIS
dronevil
(2LP)

GORE BEYOND NECROPSY / NUNWHORE COMMANDO666
split (CD)

MOD LUNG
Dirty earth
(7"EP)

NO VALUE / BRODY'S MILITIA
split (7"EP)

ExVxS
same
(CD)

波山
打ち寄せる波 燃え立つ山
(CD)

DISCLOSE
4 tracks
(7"EP)

Shadow of fear
painful cry e.p.
(7"EP)

MUTANT
same
(7"EP)

ASBESTOS
to the memory of the war victim (WLP)

EFFECT
Effective disaster
(CD)

FRICTION
'79 live
(CD)

NEW DAWN
黎明ヲ告ゲル鐘
(CD)

SETSCREW
Explode the frustration (CD)

MOTHRA
Doom engine
(CD)

バンド名/タイトル
2nd DEGREE Labyrinth (7"EP)
324 / Across the black wings (CD) / 冒涜の太陽 (CD & LP)
8000 answrs (CD)
8 ROOF / Yeah! if you can't win (CD)
ACIDIC SOIL/SODIUM AZIDE (7")
AGE / The spider (CD), etc
ALLEGIANCE King of the city (CD) etc
ANT FAD We are our boys! (CD)
ANTI JUSTICE The live tinder to kore (CD)
ASSAULT / same (CD & LP) , etc & Live (dvd-R)
ASSFORT / face (CD & LP), etc
THE ATROCIOUS / Death of free (7"EP)
THE AVOIDED / TABOO (CD) Writing on the wall (7), etc
BAGGAGE TIMVERSION split (7")
BATHTUB SHITTER Wall of world is words (CD)
BEYOND DESCRIPTION / A road to a brilliant future (CD), etc
BLACK GANION Hakkyo CD
BLOTTO 7"EP,
BLOW BACK Crazy attack (CD) etc
BONESCRATCH Last words gone (12") Diagram (CD) etc
bons / bons at last-feedbacker (CD), etc
BOOTED COCKS for oneself (CD)
BREAKFAST / 3rd & army (CD) , etc
BREAK OF CHAIN / Final Warning (CD)
BUILD / Build Up Your Mind (CD)
BUTTERFLY / heavy blue (CD)
BUZZY大和町バンド / ロマンスのかけらもなく...(CD) / This is pop groove (video)
CALUSARI / Jack in the 052 (CD& LP), etc
the carnival of dark split / forcus (CD)
CATTY WITCH , DEADLINE split (CD)
CAUSE / 同一線上のアリ (7"EP & CD)
CAVO / マアカ (CD) / ユシメ (CD), etc
CHAOS why? CD
CHARM / Shikami (7"EP)
CHURCH OF MISERY / Early Works Compilation (2CD)
CHAINSAW / Just need it "欲望" (7"EP) 編集盤EP etc
CLAMPDOWN WE SURE WON'T KEEP QUIET (CD)
COBRA / Stand the pressure with "AA" titles (CD), etc
COLORED RICEMEN / Jealousy war(CD) , etc
COMES Power never die (CD)
CONCLUSION 零 目醒め (7"EP
CONGA FURY / Chaotic noise (CD), etc
CONTRAST ATTITUDE / Sick brain extreme addict (7"EP)
THE CONTINENTAL KIDS / Beat crazy years (CD)
CORRUPTED / Paso Inferior (LP), etc
CONFUSE /Contempt for the authority (CD), etc
CxPxS / The space hardest m f. (CD), etc
CREW / 命の華 (CD)
CRIKEY CREW / early years (CD), etc
CRUDE / Attitude (CD & 12"), / IMMORTALITY (LP & CD), etc
CROSSFACE / Red line cross (CD) / Cross days (CD)
CRUCIAL SECTION / Catch the future(CD)
CTR 狂い咲きサンダーロード / Kuruizaki attack (7"EP)
CUT / Categorize (CD) , etc
DxCxR / Shout 'till death (CD)
DELTA PUREE Namaroku (CD)
DEMOLITION Mob of woves (CD)
DEVICE CHANGE / Anandamaidevice (CD & LP)
DINGO / No flattery! No flinch! don't (CD), etc
DISCO DISCO / Dischord disc (CD) WATCH!!!
THE DISCLAPTIES / Oi! Oi! Oi! the barmy army we sear (CD)
DISCLOSE / 各種
DISCLOSE BESTOVEN / split (7"EP)
DRIFTAGE / Paint it black (7"EP)
D S B / No Fight No Get (7") 1ST7"EP再発!!
EASTERN YOUTH 各種 CD, LP, 7"EP, etc
ECD / final junky (CD) etc
ECD x イリシット・ツボイ x 久下恵生 Session impossible (CD)
EEVEE / Answer from the planet (CD)
ENVY / a dead sinking story (CD & LP), etc
THE ERAZER / rules e.p. (7")
EVIL SCHOOL / Essence of evil(CD)
ETERNAL ELYSIUM OF THE SPACISTOR / split (CD)
EVANCE ジャバラ / split (CD)
EXCLAIM / 1998-2003 discography (CD), etc
EXIT HIPPIES Acid Rain (7"flexi)
EXITHIPPIES STAGNATION / split (7")
EXTINCT GOVERNMENT same (CD)
EXTREMINATE / 理想と現実 (CD)
E Z O / 各種紙ジャケ再発!!
FINLA BLOOD BATH / 2nd (7")
FINAL BOMBS / Faint hope (CD)
THE FOOLS / No more war -地球の上で (CD)
FORTITUDE / same (7"EP)
FORWARD / burn down the Corrupted justice (CD & LP) , etc
FOUL / アシスタント (CD)
FRAMITED / Under the ashes (CD)
FROM HELL / Empty words (CD), etc
FUCK ON THE BEACH 各種
FUN FREAKS / code21 (CD,
THE FUTURES 分裂電魂 (CD), etc
GAI /Total control(CD) , etc
GANG UP ON AGAINST / The rains of slaughter . (CD)
g a.t e s / total death(CD)
GAUZE / 各種 (CD)
GALLHAMMER Gloomy lights (CD)
GENOA / We got a bomb (CD) dead stock限定入荷
G I.S M / SoniCRIME TheRapy (CD) 再プレス完成!
GLOOM 撲殺精神破綻者 (LP)
GORE BEYOND NECROPSY / wild & frantic!!! Rock'n roll (7"E), etc
GUDON (CD & 2LP)
GUILTY CONNECTOR / Cosmic Trigger (CD), etc
G-ZET / same (CD)
HOPE CUNT'NBANANAAZ / split (7")
IDORA / farewell message (7"EP) , etc
IGNITIONS / Line on free (CD)
INSANE YOUTH A.D. / Screamin' on a crap "live ep" (7"), etc
IT'S YOU / same (7"EP)
JOJO広重 / 生きてる価値などあるじゃなし (2CD) 未発表含むBest
JOY / ジョイは危険予知。 (CD)
KINSMEN (CD)
KGS / III years (CD) / Cutcord and destruction (7")
KNUCKLE HEAD 業音(7"EP) / 虫けらの時間 (7"), etc
LAUGHIN' NOSE / Get set goal (CD & LP)
LACK OF BRAINS (CD-R) 大注目関西LOCUSTスタイルの発狂CORE
LIP CREAM / 各種 (CD)
LIZARD 各種 (CD)
LONGBALL TO NO-ONE / The little boy .(CD)
LRF / Yet more the roughs & the smooths (2CD)
MAGGUT / Into the gore (CD)
MASTERBATION same (CD)
MELT-BANANA / Cell-scape (CD & LP) ,etc
MERZBOW 各種
ME♀SS / The ship of death (CD & LP), etc
MENTAL DISEASE / 孤高 (CD) / 潜脳 Brain dive (CD)
MIDNIGHT RESURRECTOR / Solid solution (7"EP)
MINORITY BLUES BAND / Capitalized suffering (CD) , etc
MOUSE / Champ at the bit (CD), etc
MUSTANG / free style (CD & LP), etc
NADA CAMBIA / 証明 (CD)
nationstate B o n a 軋む世界 split (CD)
NAVEL 1994 1999 CD etc
NICE VIEW / Thirteen views with nice view (CD)
NICKEY & THE WARRIORS / Do I Love You?(CD)
NIGHTMARE / Scatterraw (CD), etc
NO THINK / Straight to hell (7"EP) , etc
NO EVACUATIONS / Silence of war (7"EP)
NOISE / 天皇 (CD)
OGREISH ORGANISM / 偽物の時間 (CD), etc
ORDER / テポドン (CD)
PAINTBOX / Cry of the seeps (CD & 7"EP), etc
PEAR OF THE WEST / This means little (CD)
PERSEVERE Sex tracks ep 7"EP,
A PIECE OF SHIT / RED BLOOD (CD)
PRACTICE fight back 7"EP More practice(7"EP)
REALITY CRISIS Open the door and into (CD) 米盤LPも入荷中!!
RAISE A FLAG CRAWLER / split (CD)
RESISTANCE / Porker face (CD)
R I P / Pride & honour (CD)
RISE AND FALL / I'll dance my dance (CD)
ROBOTS / 各種
RODEO / 各種
RYDEEN / 極悪ライブ (CD-R) / You are not me (7"EP)
SACRIFICE / same (CD)
SCREAMING FAT RAT /Idiomatic breakdown (CD),etc
S.D S / Degital evil in your life (CD) , etc
SINK : HELLNATION / split (7"EP) ラストストック限定入荷
SLEEPERS / テントセン (CD)
SLIGHT SLAPPERS / A selfish world called f. CD)

SODOM / 聖レクイエム(CD)
SOUND LIKE SHIT BRUCE BANNER split (7"EP)
THE SOLUTIONS Wall of hits (LP)
SPACE INVADERS Suicide party (LP & CD), etc
SS / Live (CD) ,日本高速音楽伝説・序章 (CD)
THE STALIN / 各種 (CD)
STRONG STYLE / 新たな戦場へ (CD)
STICKS IN THROAT shock to the dimension (cassette) , etc
SUBVERT BLAZE Subvert art comprete works (2CD)
SWANKYS 各種 (CD)
SWARRRM 偽救世主共 (CD), etc
SWARRRM IMMORTALITY / split (CD)
TECHNOCRACY / Price of killing machine (CD)
THE TABLOID PLAY , THE BLOODLINE / split (CD)
THREE MINUTE MOVIE / Another night, .(CD), etc
TOM AND BOOT BOYS 各種CD
TOMORROW / Chiedi troppo!! (CD & LP)
TOTAL FURY / Committed to the core(片面10"EP) , 13 songs (CD etc
THE URCHIN / Another day, Another sorry state (CD) ,etc
UNHOLY GRAVE / UK discharge (LP), etc 各種split作品も多々有り!!
V.A / Angar & sorrow (CD) [EXTINCT GOVERNMENT, THE BLAST etc]
V A. / Devil must be driven out with devil (CD)[SABER TIGER, LIP CREAM GHOUL, UNITED, CASBAH, CITY INDIAN]
V A GRIND OSAKA compilation (CD) [SWARRRM, FORTITUDE, etc]
V A IMPORTANT EVIDENCE!!! (VIDEO) [NUMB, ETC]
V A Japanese assault(CD) [SENSELESS APOCALYPSE, SWARRRM,etc]
V A Japanese stereotype (DVD) [URBAN TERROR, U G MAN, etc]
V A Just a beat show (CD) [THE BLUE HEARTS, THE JUMPS,etc]
V A MENNESKELIG STENCH volume to (7") [CONGA FURYETC]
V A Oi! it's your 鏑 FAITH (CD) [WATARU BUSTER, SIGN OF LIFE, Tetc]
V A Sorted ! (7") [SANDIEST, RUST, CLAMPDOWN, ALLEGIANCE]
V A /Terro-Rhythm #3 (CD) [CONGA FURY, SWARRRM, LIFE, PROTESS]
V A / UP THE Oi!(CD) [RAISE A FLAG BOOTED COCKS, Oi VALCANS, etc]
WAG PLATY / Singles & unreleased trucjs (CD)
WAVES / 地獄の濁涙 (7"EP) , etc
WITHOUT SYSTEM What will be will be (CD)
WORLD DOWNFALL AGATHOCLES / split (CD)
YAS OIL THE WELLCARS / Same (CD)
YOSHIHIRO & HUMAN ARTS / 小我から大我へ (CD)
YOUTH ANTHEM / 永遠の軌跡 EVERLASTING TRACKS (CD)
ZENI GEVA / /Last nanosecond live! (CD)
ZOE / Last axe beat (LP)
ZOMBIE RITUAL / Resickened (CD)
ZONE / Squeezed state (CD &LP)
悪意 / Ain't no slaves (CD & 7"EP) , etc
穴奴隷 96 n hole
あ 各種 CD,
カ タ カ タ (CD)
奇形児 1982 -1994 (CD) best CD
原爆オナニーズ / Primal rock thrapy (CD), etc
鉛 時代の中で (CD)
殺悪愚 / 唯一 (CD)
JOJO広重 ぼくはもう歌わないだろう (CD) , etc
ハ ラ / Why we wish (CD & LP) etc
イ 鞘 級長戸ノ風 (CD)
大将 アルマジロバンド YOUTH ANTHEM one for all (CD)
鉄アレイ Rocket Core (7"), etc
鐵槌 日本狼 (CD)
鐵槌 桜花 / split (7")
ネマツマサトシ / Do you wanna be (CD)
桜吹雪と男呼唄 (CD), etc
せんねんもんだい / とり (CD)
直人 flame (CD)
常階段 羅六の奇病 (CD,
梓本修羅 & SWARRRM 玉砕放送 (7"EP)
ブルースビンボーズ / ロックンロールソウル (CD), etc
ひょうたん (CD) eastern youthのBの二宮氏別バンド
ミチロウ / The end (CD)
壬生狼 3 songs new CD (CD), etc
白 (KURO) /2 5 ad 1984 live (CD) , etc
陽死 / Death of the sun (CD)
リザード/ same (CD) / T V magic (CD)

◆T-SHIRTS
極寒MUST BACK TOUR 2005"MUSTANG vs BLOWBACK"(パーカー), RYDEEN T shirts, etc

◆輸入盤

CRUST!!
●HUMAN BASTARD / War of the Lords (7"EP)
●DISSYSTEMA / the grim prospects of our future (LP)
●GASMASK TERROR (7"EP)
●VISIONS OF WAR MASS GENOCIDE PROCESS / split (LP)
●THE COLLAPSE / same (7"EP) like HIS HERO IS GONE!! from OZ
●AGENT86 / New wave sucks discography 1986-1992 (CD)
●OI POLLOI / Six of the best (CD) デジパック仕様!!
●COJOBA / Espiritu de punk / Vienen por nosotros (CD) プエルトリコHC!

GRIND / DEATH / POWER VIOLENCE
●HOTBLACK DESIATO (CD) 米オークランドのストーナーバンド
●ANARCHUS / Increasing the hate (CD)久々再入荷
●CACOFONIA / Greatest hits (CD)久々再入荷
●NUNSLAUGHTER各種ブッチ切りで再入荷中!!
●LAST DAYS OF HUMANITY / In advanced haemorrhaging conditions (CD) 新作です。文句無しゲロDEATH
●YOU'RE FIRED (7"EP) AxCxのセス参加のマシンガンブラスト連打のウルトラキラーグラインドコア! やっとこさの再入荷
●TRENCHER ORTHRELM / Split (7"EP)テクニカルCRAZY GRIND split
●MASACRE / sacro (CD) コロンビアDEATH GOD!
●CORPORAL RAID / regressive devlepment (CD) イタリアンGORE GRIND
●RABIES DISTURBANCE PROJECT / Split (7"EP)

SLUDGE & NOISE!!
●BLACK BONED ANGEL / Super eclipse (CD) 久々再入荷
●SUNN 0))) / The Grimm Robe Demos (LP)遂にアナログ出ました
●KYLESA / TO WALK A MIDDLE COURSE (CD)名作1st再発!!
●V A. / Lust from the underworld (2CD)"LOVE"と"エロス"をテーマにした2枚組DARK AMBIENTコンピレーション!! 30ページに及ぶ写真集も付いた豪華な作り!! 限定500枚ナンバリング入り
●MOOD / Slow down (CD) WALL OF SLEEP, STEREO CHIRSTのメンバー在籍のハンガリーのカルト・トラディショナルDOOMバンドの2ndアルバムが限定100枚で再発!! ミッドテンポのサバスサウンド!! GREAT!
●BUZZOVEN / Welcome to violence (CD)
●SLOTH / SAME (CD) 遂にやっとこさの再入荷!!

HARD CORE LEGEND!!
●V.A. / The posh ep's vol 1 (3x12"EP box)
●V.A / HISTORY OF RIK L RIK(3x12"EP box)
●ARTICLES OF FAITH / Your Choice Live Series (CD)名作live久々再入荷!!
●MDC / Magnus dominus corpus (LP)最新作アナログも出ました

OI! / STREET PUNK!!
●DROP KICK MURPHYS / Singles collection vol.2 98-04 (CD)
●UNSEEN / So this is freedom? (LP)再発!!

EMO / CHAOTIC / melodic!
●GUITAR GANGSTARS/Let 'em have it(CD)
●CHILLERTON / same (CD)
●FOUR LETTER WORD / Like moths to a flame (CD) レザーフェイスのフランキープロデュース!

THRASH!!
●I OBJECT / 1st 2 years CD 25songs
●CARRER SUICIDE /Signals ep (picture 7"EP)
●STRUNG UP / Society not in hell (CD) CD出ました
●KINGHORSE / KINGHORSE (LP) [スケートハードコア最盛期90年にDANZIGプロデュースという鳴り物入りでリリースしたデビュー作(しかもジャケットは"PUSHEAD)! ダークサイドなヴェニスサウンドと言った感じのイブシ銀アルバム、アナログデッドストック限定入荷

PUNK!!
●THE RADIATORS / TO WALK A MIDDLE COURSE (CD)名作1st紙ジャケ再発!!
●THE RADIATORS / GHOST TOWN (CD) 名作2nd紙ジャケ再発!!
●CRISIS / the guilty have a past (LP)
●POINTED STICKS / Perfect youth (LP) Great canadian power pop!!

METAL!!
●CELTIC FROST / Morbid Tales (LP)大名作1stアルバム、アナログ出ました。
●VENOM / Live in London (DVD)85年の全盛期のLIVE!

DEMO / CD-R
●V A / Saitama punk attack (CD-R)埼玉PUNKコンピレーション! DEAD CRIME Delirium 世喰き DUSTPAN参加

●新入荷商品 etcを掲載したリストフリーペーパーを発行しています ご希望の方は100円切手を同封しご送って下さい。通信販売 代金引替サービス始めました。全国どこでも代金引替の場合 送料+¥650+手数料¥350=¥1000, 現金書留の場合は¥650です

●AUDIORREA: MIXOMATOSIS / Tu Sangre, Nuestro Bien Comun split (CD)
スペイン産グラインド・コア、2バンドのスプリット・ディスコグラフィー!アルバム。AUDIORREAはその昔リリースされていたAGATHOCLESとのスプリット7インチに収録されていた曲とライブを含む11曲、MIXOMATOSISはAUDIORREAの曲をカバーしていたデモ音源とライブを含む17曲を収録。たっぷりお腹いっぱいの70分を超える大作です

●V.A. / Louder Than Hell (CD & LP)
Hirax, The Accused, Municipal Waste, Voetsek, Toxic Narcotic! GREAT THRASH HxCx comp!
from SIX WEEKS rec

●BROKEN BONES / Time for anger not justice (CD & LP)
いよいよ出ます! new album!! 全UK HARD COREファン必至の一枚になるはず!!

●V.A / Noget pa dansk (7"EP)
初期デンマークHARD CORE伝説の4バンドを集めた7"EP!! ENOLA GAY, WAR OF DESTRUCTION, LE CRA.P, VIの4バンド収録

●V.A./ Punk Rock BRD vol.1 (3CD & 3LP)
ドイツ初期パンクからHARDCORE,STREET PUNKまでを3枚のCDにまとめたHISTORY BOX!! 豪華BOOKLET付でBONUS映像も収録!! "JINGO DE LUNCH","OHL","UPLIGHT CITIZENS", etc. 3CDで50曲収録!!

●V.A. / Punk Pock BRD vol.2 (3CD)
第2弾!! "DIE TOTEN HOSEN", "RASTA KNAST", "OXYMORON", "TIN CAN ARMY" ,"MOLOTOW SODA"etc. こちらも豪華BOOKLET付でBONUS映像も収録!! 3CDで50曲入ってます!!

●EARTH / Legacy Of Dissolution (CD)
MOGWAI, SUNNO))), Russell Haswell, Autechre, Jim O'Rourke, Justin Broadrickら6アーティストによるEARTH REMIX アルバム!! T-shirtsも再入荷予定!

●RIPCORD / In search of afuture (LP)
UK HARD CORE LEGEND! 幻のファーストDEMO音源がアナログで再発されます! ltd 500copies!!

●THE BLOOD/ False gestures for a devious public(CD)
待望の1stアルバム遂に再発!! しかもボーナストラック全10曲収録! 全メガロマニア必聴!!!

●DISOCORDANCE AXIS / our last day (CD)
新作です 未発表の新曲から、JONの新プロジェクト曲、MORTALIZED, MELT-BANANA, 等によるカバー曲含む変則反則CD!! 未来に向かうDxAxの驚愕CD!!

●THE POP GROUP / for how much longer do we tolerate mass murder? : we are time (CD)
遂にCD化再発です! しかもおとくな名作2nd & 3rdが2in1となって蘇りました。NO WAVEファンから、全オルタナ、アヴァンギャルドファンまで必至の一枚!! マーク・スチュアートに、今騒いでいる人もここに彼の源流があります!! とにかく必聴!!

NAKED YEGGS / 三枚目(CD)
結成10年を向かえる仙台古参のR&R PUNK BAND、9年振りの全14曲収録の9年振りのセカンド・フルアルバム "勝手にしやがれ"、"リーヴ・イン・シット"等の代表曲は初録、新曲・未発表も多数収録した、9年間の集大成的作品 全曲新録、16pブックレット仕様
5/14 on sale from EAST PEACE

Screwithin : Struggle For Pride Split "...Hold Fast Afflux (CD)
2000年に発表されたScrewithinとStruggle For Prideの2バンドによるSplitCDをエンハンスドにてボーナス映像を追加して2005/6/22緊急に再発!!

COFFINS / Sacrifice to spirit (CD)
すでに廃盤のDemo2003のリマスター3曲+VENOMのカバー+11/6大阪難波ロケッツでのライブテイクを収録CD化

V.A. / Total war (CD)
関西を拠点に活動する新世代のバンド達による男臭いハードコア・コンピレーション! 参加バンド=B-SIDE APPROACH (奈良), abfald (神戸), BALL BUSTERS (京都), TIME HAZ COME (京都), BOXED IN (大阪) from Vato rec

POGO MACHINE / Punk revelation (CD)
2nd album!!

U.G MAN / With out U.G (CD)
遂に出ます 5月発売予定です 予定通りにホントに出るかは不明!! でも、とんでもない内容であることは、最近のライブを見た人ならわかるはずです、すべて飛んでもないかもしれません、とにかく待つべし

THE CASUALTIES来日決定
with TOM & BOOT BOYS
6/19 新宿LOFT & 6/26 新宿アンティノック
当店でも前売チケット取り扱い予定

COFFINS : MALA SUERTE / split (10"EP)

snuffy smile new release!
THE BECAUSE : THE DAUNTLESS ELITE / split (7"EP) 5月中旬
BLOTTO : ALTAIRA / split (7"EP) 6月中旬

PUNK AS A FUCK SHOW 2004 (DVD)
TOM & BOOT BOYS, THE AVOIDED, ORdER, EXTINCT GOVERNMENT, ABRAHAM CROSS, LAUKAUS, CONTRAST ATTITUDE, LITTLE BASTARDS, LIFE, F.I.N.A.L., THE DISCLAPTIES, IMPULSIVE, THE BASEMENTS, SIGN OF LIFE, NO EVACUATIONS 遂に発売!!

LSD / Discography (CD) & T-shirts

VEROCITYUT / specimen (CD-R)
長崎周辺で活動するキテレツ、破天荒PUNKサウンドのVEROCITYUTの初音源となる4曲入りCD-R!! LOCUST MEN'S RECOVERY PROJECTファンはどうぞ!! ビニール製の特殊ジャケも素晴しいです ナンバリング入り

カトレナ / カトレナロック (CD)
ライスメンのREIKA, 現THE TRASHのドラマーナオミ, そしてMrフェイマス等によるGREAT R&R バンドの待望の1st CD!

BORIS with MERZBOW / Meatone (LP)
大名作の共演盤! アナログ盤でました。 秀逸なカヴァーです。

CONGA FURY / love and peace (7"EP)
3rd EP!! 驚愕の8曲収録!!! ちァンねーさんの絶叫は健在!!!!!
ltd 500 copies!! 完全シリアルナンバーリング!!!

あさらし/ 白痴 (cassette)
サッポロ発、昭和テイスト、グロテスクHARD CORE PUNKバンド"あざらし"のDEMO CD-Rに続く2曲入りカセット!! ナンバリング入り

どろたぼう/ 虚無の空間 (CD-R)
関西で活動するPUNKバンド"どろたぼう"のデモテープに続くCD-R! 日本の初期のHARD CORE(INU, アフラタコ,etc)の影響を感じさせるサウンド!!! オマケのあぶらだこのカバー?も隠れています, 7"EPジャケット仕様!

V.A. / Mountain book (CD)
愛知県三河地方で、活動するバンドを集めたコンピレーション!!! ex.ANSWER CRYINGの"PROLE TARIART", 若手YOUTH CREW THRASH HARD CORE "MAT TUESDAY", サイコビリー"鬼鬼", 小島のメンバーによる"ROUGHNECK", 暴走R&R "ZILLCOHOL", ex. CLASSIC CHIMESのメンバーによる注目の"きのこ", 新鋭POPなサイコビリー"NICKY'S、収録!! ジャンルを超えた新しき風を感じさせる一枚!! 7"EPジャケット仕様!

SKATE ALL DAY DRINK ALL NIGHT 3 (CD)
FASTS, VIVISICK, POST CROWN, EL NUDO, TAIGAN, SK8NIKS, FIDO S BRUNCH, JACKSONS, DEEP SLAUTER, ABRAHAM CROSS

V.A. / Warrior (CD)
東京SKINS"仁義" 新潟HARD CORE"DERIDE", 京都HARD CORE "KIM" 静岡SKINS"BRAVE", 京都UK HARD CORE PUNK "ALLEGIANCE" 大阪サイコ"KELBEROS"を収録!

V.A. / Tomorrow will be worse (CD / 3 x 7"EP)
VOETSEK, NO VALUE, THE SPROUTS, RUNNAMUCKS, THREATENER, FASTS収録!
[from SOUND POLLUTION]

9 SHOCKS TERROR
4/27 新宿D O M with FORWARD, D.S.B. FREAKS STRUGGLE FOR PRIDE
4/28 岡山PEPPERLAND, 4/29 広島NEOPOLIS HALL,
4/30 福岡KIETH FLACK, 5/1 高知FEET,
5/3 大阪 新世界BRIDGE 5/4 名古屋 今池HUCK FINN
5/5 新潟CLUB JUNK BOX, 5/6 仙台BIRDLAND
5/7 高円寺20000V with SLIGHT SLAPPERS, HUMONGOUS, FUCK ON THE BEACH, EXCLAIM ANODE
5/8 新宿ANTIKNOCK with GAUZE CROSSFACE, LIFE, CRUCIAL SECTION
新宿2公演のみ当店でも前売チケット発売中!!

V.A. / The Path To True Indepndence(CD)
FOREST recよりのnew comp! BEYOND DESCRIPTION, ASBESTOS, 突撃戦車, DESTRUCTION の計4バ収録!! 発売は4月中旬!!

SICK ON THE BUS
CONFLICT FOR FREEDOM TOUR!!REAL UK HARD CORE PUNKバンドの"SICK ON THE BUS"の二度目の来日がEXTINCT GOVERNMENTの招聘により、CONFLICT FOR FREEDOM tour として EXTINCT GOVERNMENT, ORDERの3バンドで行われます 日程は4/29 盛岡 Club Change, 5/1 仙台 BIRD LAND, 5/3 新宿アンティノック, 5/5 富士 ANIMAL HOUSE, 5/6 名古屋 HUCK FINN 5/8 大阪 KING COBRA
●最新アルバムGo to hell (LP) 絶賛発売中!!

young records
ALLMANの隣に店を構えております
PUNK ROCK, HARD CORE, SKAの中古も多数取り揃えています
お買い得な中古CDも多数取り揃えておりますので「あの時買い逃した」作品がナイス・プライスで入手出来るかも知れません。お気軽にお問い合わせ、ご来店ください PSYCHEDELIC, HARD ROCK, BRITISH BEAT, PUB ROCK, PROGRESSIVE ROCK, TRAD FOLK, NEW WAVE, POST PUNK, POSITIVE PUNK, ALTERNATIVE, AVANT-GARDE, TECHNO POP,SOUL, FUNK, DISCO, JAPANESE ROCK & FOLK, 60's, 70's, 80's, 90's~, 7", LP, CD, etc· 色々あります
新宿区西新宿7-2-4 新宿MSビル2F右 tel:03-3360-5166 fax:03-3360-5192
www.young-records.com MAIL:mail@young-records.com

下記アドレスで毎日の入荷状況がわかります。new URL!!
http://allman.agz.jp

LIVE HOUSE "新宿D.O.M" OPEN !! ●1(sun) [LIVE AT D.O.M] ブルースビンボーズ , トップサルジャー , SLEEPERS , THE LITTLE MIRRORS , ガンフロンティア ●4(wed) [SMASH GIG] KOOL RODZ , ANALYZE(from 大阪) , BACKASS , THE RAZORS ●5(thu) [D/G/012] SAMURAI , スリップヘッドバット , PAINTBOX , HC4 ●6(fri) [∴MAGUS STAR∴ Crystallising desire] FORWARD , JOJO広重 , RAPES , DELTA PUREE ●7(sat) [HIGH ON U!! vol,5 "SPIRAL GALAXY 777"] THE SLACKNESS , THE DEAD PAN SPEAKERS , 7D MANGOES(from 静岡) , FREAKEY MACHINE , LOW LIFE SURFER ●11(wed) [CU 西新宿 D.O.M REBEL LIVE] COLORED RICE MEN , KGS , the heck , ROCKY&THE SWEDEN , NAKED YEGGS(from 仙台) ●12(thu) [LIVE!!!] 山口冨士夫 (山口冨士夫 , チコヒゲ"ex FRICTION" , レイ) ●20(fri) [裸の宇宙飛行士 降りしきる夜 for D.O.M] DEEPCOUNT(mic./tp. NOBU/dr ENZO/b. ALI/tt. DJ 宮島/g SUGURU) , KOINU , DJ: RED ●24(tue) [P.O.P vol,3] THE TRASH , ブルースビンボーズ , VEIHAIZ , WORMS'MEAT , FORWARD ●25(wed) [DEAD HEART DISCO '05 tour] THE SLOWMOTIONS , 日本脳炎 , MURDER STYLE , THE BASEMENTS , THE TELEPATHYS ●26(thu) [東京沈没] PIGMEN , STRUGGLE FOR PRIDE , IDOL PUNCH , COLORED RICE MEN

LIVE SCHEDULE

5/1 (Sun) 安城RADIO CLUB
5/2 (Mon) 名古屋TIGHT ROPE
5/3 (Tue) 京都OOH LA LA
5/5 (Thu) 広島BADLANDS
5/7 (Sat) 福岡CB
5/8 (Sun) 福山KURI
5/15 (Sun) 大阪サンホール
5/29 (Sun) 新宿club Doctor

BUZZ HOUSE
2nd Mini Album"脳天ブギ"
2005/5/1(Sun)ON SALE

BUZZ HOUSE
2nd Mini Album
ATW-1008『脳天ブギ』
6曲入り ¥1.500(tax in)
2005.5.1.(Sun) On sale

BUZZ HOUSE H.P. http://buzzhouse.infoseek.co.jp

ALL THE WAY Records Realease List

ATW-0001
THE☆CAIN
"BREAK OUT THE LAW"
¥1.500(TAX IN)

ATW-0002
THE RIDDLE
"DO THE JUMPING"
¥1.500(TAX IN)

ATW-0003
all young the hooligan
"possession"
¥1.050(TAX IN)

ATW-0004
BUZZ HOUSE
"真夜中の頭蓋骨"
¥1.000(TAX IN)

ATW-1005
JAIL GUITAR DOORS
"JAIL GUITAR DOORS"
¥1.500(TAX IN)

ATW-1006
THE☆CAIN
"CITY OF THE DEAD"
¥1.200(TAX IN)

ATW-1007
Fuck Off And Die
"Fuck Off And Die"
¥1.050(TAX IN)

ALL THE WAY Records 〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-2-25 NSプラザ新宿ビルB1
03(5925)3569 http://clubdoctor.co.jp
発売元 ALL THE WAY Records
取り扱い ラッツパックレコード 03(3470)2179

tel 06-6213-5079
fax 06-6213-8879
www.timebomb.co.jp
order@timebomb.co.jp
〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋2-9-28 サンボウルB1

OPEN 7 DAYS 12:00-21:00

地下鉄四ツ橋駅 / 地下鉄心斎橋駅 / 日航ホテル / OPA / 大丸 / 阪神高速 / たこ焼 / 公園 / 交番 / ビッグステップ / 周防町筋 / タイムボム新店舗 サンボウルB1F / みずほ銀行 / 八幡筋 / 四ツ橋筋 / 朝日プラザ / とまと / サンボウル / 御堂筋 / タワーレコード / 三ツ寺筋

旧店舗100m STONES・サンボウル 正面左/奥の下り階段（旧）DEPT跡

通信販売の送料他

■ 送料＋代引き手数料合計 ¥950
■ 現金書留時は送料 ¥600
※ 但し北海道と沖縄は代引時¥1100/現書時¥700
※ 1万円（税込み）以上の御買上げ時は送料/手数料共に無料!
■ クレジットカード
(VISA/AMEX/JCB 商品代金が1万円以上に限らさせて頂きます)

広告掲載以外の新入荷新作他はホームページ
www.timebomb.co.jp を御覧ください

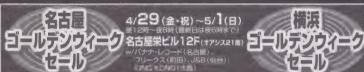
いよいよ新譜もどんどんアップ中!! なお月刊インフォ（20ページ・無料）を御希望の方は、メイル、FAX、ハガキにて申し込みください。

携帯メイル・アドレス登録特典!!

只今、パソコンだけではなく、よく来店される方への特典情報用に「携帯メイル・アドレス」登録募集中!
登録会員のみのセール割引（店頭販売時のみ）他を今後企画する予定です。
order@timebomb.co.jp まで空メイルをお送りください。

御不要レコード/CD 高価買取!!

レア盤の世界的相場価格での査定は勿論、ノーマル品も1枚から高額査定!! 地方の方は宅急便着払いにて受付しますので、まずは御一報を!!!

名古屋ゴールデンウィークセール
4/29（金・祝）～5/1（日）
昼12時～夜8時（最終日は夜6時まで）
名古屋栄ビル12F（オアシス21南）
w/バナナ・レコード（名古屋）、フリークス（町田）、J&B（仙台）、KING KONG（大阪）

横浜ゴールデンウィークセール
5/3（火・祝）昼12時～夜8時
5/4（水・休）昼12時～夜7時
関内横浜酒販会館5F
（JR関内駅北口正面）
w/バナナ・レコード（名古屋）、フリークス（町田）、J&B（仙台）、KING KONG（大阪）

只今特設コーナーにてレアリスト掲載外の新入荷チープUSED & RARE盤を
毎週土曜日に放出中!!!
更に毎週（土）には、新着新譜、再発盤をホームページでアップ中
http://www.timebomb.co.jp

TIME BOMB RECORDS 15周年YEAR SPECIAL黄金週間SALE

春だぁ～目覚めよ! 15周年秋祭り（9月）の前に一発かますぞ!

VOL.1 4/29（金）～5/03（火・祝）
VOL.2 5/04（水・祝）5/08（日）

新品 10%OFF 中古 20%OFF

★ポイントカードのスタンプ倍押し
★各ジャンル新品バーゲン品コーナーで放出

●某有名 ROCK コレクター放出USED-RARE盤3000枚～一挙大放出!
●期間中¥5,000以上御買上げの方に、Vol.1とVol.2別々で（2種）ロッキン・ジェリービーン デザイン・グッズをプレゼント!!!

FINAL 2 DAYS SPECIAL SALE
5/7（土）8（日）USED-RARE盤に限り
1万円以上御買上げの方は 25%OFF　3万円以上御買上げの方は 30%OFF

セール期間中は、通常昼12時オープンですが、11AM オープン致します。

以下レア盤は5.15（日）昼12時より店頭販売/通販の受付を開始致します。

PUNK/HARDCORE etc RARE LP/12"S
※新品 GS = Gatefold Sleeve, Lbl = Label, CVR = Cover Jacket

■ **BOYS**-Boys Only (UK/Safari/'80 Orig LP) Great 4th Album!! Ex/Ex++
■ **COMBAT 84**-Send In The Marines! (GERMAN/ROR/'84 Orig.LP)
■ **DANZIG**-II-Lucifuge (UK/Def American/'90 Orig.LP+Inner)
-4 (DUTCH/Def American/'94 Orig LP+Inner/見開き凹凸ジャケ)
1 ■ **JACK LEE**-Greatest Hits Vol.1 (FRANCE/Lolita/'81 Orig LP) ex NERVES
■ **JFA**-Live 1984 Tour (US/Placebo/Orig LP)
■ **JONATHAN RICHMAN** & THE MODERN LOVERS-S T (US/Beserkley/'76 Orig.LP) 1st
■ **JUDGE DREAD**-The Worst Of (UK/Cactus/'78 Orig LP)
■ **KEYS**-Album (UK/A&M/'81 Orig LP) VG+(ジャケ剥がれ有)/Ex++
■ **KIDS**-S T (BELGIUM/'78 Orig LP) Mega Rare Orig.1st Album
■ **LARM**-Extreme Noise (DUTCH/Independent/'90 Orig 1500 Ltd.Numbered 2LP/GS)
■ **LEE WAY**-Born To Expire (US/Profile/'88 Rare DJ Label LP+Inner)
■ **MODERNETTES**-Teen City (CANADA/Quintessence/'80 Orig 6-Track 12"+Inner) CANADA Great Power Pop First Mini Album!
■ **MORBERLEYS**-LP/S.T. (US/Safety First/'79 Orig LP) シアトル Power Pop 名作 ※表ジャケに""JIM BASNIGHT &" のクレジットがある分
-Sexteen (FRANCE/Lolita/'84 France Orig LP)
■ **NEW YORK DOLLS**-S.T (UK/Mercury #6641631 CF/70's 1st & 2nd カップリング再発2LP/見開きジャケ) この再発のみのレア・ジャケ!
■ **SEX PISTOLS**-Best (日本/ビクター/LP+帯型ライナー)
■ **SNEAKERS**-In The Red (US/CAR/'78 Orig LP) Pre dB's Great Power Pop Album feat. Chris Stamey, Mitch Easter!
■ **SOULSIDE**-Trigger (US FRA/Dischord/'87 Orig.LP+Inner)
■ **STARJETS**-S T (UK/CBS/'79 Orig LP+Insert)
■ **SYMARIP** Skinhead Moonstomp (UK/Trojan/'70 Orig LP/Coating Sleeve!!!) Ex/Ex
■ **TELEVISION**-Marquee Moon (UK/Elektra/'77 UK Orig.LP+Inner)
-Marquee Moon (UK/Elektra/'77 Orig.12"/Rare Stickered Die-Cut Sleeve)
■ **TOY DOLLS**-Album (UK/Wonderful World/'82 Orig 6-Track MLP)
■ **UPSETTERS**-S.T (UK/Trojan/'69 Orig.LP/Coating Sleeve) Rare Rocksteady UK Orig.2nd Album! Ex+/Ex
■ **WIND**-Where It's At With (US/Cheft/'82 Orig LP) フロリダの 60's POP色濃い Great Power Pop Trio! Very Rare LP!!!
■ **WINDBREAKERS**- Any Monkey With A Typewriter EP (US/Big Monkey/Early 80's Orig.6曲入りMLP) カレッジ POWER POP 名作!!
■ **V.A.-Guns Of Navarone** (UK/Trojan/'69 Orig.LP/Coating Sleeve) Skatalites, Baba Brooks, Roland Alphonso 他 Rare UK Orig.LP! Ex/Ex+
■ **V.A.-No Surrender Vol.2** (GER/ROR/'86 Orig.LP) Skrewdriver, Public Enemy 他
■ **V.A.-Short Circuit** (UK/Virgin/'78 Orig.Rare Yellow Vinyl 10"+Inner) Drones 他

PUNK/HARCORE etc RARE 7"/EPs

■ **AGONY COLUMN** -(I Had It) All Worked Out (UK/Tyger/Early 80's Orig 7"+PS)
■ **AUTOMATICS**-When The Tanks Roll Over Poland (UK/Island/'78 7"+PS) VG+/Ex
■ **B-52'S**-52 Girls (GERMAN/Island/'79 Orig.+Rare Group PS)
2 ■ **COMBAT 84**-Orders Of The Day E P (UK/Victory/'82 Orig.4-Track EP+PS) 1st
■ **DAMNED**-Neat Neat Neat (UK/Stiff/2nd Press 'No Push-Out' Centre 7"+Coating PS)
■ **(BRIAN JAMES)**-Why?Why?Why? (UK/Ilegal/Ltd Green Vinyl 7"+PS)
-同上 (表ジャケにBRIAN の直筆サイン入り)
■ **DRESS CODE**-Alone In The Crowd EP/Alchoholic +3 (US/Semaphore/'81 Orig 4-Track+Limited Numered PS) Great U S.Mods!!
■ **DWARVES** She's Dead (US/Sub Pop/'90 Ltd 3000 Single Club Black Vinyl+PS)
■ **FLYS**-Bunch Of Five (UK/Zama/'77 Orig +5-Track EP+Die-Cut Sleeve) Ex/Ex
■ **INSTANT AGONY**-Nicely Does It (UK/Flicknife/'84 Orig.+PS)
■ **K.K.BLACK**-California Sun (UK/Aura/'79 Demo Label 7"+PS) ex バザーズ Ramone-Pop!
3 ■ **MINOR THREAT**-In My Eyes (US/Dischord-Limp/3rd Press Sky Blue Label 4-Track EP+Hard Paper PS, Insert) M-/Ex+
4 ■ **MISFITS**-3 Hits From Hell (US/Plan 9/'81 初回 Orig 白黒 Label-Large Centre Hole 3-Track Black Vinyl EP+PS, Fiend Club Insert) Ex+/Ex+
-Halloween (US/Plan 9/'81 初回 Orig 7"+PS/No Insert) Ex+/M-
■ **MODELS**-Freeze (UK/Step Forward/'77 Orig.+PS)
5 ■ **NEW YORK DOLLS**-Stranded In The Jungle (GERMAN/Mercury/'74 Orig.+Rare PS)
■ **NIPPLE ERECTORS**-King Of the Bop (UK/Soho/'80 Orig.+PS)
■ **PURPLE HEARTS**-Frustration (UK/Fiction/'79 Orig +PS)
■ **RAY PAUL**-Lady Be Mine Tonite (US/Euphona/'77 Orig.+PS)
■ **RAW POWER**-Wop Power (US/Toxic Shock/'85 Orig.4-Track Blue Vinyl EP+PS, Insert)
■ **REZILLOS**-Good Sculpture (UK/Sire/'77 Orig.+PS) 2nd Single
-Cold Wars (UK/Sire/'79 Orig 3-Track EP+PS)
■ **SQUARES**-Stop Being A Boy (UK/Sire/'79 Orig +PS)
■ **STIFF LITTLE FINGERS**-Suspect Device (UK/Rigid Digit/2nd Press Red Label 7"+PS)
■ **STIFFS**-Inside Out (UK/EMI/'79 Reissue Demo Label 7"+PS)
■ **STUPIDS**-Violent Nun (UK/COR/'85 Orig 8-Track EP+PS,Insert)
■ **UPROAR**-Nothing Can Stop You (UK/Volume/'83 Orig.4-Track 7"+PS)
■ **VENOM**-Die Hard b/w Acid Queen (US/Neat/'83 Orig.+PS)
■ **VIBRATORS**-Baby Baby (UK/Epic/'77 Orig +PS)
■ **WAR ZONE**-Lower East Side Crew EP (US/Revelation #1/'87 Orig Blue Label 7-Track Black Vinyl +PS, Insert)
6 ■ **WAYS**-Thursday (US/自主/'81 Orig.+PS) Rare Great U.S.Power Pop!!
7 ■ **V.A.-Pusmort Sampler** (FRA-US/Pusmort/'87 Orig 6-Track EP & One Side 3-Track Flexi + Insert) Septic Death, Ghoul, Outo, S.O.B., Final Conflict 他

NEO ROCKABILLY PSYCHOBILLY RARE STUFF

8 ■ **ALLIGATORS**-Rockabilly Gator (France / Big Beat / Orig.10") Black Catsの元ネタ
■ **BAT MOBILE**-Is Dynamite (Holland / Count Orlok / '90 Orig LP)
■ **BIG BAD VOODOO DADDY**-This Beautiful Life (US / I.S / '99 Orig.LP +Inner)
■ **BLACK RAVEN**-Together With .. (German / E M /'98 2NDプレス7"+PS) テッズ!!!!!
■ **BLUBBERRY HELLBELLIES**-Palstic Pony (UK / ID / '86 Orig.12") ラスティック
■ **CHRISTINE & LOU**-Jukebox Hop (UK / Fury /'96 Orig 7"+PS) ガール・ロカビリー
■ **CRAZY CAVAN**-Still Crazy (France / Big Beat / Orig.10") テディ・ボーイズ!!!!!!!!
■ **DAVE PHILLIPS**-Wild Youth (Holland / Rockhouse / '82 Orig. LP) 歴史的名盤
-Good Thing (UK / Fury / '95 Orig. 10")
■ **DEUCES WILD**-Brutal Purity (UK / Fury / '89 Orig LP) ネオロカビリー
9 ■ **DYNAMITE BAND**-Rockin' Is Our Business (UK / Ace / '82 2NDプレスLP)
■ **FRENZY**-Nobody's Business (Holland / Cat Machine / '86 Orig. 4-Track12")
■ **HIGHLINERS**-Bound For Glory (UK / Razor / '89 Orig.LP)
■ **HILLBILLY BOPS**-Tear It Up (日本 / Kitty / '86 Orig LP+Inner) ファースト!!!!!!!!
■ **LEVI DEXTER & RIPCHORDS**-In The Begining (UK / Mistral / '80 Orig.7" +PS)
■ **MATCH BOX**-Going Down Town (UK / Magnum Force / '85 Orig.LP)
■ **MEN THEY COULDN'T HANG**-Radio 1 Sessions (UK /S.F /'88 Orig.LP) RUSTIC
■ **POLECATS**-Jeepster (UK / Mercury /'81 Orig.12") クラブ・ヒットDown The Line
■ **QUAKES**-S / T (UK / Nervous / '88 Orig. LP) ファースト!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
■ **RESTLESS**-Why Don't You. Just Rock (UK / Nervous / Orig LP) ファースト
-Do You Feel Restless (UK / Nervous / '84 Orig. LP) セカンド
■ **REVEREND HORTON HEAT**-Its Martini Time (US / Interscope / '96 Orig. LP)
■ **RIVER BOYS**-Kiss My Baby Goodbye (UK / Wag / '87 Orig. LP) ネオロカビリー
■ **ROCKIN' REBELS**-Raise Some Hell (日本 / M&M / 再発LP+Inner+帯) Let's Bop!!!
■ **ROCKY SHARPE** -Rama Rama Ding Dong (UK / Chiswick /'78 Orig.7"+P.S)
-Cristmas Crackers (UK Chiswick /'80 Orig 7"+P S)
-Rama Rama Ding Dong (日本 / S.M.S / '85 Orig. LP + Inner)
■ **SCALLYWAGS**-3 Of A Kind (German / Maybe Crazy / Orig.LP)
■ **SHREW KINGS**-Sad But True (UK / Thin Sliced / '86 Orig. LP) ラスティック
■ **SPEEDOS**-It's Only R&R (German / Tombstone / '89 Orig. LP) ファースト!!!!!!!!!
■ **STRAY CATS**-S / T (メキシコ / Arista /'81 Orig. LP) ファースト!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
■ **STROLLERS**-5 Cats Down (UK / M.F / '81 Orig.LP) ネオロカビリー
■ **TEAR DROPS**-S / T (日本 / Vivid / Orig. LP +Inner) ファースト!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
■ **TEDDY & TIGERS**-Tear It Up (Holland / Rockhouse / '80 Orig. LP)
■ **TEDDY BOYS**-Drive This (US / Ricky Dog / Orig. LP) テディ・ボーイ
■ **TONY & TENNESSEE REBELS**-Ten Little... (France / Red Hot / '80 Orig.7" +PS)
■ **WILD ANGELS**-Out Of Last (UK / Deeca / '72 Orig.LP) Brand New Cadillac
■ **V.A.**-Damall Music Factory Vol.2 (UK / DMF /'87 Orig.LP) Rock This Town 収録!

1
2
3
4
5
6
7
8
9

TIME BOMB RECORDS NEW TITLES

THE BOTS

"BOTS ALIVE"

(DVD カラー62分/BOMB-74)
伝説のロカビリー・トリオ「ザ・バッツ」まさかの'03年再結成ツアー編集DVD（'83年当時の幻のプロモ・ビデオ「TOKYO ジャンクタウン」をボーナス収録）好評発売中!
※新作シャツ、トレーナー、トートバッグ、バッジの販売中!!

"WAOOO～! +RARE TRACKS"

'83年EPIC/SONYより発 売された唯一の7曲入りミニ・アルバム＋未発表スタジオ・デモ、ライブ全22曲収録狂喜の再発盤! 未発表写真他満載のブックレット付き![BOMB-70] CD/2LP

NYLON

タイムボム2004年度ドラフト一位!
噂の関西ダイナマイト R&R 娘4人組・ナイロン!

トニカク元気がイイ。テクもある。全部日本語歌詞='80年代初頭のバンドを想わす?強烈なPUNKな詞。ジャンプ力、アクションもOK。どっかで聴いたコトのあるリフのアレンジ最高。お揃い黒スーツもA。R&R 5段階通信簿オール5の優等生!初めて観るヒトは「男?」と勘違いするヒト多。そこらの男よりよっぽど硬派な感じデス。何回かの東京ライブでも、そうそうたるバンドの方々からも絶賛されている彼女達。久々の R&R 天然記念物の登場に素直に喜びたい気持でいっぱいデス。

1ST **"Nylon"** [BOMBCD-71] CD
(税抜き¥1,800/税込み¥1,890)
'02年秋に自主で製作した8曲入りファースト（ライブ会場売り）のジャケ違いリマスター再発。

2ND **"Ride OnRock'n'Roll"**
[BOMBCD-72] CD
(税抜き¥2,300/税込み¥2,415)
04年録音12曲入り新作セカンド・アルバム。

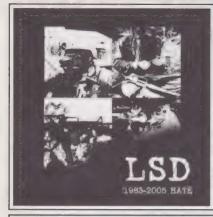
※アナログは、逆「2 IN 1」。A面ファースト、B面セカンドというお得な?変則リリース。[BOMB-73] LP (税抜き¥2,500/税込み¥2,625)

THE 5.6.7.8'S "BOMB THE ROCKS"

EARLY DAYSSINGLES 1989-1996

[BOMB-69] 27曲入りCD/限定2枚組LP 発売中

'89～'96年に世界各国から発売された7"シングル収録曲他に未発表曲を編集した全27曲入りコンピレーション・アルバム（未発表写真満載のブックレット付き）!なお、クエンティン・タランティーノ監督新作映画「KILL BILL」（DVD発売中）に出演、サントラにも参加している彼女達でアリマス。
http://www.fujiiya.com /the5678s/
今夏には「History Of The 5.6.7.8'S」DVD発売予定!!

NEW RELEASE PUNK-POWER POP-HARDCORE

LSD "DISCOGRAPHY 1983-2005 HATE"

伝説的に80年代を駆け抜けた「LSD」のコンプリートCD+DVD「1983-2005 HATE」が発売決定。LSDを中心に行われていた暴力ギグ「暴力ギグVOL.2～1983年 渋谷屋根裏 / 出演～GISM. COMES. EXCUTE. LSD」からのライブ音源に加え、伝説となった88年札幌ライブを収録。LSDの正規音源の他、亜危異が個人で参加した「G-ZET」「病原体」の音源ほか未発表曲も多数収録。Tシャツ2種類(黒ボディー、サイズM、L)も入荷予定。

(日:HATE & WAR PRODUCTIONS) 35曲入CD+LIVE DVD

THE STALIN "FISH INN (ORIGINAL MIX 1984)"

1984年11月20日にB.Q.RECORDSから発売された4枚目のアルバムが24bit デジタル・リマスタリング & Wジャケット仕様で初復刻CD化。このアルバムは後にビル・ラズウェルのリミックスによる別ヴァージョンがリリースされたがそちらは賛否両論でありました。今回は初のオリジナル・ヴァージョンでの復刻!!

(日:SS) 6曲入りCD

V.A. "LIVE AT THE GARAGE ROCKIN' CRAZE DVD"

収録アーティスト:THE 5678'S、SATURNS、THE RIZLAZ

THE5678'S初のオフィシャルライブDVDが、DADDY-O-NOV氏のレーベルRADIO UNDERGROUNDからリリース!毎回、5678'Sがリスペクトするバンドをセレクトしての東京大名物GARAGE R&R PARTYから、3バンドのタップリ全20曲(!)、約60分の ベストライブを収録、ボーナスにインタビュー、ドキュメント、予告編入り。

(JPN:RADIO UNDERGROUND) DVD

RED-REBORN from KILLERZ "COAD NAME KILLERZ"

大阪のHARDCOREバンドGNz-WORDのヴォーカルKO-JIO3がRED-REBORNを名乗りHIP HOPユニット "KILLERZ"を本格始動。兼ねてより大阪のCLUBシーンでは数々のLIVEジャックやLIVEパフォーマンスを見せ、ぬるま湯状態の大阪HIP HOPシーンへ衝撃を与え続けているKILLERZ!!その過激なリリックと動きが噂を呼び、ハードコア・ファンは勿論、HIP HOPサイドからも音源発売が熱望されていた衝撃のデビュー作!!

(日:BM PRODUCTION) CD

V.A. "YOUNG LION"

Feat.)GNz-WORD, MASTERS LOW, SEVENDEADLYSINS, RE-BUILD, CENTER WRONG UNIT, etc

METALLLIK～MOSH系HARDCOREシーンで頭角を現す若手バンドを集め行われる大阪の名物シリーズLIVEと同名スタジオ録音コンピレーションが発売。

(日:BM PRODUCTION) CD

EVERYBODY GETS HURT "DEMO DAZE"

2004年来日時、ハードコアファンを大いに賑わせたニューヨークハードコアE.G.H.の新作。本作は1997年にリリースしたDEMOに、入手困難だった7"音源や未発表曲、さらには地元ニューヨーク「コンチネンタル」と「ジャパンツアー」時のライブ音源を収録した贅沢な一枚。ニューアルバムの発売が待ち遠しい彼等の全貌が明らかになる貴重な作品と仕上がっている。

(日:STRAIGHT UP) 21曲入CD

THE SLOWMOTIONS "ダイヤルを回せ"

現在までリリースした5枚の7"EPがリリースの度に即ソールドアウトを続けてきた東京のPUNKバンド "THE SLOWMOTIONS" 初のCD!! 現在までにリリースし廃盤となっている7"EP音源10曲に、ライブでお馴染みの人気曲 "お前に夢中"(未発表)を収録した11曲入り!! 5月から日本脳炎とTHE BASEMENTSと全国ツアーも決定!!

(日:H.G.FACT) 11曲入りCD

CRYSTAL LAKE, RISEN, UNBOY "LIMITED 3 WAY SPLIT"

東京NEW SKOOL HARDCORE 2バンドと US NEW SKOOLの生き字引!!! 元BIRTHRIGHTのメンバーが在籍するRISENによる3 WAY SPLIT CD!!全バンド新曲、未発表曲を収録!!

(日:ALLIANCE TRAX) CD

UG MAN "WITHOUT UG"

V.A."TERRO-RHYTHM #2" CDやDVD等で見事にシーンに返り咲いた(???)...いや見事にそのサウンドの健在振りをアピールしたUG MANのトラブルに次ぐトラブルで発売が遅れましたアルバムが男道よりリリース!!難産だっただけに(??)不変のUG STYLE HARDCORE PUNKをみっちり、じっくり聴かすナイスな好盤に仕上がっております!! これは貯金してでも買う価値有り!!

(日:男道) CD

FUCK YOU HEROES "I'M NOTHING MORE THAN MYSELF"

前作がTHRASH～FASTCORE系では異例の爆発的セールスを記録したFUCK YOU HEROESのセカンド・アルバムが待望のリリース。今作は遊び心満載のROCK色が色濃く現れた仕上がり。

(日:FIRSTIMPLSE) 14曲入CD

DISCONFORMITY "PENTRATED UNSEEN SUPPRESSION"

話題の東京NEW SKOOL BRUTAL DEATH METALバンドの衝撃のデビュー・シングルがなんとHARDCOREレーベルWD SOUNDSより待望のリリース!!日本最凶のガテラル・ヴォイスとの呼び名も高いヴォーカルの将軍を筆頭に数々の経歴の持ち主の各メンバーが生み出す異性DEATH METALはもの凄いインパクトと臭気を放つ!!

(日WD SOUNDS) 2曲入CD

CONGA FURY "LOVE NOISE E.P."

高知のC-BEAT RAW THRASH!! ついにサードシングル発売!今までとはコンガとはちょっと感じの違うハードコアパンクを 驚愕の8曲収録!オデンねーさんの絶叫は健在!!!息も吐かせぬスラッシュ地獄を体験してください!500枚リミテッド完全シリアルナンバーリング!

(日:殺シノRECORDS) 8曲入7"

THE CLICKS "MAGIC OF WHITE"

噂の東京・超キュート・ガール・ポップ・パンク・トリオ。全てのポップ&ロック・ファンにアピール出来るであろう日本に有りそうで無かったグループが見事にブレンドされた渾身の1STフル・アルバムが遂にリリース!

(JPN:K.O.G.A.) 11曲入りCD

MO 'TUFF SYNDICATE "STREET COMPILATION 2005"

Feat.)DECAY, TAZ, SECOND ARMS, FIGHT IT OUT, BOSS GOLLIRA,etc

関東圏のハードコア・シーンで活動するバンド達が群を連ねるMO 'TUFF SYNDICATEが遂にそのベールを脱ぐ!!!

(日:MO 'TUFF SOUNDZ) 9曲入CD

CYNIC-19 "OUT OF CONTROL E.P."

岡山のヤングスラッシャー!殺シノオムニバスでデビュー以降、怒涛のLIVEをこなし、デモCDRも大好評の中、ついに単独ミニアルバム発売決定。ハードコアファンもスラッシュファンもエモ野郎も(!!)必ず聴いていてください!前回のCDRよりハードコア的アプローチの楽曲は疾走感抜群!!

(日:殺シノRECORDS) 7曲入CD

CAPTION "WONDERFUL"

前作のミニアルバムから約2年振りとなる待望のNEWシングル。メンバー・チェンジ(VO.元HAPS/G. 元HAPS)を経て、更に進化した珠玉のサウンドはパンク/パワーポップ/ギターポップ等、ジャンルの枠を越えた仕上がりです。

(JPN:自主) 2曲入CD

NEW RELEASE PSYCHOBILLY / NEO ROCKABILLY / 50's

MACKSHOW "原宿デイト"

特典として缶バッジとポスターを先着限定でプレゼント!!!!!!!!!!

初のライブ・ドキュメント映像作品!!!!!原宿を舞台に繰り広げられた赤裸々な青春をコージー・マックが責任編集。思わず涙ポロリの名曲の数々，ラフォーレ前の伝説ゲリラ・ライブ，貴重なインタビューなど， あくまでR&Rに拘り抜く永遠の未成年マックショウを凝縮した60分!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! (日本:INFINITY) DVD

西部フェリス女学院 "プレゼンツ"

富山の重鎮。待望のファースト・アルバム!!!!!!!! 以前の名曲もバージョン・アップして蘇る。ディスコ・ナンバー / ジンギスカンをネオロカ・カバー。ジャパ・ロカ好きに大推薦!!!!!!!!!!!

(日本 : MASABILLY) CD

TWO SMOKING BARRELS " Heat Radiate From R&R"

富山の重鎮。ONE & ONLYなR&Rサウンド!!!!!!!!!!! 前作を軽く越えた待望のセカンド・アルバム。既存のビリー・サウンドに、飽きてウンザリしている人に、オススメ!!!

(日本 : EVIL BOX) CD

JELLY BEAN CLOWNS "Swing It"

遂に, ファースト・アルバムをリリース!!!!!!!!!!!コルツー家の大阪代表、親衛隊&切り込み隊。Punk, R&R, Ska, Rockabilly, Swingが、うまく科学反応して極上のナンバーに仕上がってる。Slow Downのカバーも収録。通常盤&限定盤、同時リリース。限定盤には,DVDが3曲収録!!!!!!!!!!!!!!!!

(日本 : JACPOT) CD

STARLITE WRANGLERS "Devil's Wheel"

セカンド・アルバム!!!!!!! 世界に通用するクールでスティックなサイコビリー。触ると切れるナイフのようなサウンド!! Johnny Burnette R&R TrioのMidnight Trainをサイコ・カバー!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

(GER : CRAZY LOVE) CD

NEW RELEASE TRASH GARAGE

SHOTGUN RUNNERS "I LOVE YOU ROCK & ROLL"

金沢ロック・シティ発!最高のMOD-R&B "PUNK" BAND、過去、2枚のシングルを収録したファン待望の1ST ALBUMリリース。ORIGINAL MODを敬愛しつつ、独自の、魂"SOUL"を聞かせる実力派!!スタイリッシュだけでない、ゴツゴツしたアグレッシヴなステージングも必見!コレを聞いて是非ライヴへ!

(JPN:MAJESTIC) CD ALBUM

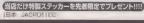
LES SEXAREENOS "SINGLES AND RARE UNRELEASED MATERIAL"

TRASH ファンお馴染みSPACESHITS メンバー絡み、(今ではソロ活動するBBQ在籍)、90'S カナダが産んだイッケイケPARTY RAW TARSH R&B/PUNK BAND。兎に角ハッチャケ&ゴキゲンに60'S FLAT R&R～GARAGE PUNKを爆発させる製造器であります。タイトル通り、マニアライクな全28曲ミッチリ収録。マミーズは勿論EVIL HOODOO、グレマン、マネースパイダーファンも是非!

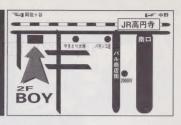
(US:SFTRY) CDのみのALBUM

HIPBONE SLIM & THE KNEE TREMBLERS "HAVE KNEES, WILL TREMBLE"

泣く子も黙る真打ち! 御大SIR BALD DIDDLEY、元KAISERSのJOHN GIBBS、元HEADCOATS、現BUFFMEDWAYSのBRUCE BRANDによる最強R&R～GARAGE BAND! 国内1+2からのコンピ収録でもお馴染み! 嬉しい新作です。このメンツで解る??な100 % 大推薦! マキシマムに唸る格好いいサウンドに仕上がっております! 勿論録音はTOE RAGスタジオです。

(ドイツ:VOODOO RHYTHM) CD & LP ALBUM

Underground Hardcore Punk Thrash Metal New & Used Vinyls,CDs,etc

〒166-0003
東京都杉並区高円寺南3-59-9 2F
TEL:03-3315-2682/FAX:03-3315-0484
e-mail:recordboy@hotmail.com
web:www.record-boy.com
営業時間 PM 1:00～8:00/毎週水曜定休

RECORD BOY
3-59-9,Koenji Minami,Suginami,
Tokyo 166-0003,Japan

NME
"Unholy Death" CD
カルト・メタルの究極!!!! ギタリストが86年に養母を殺害、そして自身も今年3月に殺害されてます。85年発表極悪ロウ・スラッシュ名作の限定777枚オフィシャルCD!!!

VULCANO
"Anthropphagy" CD
80'sブラジル・スラッシュメタル・ファン待望の再発CD化!! 87年名作2ndスタジオ・アルバムに、83年極悪ロウ・デスラッシュ・デモ音源もボーナス収録して初CD化!!!

NOCTURNAL
"Arrival Of The Carnivore" LP
ダイハード・メタル・マニアックスの間で話題騒然のジャーマン・アンホリー・ピュア・スラッシュメタル! 帯,ポスター,そしてボーナス7"も付いた限定200枚バージョン入荷!!!

BURZUM
"Burzum + Aske" 2LP
遂にアナログ盤再プレス!!!!!!!!
余生を刑務所で過ごす殺人ブラックメタルの1stアルバム+ 12"EPカップリング再発盤。他全種アナログ再発により中古市場大混乱必至!!!!

MIDNIGHT
"Complete and Total..." CD
オハイオ・パンクメタルBOULDERメンバー等によるスラッシュメタル・バンドの音源集CD! スラッシュ色を増したBOULDERみたいで最高! CRIMSON GLORYじゃないぜ!

THRONEUM
"Munity Of Death" PICTURE LP
ポーランド・ブラック・スラッシュ! 傑作アルバムが限定300枚ピクチャー盤,バックパッチ付きでアナログ化!! ハードコア・テイストの強い激走ファスト・スラッシュが超渋!!!

Only *DIS* is Real!!!

ゴールデンウィーク特別企画「DIS」が付くバンド大特集!!!
レア盤,激安特価盤等を5/3(火)に放出します!!

*DIS*AFFECT/Chained To Morality LP
*DIS*ASTER/War Cry 12"
*DIS*CARD/Death From Avobe 7"(オリジナル盤)
*DIS*CARD/Four Minutes Past Midnight LP
*DIS*CARD/Four Minutes Past Midnight CD
*DIS*CHARGE/Live In Nottingham 7"
*DIS*CHARGE/The Nightmare Continues LP
*DIS*CHARGE/1980-1986 LP他DISCHARGE多数!
*DIS*CLOSE/Total Dis-Lickers Demo 1998 カセット
*DIS*ORDER/Senile Punks LP
*DIS*FEAR/1st 7"
*DIS*RUPT + *DIS*DAIN/Split 7"
*DIS*RUPT + SAUNA/Split LP
*DIS*RUPT + TASTE OF FEAR/Split 7"
*DIS*RUPT + TUOMIOPAIVAN LAPSET/Split 7"
*DIS*RUPT + WARCOLLAPSE/Split 7"
*DIS*RUPTERS/Playing With Fire LP

他にも*DIS*TURBED,*DIS*ABUSE,*DIS*SENSION,
*DIS*CORDANCE AXIS,CHAOTIC *DIS*CORD,
*DIS*SENT,etc「DIS」が付くバンドを節操無く放出!!

Political Punx & Insane Crusties!!

ANTI SYSTEM/CD(グレート80's UKHC! 音源集)
BASTARDS/Siberian Hardcore LP
(80'sフィンランドHC名作! LPもオフィシャル再発!)
BASTARDS SON OF APOCALYPSE/7"
(US産スウェディッシュ・スタイル・クラスト!)
BEHIND ENEMY LINES/1stアルバムLPも再プレス!)
BOMBSTRIKE + LEGION 666/Split 7"
(スウェディッシュ・クラストvsカナダ・サタニック・クラスティー・スラッシュ!)
BROKEN BONES/New!!! LP & CD
CUT THROAT/12"(ポートランド・クラスティー・スラッシュ!)
DIOS HASTIO + AGATHOCLES/Split CD
(ペルー・ロウ・スラッシュvsベルギーD-Beatグラインド!)
DISSECT + LOS REZIOS/Split 7"
(フィンランド・クラストvsペルー・ロウ・パンク・スラッシュ!)
DISSYSTEMA/LP(USダーティーD-Beatクラスト!)
DOG SOLDIER/Barking Of The Dogs LP
(ポートランド・スパイキーHCパンクス! LPも遂に出ました!)
FLEAS AND LICE/Early Years CD
(オランダ・スモーキン・クラスト・ポリティカルHC! 初期音源集)
GASMASK TERROR/7"(フランスD-Beat!)
GRITOS DE ALERTA + SICK TERROR/Split 7"
(ブラジリアン爆音レイジング・スラッシュ対決!)
HUMAN BASTARD/7"(スペイン・メロディアスD-Beat!)
HUMAN POWER/7"(ex.ENT! UKクラスト!)
INSTINCT OF SURVIVAL+WOJCZECH/Split CD(ドイツ・グラインディング・クラスティーズSplit!)
MAKILADORAS + SEE YOU IN HELL/Split 7"
(チェコ・クラスティー・スラッシュSplit!)
MASS GENOCIDE PROCESS + VISIONS OF WAR(チェコ・ブルータル・クラストvsベルギー・ツインVoクラスト!)
M.E.L.I/CD(幻の80'sメキシカン・カオス・ロウHCパンクス!)
NOVEMBER 13th/LP(ジャーマン・クラスト!)
PROTESTERA/New LP(スウェーデン・ポリティカル・クラスト!)
PROTESTERA + APATIA NO/Split 7"
(スウェーデン女Vo.HC vs ベネズエラ・ポリティカルHC!)
RIISTETYT/Kahleet 7",2000 to 2005 CD
(フィンランドHCゴッズの最新作EPと近作音源集CD!)
RIISTETYT/Tuomiopaiva 7"(84年録音7"も再発!)
SKRACK/LP(ジャーマン・ダーティーD-Beat!)
TO WHAT END?/New CD
(WOLFBRIGADEメンバー参加女Voメロディアスhc!)

UNCURBED + MY COLD EMBRACE/Split 7"
(スウェーデンvsドイツ爆走クラスト対決!)
VAARINKASITYS/LP(フィンコア・スラッシュ!)
V.A/Let's Start A Riot In Sweden CD(DISARM, SOD,ANTI CIMEX,MOB47,初期スウェーデンHC集!)
V.A/Propaganda Live LP(レア・フィンランドComp再発! VARAUS,RIISTETYT,etc)

80's Hardcore/Thrash Core Punx!!

ANNIHILATION TIME/New CD
(カリフォルニアBLACK FLAGパンク、新作!)
BLUTTAT/Liberte LP,Nkulukeko LP
(80'sジャーマン女Vo.HCの1stと2ndが再発!)
CAREER SUICIDE/Signals 7"
(カナディアン・スノッティー・スラッシュ・パンク! 新作EP)
HAYMAKER/Lost Tribe 7"(カナダ好戦的HC! 新作)
HERESY/Face Up To It CD(日本盤でCD再発!)
HIGH ON CRIME/7"(WHN?メンバー参加ダークHC!)
OFFENDERS/Endless Struggle LP(名作2nd!)
OUT COLD/New CD(USベテラン・スラッシャー新作!)
NEGATIVE APPROACH/Ready To Fight 2LPs
(アナログ盤も出ました! US激怒アングリーHCのデモ集!)
RICHIE STOTS/LP(PLASMATICSモヒカンギタリストの80年代ソロ・プロジェクト時代音源限定100枚LP! でもサウンドはボン・ジョヴィ系HR!)
RIPCORD/In Search Of A Future LP
(最初期デモ音源LTD.500オフィシャル再発!!)
SECRET 7 + F.P.O./Split 7"(シンガポールvsマケドニア!)
SEE YOU IN HELL/CD(チェコ熱血スラッシュ!)
SS DECONTROL/Get It Away LP
(USHC大名作2ndが再発!!!)
STAR STRANGLED BASTARDS/CD(来日決定!! 大注目USドライビング・スラッシャー・ヤンキー・パンクス!!)
S.T.R.E.E.T.S./New LP(USメロディアス・スケートHC!)
THEO/ピクチャーLP(LUNACHICKS Vo.のソロ・アルバム!)
WRECKING CREW/1987-1991 CD
(伝説のボストン・ストロング・メタルコア・スラッシュ! デモ+ライブ集)
013/LP(初期フィンランド・ハードパンクスの83年LP再発!)
V.A/Louder Than Hell 7" &CDEP(ACCUSED, HIRAX,MUNICIPAL WASTE,etc スラッシュComp!)
V.A/Tomorrow Will Be Worth Vol.4 CD & 3x7"
(NO VALUE,THREATNER,etc日米スラッシュComp!)

Evil Metal & Extreme Violence!

(Thrash Metal/Doom Sludge/Grind,etc)

666!!!南米カルト・スラッシュメタル絶賛入荷中!!!666
AGRESSOR/LP(80'sブラジル・スラッシュ! デモLP)
APOCALYPTIC RAIDS/1st,2nd LP
(ブラジル・サタニック・ロウ・スラッシャー! 限定500枚アナログ!)
DIABOLIC FORCE/LP(ブラジリアン・サタニック・スラッシャー!)
DORSAL ATLANTICA + METALMORPHOSE/Split LP(ブラジル・カルト・メタルの84年作再発盤!)
DORSAL ATLANTICA/Ultimatum Outtakes LP
(ブラジル最初のスラッシュメタル・バンド! 初期レア音源集)
FARSCAPE/Demon's Massacre LP
(ブラジリアン・スラッシュメタルの傑作アルバムが遂にアナログ化! ソールドアウト間近のCDも入荷中!!)
MASACRE/Sacro CD,Total Death CD
(コロンビア・カルト・デスメタル! 95年名作再発と最新作!)
MORTEM/New CD(ペルー・デスメタル・マスター新作!)
RETROSATAN/LP(幻のアルゼンチン・サタニックスピードメタル!! 84年アルバムがオフィシャル再発!!!)
SODOMIZER/LP(ブラジル・サタニック・スピードメタル!)
TORMENTOR/LP(80'sメキシコ・ロウ・スピード・スラッシュ!)

*

ANGEL WITCH/They Wouldn't Dare 7"
(激渋NWOBHM! 82年デモ収録オフィシャルEP!)

BATTLETORN/7"(ex.ENEMY SOIL ロウ・メタルパンク!)
BLACK GOAT/CD(90'sベイエリア・ブラック・スラッシュ!)
boris/Dronevil 2LPs(レア盤化必至の限定2枚組LP)
BUZZOV EN/Welcome To Violence CD
(伝説の90's USヘヴィ・スラッジ・パンクメタル!)
CORPORAL RAID/CD(イタリアン・ゴア・グラインド新作!)
CUT THROAT/Anal Electrocution 7"
(ABIGAIL,SIGHメンバー参加スラッシュの新作!)
DARKTHRONE/1st～4th LPがピクチャー盤で再発!!!
DISCORDANCE AXIS/Our Last Days CD
(未発表新曲,MERZBOWとのコラボ曲等収録新作!)
EXEKRATOR/7"(メロディアス・バイオレント・ブラックメタル!)
FLAME/New CD(フィンランド・ブラック・スラッシャーの新作!)
GORE BEYOND NECROPSY + NUNWHOLE COMMANDO666/Split CD(東京vsドイツ・グラインド)
IMPALED/New CD(メロディアス・ゴアメタル新作!)
IMPIETY + SURRENDER OF DIVINITY/Split 2x7"(シンガポールvsタイ、カルト・ブラック!!!)
INCUBUS/LP(知る人ぞ知る80'sオーストラリアオブスキュア超渋スラッシュメタル! 限定330枚LP!!!)
IRON MAIDEN/The History Of Part 1 2DVDs
(解説不要メタル・キングスの初期超激レア映像集日本版!)
ISOLE/CD(スウェーデン・エピック・ドゥームメタル!)
KYLESA/New CD(USダーク・エクストリームHC、新作!)
LOSS/カセット(US新星グレート・メロディアス・ドゥーム!)
MAGNESIUM + GORGON/Split 7"
(SABBATメンバー参加vs東京NWOBHMバンド!)
MORBOSIDAD + MANTICORE/Split 7"
(US極悪ノイズ・ブラック・デス対決! 豪華特殊パッケージ!)
MOURNFUL CONGREGATION/New CD
(伝説のOZカルト・フューネラル・ドゥーム、待望の新作!)
MUTILATION/Majestas Leprosus LP
(フレンチ・カルト・ブラックメタルの4thアルバムが遂にLP化! 最新傑作アルバム Rattenkonig CDも入荷中!)
NECROVATION/7"(スウェーデン・デスラッシュ!)
NO LESS/CD(90'sパワーバイオレンス・ギャング! 音源集)
PENANCE/The Road Revisited CD
(伝説のUSドゥーム! お蔵入り1st音源、遂にリリース!)
PENTACLE/New CD(オランダ・ブラック・デスメタル新作!)
the PLAGUE OF GENTLEMEN/CD
(ベルギー最重遅ドゥーム! 待望の1stアルバム!)
SEWN SHUT/CD(スウェーデン・グラインド・バイオレンス!)
SLAYER + S.A.SLAYER/Split 2LPs
(カルト・オブスキュア・スイードメタル S.A.SLAYERは必聴!!!)
SNAKEPIT/#14 FANZINE(NWN!発刊のメタル・ファンジン!! ONSLAUGHT,TROUBLE, POSSESSED,DESTRUCTION,etc)
TUDOR/LP(チェコ産カルト・ブラックメタルの90/91年デモ音源 をNWN!がLP化! 限定300枚のダイハード盤はボーナス7"付き!!)
VICTOR GRIFFIN/Late For An Early Grave CD
(PENTAGRAMギタリストの廃盤ソロ・アルバムCD化!)

Japanese Hardcore Punx!

A PIECE OF SHIT/New CD(広島カオティックHC!)
ASBESTOS/To The Memory Of 2LPs
(東京ポリティカルHCの激レア初期音源集!)

ASPHALT/Midnight Pain CD(広島HC! 再プレス)
ASSAULT/DVDR(東京HCのライブ映像集!)
BLOW BACK/Crazy Attacker CD(新潟HC新作!)
boris/Dronevil 2LPs(レア盤化必至の限定2枚組LP)
BREAKFAST/3rd & Army CD(Newアルバム)
CRUCIAL SECTION/New LP & CD(東京スラッシュ!)
DEMOLITION/Mob Of Wolves CD(名古屋重鎮!)
D.S.B/DVD(USツアー収録限定1000本!)
EFFECT/CD(東京ポリティカル・クラスト!)
EXIT HIPPIES/ソノシート,刺繍ワッペン
(仙台トランス・ノイズコア! ソノシート,ワッペンともに限定生産!)
GORE BEYOND NECROPSY + NUNWHOLE COMMANDO666/Split CD(東京vsドイツ・グラインド)
GUDON/ベスト盤がUSからアナログ盤もリリース!!!
IT'S YOU/7"(東京アナーコHCパンク!)
LAUKAUS/CDEP & 7"(神戸スパイキー・ハード・パンク!)
LSD/DVD付きCD!!! オフィシャルTシャツも出ます
(伝説の東京初期HCパンクの音源集!!!!!)
MAD CONFLUX/ディスコグラフィーCD!!!
(日本最初のバンダナ・スラッシュ・ジャップコア!!!)
MELT BANANA/13 Hedgehogs CD(シングル集!)
MUTANT/7"(東京暴走レイジング・スラッシュ!)
NAKED YEGGS/New CD(仙台ハード・パンク・ロック!)
NICE VIEW/New CD!(名古屋高速HC新作!)
NIGHTMARE/Early Years,Bloodsucker Years CD(遂に初期音源集が2種類発売!!!!)
NO EVACUATIONS/7"(東京スパイキーHCパンク!)
NO VALUE + BRODY'S MILITIA/Split 7"
(東京女Voブチ切れファストコア vs USファストコア・バイオレンス)
PERSEVERE/7"(広島スパイキーHCパンク!)
POGO MACHINE/New CD(東京スパイキー・パンク!)
REALITY CRISIS/LP再発!
SACRIFICE/CD(仙台ポリティカル・クラストコア!)
SIDE IMPACT/CD(茨城ユースクルー・スラッシュ!)
the slowmotions/CD(全EP+未発表曲収録!)
UG MAN/New CD(東京ロウ・パンク・スラッシュ!)
UNHOLY GRAVE/UK Discharge LP(ライブin UK)
URBAN TERROR/Tシャツ(SICのSugichanデザイン!)
スターリン/Fish Inn オリジナル・バージョン初CD化!
どろたぼう/CDR(神戸産ADKスタイル日本語パンク!)
藤本修羅 & SWARRRM/7"(関西バイオレンス・タッグ!)
V.A/Punk As A Fuck 2004 DVD
(ABRAHAM CROSS,F.I.N.A.L,ORdER, LIFE,CONTRAST ATTITUDE,etc...)
V.A/Skate All Day Drink All Night CD
(VIVISICK,ABRAHAM CROSS,etc)
V.A/Warrior CD(DERIDE,ALLEGIANCE,etc)
V.A/Mountain Book CD(ANSWER CRYING メンバー参加のPROLETARIART,etc 愛知Comp!)

5月4日(水)も営業致します!!

www.record-boy.com

携帯からは http://6530.teacup.com/recordboy/bbs で入荷状況をチェックできます!

通信販売

現金書留/無記名為替での送金代金引換も、もちろん可能!

1万円以上お買い上げの方は送料(代金引換の場合は代引手数料も!)無料サービスいたします! 送金希望の場合は下記住所にお送り下さい。
(TEL/FAX/E-MAIL/W葉書のいずれかで必ず在庫確認をして下さい)
166―0003 東京都杉並区高円寺南三郵便局止め　RECORD SHOP BOY

disk union

SHOP INFORMATION

◈80's HC特集 PUNK商品取扱全店舗で開催!

4.23 SAT～5.31 TUE

今年のゴールデン・ウィークは80's HARDCORE特集!!
今だに発掘され続ける80年代HARDCOREバンドの音源をCDでタップリ集めて特集します!!
対象商品をお買い上げのお客様にバッジ／布パッチを差し上げます!!
開催期間に合わせて、disk unionスタッフによる特製「80's HARDCOREブックレット」も配布予定!!
詳しくは店頭まで。※特典は先着となりますので、無くなり次第終了とさせて頂きます。ご了承ください。

ゴールデン・ウィーク CD・DVD買取20%UP キャンペーン

4/29(金・祝)～5/9(月)

※他のキャンペーンとの併用はできません。
※買取センター受付分は期間中到着分を有効とさせていただきます。

★音楽CD・DVD以外に映画DVDも高価買取強化中★

今年もやります!! 恒例のG.W買取UP。今年は長期の連休でサイフの紐も緩みがち?
disk unionはG.W中も休まず買取強化中!!
CD・DVDを期間中まとめて10点以上ご処分いただくと通常査定に20%プラスして買取いたします!!

渋谷PUNK MARKET(5F)

4.29 FRI[祝] ◈ 80's HARDCORE廃盤・レア盤中古レコード放出!!

新品80's HARDCORE企画に伴い中古品も大放出!! 80's US／UK／EURO他、JAPANESEもの中心に
LPと7" EPを合わせて放出します!! 買い逃してるアイテムはこの機会に是非!!

GW中古セール第一弾!!

当日午前10時30分より1Fエレベータ前にて整理券を配布いたします。

5.1 SUN ◈ PUNK/HARDCORE USED T-SHIRTS放出!!

人気のバンドT-SHIRTS放出DAY!! 古着屋でも見つからない
PUNK／HARDCORE系のUSED T-SHIRTS!! こちらも80's系も含んだ放出です!!

GW中古セール第二弾!!

5.3 TUE[祝] ◈ ROCKABILLY/PSYCHOBILLY中古レコード放出!!

廃盤・レア盤を含むミドルクラス／定番を中心にROCKABILLY／PSYCHOBILLYの中古レコードを約200枚以上放出します!!

GW期間のKLUB用に掘まくれ!!
当日午前10時30分より1Fエレベータ前にて整理券を配布いたします。

GW中古セール第三弾!!

5.28 SAT ◈ NEWEST INDUSTRYレーベル特集

LEATHERFACEのメンバーによる新バンドFORMER CELL MATESのリリースも間近に控え、
日本のI EXCUSEやオランダのベテランMELODICバンドNRA、フィンランドのPHOENIX FOUNDATION、UKのNO CHOICE等々
各国の激渋MELODICバンドをリリースするUKのPUNK ROCKレーベルNEWEST INDUSTRYのレーベル作品を揃えて大特集!!
レーベルの作品お買い上げの方にレーベルサンプラーCDをもれなく一枚プレゼント致します。

新宿PUNK MARKET(6F)

新宿PUNK MARKET携帯サイトOPEN!
http://diskunion.jp/ds7.cgi

新宿PUNK MARKETの輸入盤／国内盤の入荷情報、セール情報をリアルタイムでほぼ毎日更新している携帯サイトです。
プチ・リニューアルし中古情報も盛りだくさんとなってます!!! 下記中古セール情報も随時UPしていきますのでぜひご覧ください!!!

ゴールデンウィーク 当店限定ノベルティグッズプレゼント! 4.29 FRI[祝]～5.8 SUN

お買上金額に応じて新宿PUNKMARKET限定ノベルティグッズプレゼント!! 昨年末はRAW RECORDSとLOVITT RECORDSのT-SHIRTSでしたが今回は...!?
※詳細は当店専用携帯サイトへUPいたします。

4.29 FRI[祝] ◈ 70's PUNK～POWER POPレア盤大放出!!!!!

久々に開催です!!!! 当店看板の70's PUNK／POWERPOP中古レコードセール!!!!
ゴールデンウィーク一発目に相応しいメガレア盤から定番人気モノまでを大・大・大放出!!!!

GW一発目!!!!

当日午前10時より当店入り口前にて整理券を配布いたします。
また、出品の一部を上記の当店専用携帯サイトへUPいたします。

5.1 SUN ◈ 廃盤・レア盤中古CDセール!!!!

二発目は廃盤CD、ビデオなどを大・大・大放出!!!! 70's PUNKモノ～80's HC、J-PUNK、メロディックなどオールジャンル出します。
以外とレコードよりも入手困難なものが多く、今回も大盛り上がり間違いなし!!!

当日午前10時より当店入り口前にて整理券を配布いたします。
また、出品の一部を上記の当店専用携帯サイトへUPいたします。

GW二発目!!!!

5.3 TUE[祝] ◈ HARDCORE中古レコード放出!!!!

三発目はド本命ハードコア廃盤・レア盤レコードを猛烈大放出!!!!
JAPANESE PUNK／HCから80'sモノを中心に出しまくります!!! ご期待ください!!

GW三発目!!!!

当日午前10時より当店入り口前にて整理券を配布いたします。
また、出品の一部を上記の当店専用携帯サイトへUPいたします。

5.5 THU[祝] ◈ PUNK/HC新着レア盤放出!!!!

当日午前10時より当店入り口前にて整理券を配布いたします。
GW中に入荷した新着レア盤をCD、レコード、ジャンルも問わずこの日に全て出し尽くします!!!
何があるかはお楽しみ!!!! もう、これ以上は何も出せません(笑)

GW四発目!!!!

5.7 SAT 8 SUN ◈ 二日間限定!! 特別ディスカウントセール開催!!

ディスカウント／割引内容の詳細は上記の当店専用携帯サイトへUPいたします。
GWラストを飾る猛烈お買い得な二日間!! 絶対にお見逃し無く!!!!

5.21 SAT ◈ LET'S BOP!! JUMP!! NEO ROCKABILLY～JIVE&SWING特集

貴方が踊れば私も踊る…眩いほどに輝くキラキラのサウンドが皆さんの心を必ずや虜にする、定番作から隠れ名作までドカンと展開!!
COOL & POP重視に、POWERPOPファンも余裕でイケるタイトル多数ご用意しております!!

吉祥寺店

5.5 THU[祝] ◈ GWパンク中古アナログ放出!!

パンクセール子供の日スペシャル。厳選良質中古アナログを約100枚放出!! 乞うご期待!!

当日午前10時より1Fエレベータ前にて整理券を配布いたします。

※レア盤高価買取も随時実施中!!
サイコビリーアナログ高価買取自信あり!!

下北沢店

◈ 大好評!!! ライブ・チケットで割引

※ディスクユニオン下北沢店のみ開催です。
4月29日(金)～5月8日(日)および5月の毎週土曜日、日曜日は下北沢SHELTER、下北沢ERAのチケットをお会計前に掲示して頂ければ、新品輸入盤と中古品が10%OFFと超お得!!!
ライブの前には、ユニオン下北沢へGO!!!

開催中～5.8 SUN ◈ 下北沢ERA系アーティスト特集

★4.27 V.A./CRUCIBLE AT THE SMALL STATE 発売記念★

ユニオン下北沢店から徒歩で約3分? のライブハウスERAで活躍するバンドや
V.A. / CRUCIBLE AT THE SMALL STATE に収録のバンド等中心に特集致します。

5.4 WED ◈ PUNK/HARDCORE中古アナログ新入荷放出!!!

70's～80's PUNK／HCの海外～国内バンドまでの廃盤～定番中心で、さらに最近のバンドの人気盤／限定盤も合わせての約200枚の放出!!

5.7 SAT ◈ PUNK/HARDCORE中古CD新入荷放出!!!

最近、探している人が多いCDの廃盤／旧規格と70's～80's PUNK／HCの新入荷を合わせて約200枚の放出!!
おまけで本、ビデオ等も放出致します。

池袋店

5.3 TUE[祝] ◈ ROCKABILLY/PSYCHOBILLY中古CD放出!!

最近再発物も多い人気のROCKABILLY／PSYCHOBILLYの中古CDを約200枚以上放出!!
国内廃盤～定番モノまで出します。

北浦和店

4.29 FRI[祝] ◈ SLIGHTLY STOOPID NEWアルバム発売記念 ★SMOKIN' REGGAE PUNK特集★

今尚熱狂的なファンが多く存在する、あのSUBLIMEから端を発する
南カリフォルニア・サウンドに焦点を当てて大特集!!! SLIGHTLY STOOPID、
SUBLIME、LONG BEACH DUB ALLSTARS、SHORT BUS、PEPPER etc…
NEO SURF系バンド等、関連バンドもあわせて紹介します!!!

5.1 SUN ◈ NEO ROCKA/PSYCHOBILLY中古アナログ放出!!

廃盤・レア盤含む新着品を中心にお買い得盤まで100枚以上!!!
兎に角あるもの全部出します!!!

渋谷・新宿PUNK MARKET メール会員募集中!!

情報をご希望の店舗からメールにて配信いたします。
〈タイトル〉メール配信サービス希望 〈本文〉メールの配信をご希望される端末を記入してください。

渋谷PUNK MARKETメール・アドレス→dp2@diskunion.co.jp
新宿PUNK MARKETメール・アドレス→ds7@diskunion.co.jp
NEW PUNK WEBメール・アドレス→punk@diskunion.co.jp

PUNK/HARDCORE 高価買取致します!

ご不要になったCD、レコード、DVDなどの買取を行っております。新譜・廃盤・レア盤は高額査定致します!!
ディスクユニオン全国買取センター 0120-111-649 | 携帯電話からは03-3511-9950
〒102-0075 東京都千代田区三番町28 秀和三番町ビル1F

disk union stores

お茶の水駅前店/中古CDセンター 03-3295-1461
お茶の水ハードロック/ヘヴィメタル館 03-3219-5781
お茶の水ロック館 03-5282-3355
神保町店 03-3296-1561
新宿PUNK MARKET 03-5363-9779
新宿本館BF 日本のロック・インディーズ館 03-3352-2697
新宿本館 03-3352-2691
新宿ヘヴィメタル館 03-5363-9778
新宿中古センター 03-5367-9530
渋谷PUNK MARKET 03-3461-1121
渋谷ロック館 03-3461-1809
池袋店 03-5956-4550
下北沢店 03-3467-3231
吉祥寺店 0422-20-8062
国立駅前店 042-577-3521
町田店 042-720-7240
横浜店 045-661-1541
淵野辺店 042-752-0425
稲田堤店 044-944-5480
津田沼店 047-471-1003
千葉店 043-224-6372
柏店 04-7164-1787
北浦和店 048-832-0076

diskunion PUNKMARKET WEB ≫ http://diskunion.net/punk/　携帯サイト ≫ http://diskunion.jp/punk.cgi

theCHICKENmasters

2nd Mini Album 惑星ROBBER 2005.5.25 Release

1.SURFIN' JOHNNY 2.スライムと細胞 3.右脳ダイバー 4.パイビー 5.天国バスタイム 6.ドーベルキング 7.カーリー KICS-1166 ¥2,000 (with tax)

"惑星ROBBER TOUR 2005"

6/27(月)名古屋アポロシアター
info. アポロシアター:052-261-5308

6/28(火)大阪十三ファンダンゴ
info. 06-6308-1621

6/29(水)広島Cave-Be
info. Cave-Be:082-511-1109

7/01(金)福岡CB
info. 092-732-7575

7/02(土)OITA T.O.P.S
info. T.O.P.S:097-533-0467

7/08(金)仙台マカナ
info. マカナ:022-262-4787

7/09(土)郡山CLUB #9
info. CLUB#9:024-934-1980

7/10(日)下北沢屋根裏
info. 03-3468-5282

<EVENT LIVE> 5/5(木) 小岩eM SEVEN 5/25(水) 下北沢CLUB251 6/8(水) 新宿Club Doctor

the CHICKEN masters INFORMATION

http://www.kingbeats.com

MOBILE SITE http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=CHICKEN7

4910067670657
00524

雑誌06767-6

DOLL6月号●平成17年6月1日(毎月1回1日発行)第26巻第6号●通巻第214号●平成7年2月27日第三種郵便物認可●㈱DOLL●東京都杉並区高円寺北3-1-9青田ビル303(〒166-0002)☎03-3339-1952●定価550円 本体524円

4910067670657
00524

DOLL6月号●平成17年6月1日(毎月1回1日発行)第26巻第6号●通巻第214号●平成7年2月27日第三種郵便物認可●(株)DOLL●東京都杉並区高円寺北3・1・9青田ビル303(〒166-0002)☎03・3339・1952●定価550円 本体524円

SUPER HEAD MAGAZINE DOLL JUNE 2005 6

70's〜80's オランダ・パンク/ハードコア…シーン・レッド…日本のネオ・モッズ・ヒストリー…勝手にしやがれ

NO. 214

第26巻第6号●通巻第214号●平成17年6月1日発行(毎月1回1日発行)平成7年

SUPER HEAD

DOLL

70's〜80's オランダPUNK/

SEEIN' RED

MARKY RAMONE

THE DILLINGER E

勝手にしやがれ

日本のネオ・モッズ・ヒス

BREAKfAST

BATTLE OF NINJA